

清水遺跡

第8次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第224集



2016

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



清水遺跡

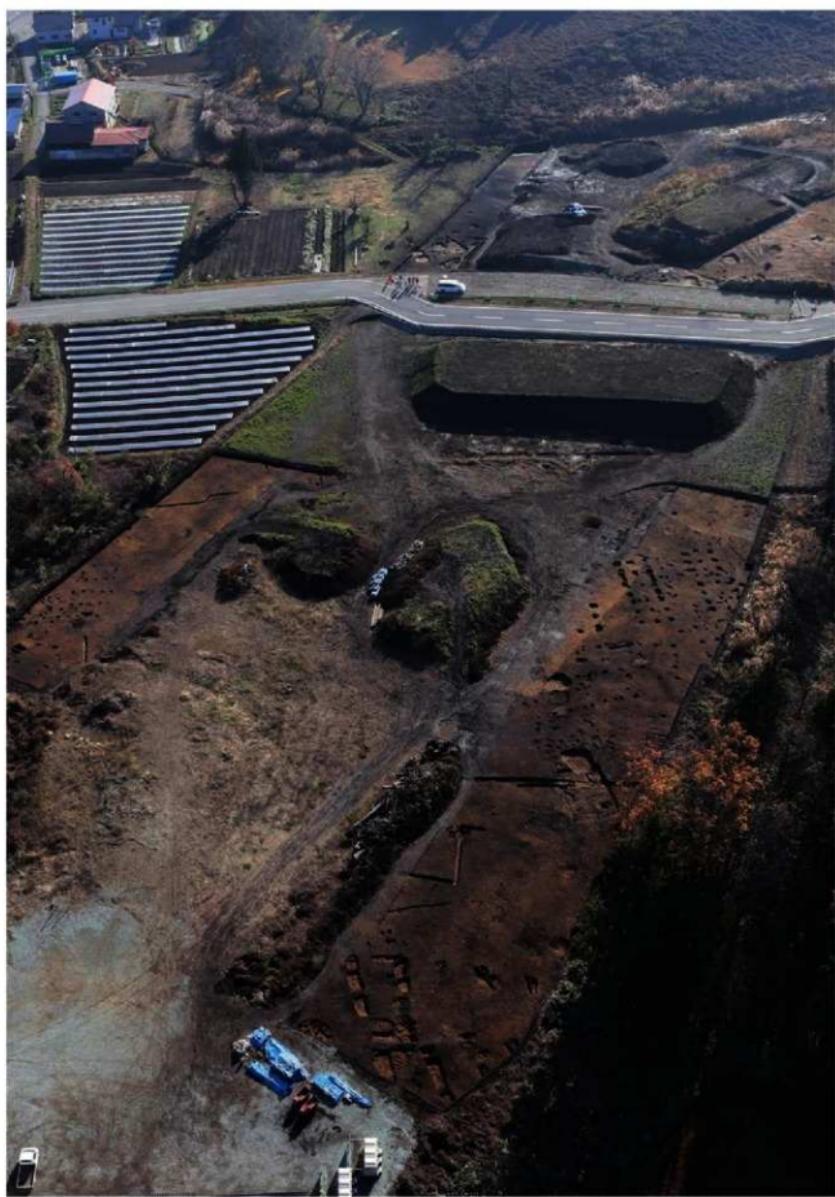
第8次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第224集

平成28年

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区近景（北から）



D区完掘全景(南西から)



G区完掘全景(北から)

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、清水遺跡の調査成果をまとめたものです。

清水遺跡は、山形県のほぼ中央に位置する村山市にあります。村山市は、東西に広く、東を奥羽山脈、西を出羽丘陵に囲まれ中央には最上川が北流しています。遺跡は、最上川が蛇行する右岸のなだらかな山麓部に立地します。その範囲は南北約1.3km、東西約150～380mを測り、清水集落の大半を含む広大な遺跡です。

この度、一般県道村山大石田線村山北1IC設置工事に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、清水遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、縄文時代の陥穴や奈良・平安時代の竪穴住居跡と区画施設と考えられる屈曲する溝跡に囲まれた、主軸方向がほぼ一致する掘立柱建物群などの遺構が検出され、土師器、須恵器、黒色土器、墨書き土器など多くの遺物が出土し、当時のこの地域の様相を知る多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 菅野 滋

凡　例

- 1 本書は、一般県道村山大石田線村山北 IC 設置工事に係る「清水遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、第 I・III・IV・VI 章を氏家信行、第 II 章を森谷康平が担当し、三浦秋夫、黒坂雅人、伊藤邦弘、齊藤敏行、須賀井新人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第 X 系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…竪穴住居跡	SB…掘立柱建物跡	SK…土坑・陥穴	SD…溝跡
SP…ピット	SX…性格不明遺構	EP…遺構内柱穴	EK…遺構内土坑
ED…遺構内溝跡	EL…カマド跡	EB…建物跡柱穴	
RP…登録土器	RQ…登録石器・石製品	RM…登録金属製品	

- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。また、遺構実測図中の遺物は 1/12 の縮尺で採録した。なお、遺構実測図の網点の用法は下記のとおりである。

 : 遺物

 : 柱痕跡

- 8 墨書・刻書土器の「□」は解読不明文字を示す。
- 9 遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は、縄文土器は左から外面・断面とし、他の土器は内面・断面・外面の順に掲載した。
- 10 遺物観察表において、() は石器・石製品は残存値を、土器は図上復元による推計値を示す。
- 11 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調査要項

遺跡名	清水遺跡				
遺跡番号	208-114				
所在地	山形県村山市大字名取字清水北				
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課				
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター				
受託期間	平成 26 年 5 月 7 日～平成 27 年 3 月 31 日 平成 27 年 4 月 30 日～平成 28 年 3 月 31 日				
現地調査	平成 26 年 6 月 2 日～12 月 3 日				
調査担当者	平成 26 年度	調査課長	齊藤敏行		
		課長補佐	須賀井新人		
		専門調査研究員	氏家信行（調査主任）		
		調査研究員	尾形知哉		
		調査員	森谷康平		
	平成 27 年度	整理課長	伊藤邦弘		
		調査研究専門員	氏家信行（調査主任）		
		調査員	森谷康平		
調査指導	山形県教育庁文化財・生涯学習課				
調査協力	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 村山市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所 村山東根土地改良区				
業務委託	地形・遺構測量（俯瞰撮影）業務 株式会社ワクニ（平成 26 年度） 基準点測量業務 株式会社三和技術コンサルタント（平成 26 年度） 理化学分析業務 パリノ・サーヴェイ株式会社（平成 26 年度） 遺物保存処理業務 公益財団法人山梨文化財研究所（平成 27 年度）				
発掘作業員	相原繁雄 阿曾吾郎 阿部保子 石井敏巳 石川政治 伊藤久美 伊藤耕平 井上耕一 大場耕一 大場信行 大類千代子 大類彦一郎 尾崎たつ子 海藤三男 工藤秀昭 笹崎莉奈 笹原功 笹原庄司 柴田みよ江 鈴木千秋 須藤美知子 鵜正治 西塚勉 原田幸三 星川正和 堀澄雄 松坂英勝 松田義洋			(五十音順)	
整理作業員	井上和善 大場美香 鏡幸枝 斎藤佳奈 鈴木美香 布川絢美			(五十音順)	

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	6
III 遺跡の概要	
1 遺構の分布	11
2 遺物の分布	11
IV 遺構と遺物	
1 縄文時代	24
2 平安時代	24
V 理化学分析	
1 放射性炭素年代測定	115
2 テフラ分析	118
3 樹種同定	121
VI まとめと考察	
1 調査のまとめ	125
2 遺跡の性格と年代	126

報告書抄録	卷末
遺構全体図	付図

表

表1 遺跡地名表	10	表4 放射性炭素年代測定結果	116
表2 摂立柱建物観察表	102	表5 テフラ分析結果	118
表3 遺物観察表	105	表6 樹種同定結果	122

図 版

第1図 調査区概要図	4	第10図 遺構配置図5	18
第2図 地形分類図	8	第11図 遺構配置図6	19
第3図 遺跡位置図	9	第12図 遺構配置図7	20
第4図 遺構配置図の割付図1	12	第13図 遺構配置図8	21
第5図 遺構配置図の割付図2	13	第14図 遺構配置図9	22
第6図 遺構配置図1	14	第15図 遺構配置図10	23
第7図 遺構配置図2	15	第16図 SK1145・1911・縄文時代の遺物(1)	33
第8図 遺構配置図3	16	第17図 縄文時代の遺物(2)	34
第9図 遺構配置図4	17	第18図 ST1818, SK1819・2162(1)	35

第 19 図 ST1818、SK1819・2162 (2)	36	第 56 図 SK1904、SP2219、SK2019・2036・ 2037・2129	73
第 20 図 ST1818、SK1819・2162 (3)	37		
第 21 図 ST1818、SK1819・2162 遺物分布図	38	第 57 図 SK2164、SP2168、SK391・392・395・396	74
第 22 図 ST381・382・386 (1)	39	第 58 図 SD1029・1142	75
第 23 図 ST381・382・386 (2)	40	第 59 図 SD1054・1857	76
第 24 図 ST381・382・386 (3)	41	第 60 図 SD1061・1062	77
第 25 図 ST381・382・386 遺物分布図	42	第 61 図 SD1750	78
第 26 図 ST383・384	43	第 62 図 ST1818 出土遺物 (1)	79
第 27 図 ST478、SK510 (1)	44	第 63 図 ST1818 出土遺物 (2)	80
第 28 図 ST478、SK510 (2)	45	第 64 図 ST381 出土遺物 (1)	81
第 29 図 SB1820 (1)	46	第 65 図 ST381 出土遺物 (2)	82
第 30 図 SB1820 (2)	47	第 66 図 ST382 出土遺物	83
第 31 図 SB1820 (3)	48	第 67 図 ST386 出土遺物	84
第 32 図 SB1953 (1)	49	第 68 図 ST383・384 出土遺物、ST478 出土遺物 (1)	85
第 33 図 SB1953 (2)	50	第 69 図 ST478 出土遺物 (2)	86
第 34 図 SB2151 (1)	51	第 70 図 ST478 出土遺物 (3)	87
第 35 図 SB2151 (2)	52	第 71 図 ST478 出土遺物 (4)	88
第 36 図 SB2152 (1)	53	第 72 図 SB1953・2151・2160・ 1038、SK2144 出土遺物	89
第 37 図 SB2152 (2)	54		
第 38 図 SB2154、SK2144 (1)	55	第 73 図 SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物 (1)	90
第 39 図 SB2154、SK2144 (2)	56	第 74 図 SK1819 出土遺物 (2)	91
第 40 図 SB2160、SK2156 (1)	57	第 75 図 SK1819 出土遺物 (3)	92
第 41 図 SB2160、SK2156 (2)	58	第 76 図 SK1446 出土遺物 (1)	93
第 42 図 SB1038・2176・2186	59	第 77 図 SK1446 出土遺物 (2)	94
第 43 図 SB2176 (1)	60	第 78 図 SK1446 出土遺物 (3)	95
第 44 図 SB2176 (2)	61	第 79 図 SK1446 出土遺物 (4)、SK2185 出土遺物 (1)	96
第 45 国 SB2186 (1)	62	第 80 国 SK2185 出土遺物 (2)、SK1872 出土遺物	97
第 46 国 SB2186 (2)	63	第 81 国 SK2036・2129・392・395・396、SD1142・ 1054・1857・1061・1750、SP 出土遺物	98
第 47 国 SB1038 (1)	64		
第 48 国 SB1038 (2)	65	第 82 国 遷構外出土遺物 (1)	99
第 49 国 SB1038 (3)	66	第 83 国 遷構外出土遺物 (2)	100
第 50 国 SB1038 (4)	67	第 84 国 遷構外出土遺物 (3)	101
第 51 国 SB1697 (1)	68	第 85 国 历年較正結果 (1 σ)	117
第 52 国 SB1697 (2)	69	第 86 国 火山ガラス屈折率	119
第 53 国 SB1697 (3)	70	第 87 国 テフラ	120
第 54 国 SB469	71	第 88 国 生材・炭化材 (1)	123
第 55 国 SK1446・1872・2185	72	第 89 国 生材・炭化材 (2)	124

写 真 図 版

卷頭写真 1	調査区近景
卷頭写真 2	D 区完掘全景 G 区完掘全景
写真図版 1	調査区全景
写真図版 2	D ~ G 区完掘全景
写真図版 3	SK1145・1911 完掘・土層断面

写真図版 4	ST1818 完掘・土層断面
写真図版 5	ST1818-EL・EK・RP・RQ
写真図版 6	ST381・382 完掘・土層断面
写真図版 7	ST381・382-EL・RP・RQ
写真図版 8	ST383・384 完掘・土層断面

写真図版 9	ST383・384-EP・EK・RP	写真図版 40 SD1750 土層断面・完振状況・RP 出土状況
写真図版 10	ST386 土層断面・遺物出土状況	写真図版 41 繩文時代の遺物
写真図版 11	ST478 土層断面・完振	写真図版 42 ST1818 出土遺物 (1)
写真図版 12	ST478-EL・EP	写真図版 43 ST1818 出土遺物 (2)
写真図版 13	SB1820 検出・完振	写真図版 44 ST381 出土遺物 (1)
写真図版 14	SB1953 検出 SB1953-EB 土層断面	写真図版 45 ST381 出土遺物 (2)
写真図版 15	SB1953-EB 土層断面 SB1953 完振	写真図版 46 ST382 出土遺物 (1)
写真図版 16	SB2151 完振・EB 土層断面	写真図版 47 ST382 出土遺物 (2)
写真図版 17	SB2152 検出・EB 土層断面	写真図版 48 ST386 出土遺物 (1)
写真図版 18	SB2152 完振・EB 土層断面	写真図版 49 ST386 出土遺物 (2)
写真図版 19	SB2154 検出・EB 土層断面	写真図版 50 ST383・384 出土遺物
写真図版 20	SB2154 完振・EB 土層断面	写真図版 51 ST478 出土遺物 (1)
写真図版 21	SB2160 検出・EB 土層断面	写真図版 52 ST478 出土遺物 (2)
写真図版 22	SB2160 完振・EB 土層断面	写真図版 53 ST478 出土遺物 (3)
写真図版 23	SB1038・2176・2186 精查状況・EB 土層断面	写真図版 54 ST478 出土遺物 (4)
写真図版 24	SB2186-EB 土層断面	写真図版 55 SB1953・2151・2160・1038 出土遺物
写真図版 25	SB1038-EB 土層断面	写真図版 56 SK1444 出土遺物
写真図版 26	SB1038-EB 土層断面 SB1038・2176・2186 完振	写真図版 57 SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物 (1)
写真図版 27	SB1697 検出・EB 土層断面	写真図版 58 SK1819 出土遺物 (2)
写真図版 28	SB1697 完振・EB 土層断面	写真図版 59 SK1819 出土遺物 (3)
写真図版 29	SB469 完振・EB 土層断面	写真図版 60 SK1446 出土遺物 (1)
写真図版 30	SK1446・2185 遺物出土状況・土層断面	写真図版 61 SK1446 出土遺物 (2)
写真図版 31	SK1872 遺物出土状況・土層断面	写真図版 62 SK1446 出土遺物 (3)
写真図版 32	SP2219、SK1904・2019・2036・2037・2129 土層断面・完振状況	写真図版 63 SK2185 出土遺物 (1)
写真図版 33	SK2164、SP2168、SK395・396・391・2162 土層断面・完振状況	写真図版 64 SK2185 出土遺物 (2)、SK1872 出土遺物
写真図版 34	SK1819 土層断面・完振状況・RP 出土状況	写真図版 65 SK2036・2129・392・395・396 出土遺物
写真図版 35	D 区・SD1029・1142 土層断面・完振状況	写真図版 66 SD1142・1054・1857・1061・1750、 SP 出土遺物
写真図版 36	E 区・SD1029 土層断面・完振状況	写真図版 67 遷構外出土遺物 (1)
写真図版 37	SD1054・1857 土層断面・完振状況	写真図版 68 遷構外出土遺物 (2)
写真図版 38	SD1061 土層断面・完振状況・RP 出土状況	写真図版 69 遷構外出土遺物 (3)
写真図版 39	SD1062 土層断面・完振状況	写真図版 70 遷構外出土遺物 (4)
		写真図版 71 遷構外出土遺物 (5)

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

遺跡は、村山市のはぼ中央に所在し、最上川が蛇行する右岸のなだらかな山麓部に立地する。

今回の調査は、東北中央自動車道（東根～尾花沢間）に接続する一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジ設置工事に伴う緊急発掘調査として実施した。

東北中央自動車道の東根～尾花沢間（延長23km）は、東根市羽入～尾花沢市尾花沢に至る高速道路で、平成14年に開通した上山～東根間と事業継続中の尾花沢新庄道路に接続し、並行する国道13号の渋滞緩和や信頼性の高いネットワークの充実を図るうえで重要な区間である。

一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジは主要地方道新庄次年子村山線のインターチェンジが地形の制約からハーフインターとせざるを得ないため、東北中央道を村山大石田線へ接続させることでフルインターとしての機能が確保できる。また、村山市金谷工業団地と村山北1インターチェンジを結ぶ東北中央自動車道が供用開始されることで、村山市北部から高速道へのアクセス性が向上し、北村山地域の産業振興などの強化が期待されることから、新直轄方式で計画された。

清水遺跡は、東北中央自動車道の建設設計時に伴い、平成11年に山形県教育委員会により遺跡の有無と範囲を確認する表面踏査（A調査）により発見され、その範囲は、東西380m、南北1,300mで多数の平安時代の土器が散布する大規模な遺跡として登録された。その後、東北中央自動車道の建設に先立ち事業に係る遺跡の範囲について、平成22年度に記録保存を目的として、遺跡の南端を清水遺跡（1）、市道清水北線の南側及び北の一部を清水遺跡（2）として国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託を受け、財團法人山形県埋蔵文化財センター（平成24年4月1日から公益財團法人に移行）が緊急発掘調査（第1・2次調査）を行った。同年12月には市道清水北線の北側の範囲を確認するための試掘調査（B調査）が山形県教育委員会によって実施さ

れている。その結果、設定した5本のトレンチのうち3本から縄文時代の遺物を含む遺構やピット、溝跡が検出され、縄文土器、赤焼き土器が多数出土したことから、この地区も発掘調査が必要と判断された。

その結果を受け、平成23年度には市道北側を清水遺跡（3）、さらに、県道村山大石田線の北側を清水遺跡（4）として、前年度の2つの地区を加えた4地区について緊急発掘調査（第3～6次調査）を行い、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・区画施設などの遺構が確認され、石器・縄文土器・土師器・須恵器・墨書き土器・石製品などの遺物が多く出土している。

今回の一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジ設置工事に係る事業範囲が、平成22・23年度に清水遺跡（2）・（3）地区として調査を行った東北中央自動車道本線の東と西に当たることから、記録保存のための緊急発掘調査が必要と判断された。

これにより、山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県教育委員会などで遺跡の取り扱いに係る協議が行われた。その結果、山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課から公益財團法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、平成26年度に第8次の緊急発掘調査を行うこととなった。

なお、同時に東北中央自動車道の事業範囲に係る未調査部分であった、清水遺跡（1）の農道部分、清水遺跡（2）と（3）の間にある市道清水北線、東北中央自動車道本線の未調査部分を国土交通省からの委託を受けて第7次調査として、第8次調査と並行して行っている。

2 調査の方法と経過

調査に先立ち、平成26年2月19日に国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の会議室において、平成26年度の清水遺跡の発掘調査について国土交通省山形河川国道事務所、村山総合支庁北村山道路計画課、NEXCO東日本山形工事事務所、山形県教育委員会、山形県埋蔵文化財センター間による、工事と発掘調査の工

程についての調整を図る協議を行った。その結果、埋文センター側が複数の調査工程（案）を提示して最善となる工程を決めてることで合意した。その際に、県の北村山道路計画課から諸事情により、調査開始は6月以降にして欲しいとの要望が出された。

その後、埋文センター・国交省・山形県で工事と発掘調査の工程を調整する協議を重ね、5月7日に埋蔵文化財センターにおいて、関係機関と山形県埋蔵文化財センターによる「平成26年度国土交通省山形河川国道事務所・山形県県土整備部関係遺跡発掘調査事前打ち合わせ」を開催して、工事用道路の付け換え・迂回路設置時期と発掘調査工程の最終調整と確認を行った。以下に調査の概要を述べる。

<発掘調査>

現地での発掘調査は、6月2日から開始した。調査区は、過年度の調査区の続きで、市道北の西をD区、東をE区そして、市道南の西をF区、東をG区、第7次調査区となる市道及び隣接する南側をH区とした。

最初に市道北側の調査予定地の草刈を行った。その後、D・E調査区の範囲を設定し、それに沿って周縁の線掘りを行い、遺構・遺物の検出できる深さを確認した。一部を手掘りで拡張して掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。それと併行して6月16～19日の期間で重機により遺構の確認面までD・E区の表土を除去した。

D・E区の面整理及び遺構検出作業を6月18日から開始し、7月16日まで行った。その際に、D区に残った木根の撤去も進めた。

6月25・26日にはD・E区に委託業務による基準点を調査区内に設置し、それを基に4m×4mを1単位とする調査用方眼（グリッド）釘を設定した。グリッドは、第1～6次調査の設置方法に準拠し、山形県全域を囲むように南北をX軸、東西をY軸として、1グリッドあたり40km四方の大グリッドを設定。さらに、大グリッド1つを南から北へ00～99、西から東へ00～99と400m四方の中グリッド、さらに中グリッド1つを4m四方の小グリッドに分割した。そのため、グリッド番号は「大グリッド南北・東西、中グリッド南北・東西、小グリッド南北・東西」の順で表すためAA0000-0000の10桁のアルファベットと数字で示すこととした。その基準を基にグリッド名を基準杭に付した。本報告書では、

は、大中グリッドの表記は省略し、小グリッドのみ表記している。

遺構検出終了後は、D・E区の全景写真撮影を行い、遺構に登録番号を付した後に遺構配置図の作成と共に遺構精査作業を開始した。市道清水北線の調査の工程から、先に迂回路を設置する必要があるので、D・E区の南側約1/3（市道側）から先行して行った。遺構の精査は覆土をベルト状に残す、又は半裁して掘り下げ、土層の写真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器などについて登録番号を付し、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。

8月19日にD・E区の南側迂回路設置部分の調査を終了し、21日に図化のための空中写真撮影業務委託を行い、26・27日に重機で迂回路部分を埋め戻した。

当初F・G・H区を同時に表土除去する計画であったが、市道の迂回路設置工事が遅れるのことから、D・E区の残り約2/3の精査作業を進めると共に、先行してF・G区の重機による表土除去を9月17・18日に行った。そして、市道の迂回路完成後の9月25～29日にH区の表土除去を行った。

10月3日にF～H区に委託業務による基準点を調査区内に設置し、それを基に4m×4mを1単位とする調査用方眼（グリッド）釘を設定した。

H区の市道部分は表土を除去した結果、アスファルトの直下から約1.4mの深さまで山砂利が盛られており、当時の市道を造る道路工事の際に遺構も遺物も削平されていたことが判明した。そこで、この市道部分は面整理、平面図作成、写真撮影を終了した後の10月22・23日に危険防止のために埋め戻しを行った。

F～H区も遺構検出終了後、全景写真撮影を行い、遺構に登録番号を付した後に、遺構配置図の作成と共に遺構精査作業を進めた。遺構精査と併行し、平・断面図の作成、写真撮影を行い完掘した。

調査も終盤に近づいた11月8日には、調査の成果を広く公表する発掘調査説明会を羽黒神社西遺跡と合同で開催し、多くの参加者を得た。

11月21日に委託業務である図化のための調査区全体の空中写真撮影を行い、28日に機材の撤収をした。

12月1～3日にD～H区の埋め戻しを行って現地での発掘調査を終了した。

現地の調査は 6 月 2 日から 12 月 3 日までの実働 123 日間実施した。

< 整理作業 >

整理作業は、平成 26 年度と 27 年度に行った。

平成 26 年度は 12 月 1 日から開始した。最初に出土した遺物を水洗いする洗浄作業と、その後に遺物に遺跡名と出土地点などを書く注記作業の基礎整理を行った。

洗浄は、遺物を水に浸けながらブラシを使って表裏面や割れた面の土を落として、すすぎを行い綺麗にしていった。

注記は、遺物を乾燥させた後に白のポスターカラーで細い筆を使用して遺跡名と出土地点などを遺物に書いていった。遺跡名は「シズ 8 次」、出土地点は「遺構名やグリッドなど」を明記し、現場で登録したものには登録番号を付した。記名後はラッカーを塗り消えるのを防ぐ処置を施した。但し、金属製品については水洗いは行わず、乾いた土をブラシや竹串で落とし、登録番号や出土地点を明記した袋に入れた。

遺物の基礎整理と併行して現場で作成した平面図と断面図、撮影した遺構の写真などの整理を進め、併行して地形・遺構測量業務の委託図面の校正も行っている。また、今回の調査で出土した生木、炭化材のうち遺構から出土したもので、状態の良いものを抽出して樹種同定と年代測定を、火山灰はテフラ検出同定を行うための理化学分析を業務委託した。

接合作業は、遺物を登録遺物、遺構、調査区毎に分け、

土師器、須恵器、黒色土器、石製品などに分類した後、登録遺物と遺構ごとに接合を行い、さらに遺構周辺のグリッド出土遺物の接合を進め、平成 26 年度の整理作業は終了した。

平成 27 年度の整理作業は 6 月 1 日から開始した。前年度からの続きで遺物の接合作業から始めた。

接合が終了した後は、遺構出土遺物と登録遺物を中心に状態の良いものを抽出した。

抽出した遺物は実測を行い図面を作成した後に、底部や表裏面の拓本を探り、遺物観察表の作成を行った。金属製品は業務委託をした保存処理後に、実測図を作成し写真撮影を行った。

遺物の整理作業と併行して、遺構図の作成を進めた。遺構の平面図と断面図を整合させ、デジタルトレースをして遺構の個別図を作成し、断面の土層注記と共に編集を行った。

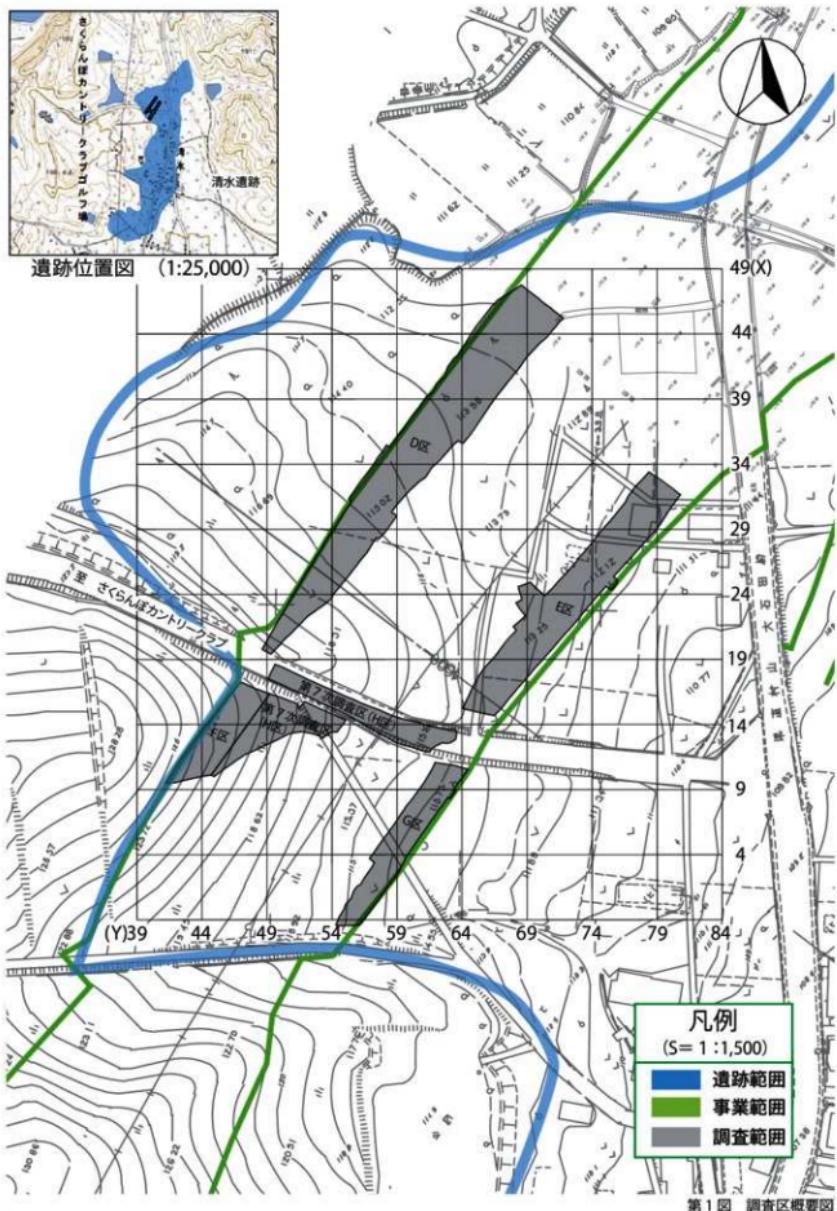
遺物実測図はデジタルトレースを行い、拓本と組み合わせて編集を行った。

遺構の写真是現場で撮影した中から、報告書に掲載するものを抽出した。

遺物は、欠損箇所を補填する復元作業をした後に、単体または集合での写真撮影を行い、報告書に掲載する写真を選別した。

個別に作成した遺構図版・遺物図版・観察表・写真図版の版組・編集作業と併行して本文の執筆を行った。その後、原稿の校正を行い、報告書を印刷・刊行した。

I 調査の経緯



II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

清水遺跡は村山市大字名取字清水北（北緯 38 度 31 分 10 秒、東経 140 度 22 分 23 秒）に位置し、標高は 110m 前後を測る。

遺跡の所在する山形盆地は東を奥羽山脈、西は朝日連峰に挟まれ、盆地のほぼ中央を最上川が北流する。そこに東西の丘陵に源を発する中小河川が流れ込み、乱川扇状地などの地形を形成する。南北約 40km、東西約 20km 船底型を呈する広大な盆地である。

当遺跡の所在する村山市はこの盆地の北部に位置し、東西を最上川によって二分する。東側には低地と奥羽山脈の鶴岳などの山々がそびえ、そこから源を発する大沢川、大旦川により楯岡扇状地が形成される。この扇状地と最上川沿岸部の丘陵地帯に挟まるように、河間低地や後背湿地などの平地が形成される。

最上川より西側は、東側より標高が高くなる傾向にある。最上川の旧河床が隆起して台地となった河岸段丘が多数形成され、周辺に多数の遺跡が見られる。この地域の地形は、葉山の側火山である大高根山東部丘陵、最上川の下刻や側刻による最上川河岸段丘、東流して最上川に注ぐ富並川河岸段丘からなる。

東西を山に挟まれたこの地域は、冬の北西季節風や梅雨季の「ヤマセ」が遮られ、他地域と比べ比較的温暖な気候となっている。そのため、稲作やさくらんぼ、ラ・フランス、桑などの栽培が盛んな地域として知られている。地形により栽培される作物は変化し、河間低地・後背湿地では稻作が活発に行われ、最上川などにより形成された河岸段丘・自然堤防上では果樹栽培が行われているという傾向がある。

一方、当地域は豪雪地帯としても知られる。冬になると盆地特有の冷え込みと日本海から流れ込む湿った空気が奥羽山脈にぶつかり、多量の雪を降らせると厳しい気候となる。これにより、夏冬の温度差は 50℃ 前後と

非常に大きくなる。

村山市の面積は約 196km²を測る。地形区分としては、山地・火山地が 117km²、丘陵地が 9km²、台地段丘が 41km²、低地が 29km²となる（山形県企画調整部土地対策課 1981）。

表層地質は、凝灰質砂岩、シルト岩および礫岩である。この地質は、尾花沢盆地南東の荒町から峯岸に至る鹽氣川南岸を模式地とする凝灰質砂岩・硬質頁岩の互層を主とする地層である。尾花沢盆地を大きく取り囲むように、西の舟形町松橋峰から、葉山の東側、袖崎、鶴子、田沢を経て福原北部にかけて広く分布する。下半部は凝灰質砂岩と頁岩の互層、上半部は砂質頁岩であり、黒色頁岩で代表される古口層に相当するものである。層厚は 150 ~ 300m である（山形県企画調整部土地対策課 1981）。

調査区の大部分を占める土壌は、表層腐植質黒ボク土壌に属する。この土壌は非固結火成岩を母材とし、堆積様式は風積で、主に段丘・台地に分布し、畑地として利用されている。土性は強粘～粘質で、有効土層は 1m と深い。また、強酸性で、りん酸の固定力が大で、塩基・有効りん酸などの養分の少ない生産力の低い土壌である。調査区の一部では表層多腐植質多湿黒ボク土壌に属する。この土壌は黒色の多腐植層で、強酸性で、りん酸の固定力が大きく、塩基・有効りん酸などの養分の少ない生産力の低い土壌である（山形県企画調整部土地対策課 1979）。

当遺跡は河島山段丘の北麓部に囲まれた低位段丘上に位置し、村山市の 8 地区（大倉、袖崎、西郷、大久保、富本、戸沢、大高根、楯岡）の西郷地区に属する。調査区周辺は、かつて雜木林であったものを伐後に桑畠として切り開き、その後に耕地整理を行い畑地に改修された。その際に調査区の一部が削平されている。現在でも遺跡周辺は田畠として多く利用されている。

2 歴史的環境

清水遺跡は、最上川右岸の河島山丘陵南麓に広がる河島山段丘に囲まれた低位段丘上に位置する縄文・奈良・平安時代の集落跡である。

東根市から大石田南部にかけて、清水遺跡と同時期の遺跡はおよそ 57 箇所存在し、その多くは縄文時代の遺跡と重なって存在している。村山市全体の遺跡数を見ると、その数は 150 以上に及び、近隣の大石田町、東根市などに比べても遺跡が豊富に認められる市域である。特に縄文時代の遺跡が多く見られ、市域の西側、最上川左岸の段丘、富並川左岸の河岸段丘、大高根南麓の山裾部に集中して分布する。これに対し、奈良・平安から中世の遺跡はその多くが平地に所在する傾向にある。

以下に、清水遺跡周辺に所在する遺跡について、時代別に概観する。

旧石器時代の遺跡は、本遺跡の西側に隣接する清水西遺跡と河島山遺跡などが挙げられる。

清水西遺跡は当センターが平成 24 年度に発掘調査を行っている。台形石器及び平坦打面で剥離された厚手石刃を素材にしたナイフ形石器群などが出土している。遺跡の性格としては、キャンプサイトもしくは一定期間の居住域として利用されていたことが明らかになっている（山形県埋文 2015a）。

河島山遺跡は、最上川右岸に張り出した出羽丘陵の突端、河島山から南斜面に位置している。杉久保型ナイフ、石刃、彫刻刀、搔器などの石器群が出土している。また、河島山は旧石器時代をはじめ、縄文時代（早期～中期）、弥生時代、古墳時代及び中世などに属する遺構・遺物が確認される複合遺跡である。なお、昭和 26 年（1951）4 月 1 日に城館跡、1 号墳、板碑群が県指定史跡となつた（村山市史編さん委員会編 1981）。

縄文時代の遺跡は、早期から晩期に至るまで各時期の遺跡が確認されている。の中でも代表的な遺跡として、西海渕遺跡があげられる。最上川の支流である富並川によって形成された河岸段丘上に立地し、ロングハウスマニッシュ穴住居跡や複式炉を伴う住居跡などが発見されている。墳墓を円形に配置し、それを住居で囲むといった環状集落構成も見られ、大規模な集落跡であったことがわかる。土器形式としては、大木 8a～大木 9 式前半

の特徴を有する土器が主体となる。その他にも、器台形土器や皮袋形土器、赤彩された土器なども出土している。土偶も 44 点とやまとまって出土している。石器は石鎌、石匙、石錐などの定型石器のほか、搔器、削器、二次調整のある剝片が相当数出土している。

弥生時代の遺跡は、他の時代に比べ確認数は少ない。当センターでは平成 23 年度に作野遺跡（山形県埋文 2011）の第 2 次調査を行っている。この遺跡では県内で数少ない弥生時代初頭のものと考えられる竪穴住居が発見され、竪穴住居内からは弥生時代初頭の土器が多く出土している。塙川前山遺跡は、河島山の南東斜面に位置し、後期の天王山式に並行する土器とアメリカ式石鎌が出土している。稻下遺跡は、最上川左岸、北側に最上川支流の樽石川が流れる河岸段丘上に位置する。遺構は被熱した集石遺構のみである。土器は包含層より中期～後期に属するものが出土しており、中でも中期中葉の高坏などが注目される（小閑 1995）。

古墳時代の遺跡は、河島山古墳群、名取古墳が挙げられる。河島山古墳群は、河島山 1 号墳・2 号墳からなる。1 号墳は、河島山山頂付近の東斜面に位置する。円墳で墳丘頂部は径約 8m、墳丘の底径は約 24m、高さ約 4m、墳丘周辺には幅約 4m の周溝を有している。凝灰岩製の箱型石棺で、副葬品は確認されておらず、また埴輪・葺石も確認されていない。2 号墳は、同山の南西にある丸森山山頂付近に位置する。1 号墳同様、円墳で周囲に周溝を有する。両古墳とも本格的な発掘調査は行われていない。名取古墳は、河島山から北に 3km、河島山に連なる丘陵の西側で最上川の自然堤防上に位置する。河島山 1・2 号墳と同様、円墳で墳丘頂部は径約 10m、墳丘の底径は約 36m、高さ約 2.4m、墳丘全周に周溝をめぐらす（伊豆田 1990）。

奈良・平安時代の遺跡は、本遺跡のほか、松橋遺跡、蟻田遺跡、経塚森遺跡、田向 2 遺跡、西原 C 遺跡などが挙げられ、平成 22～25 年度に当センターが行った発掘調査によって、村山市の古代の様相が明らかになりつつある。松橋遺跡では、掘立柱建物跡、井戸跡などが検出され、遺物は土師器・須恵器・磁器が出土し、9 世紀後半から 10 世紀前半を主体とする集落跡である。当遺跡と同時期で、区画溝と思われる溝跡も検出され、関連性が示唆される。経塚森遺跡では、平安時代と考え

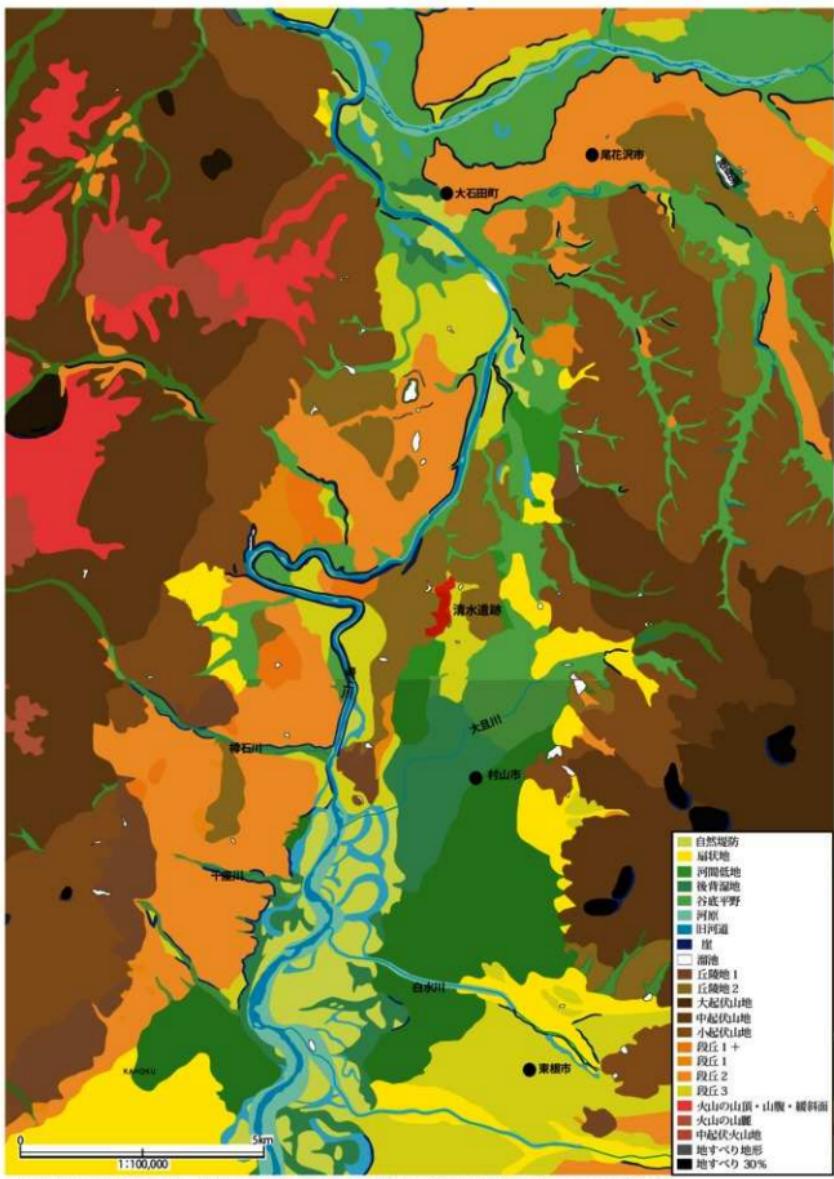
られる掘立柱建物跡などを検出した。蟻田遺跡では、掘立柱建物跡、河川跡などが検出され、出土遺物は土師器环体部に「定」と書かれた墨書き土器、木製の簾串、人形や鳥形などの祭祀儀礼に使われたと考えられる遺物などが出土している（山形県埋文 2013）。田向 2 遺跡は、平安時代と考えられる竪穴住居跡と掘立柱建物跡から構成される集落跡である。掘立柱建物跡は、主軸方向の違いから時期差が想定される。集落は、9世紀後半から10世紀後半の約100年前後の間営まれていたと推定される。また溝跡や土坑から県内でも出土例の少ない10世紀中葉から後葉に比定される土師器が出土し、今後村山地方の10世紀代を解明する上で良好な資料と言える（山形県埋文 2015b）。西原 C 遺跡は、平成 7 年に村山市教育委員会による発掘調査が行われ、掘立柱建物跡、竪穴住居などが検出され、中でも掘立柱建物跡は広範囲にわたり 20 棟以上検出されている。出土遺物には、土師器・須恵器のほか、須恵器环底部に「石」と書かれた墨書き土器、土製紡錘車や砥石などの石製品がある（村山市教委 1996）。

中世は、河島山館跡、楯岡城などが挙げられる。河島山館跡は、山頂と東側の山腹と 2 箇所に分かれ、山頂はチャシ址一の丸と呼ばれる巻柱式山城で、空堀と土塁に囲まれた円形の曲輪である。チャシ址二の丸は二重の空堀で曲輪は削平されず、自然地形のままである（山形県教委 1996）。両者の築城年代は異なる解釈が出されているが、詳細は不明である。また、河島山からは多数の板碑・五輪塔などが完形・破片を合わせ 70 基以上確認されている。同山を開墾した際に出土したとされているが、現在は山頂の一隅にまとめられている。板碑の石材は、凝灰岩で様式はいずれも成生型を呈し、大きいもので、約 90cm を測る。明確な時期は不明であるが、様式から室町時代末頃から桃山時代初めと考えられている。楯岡城は、村山市街地の北東に隣接する楯山に築かれた連郭式の山城で、別名舞鶴城とも呼ばれている。南側の山裾に館があり、館を中心に関下町が開けていた。楯山は、瓢岳の西側に伸びる台地で、その先端の西楯山・中楯山から構成される。西楯山は、標高約 209m で山

腹は急斜面である。三方に伸びた尾根に大小の曲輪を段々と連続的に配置する。頂上の曲輪も平坦で、櫓などの建造物が築かれていたと考えられている。頂上からは近隣の市町村が一望できる。中楯山の頂上曲輪も平坦で南東部に建物跡が確認されているが、詳細は不明である。曲輪の東西は堀切で区切られており、楯岡城の沿革について『最上楯岡元祖記』には、承元 2 年（1208）に横山月橋に開城したが 4 代にして没落、弘長元年（1261）に奥州より里見氏が入部して楯岡に開城、本城と名付けたとあり、5 代 144 年続いたとされる（山形県教委 1996）。室町時代に入り、山形城主斯波兼頼の孫、最上満直の四男最上伊予守満国が応永 13 年（1406）に入部、楯岡氏を名乗って満国以後 7 代約 190 年間続く。楯岡城は、最上氏にとって北進における重要な拠点であったとされる。

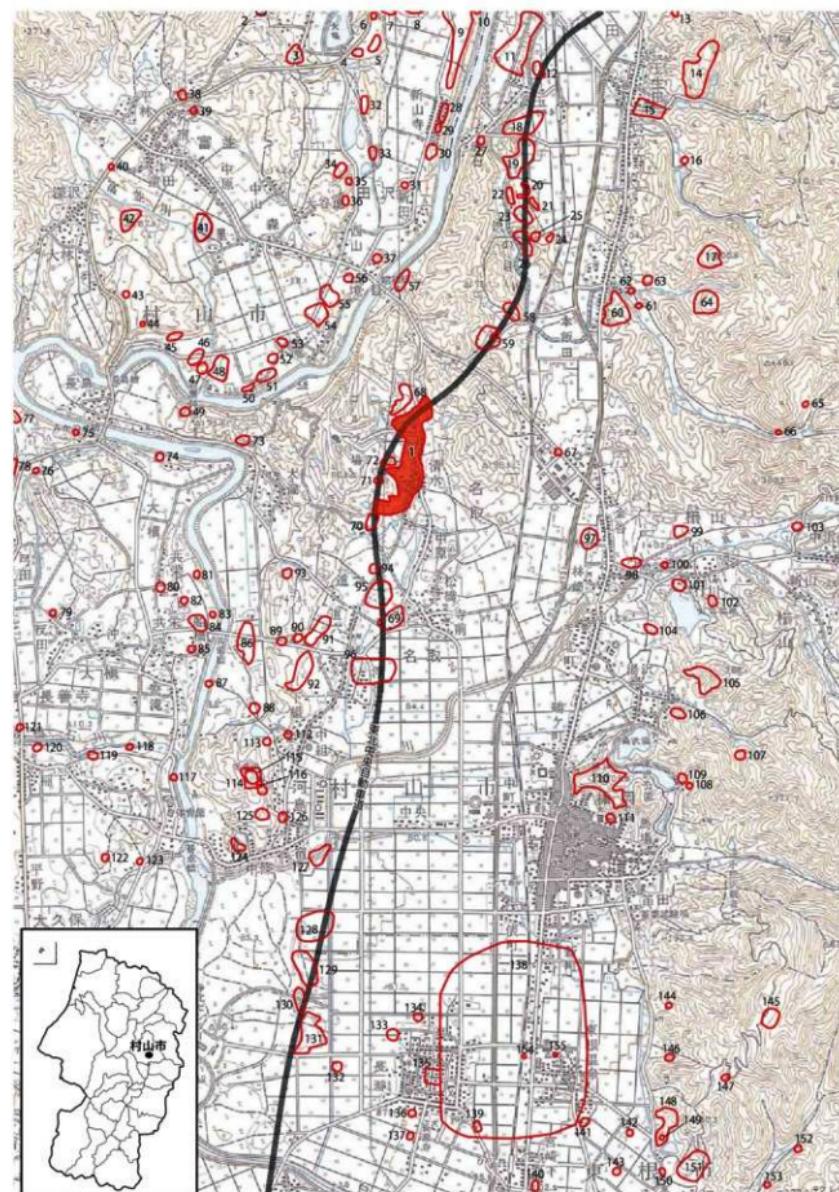
7 代満茂・8 代光直が活躍した近世に両楯山が城下と共に整備された。満茂は、秋田県南部攻略の中心となって活躍し、後に秋田湯沢城に移った。以後、楯岡城は最上家臣が交代で勤番するが、元和 2 年（1616）、最上義光の実弟で最後の城主である楯岡光直が封じられた後は、最上氏家中でも重要な地位を築く。光直は 1 万 7 千石を拝領し、領地は楯岡・湯野沢（現湯沢）・楯山及び大石田・井出・深堀（現大石田町）の各村で、最上川を抑える要地であった（小関 1995）。元和 8 年（1622）に最上氏が改易になったことにより、楯岡城は廢城となった。また同年の名取村（現在の村山市名取・一部の楯岡地区）は、最上氏領から山形藩領になる。名取村は浮沼・中原・清水・境ノ目の枝郷がある。寛永 20 年（1643）からは幕府領、安政 2 年（1855）以降は松前藩領と移り変わり、明治期を迎える。

明治維新後の村山市は、行政区画の変遷に伴い旧幕府領は明治 2 年（1869）に酒田県、また翌年には山形県に編入された。近現代における名取村は、明治 11 年（1878）に北村山郡に属し、明治 22 年（1889）には名取・大淀・長島・河島が合併し、西郷村の大字となり、昭和 29 年から村山市の大字名となった（佐藤 2011）。



*本図は「土地分類基本調査 植岡」(山形県企画調整部土地対策課 1982)、同じく「尾花沢」「月山」「左沢」の「地形分類図」を合成し、加筆したものである。

第2図 地形分類図



国土地理院発行5万分の1地形図「尾花沢」「橋岡」を使用

第3図 遺跡位置図

表1 遺跡地名表

番号	遺跡名	市町村	時代	種別	番号	遺跡名	市町村	時代	種別	番号	遺跡名	市町村	時代	種別
1	清水遺跡	村山市	縄・平	集落跡	56	小清水遺跡	村山市	縄文	散布地	111	御園小学校遺跡	村山市	奈良	集落跡
2	田畠沼西B遺跡	大石山町	縄文	集落跡	57	本飯山赤石山遺跡	村山市	縄・平	散布地	112	河島山口A遺跡	村山市	縄文	集落跡
3	久仁遺跡	大石山町	縄文	集落跡	58	大原口遺跡	村山市	縄文	集落跡	113	河島山口B遺跡	村山市	縄文	集落跡
4	羽根原C遺跡	大石山町	縄・平	集落跡	59	東熊野古墳群遺跡	村山市	縄文	集落跡	114	河島山古墳群	村山市	中世	城館跡
5	羽根原B遺跡	大石山町	縄文	集落跡	60	飯山遺跡	村山市	中世	城館跡	115	河島山古墳群	村山市	古墳	墳墓
6	羽根原A遺跡	大石山町	縄文	集落跡	61	高来沢B遺跡	村山市	縄文	集落跡	116	河島山古墳群	村山市	中世	城館跡
7	羽根沢C遺跡	大石山町	不明	集落跡	62	高来沢A遺跡	村山市	縄文	集落跡	117	川口遺跡	村山市	縄文	集落跡
8	羽根沢F遺跡	大石山町	縄文	集落跡	63	北沢遺跡	村山市	縄文	散布地	118	山の内遺跡	村山市	縄文	集落跡
9	小野原遺跡	大石山町	旧・縄・平	集落跡	64	十字山遺跡	村山市	中世	城館跡	119	下道跡	村山市	先・縄・奈	集落跡
10	高来沢遺跡	大石山町	縄文	散布地	65	八山A遺跡	村山市	縄文	集落跡	120	川前遺跡	村山市	縄文	集落跡
11	渓合遺跡	村山市	縄・平	集落跡	66	八山A遺跡	村山市	縄文	集落跡?	121	水口遺跡	村山市	縄文	集落跡
12	八山D遺跡	村山市	縄・平	散布地	67	第二鳴鳥遺跡	村山市	縄文	集落跡	122	小谷城跡	村山市	奈良	集落跡
13	清水北遺跡	村山市	縄文	集落跡?	68	清水北遺跡	村山市	縄・平	散布地	123	一木の森遺跡	村山市	縄文	集落跡
14	土生田山遺跡	村山市	中世	城館跡	69	松橋遺跡	村山市	平・中	散布地	124	河内・丸森遺跡	村山市	縄文	集落跡
15	土生田跡	村山市	中世	城館跡	70	蛭塚古墳跡	村山市	平安	散布地	125	河島山遺跡	村山市	旧石器	集落跡
16	南山遺跡	村山市	縄文	集落跡	71	清水北遺跡	村山市	古・縄・平	古墳地	126	電竜山遺跡	村山市	弥生	集落跡
17	高岳山遺跡	村山市	中世	城館跡	72	羽黒神社西遺跡	村山市	縄文	集落跡	127	八反原千原遺跡	村山市	縄・平	散布地
18	辻山2遺跡	村山市	縄・平	散布地	73	浦遺跡	村山市	縄文	散布地	128	河島八反原遺跡	村山市	平安	散布地
19	辻山遺跡	村山市	縄・平	包蔵地	74	庭の子A遺跡	村山市	縄文	集落跡	129	八反原跡	東船橋市	平安	集落跡
20	北原4遺跡	村山市	縄・平	散布地	75	小町4遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	130	岩袋遺跡	東船橋市	平安	集落跡
21	北原3遺跡	村山市	縄文	散布地	76	長糸遺跡	村山市	縄文	集落跡	131	長瀬木遺跡	東船橋市	中世	城館跡
22	壁山2遺跡	村山市	縄文	散布地	77	アコウガ2遺跡	村山市	縄文	散布地	132	月山堂遺跡	東船橋市	平安	集落跡
23	北原2遺跡	村山市	縄・平	散布地	78	佐佐木A遺跡	村山市	縄文	集落跡	133	福田の跡	東船橋市	奈・古	集落跡
24	北原遺跡	村山市	縄・近	生産跡	79	北原遺跡	村山市	奈良	集落跡	134	北方遺跡	東船橋市	平安	集落跡
25	門山遺跡	村山市	縄文	集落跡	80	府の子B遺跡	村山市	縄文	集落跡	135	長瀬原跡	東船橋市	中世	城館跡
26	北山2遺跡	村山市	縄・平	散布地	81	種子遺跡	村山市	縄・平	集落跡	136	南方遺跡	東船橋市	平安	集落跡
27	赤石山遺跡	村山市	縄文	集落跡	82	袋遺跡	村山市	縄・平	集落跡	137	單町古跡	東船橋市	平安	集落跡
28	新山寺A遺跡	大石山町	縄文	集落跡	83	川口A遺跡	村山市	縄・系	集落跡	138	本郷条件制御	東船橋市	一	条里制跡
29	新山寺B遺跡	大石山町	縄文	集落跡	84	新紙遺跡	村山市	縄文	集落跡	139	白金遺跡	東船橋市	平安	集落跡
30	新山寺C遺跡	村山市	不明	散布地	85	庭の子C遺跡	村山市	縄文	集落跡	140	宮崎遺跡	東船橋市	平安	集落跡
31	田山山遺跡	村山市	縄文	集落跡	86	後原遺跡	村山市	中世	墳墓	141	本郷跡	東船橋市	縄・平	集落跡
32	長崎山A遺跡	大石山町	縄文	集落跡	87	川口B遺跡	村山市	縄文	集落跡	142	上江B遺跡	東船橋市	縄・平	集落跡
33	長崎山B遺跡	大石山町	縄文	集落跡	88	後久保遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	143	上江A遺跡	東船橋市	縄文	集落跡
34	西山C遺跡	村山市	縄文	集落跡	89	西原A遺跡	村山市	縄文	散布地	144	荷渡し道路	東船橋市	平安	集落跡
35	西山B遺跡	村山市	縄文	散布地	90	西原B遺跡	村山市	平安	集落跡	145	上山遺跡	東船橋市	縄文	集落跡
36	西山A遺跡	村山市	縄文	集落跡	91	西伊豆遺跡	村山市	平安	集落跡	146	たきの遺跡	東船橋市	縄文	集落跡
37	境ノ日遺跡	村山市	縄文	集落跡	92	西原C遺跡	村山市	縄・平	集落跡	147	小池山遺跡	東船橋市	縄・平	集落跡
38	古見遺跡	村山市	縄文	集落跡	93	西伊豆跡	村山市	縄文	集落跡	148	兵衛山遺跡	東船橋市	中世	城館跡
39	中山山遺跡	村山市	縄文	集落跡	94	田山2遺跡	村山市	平安	集落跡	149	兵衛山遺跡	東船橋市	縄文	集落跡
40	弓削の前遺跡	村山市	縄・平・中	生産跡	95	田山遺跡	村山市	縄文	集落跡	150	堂の前遺跡	東船橋市	平安	集落跡
41	西湖山遺跡	村山市	縄文	集落跡	96	岬山遺跡	村山市	平安	散布地	151	堂の前遺跡	東船橋市	中世	城館跡
42	富榮城跡	村山市	中世	城館跡	97	位岡山遺跡	村山市	縄文	集落跡	152	津河A遺跡	東船橋市	平・謹	散布地
43	深沢・向山遺跡	村山市	縄文	集落跡	98	矢島遺跡	村山市	縄文	集落跡	153	津河B遺跡	東船橋市	謹	散布地
44	里山山遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	99	向山遺跡	村山市	縄文	集落跡	154	仙台原遺跡	東船橋市	古墳	古墳
45	里山山B遺跡	村山市	縄文	集落跡	100	大森A学校遺跡	村山市	縄文	集落跡	155	大塚古墳	東船橋市	古墳	古墳
46	里山山C遺跡	村山市	縄文	散布地	101	見附城跡	村山市	中世	城館跡					
47	里山山D遺跡	村山市	縄文	散布地	102	勝負平遺跡	村山市	弥生	集落跡					
48	川口遺跡	村山市	縄文	集落跡	103	道立遺跡	村山市	縄文	集落跡					
49	小坂遺跡	村山市	縄文	集落跡	104	当呂遺跡	村山市	縄・奈・平	集落跡					
50	早原A遺跡	村山市	縄文	集落跡	105	鷲山遺跡	村山市	中世	城館跡					
51	早原B遺跡	村山市	縄文	集落跡	106	八ノ山遺跡	村山市	縄・奈	集落跡					
52	早原C遺跡	村山市	縄文	散布地	107	作野遺跡	村山市	縄文	集落跡					
53	早原D遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	108	東伊豆遺跡	村山市	平安	空跡					
54	小南A遺跡	村山市	縄文	集落跡	109	御園城跡	村山市	縄文	集落跡					
55	小南B遺跡	村山市	縄文	集落跡	110	御園城跡	村山市	中世	城館跡					

III 遺跡の概要

1 遺構の分布

調査は、D～G区の約3,100m²を対象に行った。検出された主な遺構は、縄文時代の陥穴、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などである。その分布状況を各区ごとに述べる。

D区には陥穴、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などがある。南北端が重機による擾乱を受けていることもあり、遺構は中央部35～45-56～67Gに集中している。この範囲の外には南と北に溝跡が各2条のみである。但し、この集中範囲内でも遺構毎に顕著な分布の違いが見られる。縄文時代の陥穴は38・39-61Gに1基、竪穴住居跡も43～45-63・64Gに位置する1棟のみであるが、掘立柱建物跡は中央部に重複も含め9棟が広く分布している。これらの建物跡は南北にある区画施設と思われる溝跡の内部であり、主軸がほぼ一致し、柱穴の掘り方の大きさが一辺1.0m前後を測るものがあることから、主体となる建物跡とも考えられる。土坑も多く見られるが、直径約2.0mを測る大型のものは40～43-63・64Gに4基が集中している。溝跡は住居跡と重複している。

E区は陥穴、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などがある。北側に多くの遺構が集中して、中央部は希薄になる。南側は重機による擾乱が大半で、明確な遺構は22-65・66Gに縄文時代の陥穴が1基のみである。

北側は掘立柱建物跡、土坑、柱穴が33～35-77～80Gに分布し、中央は溝跡2条だけである。

F区については、擾乱のみで明確な遺構は確認されなかった。

G区は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、河川跡などがある。北側に遺構が集中し南側は希薄になる。特に竪穴住居跡は北端に集中し12～15-61～64Gに重複も含め6棟分布する。土坑は竪穴住居の南に近接して検出された。南側には、細い溝跡と河川跡が南端に分布するのみである。

以上から、各区で遺構毎の分布に違いが見られ、遺構の多くはD・G区に集中する。D区は掘立柱建物跡が多く、G区は竪穴住居跡が多いという特徴が確認された。これは、G区が竪穴住居を主体とする一般集落の様相を示すのに対し、D区は掘立柱建物を主体とする郡衙関連施設もしくは地方豪族の居館跡の様相を示している。

2 遺物の分布

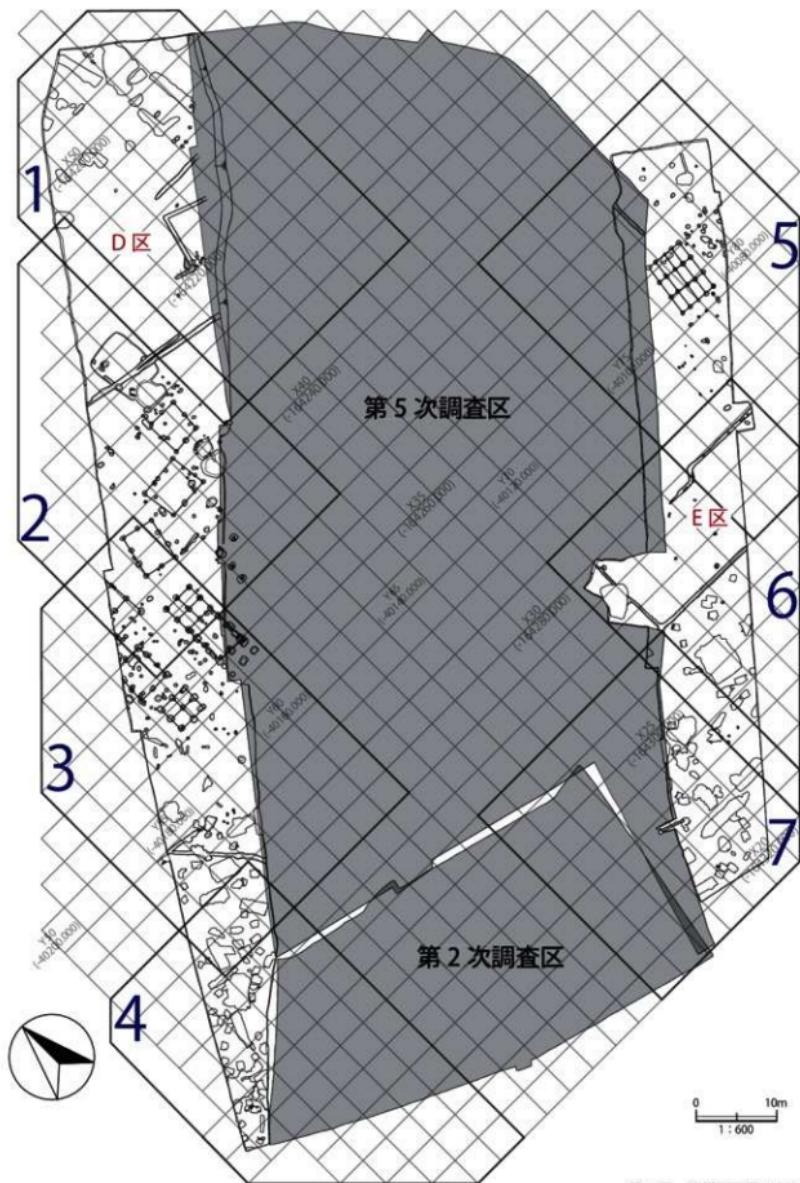
遺物は、整理箱にして17箱出土した。縄文時代の遺物は土器片と石器・石製品が出土したが少數で、奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器、石製品などが大半を占める。墨書・刻畫土器も14点出土している。土器は破片資料が大半を占め、依存状態は良くない。

遺構出土の遺物は、遺構の種別によって明確な違いがみられた。D区の竪穴住居跡(ST1818)や大型の土坑(SK1819・1446・2185・1872)、G区の竪穴住居跡(ST381～384・386・478)からはまとまった量の遺物が出土しているが、掘立柱建物跡や溝跡からは少量である。D～F区の擾乱が集中する場所についても遺物の出土は希薄で、削平によるためと考えられる。

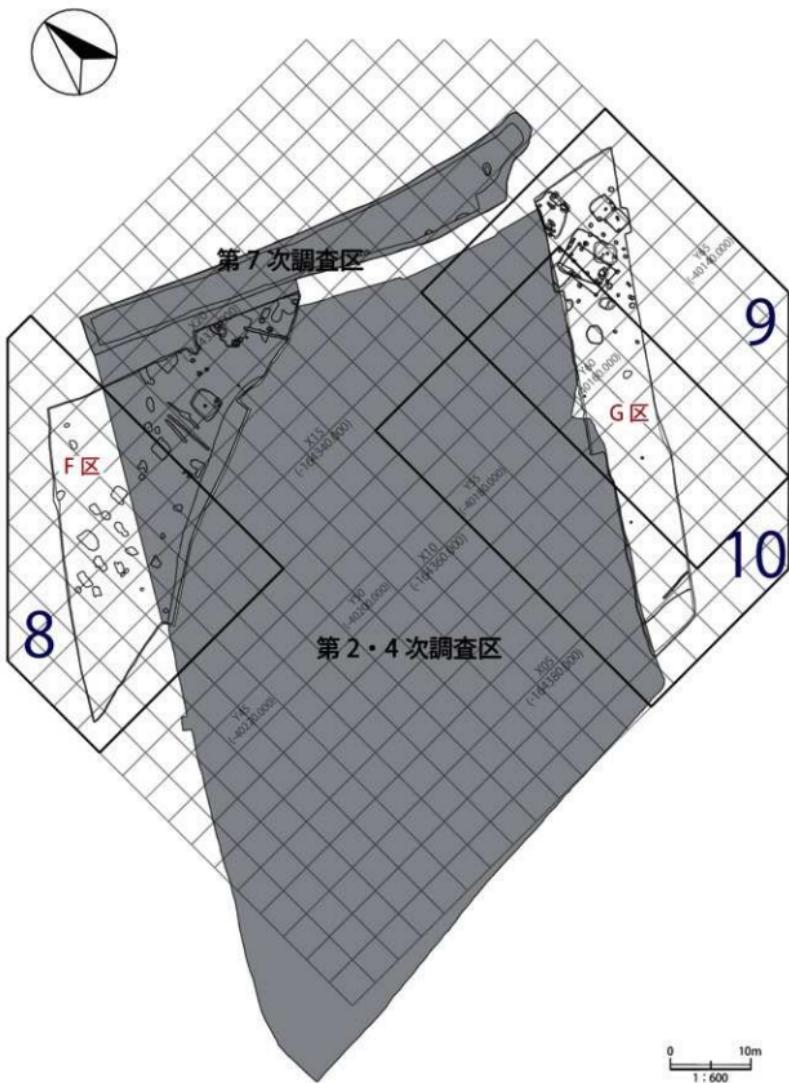
遺物の種別による分布状況は、縄文時代の遺物はD区の包含層からの出土が多く、明確な遺構からは1点だけの出土である。そして、奈良・平安時代の遺物はD区の43～45-63・64Gと40・41-63・64G及びG区12～15-62～64Gから多く出土し、他は希薄となる。

墨書・刻畫土器は、D区から9点、G区から5点の計14点出土している。但し、刻畫土器は1点のみである。D区は大半が大型の土坑からで、住居跡からは1点のみ、G区は全て住居跡からの出土となる。

以上のように、遺物の分布は遺構に伴うものが大半を占めることから、ほぼ遺構の分布と同じ様相を示すが、その出土量は遺構の性格により顕著な違いが認められる。住居跡と大型の土坑があるD区の中央や北側と住居跡が集中しているG区の北側に多くの遺物が分布し、他は希薄になるという特徴が認められた。



第4図 遺構配置図の割付図1



第5図 遺構配置図の割付図2

III 遺跡の概要

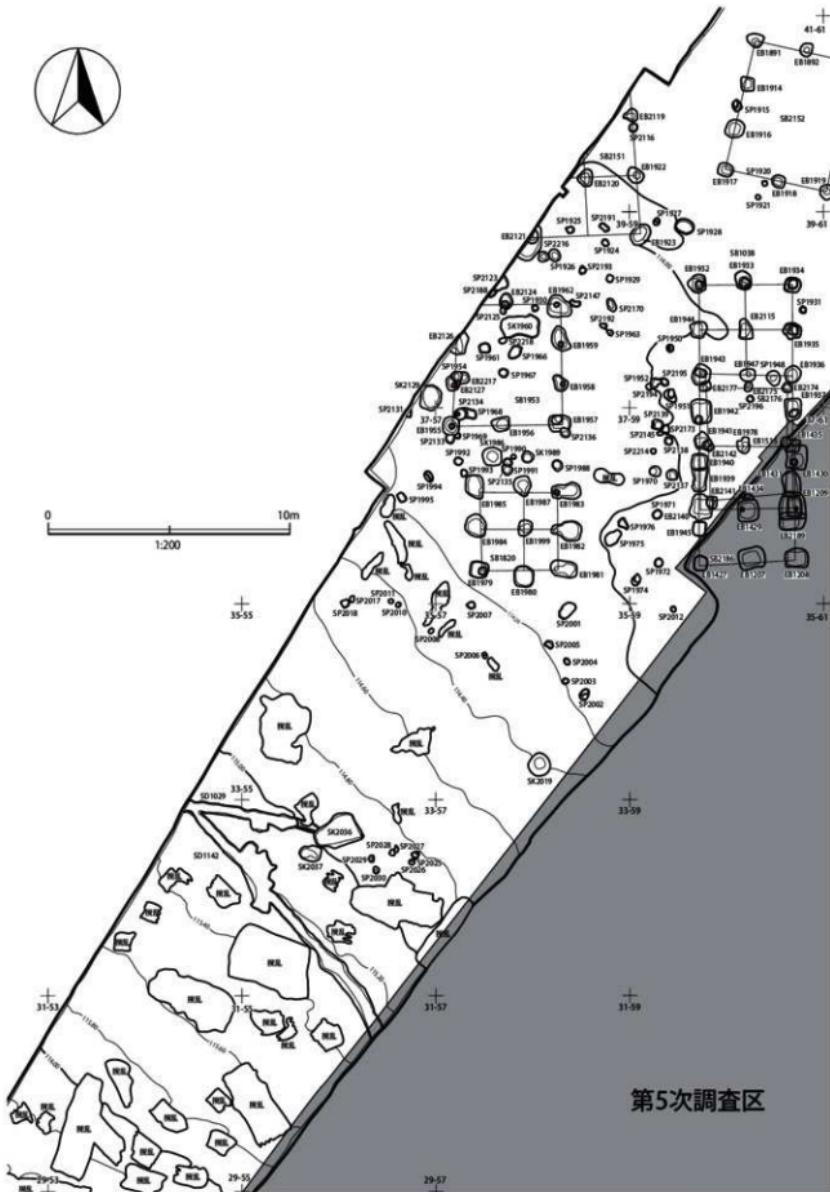


第6図 遺構配置図1



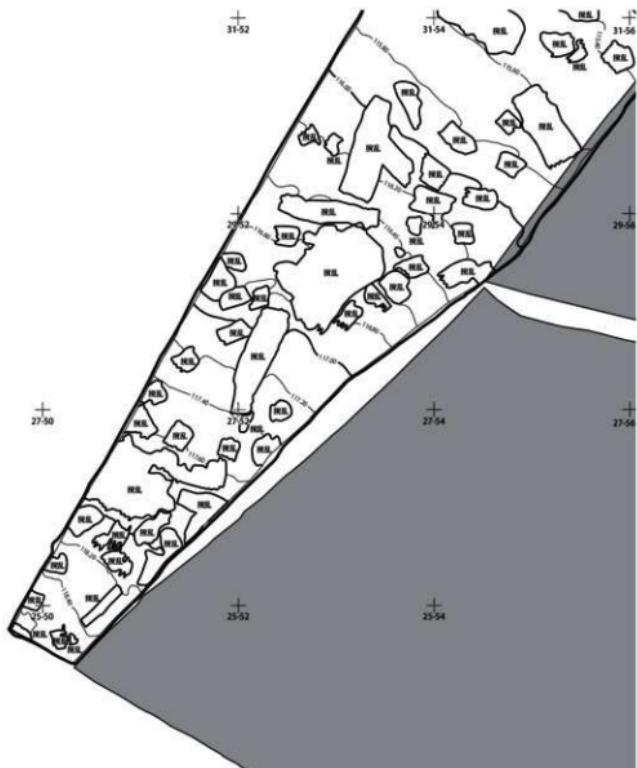
第5次調査区

第7回 遺憾配圖2



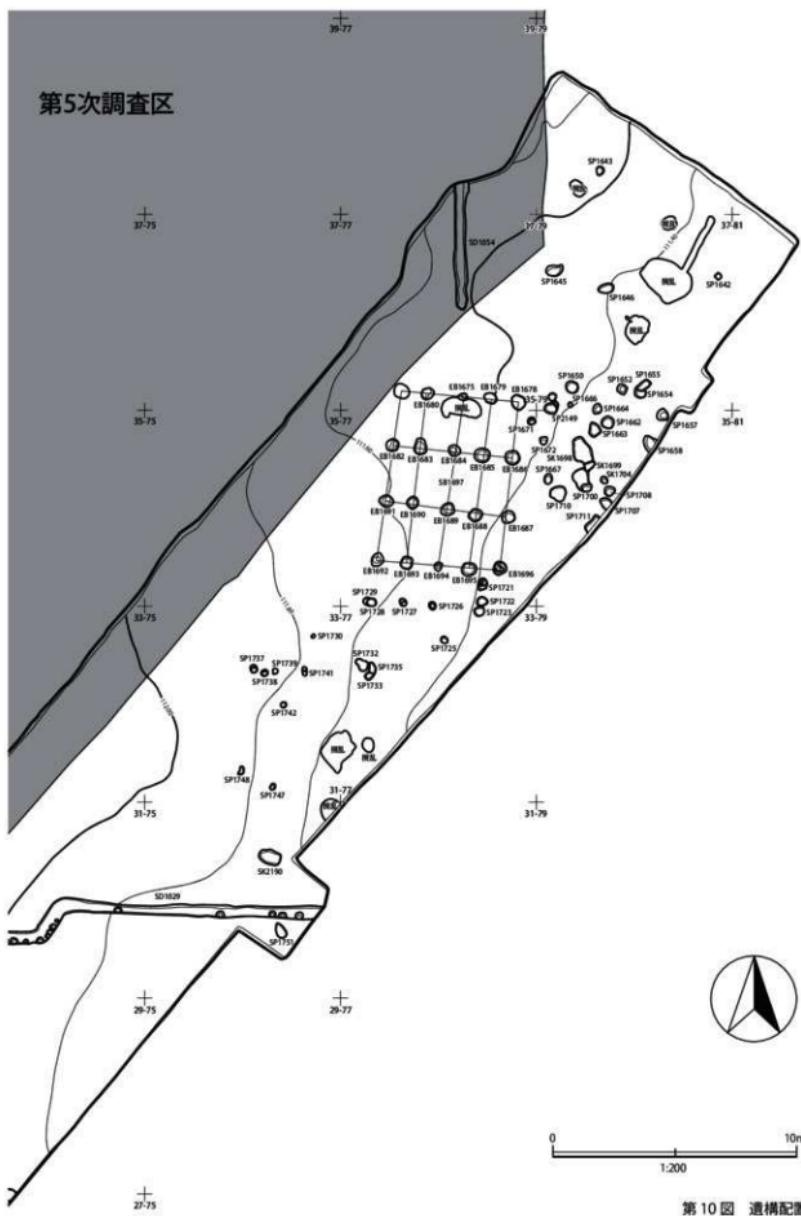
第5次調査区

第8図 遺構配置図3

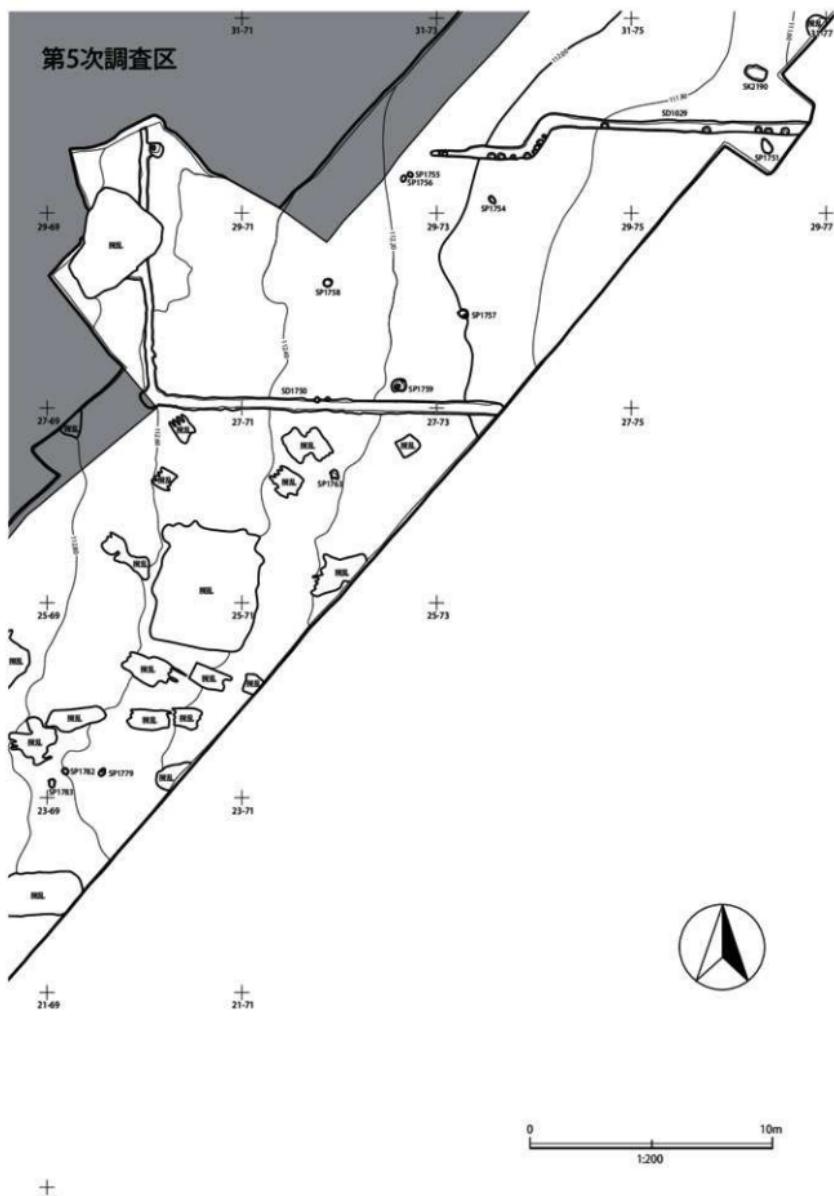


0
10m
1:200

第9図 遺構配置図4

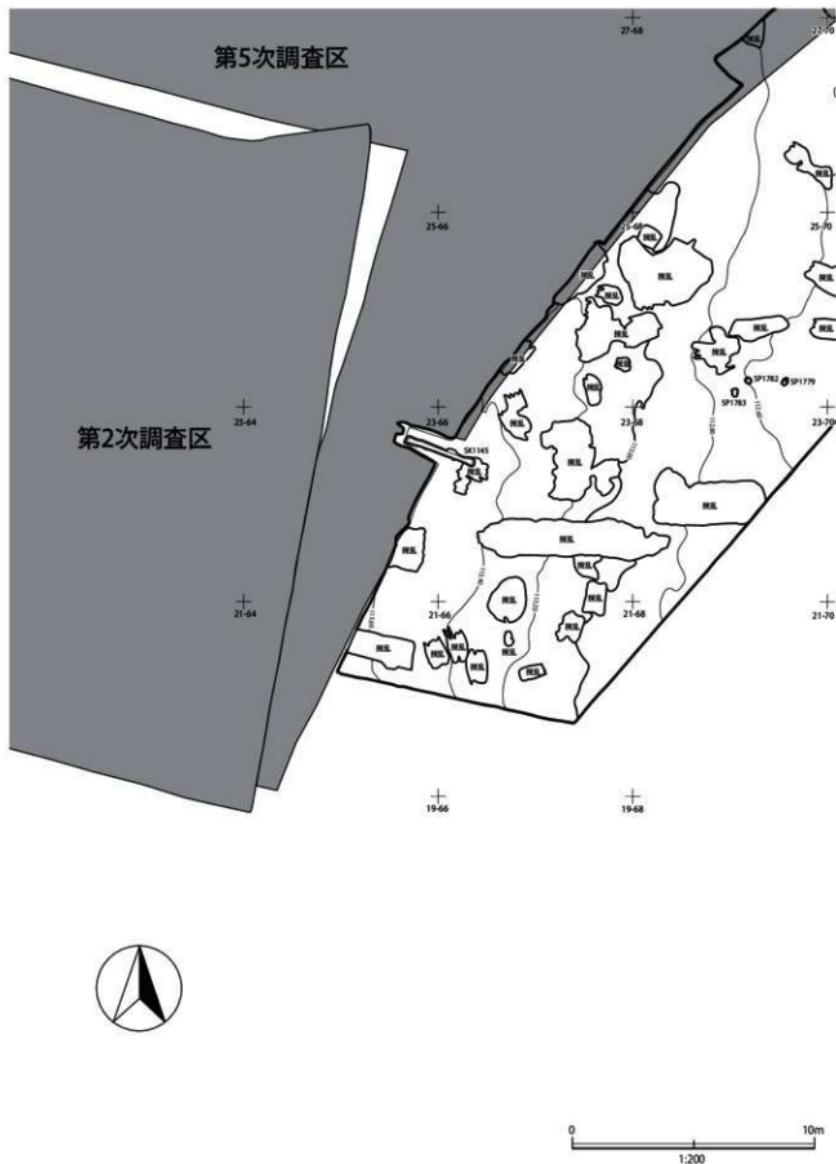


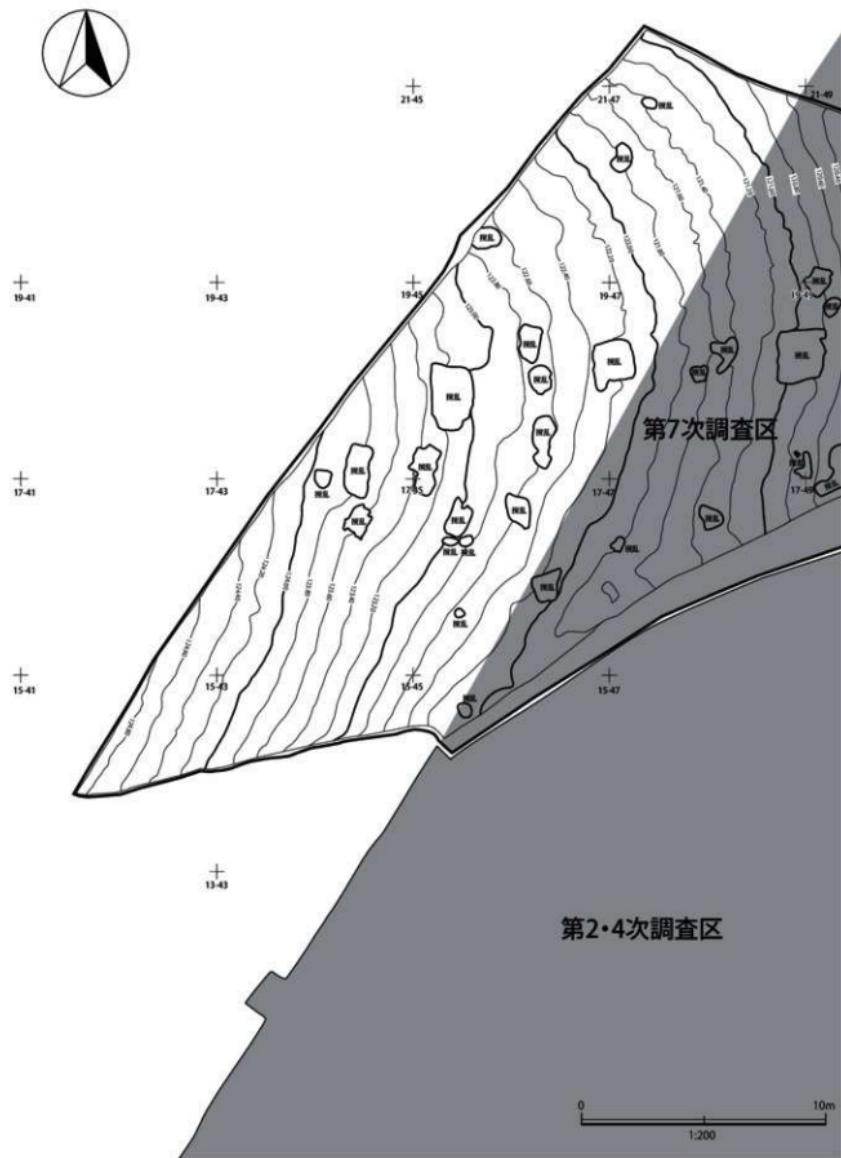
第10図 遺構配置図5



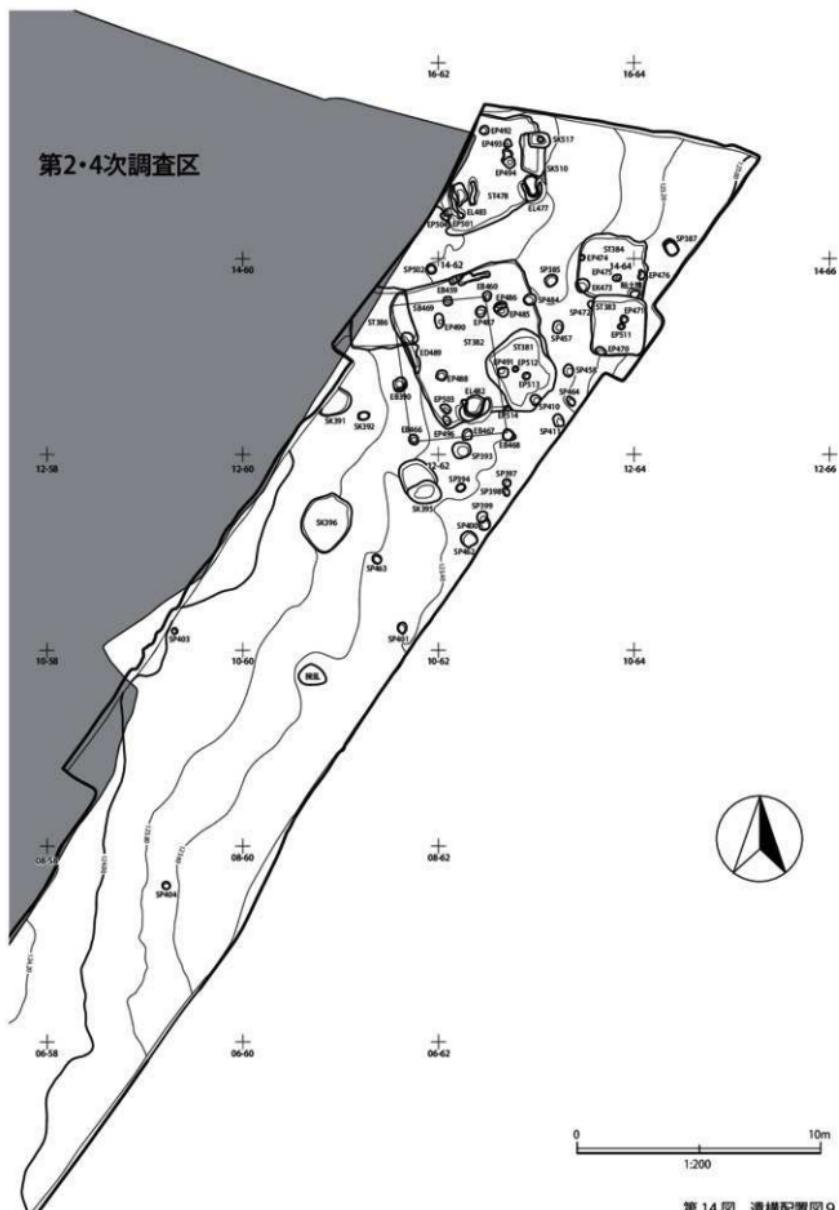
第11図 遺構配置図6

III 遺跡の概要

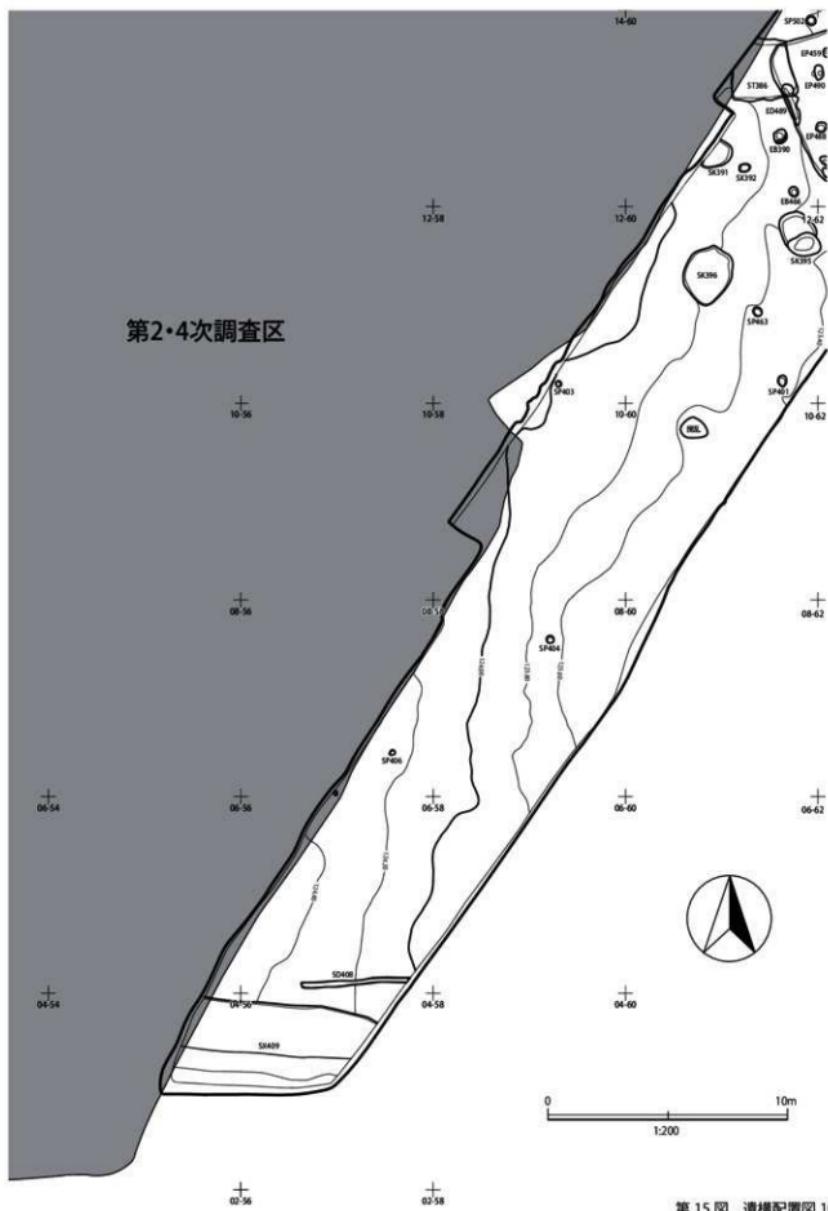




第13図 遺構配置図8



第14図 遺構配置図9



第15回 遺構配置図10

IV 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、陥穴、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などで、出土した遺物は縄文土器、石器、土師器、須恵器、黒色土器、石製品、金属製品などである。時代は、縄文時代、平安時代である。以下に主な遺構と遺物の概略を時代及び遺構毎に述べる。なお、還元焰で焼成された土器を須恵器、酸化焰によって焼成された土器を土師器とした。また、土師器の内面ないし内外面に黒色処理を施す土器は黒色土器とした。

1 縄文時代

SK1145 陥穴（第16図）

E区南側、22-65・66Gで検出された。東端が削平を受けている。全長3.08m、幅30～40cm、確認面からの深さ0.96mを測る。狭くて長い形態の縄文時代の陥穴と考えられる。遺物の出土が無く、詳細な時期は不明。

SK1911 陥穴（第16図）

D区中央部39-61・62G、SB2152の東側で検出された。西側の一部をSP2178に切られる。全長3.36m、幅30～60cm、確認面からの深さ0.96mを測る。SK1145と同様に狭くて長い形態の縄文時代の陥穴と思われる。遺物の出土が無く、詳細な時期は不明。

縄文土器（第16図1～4）

図示できたのは4点のみである。全て包含層からの出土で破片資料である。1～3は縄文早期に属する土器片で、文様は、竹管による太い沈線文が施されるもの(1)、平行沈線と爪型の刺突文が施されるもの(2)、格子状の沈線文が描かれるもの(3)がある。1・2は田戸下層式併行、3は田戸下層式もしくは三戸式併行と考えられる。県内では南陽市の大野平遺跡や村山市の赤石遺跡などで出土例がある。4は地文が縄文LRの口縁部資料で、縄文晩期に属すると思われる。

石器・石製品（第16図5～第17図13）

縄文時代の石器・石製品は未完成も含め9点出土した。5～9は打製の石器で全て未完成と考えられる。5は石

鐵で下部を欠く。6は石錐、7は石匙、8は石籠、9は削器である。石籠の左右の刃部に刃潰しがみられる。打製石器の石材は全て珪質頁岩となる。

10は磨製石斧の基部、11は磨石で3面が磨面として使用されているが、特に右側面が顕著である。12は凹石で表と裏の2面に凹がある。13は敲石と考えられ、上下に打痕が認められ、タールらしきものが付着する。石材は、10が粘板岩、12は凝灰岩、11・13は安山岩である。7・11は住居跡、13は土坑からの出土であるが、後世の流れ込みと考えられる。

2 平安時代

ST1818 竪穴住居（第18～21図・第62・63図）

D区中央や北側の43～45-63・64Gで検出された。南壁をSK1819に中央付近をSD1054・1857に切られる。平面プランは長辺7.32m、短辺5.74mを測る長方形を呈する。確認面から床面までの深さは20～30cmを測る。主軸方位はS4° 28' 12"Eを測る。壁は緩やかに立ち上がり、床面は若干の凹凸がみられ固く締まる。内部施設は、カマド(EL2183)が南西隅に、貯蔵穴が東西の壁際に2基(EK2179・2184)と北側に1基(EK2182)検出された。EL2183は両袖と燃焼部が確認できた。カマドの先端部はSK1819に切られ、EK2179・2184はSD1054・1857に切られる。柱穴は2基(EP2180・2181)確認された。また、西側床面の一部に貼り床と思われる黄褐色粘土層が検出された。

出土した遺物は、須恵器には蓋(14)、無台坏(15～19)有台坏(20)などがあり、14は平笠タイプの蓋、15～19はロクロ整形で底部の切り離しが回転糸切になる無台坏である。15は底部に「万」の墨書があり、18は内外面に火だしき痕が認められる。土師器には無台坏(21～25)、小型の鉢(26～28)、壺(29～37)などがある。無台坏はロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となるが、底径に対し器高が高く坏部が内湾ぎみに立ち上がる碗形になるもの(24・25)がある。小型の鉢には、底部に棒状の工具によるナデが施された

もの（26）がある。甕は保存状態が悪く二次焼成を受け内外面が剥落しているものが多い。34は底部切り離しが回転糸切、35は底部に網代の痕がみられる。黒色土器の甕は（38）ロクロ整形で内面に黒色処理とミガキ調整が施される。砥石（39）は細粒凝灰岩製で、4面が砥面として使用されている。各面に砥ぎ痕が明瞭に残り、使い込まれた様子が窺える。

その他、後世の流れ込みと考えられる縄文時代の石匙（8）も出土している。時期はカマド出土の須恵器無台坏などの特徴から9世紀第2～3四半期頃と考えられる。

ST381・382・386 穫穴住居（第22～25図・第64～67図）

G区北側 12・13-61～63Gで3棟が重複して検出された。

ST381はST382を切る竪穴で、平面プランは長辺2.80m、短辺2.50mを測る丸角方形を呈する。確認面からの深さは42cmを測る。主軸方位はS-24° 24' -Eを測る。壁は北と西が急角度で立ち上がり、南と東は緩やかに立ち上がる。床面は平坦である。柱穴は2基（EP512・513）確認されたが内部施設は無い。ST381は、カマドが無いことと規模が3m四方以下であることなど、ST383・384と類似する。

出土した遺物は、須恵器には無台坏（40～43）、有台皿（44）、横瓶（45）などが、土師器には無台坏（46・47）、甕（48～50）、他に黒色土器（51・52）と砥石（53）がある。坏類はすべてロクロ整形で底部の切り離しが回転糸切である。44は高台径が大きく身が浅い形態で、全体に自然釉が付着する。51の底部には「忌子」と墨書が書かれる。砥石は表と右側面が使用されている。時期は、須恵器や土師器の無台坏などの特徴から9世紀第2四半期頃と思われるが、ST382より新しい。

ST382はST381とST386に切られる竪穴で、平面プランは長辺5.90m、短辺5.62mを測るほぼ正方形を呈する。確認面からの深さは24～34cmを測る。主軸方位は、S-17° 24' -Eを測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。内部施設は南壁にカマド（EL482）と西壁の一部に周溝（ED489）が確認された。EL482は馬蹄形を呈し内側が燃焼部で煙道は認められない。ED489は長さ1.7mで、床面からの深さ14cmを測

る。柱穴は10基（EP459・460・485～488・490・491・496・503）確認された。柱穴の規模と位置からEP486・488・490・491が主柱穴と考えられる。

出土した遺物は、須恵器は蓋（54）、無台坏（55・56）、有台坏（57・58）、土師器は無台坏（59・60）、甕（61～67）があり、他に砥石（68）がある。坏類はロクロ整形で底部切り離しが56が静止糸切となるが、他は回転糸切である。55の底部には「田」の墨書が書かれている。土師器の甕はハケ・ケズリ・ナデ調整が施されるものが多く、底部の切り離しが64が静止糸切、62・65は網代痕が認められる。砥石は両側面が使用され、全体に2次被熱を受け火ハネ痕がある。その他、縄文時代の磨石（11）も出土しているが、後世の流れ込みと考えられる。時期は、床面出土の55・56の特徴から9世紀第2四半期頃と考えられ、ST381・386よりも古い。

ST386はST382を切る竪穴で、平面プランは長辺2.62m、短辺2.44mを測る方形を呈する。北西角は調査区外となる。上部が削平され、確認面からの深さは10～14cmと浅い。主軸方位はS-17° 4' 23" -Eを測る。壁は西側が緩やかに立ち上がり、南北は急角度に立ち上がる。床面は平坦である。内部施設、柱穴とともに検出されなかった。

出土した遺物は、須恵器の無台坏（69）、土師器の無台坏（70・71・74・75）、底部欠損の坏（72・73）、甕（76～78）、鍋（79）などである。坏類はすべてロクロ整形で底部切り離しが回転糸切となる。70の底部には「東」の墨書が書かれ。甕・鍋はハケ調整が施され、78の底部には網代痕が認められる。時期は、坏類の特徴から9世紀第3・4四半期頃と考えられ、ST382より新しい。

ST383・384 穫穴住居（第26図・第68図80～84）

G区北側 13・14-63・64Gで2棟が重複して検出された。

ST383はST384を切る竪穴で、平面プランは長辺2.46m、短辺2.12mを測る正方形を呈する。確認面からの深さは20～24cmを測る。主軸方位はN-3° 12' 54" -Eを測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。柱穴は3基（EP470・471・511）確認された。

出土した遺物は、土師器の甕（80～82）などである。80は完形の甕、81は体部外面に墨書がみられる。80の口唇部は丁寧な作りで、9世紀中頃の特徴がみられる。

切り合いから、ST384 よりも新しい。

ST384 は南側を ST383 に切られる竪穴で、平面プランは長辺 2.80 m、短辺 2.60 m を測る正方形を呈する。確認面からの深さは 20 ~ 28cm を測る。主軸方位は N-7° 0' 54" -E を測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。内部施設は南西隅に貯蔵穴(EK473)が検出された。EK473 は直径 50cm、深さ約 20cm を測り北西側がプラスコ状に掘られている。また、南東隅には、粘土の塊が検出されている。柱穴は 3 基 (EP474 ~ 476) 確認された。

出土した遺物は、底部切り離しが回転糸切の須恵器の無台坏(83)と内外面にハケ調整が施され底部に網代痕がある土師器の甕(84)の他に、鋳型と推測される土製品(写真図版 50)がある。鋳型と考えられる土製品は、残存している個体から、その形態は隅丸の長方形で箱型と思われるが、U 字形の部品もあることから、正確な形は不明である。接合しない 3 個体から長さ 17cm 以上、幅 10cm 以上になると推測される。時期は、9 世紀中頃と思われるが、ST383 よりも古い。

ST478 竪穴住居 (第 27・28 図・第 68 図 85 ~ 71 図 121)

G 区北西隅の 14・15-62・63G で検出された。東側を SK510 に切られ、北西側は調査区外になる。平面プランは長辺 4.62 m、短辺 3.5 ~ 4.3 m を測る台形を呈すると思われる。確認面からの深さは 10 ~ 22cm を測る。主軸方位は S-20° 21' 47" -E を測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は凸凹がみられる。内部施設は、カマドが南東角(EL477)と南西側(EL483)に検出された。EL477 は馬蹄形を呈し内側が燃焼部で煙道は認められない。EL483 は袖らしき部分があり、内側が深く掘られている。形態が判然とせず、壊されている様相がみられる。このことから、EL483 から EL477 に造り替えを行ったとも考えられる。柱穴は 3 基 (EP492 ~ 494) 確認された。また、EL477 周辺から竪穴中央部にかけて貼り床とみられる黄褐色粘土の層が検出された。

出土した遺物は、須恵器は蓋(85)、無台坏(86 ~ 90)、有台坏(91)、底部欠損の坏(92・93)、甕(94)、壺(95)などで、85 は平笠タイプで摘みが低く作られる。無台坏はロクロ整形で、底部切り離しは回転糸切となるが、底径に比べ器高が高く、体部が内湾ぎみに立ち

上がる碗形となるもの(88)がある。また、91 の外面体部には墨痕がみられ、94・95 は外面や底部に自然軸が付着する。土師器には無台坏(96 ~ 98)、有台坏(99)、底部欠損の坏(100・101)、甕(102 ~ 118・120)、小型壺(119)、鍋(121)などがある。坏類の底部切り離しは回転糸切でロクロ整形である。甕の体部はハケ調整が施され、113 ~ 117 の底部には網代痕が認められる。また、土師器の甕には口縁部が強く外反して、胴径長より口径長が長くなるもの(102 ~ 108)と口縁部がくの字状で口径長より胴形長が長くなるもの(110・112)がある。時期は、須恵器の無台坏などの特徴から 9 世紀第 3 四半期頃と考えられる。

SB1820 捩立柱建物 (第 29 ~ 31 図)

D 区中央南側の 35・36-57・58G で SB1953 の南に検出された。9 基の柱穴で構成される梁行 2 間、桁行 2 間で中央にも柱をもつ総柱の建物跡である。主軸方位は N-2° 10' 30" -W となる。建物の規模は東西梁行 3.1 m、南北桁行 3.2 m を測り、面積は 9.92 m² となる。柱間距離は梁行が西側から 1.7 m、1.4 m で、桁行は南から 1.6 m、1.6 m を測る。掘り方の平面形は EB1981 ~ 1983 は 114 ~ 122 × 52 ~ 78cm の東西に長いほぼ長方形、他は 66 ~ 100 × 54 ~ 80cm を測る正方形や隅丸方形で、深さは 16 ~ 36cm である。柱痕跡は径 18 ~ 32cm のほぼ円形を呈し、8 ヶ所で確認された。側柱の柱痕跡が掘り方の内側に寄っている特徴がみられる。

SB1953 捩立柱建物 (第 32・33 図・第 72 図 122 ~ 124)

D 区中央南側の 36 ~ 38-57・58G で SB1820 の北に検出された。柱穴は 9 基検出された。北西角の柱穴は調査区外になるため、確認できず、EB2126 も東半のみの検出になったが、梁行 2 間、桁行 3 間の南北棟の建物と推定される。主軸方位は N-0° 23' 24" -W で、建物の規模は東西梁行 4.3 m、南北桁行 4.9 m を測り、面積は 21.07 m² となる。柱間距離は南側梁行が西から 2.0 m、2.3 m で北側梁行は確認できた東側のみ 2.1 m、西側桁行は南側から 1.6 m、1.6 m で北側は不明。東側は 1.6 m、1.7 m、1.6 m を測る。掘り方の平面形は 70 ~ 102 × 50 ~ 90cm を測る梢円形や隅丸方形で、深さは 22 ~ 60cm であるが、中柱の深さが約 20 ~ 40cm な

のに対し、隅柱が約60cmと深く掘られている。柱痕跡は全ての柱穴で確認でき、 $25 \sim 45 \times 15 \sim 30\text{cm}$ の楕円形を呈する。EB1962の覆土に焼土粒がみられた。

遺物は、底部の切り離しが回転糸切の須恵器の有台坏(122)、壺の体部破片(123)、土師器の坏(124)などがある。122・124はEB1962、123はEB2126から出土した。時期は、土器の形態や調整技法から9世紀後半と考えられる。

SB2151 捜立柱建物(第34・35図・第72図125)

D区中央西端38・40・48・59GでSB1953の北に検出された。北西部は調査区外となる。柱穴は5基検出できた。南側の中柱は確認できなかったが、梁行2間以上、桁行2間以上の中央にも柱を持つ総柱の建物と考えられる。主軸方位はN-2° 23' 24" -Wとなる。建物の規模は東西4.4m以上、南北5.1m以上を測り、面積は22.44m²以上になると思われる。柱間距離が確認できたのは、東側桁行のみで南から2.6m、2.5mである。掘り方は、EB2121が大きく150×50cm以上を測る楕円形と考えられるが、他は54～96×50～70cmの楕円形や不整形で、深さは16～40cmを測る。柱痕跡は4ヶ所で確認でき、15～20cmの円形を呈する。

図示できた遺物は、黒色土器の有台坏(125)で、EB1923から出土した。内面に黒色処理とミガキが施され、摘み出し高台で、底部の切り離しが回転糸切である。

SB2152 捜立柱建物(第36・37図)

D区中央の39・40・60・61GでSB2151の東側で検出された。10基の柱穴で構成される東西梁行2間、南北桁行3間の南北棟の建物跡である。主軸方位はN-12° 01' 33" -Eとなる。建物の規模は東西梁行4.2m、南北桁行5.4mを測り、面積は23.22m²となる。柱間距離は梁行が西側から2.2m、2.1mで、桁行は西側が南から1.8m、1.8m、1.8mで東側が2.0m、1.7m、1.7mを測る。掘り方の平面形は54～76×46～72cmの楕円形や隅丸方形で、深さは6～32cmである。柱痕跡は6ヶ所で確認でき、15～35×15～20cmの円形や楕円形を呈する。

SB2154 捜立柱建物(第38・39図)

D区中央の40・41・62・63GでSB2152に北東側で検出された。南北梁行3間、東西の桁行3間の東西棟の建物跡と考えられ、11基の柱穴が検出された。西側

梁行の北から2本目の柱穴は確認できなかった。主軸方位はN-85° 44' 42" -Eとなる。建物の規模は南北梁行が東側で4.5m、西側で4.5m、東西桁行5.5mを測り、面積は24.75m²となる。柱間距離は東側梁行が南から1.3m、1.7m、1.6m、桁行は南側が東から1.5m、2.0m、2.0mで北側は1.7m、2.0m、1.8mを測る。掘り方の平面形は正方形や楕円形、隅丸方形などで、40～80×32～58cm、深さは10～52cmを測る。但し、EB2165は柱間の軸線から、それが認められるところから、再検討をする。柱痕跡は9ヶ所で確認でき、15～30×15～40cmの円形や楕円形を呈する。また、EB1902・1903・2165の覆土に焼土粒がみられた。

SB2160 捜立柱建物(第40・41図・第72図126)

D区中央やや北側の41・42・63・64Gで検出された。8基の柱穴で構成される東西梁行2間、南北桁行2間の南北棟の建物跡である。北西の隅柱EB2161はSK2156に西半分を切られる。主軸方位はN-2° 06' 54" -Eとなる。建物の規模は、梁行が南側で3.8m、北側で3.9m、桁行が西側で4.8m、東側で4.5mを測り面積は18.14m²となる。柱間距離は、梁行の南側が西から1.8m、2.0mで北側が2.0m、1.9mとなり、桁行は西側が南から2.3m、2.5mで、東側が2.3m、2.2mを測る。掘り方の平面形は50～72×46～64cmの円形や楕円形を呈し、深さは12～34cmである。柱痕跡は7ヶ所で確認でき、15～25×10～25cmの円形や楕円形を呈する。

遺物は、EB2158から金属製品(126)が出土した。残存長61mmでU字状の形態となり、厚さは1.5mmと薄いものである。現存形からは用途不明である。

SB1038・2176・2186 捜立柱建物(第42～50図・第72図127～131)

D区中央やや南東側の35～38・59・60Gで、3棟が重複して検出された。南東側の約1/3の柱穴は第5次調査で検出している。

SB2176はSB1038とSB2186を切る建物跡で、東西梁行2間、南北桁行2間の南北棟の建物跡であるが、南東角の柱穴は排水溝により削除されたため、確認できた柱穴は7基であった。主軸方位はN-1° 30' 04" -Wとなる。建物の規模は、梁行が3.3m、桁行は、西側が4.6m、東側が4.4mを測り、面積は14.85m²と

なる。柱間距離は、南側梁行が西から 1.6 m、1.7 m で北側は 1.8 m、1.5 m、桁行は西側が南から 2.2 m、2.4 m、東側が 2.2 m、2.2 m を測る。掘り方の平面形は 36 ~ 50 × 24 ~ 42cm の円形や隅丸方形で、深さは 24 ~ 38cm を測る。柱痕跡は、4ヶ所で確認でき、10 ~ 40 × 10 ~ 35cm の円形を呈する。SB2176 は柱穴の規模から、足場柱穴の可能性もある。

遺物は図示できなかったが、EB2141・2142 から須恵器や土師器の破片が出土した。

SB2186 は SB2176 と SB1038 に切られる建物跡で、東西梁行 2 間、南北桁行 3 間の南北棟の建物跡である。主軸方位は N-1° 56' 24" -W となる。建物の規模は梁行 3.9 m、桁行は西側が 4.9 m、東側が 4.6 m を測り、面積は 18.53 m² となる。柱間距離は、梁行の南側が西から 2.1 m、1.8 m、北側が 1.9 m、2.0 m、桁行は西側が南から 1.4 m、2.0 m、1.5 m、東側が 1.4 m、1.9 m、1.3 m を測る。掘り方の平面形は 56 ~ 110 × 50 ~ 84cm の正方形や長方形を呈し、深さは 12 ~ 42cm である。柱痕跡は 4ヶ所で確認でき、20 ~ 30 × 10 ~ 25cm の梢円形を呈する。

SB1038 は SB2186 を切り、SB2176 に切られる建物跡である。東西梁行 2 間、南北桁行 5 間で南側桁行 3 間が側柱に、北側桁行 2 間は中央にも柱をもつ総柱になる 17 基の柱穴で構成される側柱+総柱の建物跡である。主軸方位は N-0° 18' 14" -W となる。建物の規模は、梁行が 3.9 m、桁行が 9.2 m を測り、面積 35.88 m² (側柱部分 21.45 m²・総柱部分 14.43 m²) となる。柱間距離は、南側梁行が西から 2.0 m、1.9 m で北側が 1.9 m、2.0 m となり、桁行は西側が南から 1.9 m、1.7 m、1.9 m、1.9 m、1.8 m、東側は 1.9 m、1.9 m、1.7 m、1.8 m、1.9 m を測る。掘り方の平面形は 60 ~ 110 × 50 ~ 106cm の正方形や長方形を呈し、深さは 20 ~ 66cm である。総柱の柱穴に比べ、側柱の柱穴の規模が大きく、深く掘られる。また、総柱の中柱は他の柱穴に比べ、深さは 20cm と浅い。柱痕跡は全ての柱穴で確認でき、15 ~ 30 × 15 ~ 25cm の円形や梢円形を呈する。この建物と同様と思われる建物が中山町の達磨寺遺跡の第 3 次調査で検出されている。総柱建物 SB510 と隣接する SP514 ~ 521 の柱穴を組み合わせる建物である。報告書でも一連の建物の可能性が指摘されている。

遺物は、EB から出土した須恵器の甕破片 (127)、土師器の無台坪 (128)、鍋 (129)、黒色土器 (130・131) などが図示できた。128・130 の底部切り離しは回転糸切で、129 の底部には網代痕が認められる。130 は底部資料、131 は碗型の口縁部資料で内面に黒色処理とミガキが施される。

柱穴の切り合いから SB2186 → SB1038 → SB2176 の新旧関係が確認できるが、遺物に時期差がみられないことから短期間に建て替えが行われたと考えられる。

SB1697 挖立柱建物 (第 51 ~ 53 図)

E 区北側の 33・35-77・78G で検出された。南北梁行 3 間、東西桁行 4 間で中央にも柱をもつ総柱の東西棟の建物跡であるが、北西角の柱穴は確認できなかつたため、検出できた柱穴は 19 基である。主軸方位は N-82° 26' 24" -W となる。建物の規模は東側梁行が 6.9 m、西側が 7.0 m、桁行は南側が 4.9 m、北側が 5.0 m を測り、面積は 34.40 m² となる。柱間距離は、梁行が東側で南から 2.1 m、2.4 m、2.4 m、西側が 2.4 m、2.4 m、2.2 m で、桁行は南側が東から 1.2 m、1.2 m、1.4 m、1.1 m、北側が 1.2 m、1.1、1.5 m、1.2 m を測る。掘り方の平面形は 34 ~ 62 × 28 ~ 60cm の円形や梢円形などを呈し、深さは 12 ~ 26cm である。柱痕跡は 15ヶ所で確認でき、10 ~ 25 × 10 ~ 15cm の円形や梢円形となる。

EB1690 に残存していた柱材の分析を行ったところ、材料はヒノキ科で、年代は近現代 (Modern) との結果がでている (第 V 章 1・3) ことから、新しい時期の建物跡の可能性もある。

SB469 挖立柱建物 (第 54 図)

G 区北側の 12・13-61・62G で ST381・382 と重複して検出された。東西梁行 2 間、南北桁行 2 間の建物跡と考えられる。ST382 を切り、ST381・386 に切られると思われ、北西の隅柱と東の中柱が検出されず、見つかった柱穴は 6 基である。主軸方位は N-10° 59' 02" -W となる。建物の規模は、梁行の南側が 3.9 m、北側が 4.1 m、桁行の西側が 5.6 m、東側が 5.7 m を測り、面積は 22.60 m² となる。柱間距離は梁行の南側で西から 2.2 m、1.7 m、北側は 2.5 m、3.1 m で、桁行が西側で南から 2.5 m、1.6 m を測る。掘り方の平面形は 40 ~ 52 × 30 ~ 42cm の円形や梢円形などを呈し、

深さは 20 ~ 50cm である。柱痕跡は 2ヶ所で確認でき、10 ~ 25 × 15 ~ 30cm の楕円形を呈する。

SK2144 土坑（第 38・39 図・第 72 図 132 ~ 137）

D 区中央の 40-61G で検出され、SB2154・EB2165 に南側を切られる土坑である。平面プランは長辺 0.7m 以上、短辺 0.7m の不整形を呈する。確認面からの深さは 10cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底が平坦となるレンズ状となる。覆土は 4 層に分かれ、全体に焼土粒を混入するが、3 層目には赤褐色の焼土が堆積している。

遺物は、土師器の壺（132 ~ 134）、黒色土器（135）、金属製品（136・137）がある。133・134 は 2 次焼成を受け、表裏面が剥落し、135 は内面に黒色処理とミガキが施される。136・137 は金属製の紡錘車で、136 は軸が斜めになっている。県内では、山形市の上敷免遺跡や寒河江市の高瀬山遺跡で出土している。

SK2162 土坑（第 18 ~ 21 図・第 73 図 138）

D 区中央やや北側の 43-63G で検出された。SK1819 を切る土坑である。平面プランは長辺 0.96m、短辺 0.7m の楕円形を呈する。確認面からの深さは 20cm を測る。断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面が平坦な台形状となるが、南東壁が段状になる。覆土は 4 層に分かれ、4 層目には赤褐色の焼土が混入している。

図示できた遺物は、ロクロ整形の土師器の壺（138）の口縁部資料のみである。

SK1819 土坑（第 18 ~ 21 図・第 73 図 139 ~ 75 図 164）

D 区中央やや北側 43-63・64G で ST1818 と重複して検出された。北側で ST1818 を切り、南西部分を SK2162 に切られる土坑である。平面プランは長辺 3.3m、短辺 3.2m の円形に近いが、南東部分が張り出す形態で確認面からの深さ 34cm を測る。断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面がほぼ平坦となる台形状となるが、南東の張り出し部は階段状になる。覆土は 7 層に分かれ、黒色シルトと黒褐色シルトが堆積し、1・2・4 ~ 6 層に焼土を混入し、3・7 層に炭化粒を含む。

遺物は、須恵器には無台壺（139 ~ 146）、有台壺（147・148）、壺（149）、壺（150 ~ 152）、土師器は無台壺（153・154）、小型鉢（155）、壺（156 ~ 164）などがある。139 は底部に「方」の墨書きが書かれ、140 は底部を付

け足している。また、147 は身が深い碗形である。141 ~ 145 は焼成不良、143・145 には火だすき痕がみられ、148 は外面上部に自然釉が付着する。壺類の底部切り離しは、すべて回転糸切となる。

土師器の壺は、口縁部が強く外反する 161、口唇部が内傾し胴径長が口径長より長くなる 158 ~ 160、口唇が直立し、胴径長より、口径長が長い 156・157 がある。9 世紀中頃の特徴をもつ土器が多くみられる。他に、縄文時代の敲石（13）が出土しているが、後世の流れ込みと考えられる。

SK510 土坑（第 27・28 図）

G 区北側の 15-62G で ST478 と重複して検出された土坑で、ST478 を切り、北東隅を SK517 に切られる。平面プランは長辺 1.8m、短辺 0.96m の長方形を呈する。確認面からの深さは 20 ~ 26cm を測る。壁は急角度で立ち上がり、底面は東側が深く、西側が浅く掘られる階段状となる。覆土は 1 層目が黒色シルト、2 層目は黒褐色シルトと共に黄橙色砂質シルトを含み、1 層目には微量の焼土を混入する。

SK2156 土坑（第 40・41 図）

D 区中央北側の 42-63G で検出された SB2160 の柱穴を切る土坑である。長辺 1.5m、短辺 0.7m を測る隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは 10cm を測る。断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面は平坦となる台形状となる。覆土は 2 層に分かれ黒色シルトと黒褐色シルトが堆積する。

SK1446・2185 土坑（第 55 図・第 76 図 165 ~ 80 図 229）

D 区中央北東側の 40-63・64G で 2 基が重複して検出された。切り合いか確認できず、1 基の土坑として掘り下げたが、北側が張り出す形態から 2 基と判断し、東側を SK1446、西側を SK2185 とした。

SK1446 は東西に長い楕円形を呈する土坑と考えられ、長辺 3.2m、短辺 1.3m、確認面からの深さ 40cm を測る。

SK2185 は、径 2.4m の円形のプランと考えられ、確認面からの深さは SK1446 と同じ約 40cm であった。2 基とも、覆土に大きな違いは無く、黒褐色や黒色のシルトを主に堆積し、明赤褐色の焼土が 2 層目に堆積、炭化粒や焼土粒を 1・3 層目に混入する。

SK1446 から出土した遺物は、須恵器には無台坏 (165 ~ 183)、有台坏 (184 ~ 185)、坏 (186 ~ 191)、双耳坏 (192)、壺 (193・194)、甕 (195 ~ 197)、土師器は、無台坏 (198 ~ 202)、有台坏 (203)、坏 (204)、甕 (205・206)、壺 (207)、すり鉢 (208)、黒色土器 (209 ~ 212) などである。須恵器と土師器の坏類はロクロ整形で底部の切り離しは回転糸切となるが、200 の底部にはケズリやナデ調整を施す。また、171・172・175・176・198 は底部に墨書きが、197 は底部にヘラ書きがある。183 は転用窯である。須恵器の無台坏には、底径に対し器高が低いもの (165 ~ 167・172) と底径に対し器高がやや高くなるもの (168 ~ 171) の他に、190・191 のように身が深い碗形のものもみられる。192 の取っ手部分はケズリ調整、193 の頸部には波状文が描かれる。土師器の壺や甕はハケやナデ調整が施され、206 ~ 208 の底部には網代痕がみられる。黒色土器は内面に黒色処理とミガキが施される。

SK2185 の出土遺物には、須恵器の無台坏 (213 ~ 221)、甕 (222 ~ 224)、土師器の無台坏 (225)、甕 (226 ~ 228)、黒色土器 (229) などがある。坏類は、ロクロ整形で底部の切り離しは回転糸切である。須恵器の無台坏には、底径に比べ器高が高いもの (213・214) と器高が低いもの (215 ~ 217) がある。222 ~ 224 は外面に平行タタキ痕、内面にアテ痕がみられる。土師器の甕はハケ目調整が施され、227・228 の底部には網代痕がある。229 は内面に黒色処理とミガキが施される。これらの土坑からは、9 世紀中～後半に属する土器が多く出土している。

SK1872 土坑（第 55 図・第 80 図 230 ~ 232）

D 区中央東端の 40・41-63・64G で SK2185 と重複して検出された。平面プランは一辺が 2.25 m の隅丸方形を呈し、確認面からの深さは 18cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面がほぼ平坦となるレンズ状となる。覆土は 2 層に分かれ黒褐色シルトと黒色シルトが堆積し、1 層目に微量の焼土粒を含む。

図示できた遺物は、須恵器の無台坏 (230)、土師器の甕 (231・232) などである。230 は底部の切り離しが回転ヘラ切である。231・232 はケズリやナデ、ヘラナデが施され、内面には指圧痕がみられる。

SK1904 土坑（第 56 図）

D 区中央東側の 39-63G で検出され、西側を SP2219 に切られる。平面プランは長径 1.3 m、短径 1.05 m の梢円形を呈し、確認面からの深さは 22 ~ 28cm を測る。壁は急角度で立ち上がり、底面は中央部が浅くなる。覆土は 2 層に分かれが、2 層目は壁の崩落土で、黄橙色砂質シルトを含む黑色シルトが堆積する。

SK2019 土坑（第 56 図）

D 区 33-58G で検出された。平面プランは直径約 0.9 m を測る円形を呈し、確認面からの深さは 20cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面が弧を描くレンズ状となる。覆土は 2 層に分かれ、灰白色の微細な砂粒を含む黑色シルトと黒褐色シルトが堆積する。

SK2036 土坑（第 56 図・第 81 図 233 ~ 235）

D 区南側 32-56G で SK2037 の北側に検出された。平面プランは長辺が 1.9 m、短辺が 0.6 ~ 1.1 m を測る台形状を呈する。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面は平坦となる台形状を呈するが、南側が浅くなる。確認面からの深さは 4 ~ 12cm を測る。覆土は 3 層に分かれ、浅黄橙色の砂質シルトを含む黒色や黒褐色シルトが堆積する。また、2 層目には焼土粒が混入する。

図示できた遺物は、9 世紀後半に属すると思われる土師器の無台坏 (233 ~ 235) 3 点で、ロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。

SK2037 土坑（第 56 図）

D 区南側の 32-56G で SK2036 南側に検出された土坑である。平面プランは長径 0.86 m、短径 0.64 m のほぼ梢円形を呈し、深さは 5 ~ 10cm を測る。壁が急角度で立ち上がり、底面は段状になり東側が浅くなる。覆土は 1 層で黄橙色の砂質シルトを多量に含む黒褐色シルトが堆積する。

SK2129 土坑（第 56 図・第 81 図 236）

D 区中央南西端の 37-56G で検出された土坑で、北西端が調査区外になる。平面プランは、長辺 1.0 m、短辺 0.9 m の隅丸方形を呈し、確認面からの深さは 20cm を測る。断面形は、壁が急角度で立ち上がり底面が緩やかな弧を描く形態となる。覆土は 4 層に分かれ、黒色シルトに明褐色や灰黄褐色のシルト土が混じる。

図示できた遺物は、土師器の鍋 (236) と思われる口縁部資料である。外面はナデとハケ、内面がハケ調整を施される。

SK2164 土坑（第 57 図）

D 区中央の西側 42-61G で検出された SP2168 を切る土坑である。平面プランは長辺 0.6 m、短辺 0.5 m の長方形を呈し、確認面からの深さは 18cm を測る。断面形は壁が急角度で立ち上り、底面が弧を描く U 字状になる。覆土は 2 層に分かれ、黒色シルトが堆積し、2 層目には明黄褐色の砂質土をブロックで含む。

SK391 土坑（第 57 図）

G 区の中央北西の 12-60G で検出された。西側が調査区外となる。径 1.2 m を測る円形の土坑と考えられる。確認面からの深さは 30cm で、覆土は 2 層に分かれ、1 層目には明黄褐色の砂質シルト、2 層目には黒褐色シルトが混じる。

SK392 土坑（第 57 図・第 81 図 237・238）

G 区中央北西の 12-61G、SK391 の東側で検出された。平面プランが楕円形の長径 0.45 m、短径 0.34 m で確認面からの深さが 15cm と小規模な土坑である。明褐色や褐色の焼土が堆積し、土器の破片が含まれる。底面が焼けていないことから、土器焼成の焼土を捨てたと考えられる。

図示できた遺物は、土師器の甕（237・238）2 点で、口縁部から体部の破片資料である。口縁部はナデ、体部はハケ調整となるが、238 は内面の口縁部にもハケ調整が施されている。

SK395 土坑（第 57 図・第 81 図 239）

G 区中央北側 11-61G で検出された。平面プランは長径 1.35 m、短径 0.92 m の楕円形を呈し、確認面からの深さは 12cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり底面は弧を描くレンズ状になる。覆土は 2 層に分かれ、黄褐色シルトを含む黒色シルトにブロック状の黒色と黒褐色シルトの混じり土が堆積する。

図示できた遺物は、須恵器の無台甕（239）の底部資料 1 点のみである。外面に媒が付着し、底部の切り離しはヘラ切で、乾燥時に付いた材の痕が認められる。

SK396 土坑（第 57 図・第 81 図 240）

G 区中央の 11-60-61G で検出された。平面プランは、長径 2.4 m、短径 1.9 m の楕円形を呈し、確認面からの深さは 35cm を測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸が認められる。覆土は、2 層に分かれ焼土を混入する黒色シルトと黒褐色シルトが堆積する。

図示できた遺物は、須恵器の無台甕（240）で、ロクロ形で底部切り離しは回転糸切となる。

SD1029 溝跡（第 58 図）

今回の調査では D 区の 32-54・55G と E 区の 29-73～76G で検出された。第 5 次調査の結果から、部分的に途切れるが、5 次調査区及び D・E 区を横断する一連の溝と考えられ、総延長は 91.5 m 以上になる。

E 区では東西方向に全長 16.0 m 検出されたが、東から約 10m のところで、南にクランク状に屈曲する。西は調査区内で途切れるが、東は調査区外に延びる。幅は 30～58cm、確認面からの深さは 10～20cm を測る。壁は急角度の立ち上がり、底面は部分的に凹凸がみられる。D 区では、東西方向に全長 5.5 m が検出された。西側は調査区外で東側は SK2036 によって切られる。幅 20～34cm で確認面からの深さは 5～10cm と浅い。断面形は、壁が急角度で立ち上がり底面は平坦な台形状になる。覆土は 2 層に分かれ、1 層目に黒色シルト、2 層目に黄橙色のシルトが堆積する。

この溝跡は、建物群を囲む南の区画施設跡と思われる。

SD1142 溝跡（第 58 図・第 81 図 241）

D 区の南側 30～32-54～56G で検出された第 5 次調査区に続く北西から南東方向の溝跡である。西側は SD1029 と合流し調査区外へ延び、東側は 5 次調査区で検出された溝と繋がる。

D 区では全長 12.2 m、幅 40～70cm、確認面からの深さは 8～10cm と浅い。断面形は、壁の立ち上がりが緩やかで、底面は弧を描くレンズ状となる。覆土は 2 層に分かれ、黒色シルトと明黄褐色シルトが堆積する。

図示できた遺物は、ケズリとハケ調整が施される土師器の甕（241）の底部資料のみである。

SD1054・1857 溝跡（第 59 図・第 81 図 242～244）

D 区 43・44-62～66G で重複して検出された。

SD1054 は、SD1857 と ST1818 を切る溝跡で東側は第 5 次調査区に延び、西側は調査区外に延びる。今回の D 区では全長 19.0 m 検出された。幅 58～64cm、確認面からの深さ 16～30cm を測る。断面形は壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦となる L 型となる。覆土は 2 層に分かれ、黒褐色シルトが堆積し、2 層目には黄橙色の砂質シルトが混じる。

遺物は、須恵器の双耳环の取っ手部分（242）が出土

した。242 はヘラ削りで整形され、2 次焼成を受けている。

SD1857 は、ST1818 を切り、SD1054 に切られる溝跡で、西側は調査区外に延び、東側は 43-65G で途切れるが、北側で検出された SD1061 と一連の溝とも考えられる。全長 7.1 m で幅 30 ~ 45cm、確認面からの深さ 25 ~ 40cm を測る。断面形は、壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦となる口状となる。覆土は 3 層に分かれ、黒褐色シルトと黒色シルトが堆積する。

図示できた遺物は、ロクロ整形で、底部の切り離しが回転糸切の須恵器の無台坏 (243・244) である。

溝跡の土層断面から、溝跡 SD1857 を SD1061 に造り替えたと思われる。この溝跡は南側に検出された建物跡群を囲む、区画施設跡と考えられる。

SD1061 溝跡（第 60 図・第 81 図 245）

D 区北側 45・46-67 ~ 69G で検出され SK2220 を切る溝跡である。東側は 5 次調査区で検出された溝跡に繋がる。クランク状に屈曲する溝跡で、D 区では全長 14.5 m 検出され、幅 40 ~ 50cm、確認面からの深さ 20 ~ 42cm を測る。断面形は、壁がほぼ直角に立ち上がり、底面は平坦となる口状となる。覆土は黒色シルトが堆積し、1 層目に黒褐色シルト、2 層目に黄橙色砂質シルトが混じり 2 層に分かれている。

南側にある SD1857 と一連の溝跡の可能性が高く、建物跡群を囲む区画施設跡と考えられる。

図示できた遺物は、摘みが宝珠形の蓋 (245) で、天井部は回転ヘラ削り調整が施される。

SD1062 溝跡（第 60 図）

D 区北側 47-68 ~ 70G で検出された。東側は 5 次調査区で検出された溝と繋がる。D 区では全長 6.7 m 検出され、幅 50cm、確認面からの深さ 8cm を測る。断面形は、壁が緩やかに立ち上がり、底面は弧を描く形態となる。覆土は 1 層で、黒色シルトに黄橙色砂質シルトを含む。

SD1750 溝跡（第 61 図・第 81 図 246）

E 区中央南側 27 ~ 29-70 ~ 73G で検出された。東西から南北に L 字状に曲がり、屈曲部が広く掘られる溝跡で東側と北側が調査区外に延びる。確認できた全長は 25.5 m で幅 25 ~ 45cm、確認面からの深さは 6 ~ 18cm を測る。覆土は 2 層で、黄橙色砂質シルトを含む

黒褐色シルトと褐灰色シルトが堆積する。建物跡群を囲む区画施設跡と考えられる。

図示できた遺物は、底部切り離しが回転糸切の土師器の甕 (246) 底部資料のみである。

SP 出土遺物（第 81 図 247 ~ 251）

柱穴と思われる遺構から出土した主な遺物である。出土遺構番号は図に記した。

須恵器の無台坏 (247-249) と土師器の無台坏 (248・250・251) である。すべてロクロ整形で底部切り離しは回転糸切である。249 は底部に墨書がある。

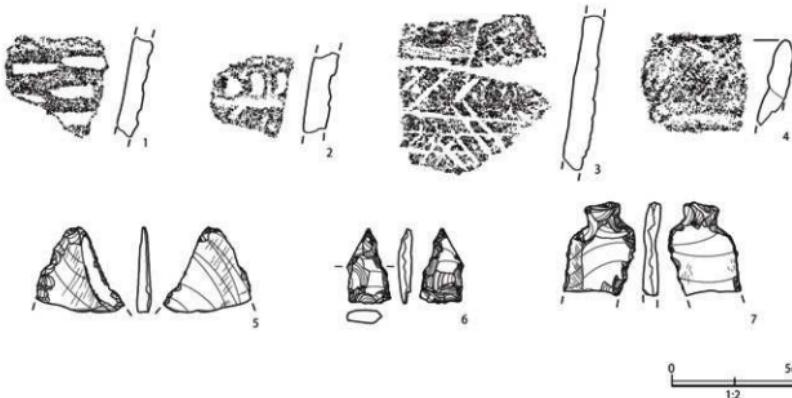
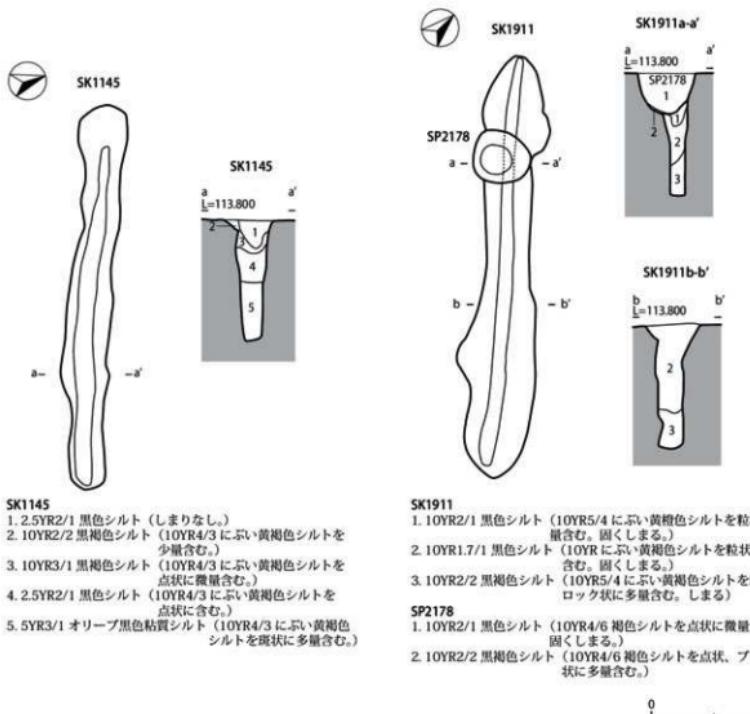
遺構外出土の遺物（第 82 図 252 ~ 84 図 296）

遺構外のグリッドで取り上げたものや出土地点不明の遺物で、図示できた遺物を掲載した。

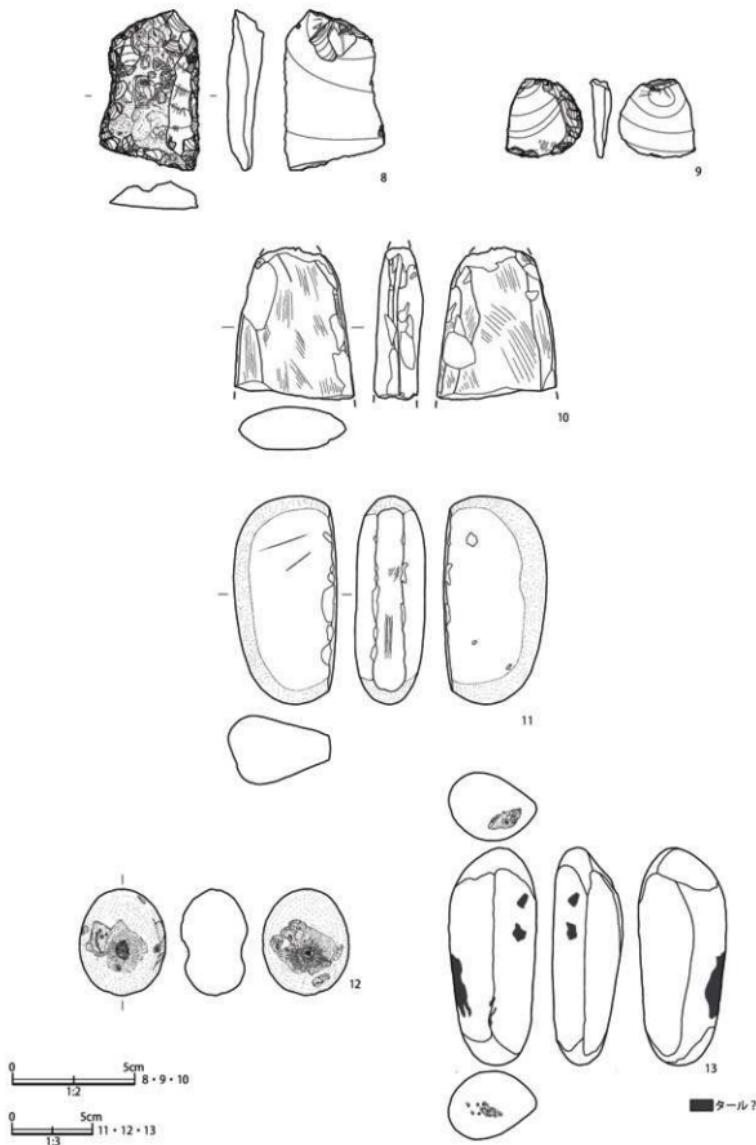
須恵器には蓋 (252)、無台坏 (253 ~ 271)、有台坏 (272)、甕 (273 ~ 278)、土師器は、無台坏 (279 ~ 285)、有台坏 (286)、甕 (288)、小型鉢 (287)、甕 (289 ~ 291) など、黒色土器は有台坏 (292)、壺 (293)、他に、陶器 (294)、石製品 (295)、金属製品 (296) などである。252 は平笠タイプの蓋、253 は底径がやや大きく、器高が高い、体部が直線上に立ち上がる無台坏である。235 ~ 271 は須恵器無台坏の底部資料である。ロクロ整形で底部切り離しはすべて回転糸切である。268 は内面底部が転用窯として使用されている。273 は須恵器甕の口縁部資料である。また、277・278 は底部にケズリとナデ調整が施される。土師器の無台坏 279 は底部の切り離しが回転ヘラ切で、器形から 8 世紀末頃と思われる。また、280 は 253 と形態が類似している。土師器の环の底部資料 281 ~ 285 は、すべてロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。

287 は口縁部が短く、直立する形態の小型鉢である。292 は低い柱状高台で底部切り離しは回転糸切、293 は底部に網代痕がみられ、媒が付着する。294 は陶器で内外面に白色釉がかけられる。砥石 295 は一面のみ使用されている。296 は刀子と思われたが、鍔の可能性がある金属製品である。

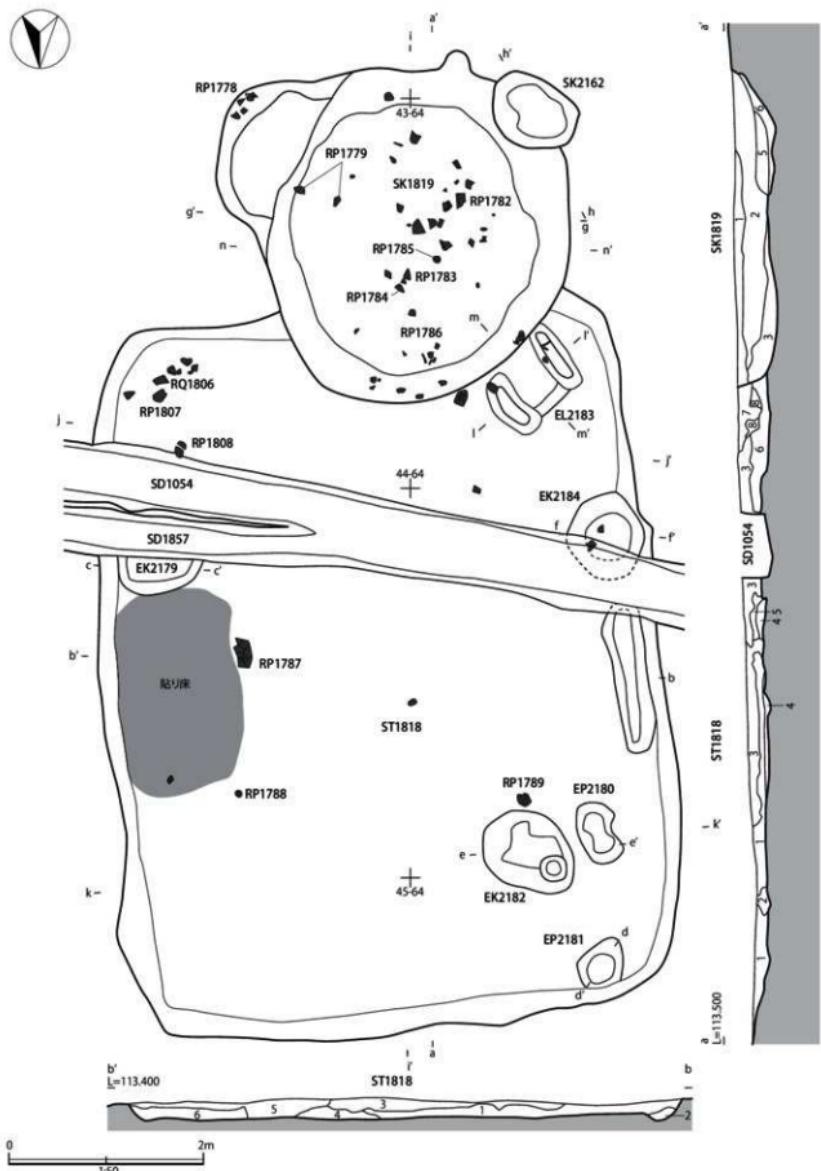
遺構外の遺物で、279 は 8 世紀末、294 と 296 は近世のものと推測されるが、他は概ね 9 世紀の範疇と考えられる。



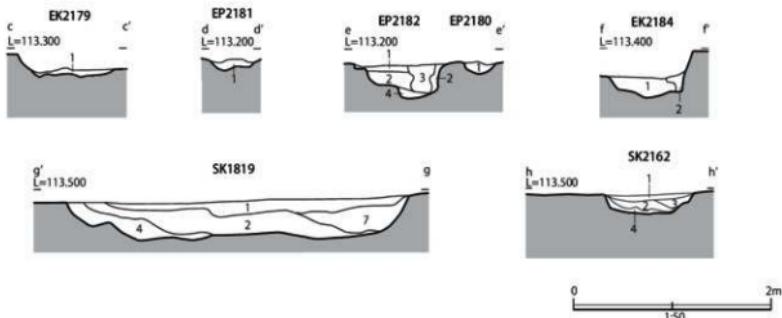
第16図 SK1145・1911・縄文時代の遺物(1)



第17図 縄文時代の遺物 (2)



第18図 ST1818・SK1819・2162 (1)

**ST1818**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色シルトをブロック状に少量含む。しまりなし。)
2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色粘質シルトを粒状に少量含む。しまりなし。)
3. 10YR2/1 黒褐色シルト (10YR4/4 褐色粘質シルトをブロック状に少量含む。5YR5/6 明赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。)
4. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR6/8 明黃褐色砂質シルトを斑状に多量含む。5YR4/8 赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。)
5. 10YR2/1 黒褐色シルト (5YR5/8 明赤褐色燒土と 5YR5/6 明赤褐色燒土を部状に多量含む。しまる。)
6. 10YR3/4 暗褐色粘質シルト (5YR5/6 明赤褐色燒土、10YR2/1 黑色シルトを帶状に含む。10YR7/8 黄褐色粘土をブロック状に微量含む。固くしまる。)
7. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
8. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルト、5YR5/6 明赤褐色燒土、10YR4/1 褐灰色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

ST1818-EK2179

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。10YR8/3 浅黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST1818-EP2181

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黃褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

ST1818-EP2182

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少含む。10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。固くしまる。)
3. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少含む。しまる。)
4. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少含む。しまる。)

ST1818-EP2180

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

ST1818-EK2184

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黃褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

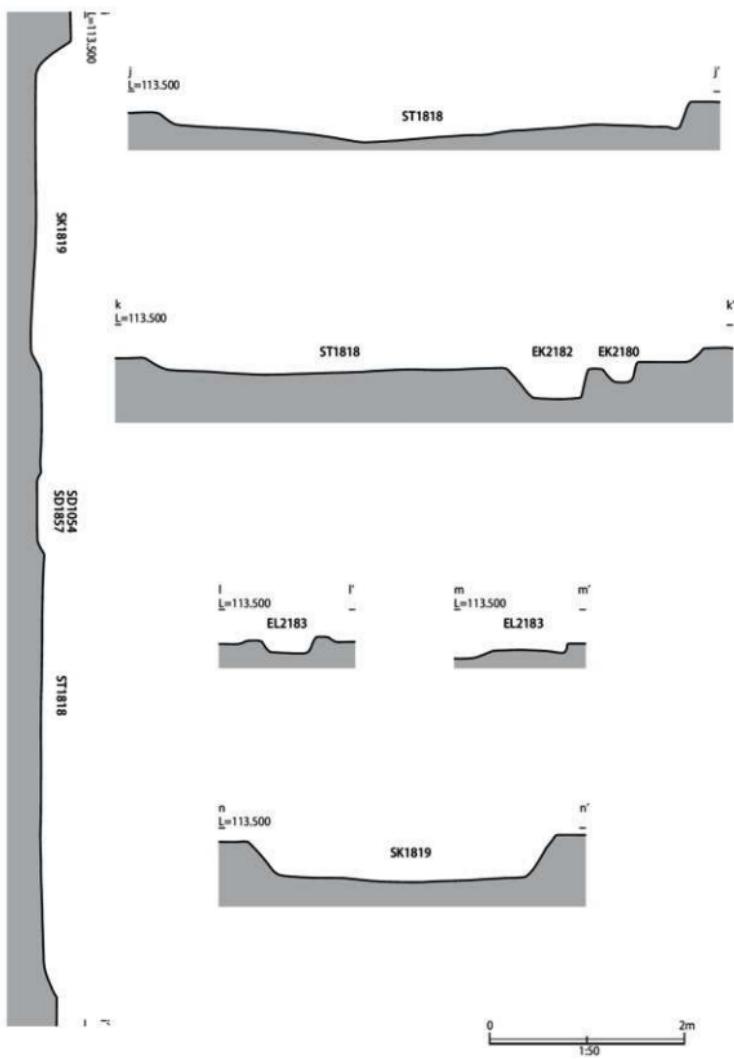
SK1819

1. 10YR2/1 黑色シルト (5YR5/6 明赤褐色燒土と 10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。固くしまる。)
2. 7.5YR3/1 黑褐色シルト (5YR5/6 明赤褐色燒土と 10YR6/6 明黃褐色シルトを粒状に多量含む。固くしまる。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (7.5YR3/3 暗褐色シルトと 7.5YR3/1 黑褐色シルトを斑状に含み、炭化粘土も微量含む。固くしまる。)
4. 10YR2/1 黑色シルト (5YR4/6 赤褐色燒土と炭化粘土を点状に少含み、5YR6/6 黄褐色燒土も大ブロックで含む。固くしまる。)
5. 5YR2/1 黑褐色シルト (5YR4/6 赤褐色燒土を多量含み、5YR6/6 明黃褐色燒土も大ブロックで含む。固くしまる。)
6. 7.5YR1.7/1 黑色シルト (5YR4/6 赤褐色燒土を点状に微量含み、10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。)
7. 10YR3/1 黑褐色シルト (5YR4/6 赤褐色燒土と 10YR4/4 褐色シルトを斑状に多量含み、炭化粘土を点状に少量含む。固くしまる。)

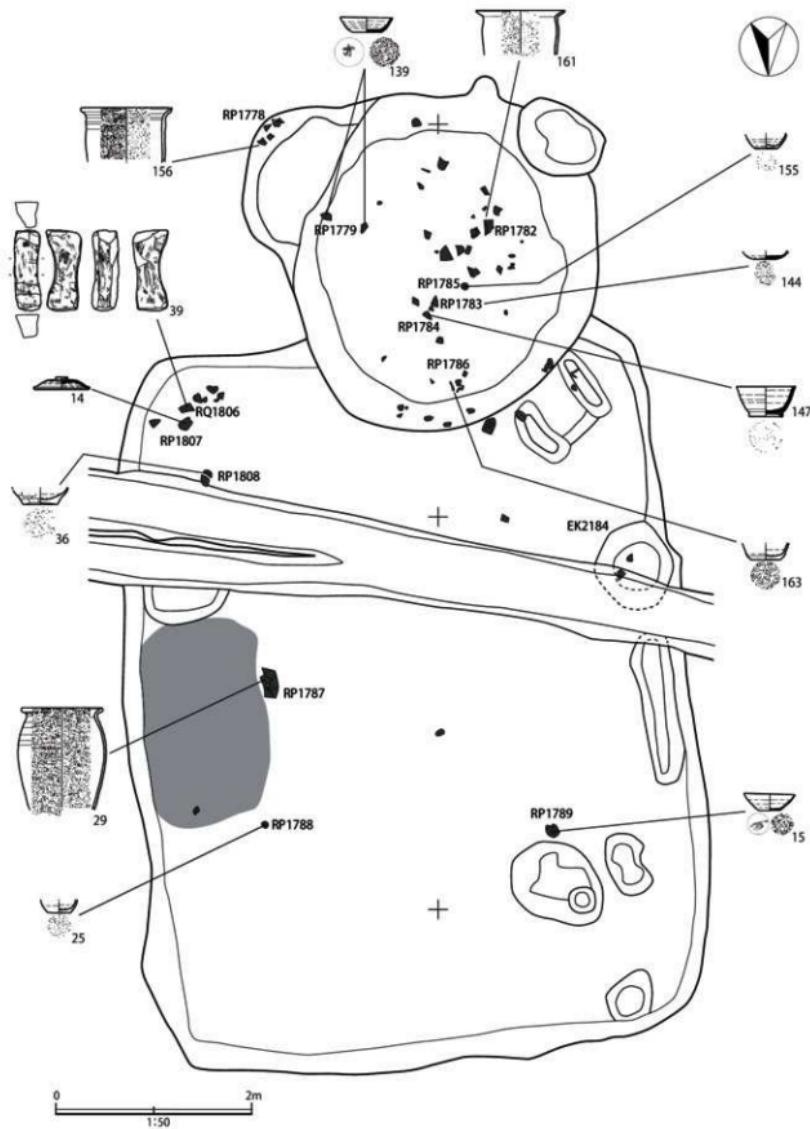
SK2162

1. 7.5YR2/2 黑褐色シルト (7.5YR4/6 褐色粘質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
2. 7.5YR2/1 黑色シルト (7.5YR4/6 褐色粘質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
3. 7.5YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色粘質シルト、7.5YR4/6 褐色粘質シルトを斑状に微量含む。しまる。)
4. 10YR8/8 黄褐色粘質シルト (7.5YR2/1 黑色シルトを斑状に多量含む。5YR4/8 赤褐色燒土を斑状に少量含む。固くしまる。)

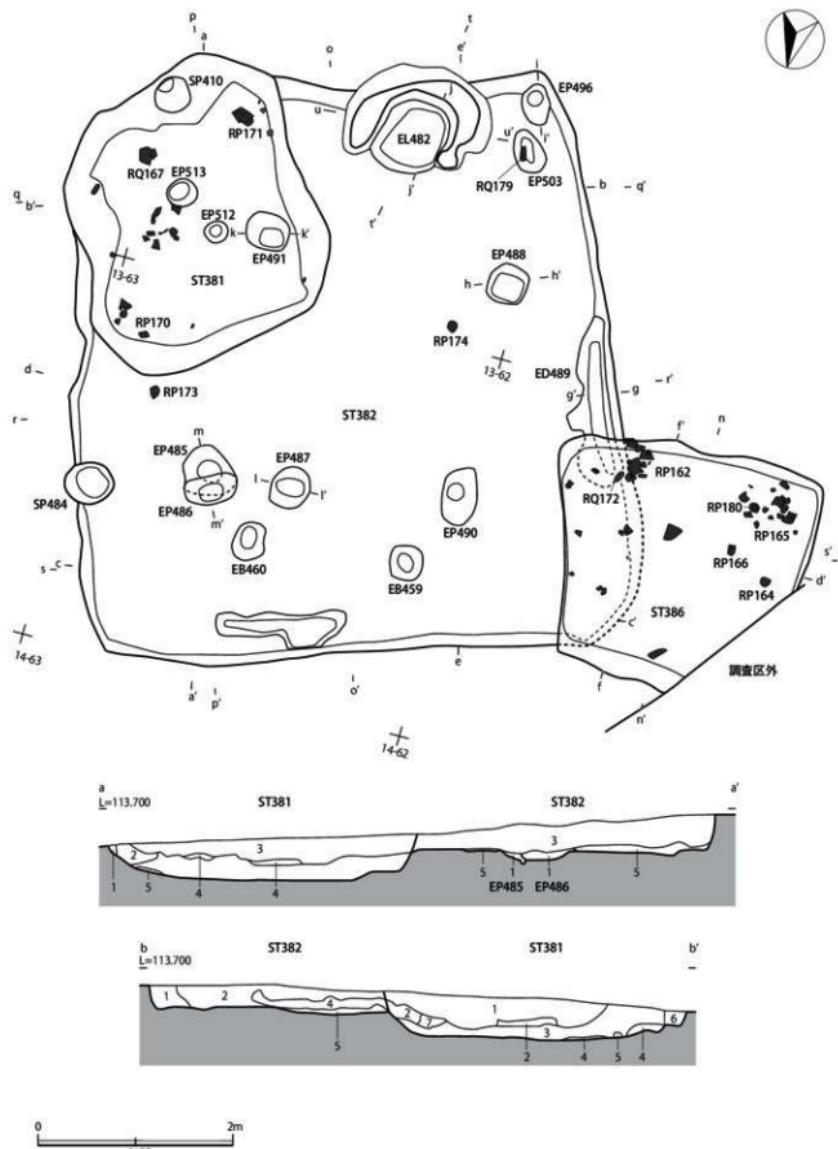
第 19 図 ST1818・SK1819・2162 (2)



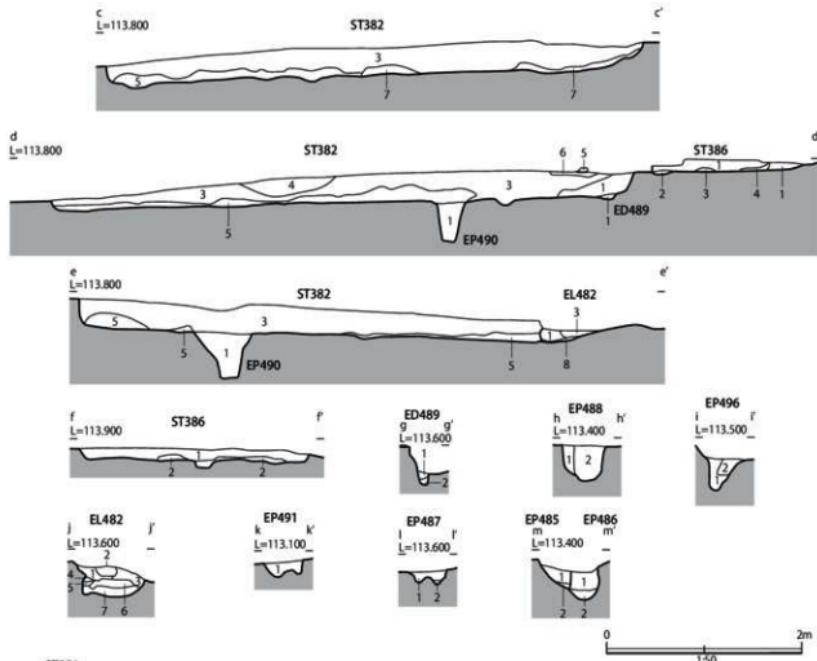
第20図 ST1818・SK1819・2162 (3)



第21図 ST1818・SK1819・2162遺物分布図



第22図 ST381・382・386 (1)

**ST381**

1. 10YR2/1 黒色シルト (混ざりのない黒土上.)
2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に微量含む。)
3. 10YR1.7/1 黒色シルト (5YR5/8 明赤褐色燒土を粒状に微量含む。10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
4. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に微量含む。固くしまる。)
5. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。固くしまる。)
6. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。5YR5/8 明赤褐色燒土を粒状に微量含む。10YR4/1 褐灰色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
7. 7.5YR6/8 橙色焼 (焼上ブロック)

ST382

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを粒状に微量含む。しまる。)
2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (7.5YR6/8 橙色燒土を粒状に微量含む。5YR6/8 橙色燒土を粒状に極微量含む。しまる。)
4. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。5YR6/8 橙色燒土を粒状、斑状に微量含む。しまる。)
5. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
6. 10YR2/1 黒色シルト (混ざりなし。しまる。)
7. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。固くしまる。)

ST382-EL482

1. 7.5YR4/4 橙色燒 (7.5YR5/8 明赤褐色燒土を斑状に微量含む。10YR2/1 黑色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
2. 10YR7/8 黄褐色粘土 (10YR2/1 黑色シルトを斑状に微量含む。7.5YR6/8 橙色燒土を粒状に微量含む。固くしまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (7.5YR6/8 橙色燒土を粒状に微量含む。10YR3/3 増褐色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
4. 10YR4/4 褐色燒土 (混ざりなし。しまる。)
5. 7.5YR4/4 橙色燒土 (混ざりなし。しまる。)
6. 7.5YR4/6 橙色燒土 (10YR3/1 黑色シルトを斑状に微量含む。5YR5/8 明赤褐色燒土をブロック状に微量含む。固くしまる。)
7. 10YR8/4 增褐色砂質シルト (混ざりなし。)
8. 10YR7/6 明黄褐色粘土 (7.5YR6/8 橙色燒土を粒状に微量含む。10YR1.7/1 黑色シルトを斑状に微量含む。固くしまる。)

ST382-ED489

1. 10YR2/1 黑色シルト (混ざりなし。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST382-EP485

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 黄褐色粘土を点状に微量含む。しまる。)
2. 10YR6/8 黄褐色粘土 (10YR2/1 黑色シルトを点状に微量含む。固くしまる。)

第23図 ST381・382・386 (2)

ST382-EP486

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 黄褐色砂粘土を点状に微量含む。しまる。)
 2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 黄褐色砂粘土をブロック状に多量含む。しまる。)

ST382-EP487

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
 2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に多量含む。固くしまる。)

ST382-EP488

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

ST382-EP490

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR8/6 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

ST382-EP491

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST382-EP496

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトと 5YR4/6 赤褐色続土を点状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。)

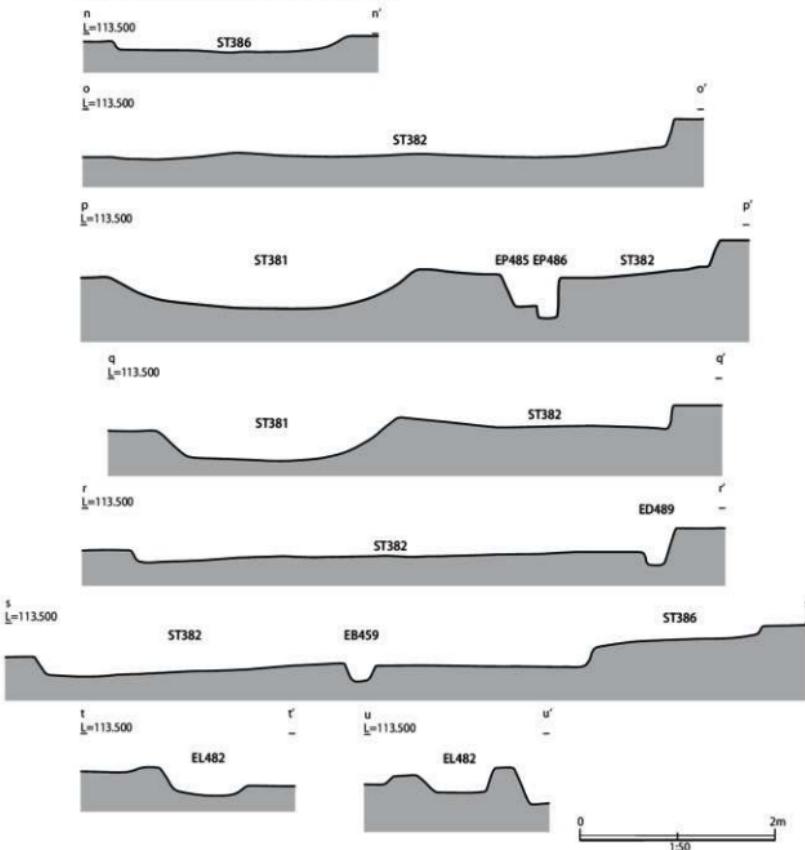
ST386

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色シルトを粒状、ブロック状に少量含む。しまる。)

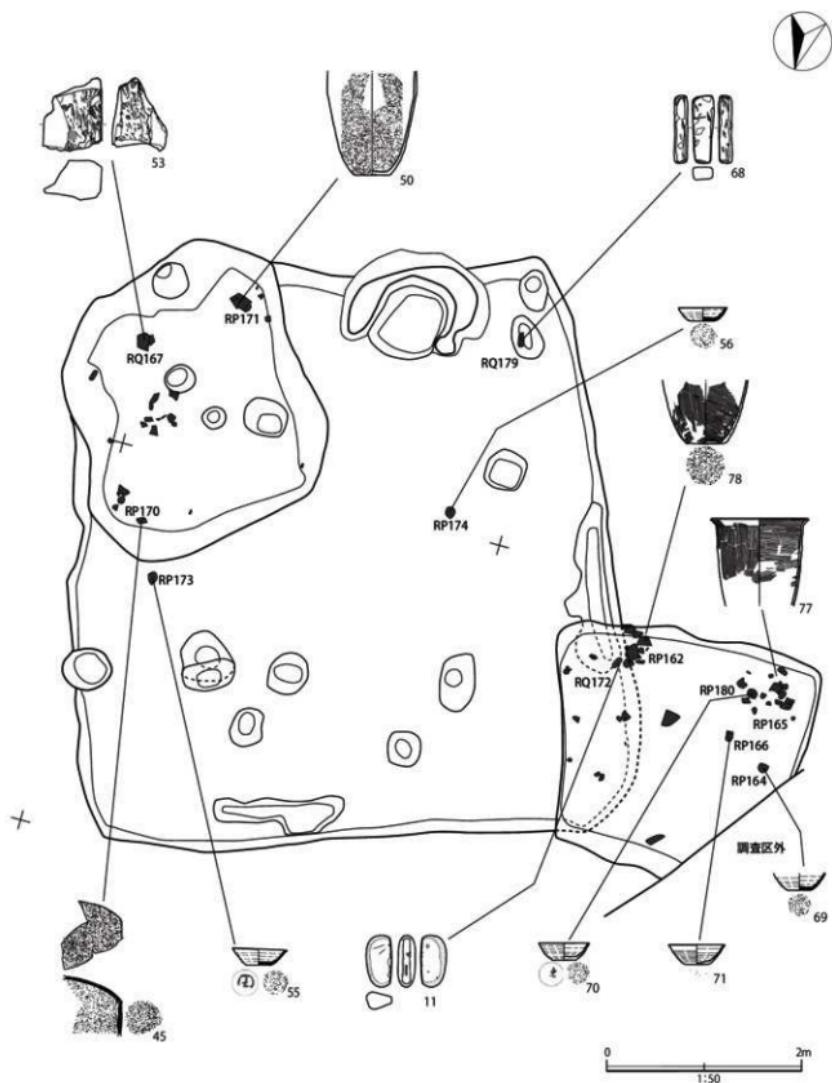
2. 10YR2/3 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを粉状に少量含む。しまる。)

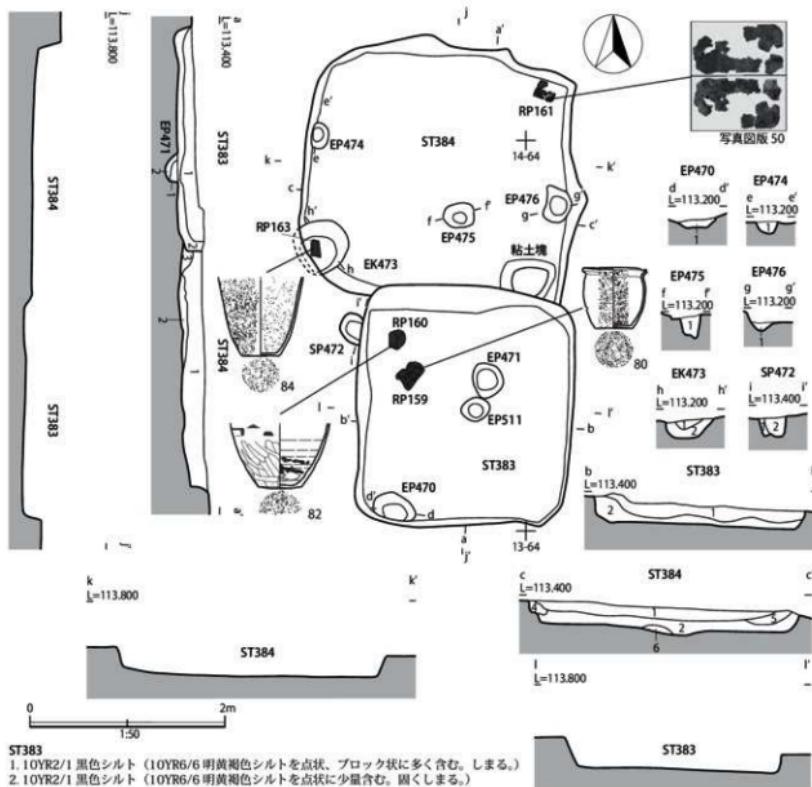
4. 10YR6/8 黄褐色粘土 (7.5YR6/8 植色続土を微量含む。)



第24図 ST381・382・386 (3)



第25図 ST381・382・386 遺物分布図

**ST383**

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状、ブロック状に多く含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。固くしまる。)

ST383-EP470

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまりなし。)

ST383-EP471

1. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状、斑状に多く含む。固くしまる。)

ST384

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黑褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
4. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまる。)
5. 10YR2/2 黑褐色粘質シルト (10YR5/3 にぶい黒褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
6. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。2.5YR5/6 明赤褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)

ST384-EP474

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST384-EP475

1. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック、粒状に少量含む。しまる。)

ST384-EP476

1. 10YR1.7/1 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状、斑状に少量含む。しまる。)

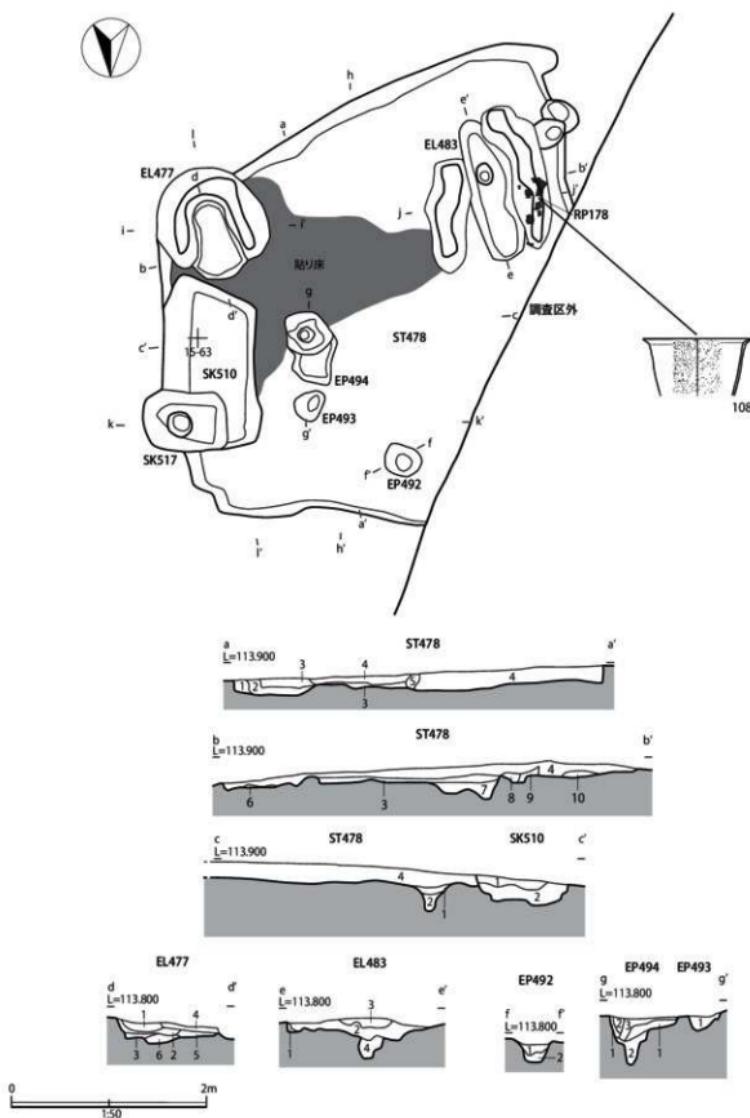
ST384-EK473

1. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量含む。1に含まれる砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

SP472

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (混ざりのない黒色土。しまる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (5YR5/8 明赤褐色燒土を粒、帶状に少量含む。しまる。)

第26図 ST383・384



第27図 ST478、SK510 (1)

ST478

1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR7/8 黄褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
2. 10YR2/2 黒色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状、帶状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
4. 10YR2/1 黒色シルト (10YR8/8 黄褐色砂粒を全粒に微量含む。しまる。)
5. 10YR1/7/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に多量含む。しまりなし。)
6. 10YR2/1 黑色シルト (4の上に 5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。10YR4/2 灰黄褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)
7. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/3 にぶつ黄褐色シルトを点状、斑状に少量含む。しまる。)
8. 10YR3/2 黑褐色シルト (4の上を斑状に少量含む。しまりなし。)
9. 10YR3/3 喀褐色シルト (4の上をブロック状に少量含む。しまりなし。)
10. 10YR2/3 黑褐色シルト (4の上を斑状に含み、小躍も含む。しまる。)

EL477

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 (7.5YR8/6 浅黄褐色粘土を斑状に微量含む。10YR2/1 黑色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
2. 7.5YR5/8 明褐色焼土 (10YR1/7/1 黑色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)
3. 7.5YR4/6 褐色焼土 (混ざりなし。しまりなし。)
4. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/4 浅黄褐色粘土を微量含む。しまりなし。)
5. 7.5YR5/6 明褐色焼土 (5YR6/8 棕色焼土を粒状に少量含む。しまりなし。)
6. 10YR1/7/1 黑色シルト (混ざりなし。)

EL483

1. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)
2. 10YR4/6 褐色焼土 (10YR2/1 黑色シルトを斑状に微量含む。5YR6/8 棕色焼土を斑状に少量含む。しまる。)
3. 7.5YR5/6 明褐色焼土 (5YR6/8 棕色焼土を斑状に少量含む。固くしまる。)
4. 10YR3/2 黑褐色シルト (7.5YR5/8 明褐色焼土を粒状に少量含む。しまりなし。)

EP492

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR3/4 喀褐色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)
2. 10YR8/8 黄褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトを斑状に少量含む。7.5YR6/8 棕色焼土を粒状に極微量含む。しまりなし。)

EP493

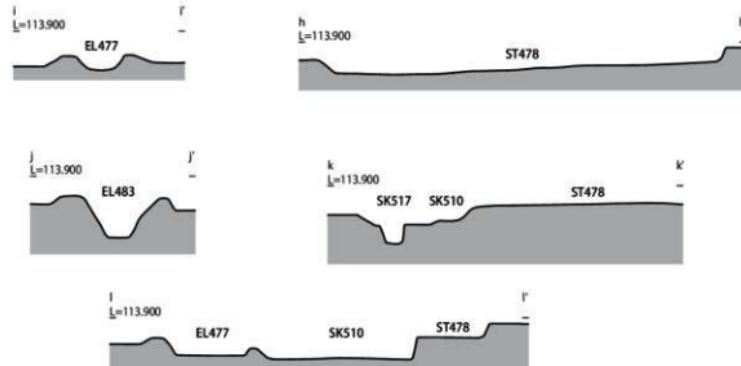
1. 10YR3/3 喀褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

EP494

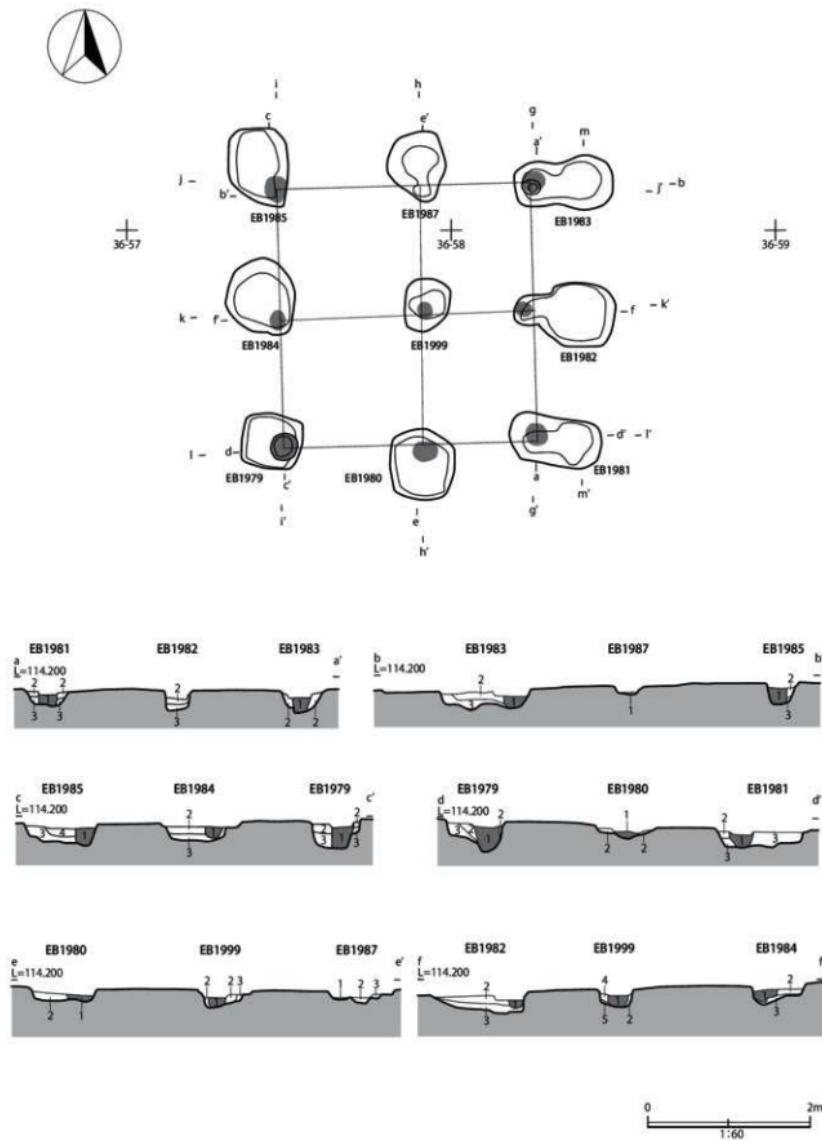
1. 10YR3/4 喀褐色シルト (10YR8/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR4/6 褐色焼土 (10YR8/3 浅黄褐色粘土をブロック状に少量含む。しまりなし。)
3. 10YR3/1 黑褐色シルト (混ざりなし。しまりなし。)

SK510

1. 10YR1/7/1 黑色シルト (5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。10YR8/7 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)



第28図 ST478, SK510 (2)



第29圖 SB1820 (1)

SB1820a-a'**EB1981**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。しまる。)

EB1982

2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを小ブロックで少量含む。固くしまる。)
3. 2.5YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に少量含む。10YR4/4 褐色シルト質粘土をブロック状に少量含む。固くしまる。)

EB1983

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に多量含む。)

SB1820d-d'**EB1979**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状小ブロックで多量含む。固くしまる。)

EB1980

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状、斑状に多量含む。固くしまる。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。しまる。)

SB1820b-b'**EB1983**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に多量含む。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (10R6/6 明黄褐色シルトと 10YR4/4 褐色シルトを斑状、点状に多量含む。しまる。)

EB1987

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。)

EB1985

1. 2.5YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトと 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。しまる。)

SB1820e-e'**EB1980**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状、斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1999

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黑褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1987

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (7.5YR4/1 褐灰色シルトを斑状に含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黑色シルト (7.5YR4/1 褐灰色シルトを点状に少量含む。しまる。)

SB1820c-c'**EB1985**

1. 2.5YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に微量含む。しまりなし。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトと 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。しまる。)
4. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを大ブロックで多量に含む。固くしまる。)

EB1984

1. 10YR1.7/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを小ブロックで少量含む。しまる。)
3. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/2 黄褐色シルトを帶状に多量混入する。固くしまる。)

EB1979

1. 10YR1.7/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状小ブロックで多量含む。固くしまる。)

SB1820f-f'**EB1982**

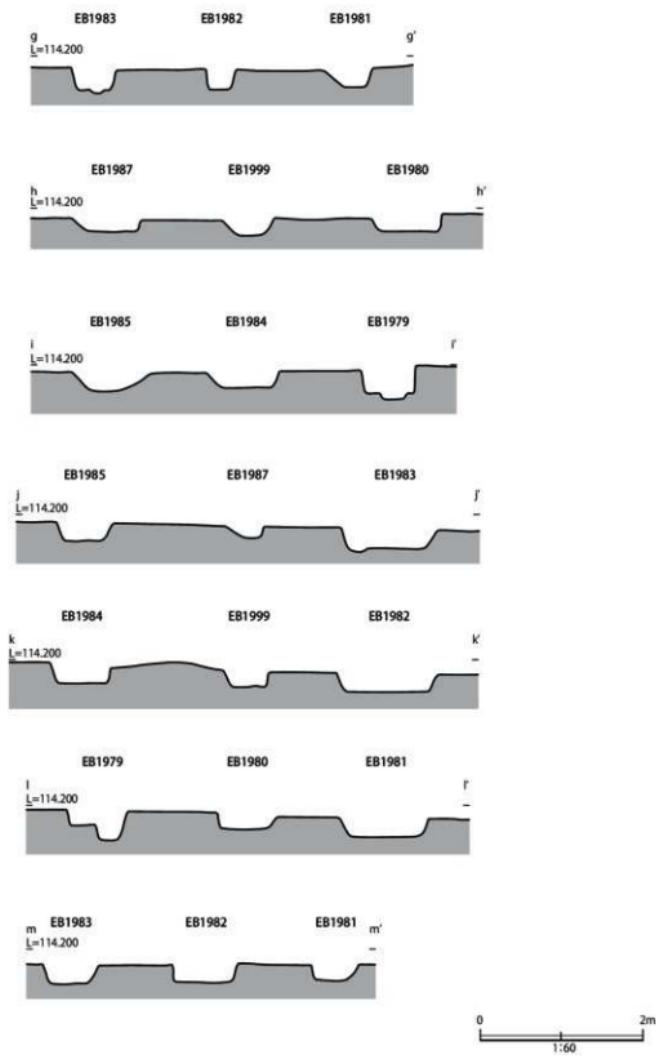
1. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを小ブロックで少量含む。固くしまる。)
3. 2.5YR2/1 黑色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に、10YR4/4 褐色シルト質粘土をブロック状に少量含む。固くしまる。)

EB1999

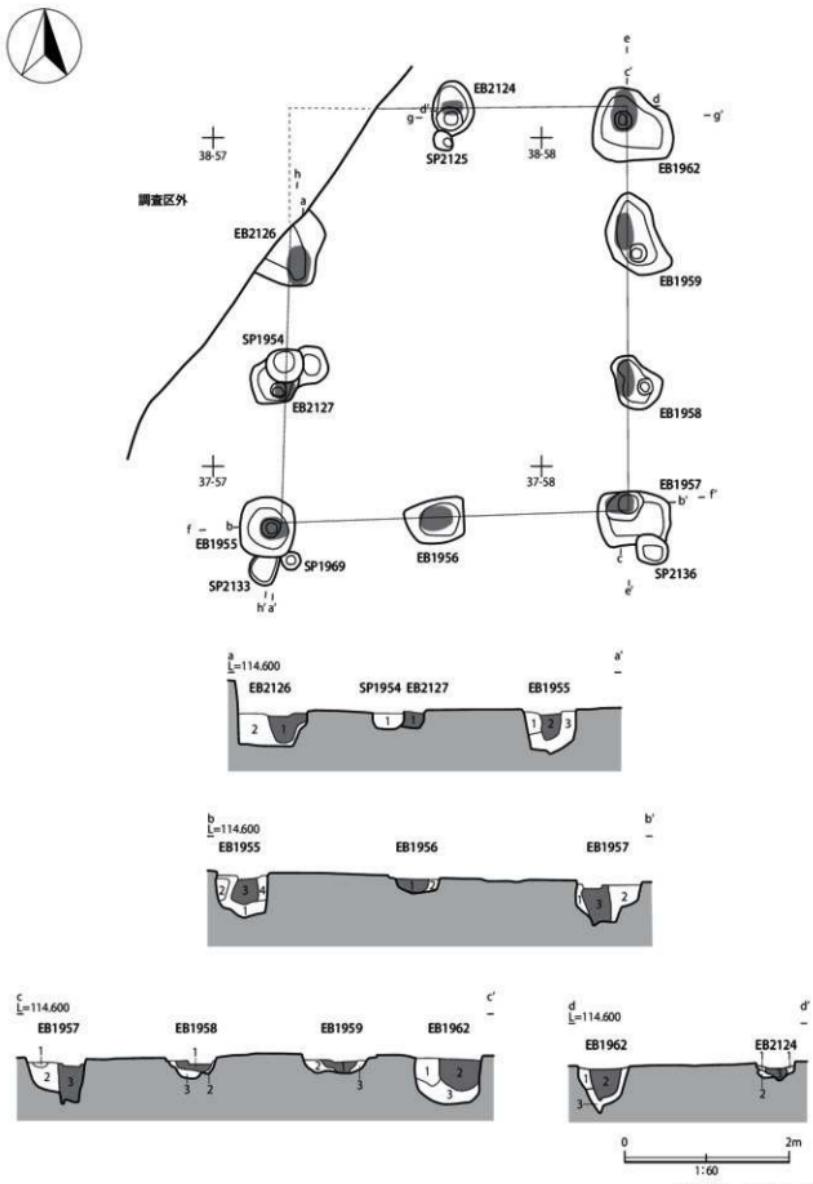
1. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/6 黑褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
4. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまる。)
5. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に少量含む。しまる。)

EB1984

1. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを小ブロックで少量含む。しまる。)
3. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/2 黄褐色シルトを帶状に多量含む。固くしまる。)



第31図 SB1820 (3)



第32図 SB1953 (1)

SB1953a-a'**EB2126**

1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト (7.5YR6/6 棕色シルトをブロック状に含む。
しまりなし。)
2. 7.5YR7/6 棕色シルト (7.5YR2/1 黒色シルトを少量粒状に含む。
しまる。)

EB2127

1. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR7/6 明褐色シルトを微量含む。
しまりなし。)

SP1954

1. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR6/6 棕色砂質シルトを微量含む。
固くしまる。)

EB1955

1. 10YR2/1 黒色砂質シルト (10YR4/6 棕色シルトを微量含む。しま
る。)
2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に含む。
しまりなし。)
3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR4/6 棕色シルトを微量含む。しま
りなし。)

SB1953b-b'**EB1955**

1. 10YR2/1 黑色砂質シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトを粒状に少量
含む。しまりなし。)
2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に含む。
しまる。)
3. 7.5YR1.7/1 黑色シルト (7.5YR4/6 棕色シルトを微量含む。しま
りなし。)
4. 7.5YR3/1 黑褐色シルト (7.5YR6/6 棕色シルトをブロック状に少量
含む。しまる。)

EB1956

1. 7.5YR3/1 黑褐色シルト (7.5YR5/6 明褐色砂質シルトを帶状に多量
含む。しまりなし。)
2. 5YR3/1 黑褐色シルト (7.5YR5/6 明褐色砂土をブロック状に多量含
む。しまる。)
EB1957
1. 7.5YR1.7/1 黑色壤土 (10YR5/4 黄褐色シルトをブロック状に含む。
しまりなし。)
2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黑褐色シルトをブロック状に含
む。しまりなし。)
3. 10YR1.7/1 黑色シルト (7.5YR4/1 棕灰色砂質土を粒状に含む。しま
りなし。)

SB1953c-c'**EB1957**

1. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色粘土をブロック状に含む。
しまりなし。)
2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黑褐色シルトを帶状に含む。しま
る。)
3. 10YR1.7/1 黑色シルト (7.5YR4/1 棕灰色砂質土を粒状に含む。しま
りなし。)

EB1958

1. 5YR3/1 黑褐色壤土 (7.5YR5/6 明褐色シルトを粒状に含む。固くし
まる。)
2. 7.5YR2/1 黑色シルト (7.5YR5/6 明褐色シルトを帶状に含む。固く
しまる。)
3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に含む。固く
しまる。)

EB1959

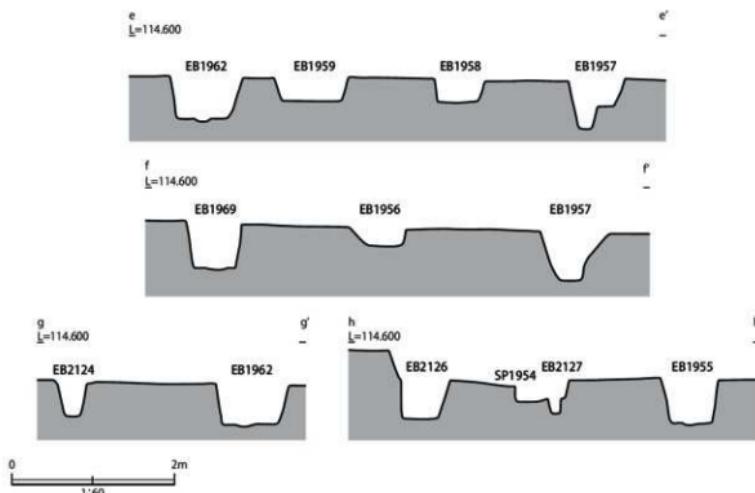
1. 10YR2/1 黑色シルト (7.5YR5/6 明褐色砂土を多量含む。しま
りなし。)
2. 7.5YR5/6 明褐色シルト (7.5YR3/1 黑褐色砂土を多量含む。しま
りなし。)
3. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト (7.5YR3/1 黑褐色シルトを多量含む。
しまりなし。)

EB1962

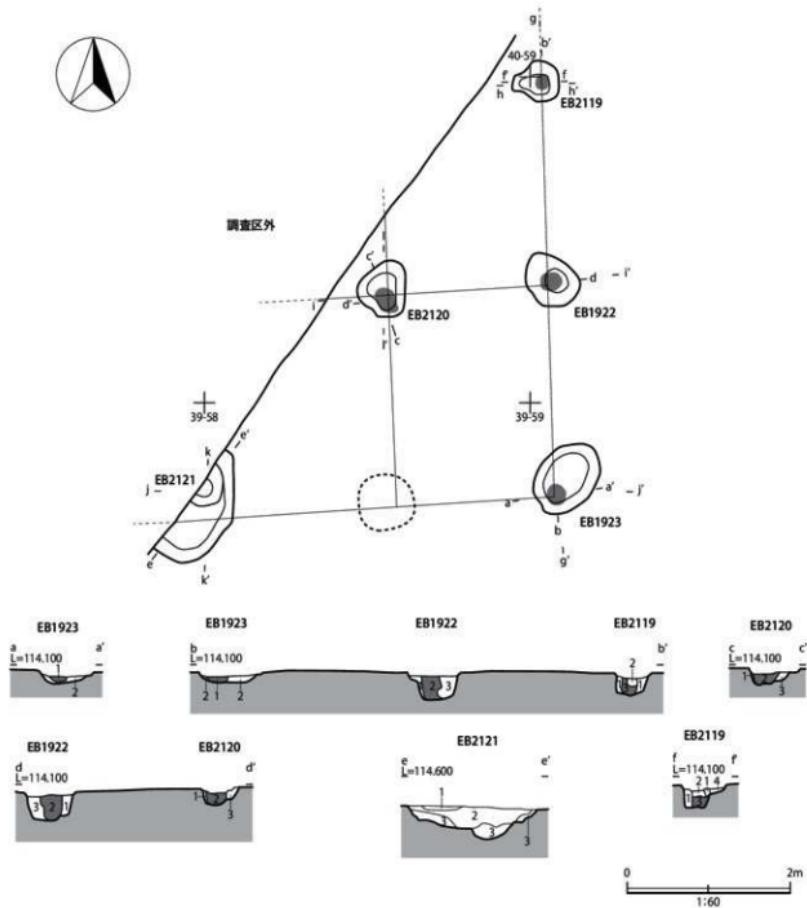
1. 10YR6/8 明黃褐色砂質シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量
含む。7.5YR6/8 棕色砂質シルトをブ
ロック状に微量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (5YR5/6 明赤褐色土を粒状に微量含む。)
3. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR6/8 明黃褐色砂質シルトを粒状に少量
含む。固くしまる。)

SB1953d-d'**EB1962**

1. 10YR6/8 明黃褐色砂質シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量
含む。7.5YR6/8 棕色砂質シルトをブ
ロック状に微量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (5YR5/6 明赤褐色土を粒状に微量含む。)
3. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR6/8 明黃褐色砂質シルトを粒状に少量
含む。固くしまる。)
EB2124
1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄橙砂質シルトを粒状に微量含む。
しまりなし。)
2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR8/8 黄橙砂質シルトを斑状に多量含む。
固くしまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)



第33図 SB1953 (2)



第34図 SB2151 (1)

SB2151c-c'

EB2120

1. IOYR7/8 黄褐色砂質シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
2. IOYR2/2 黑褐色シルト (10YR7/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
3. IOYR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂粒、5YR5/8 明赤褐色砂粒を全体に少量含む。しまる。)

SB2151d-d'

EB2122

1. IOYR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
2. IOYR1.7/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状帶状に少量含む。しまりなし。)
3. IOYR2/2 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)

EB2120

1. IOYR7/8 黄褐色砂質シルト (10YR2/1 黑色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
2. IOYR2/2 黑褐色シルト (10YR7/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
3. IOYR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂粒、5YR5/8 明赤褐色砂粒を全体に少量含む。しまる。)

SB2151e-e'

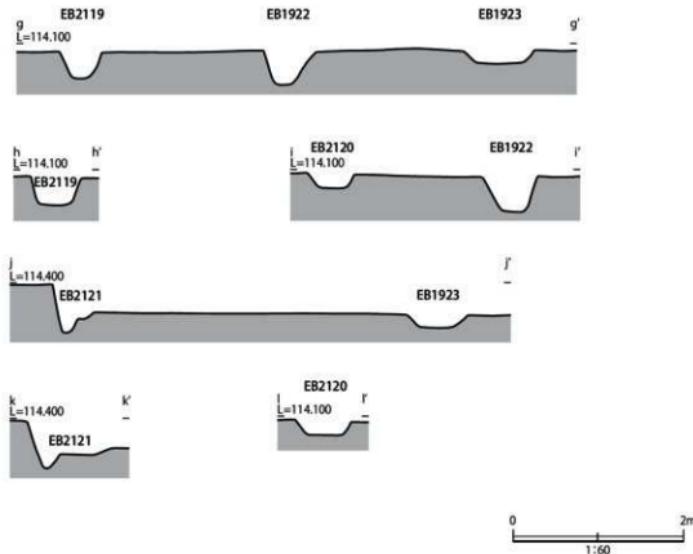
EB2121

1. 5YR4/8 赤褐色粘質シルト (炭化物を少量含む。固くしまる。)
2. 7.5YR1.7/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。7.5YR5/8 明褐紅色燒土をブロック状に微量含む。しまる。)
3. 10YR8/8 黄褐色砂質シルト (7.5YR2/1 黑色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

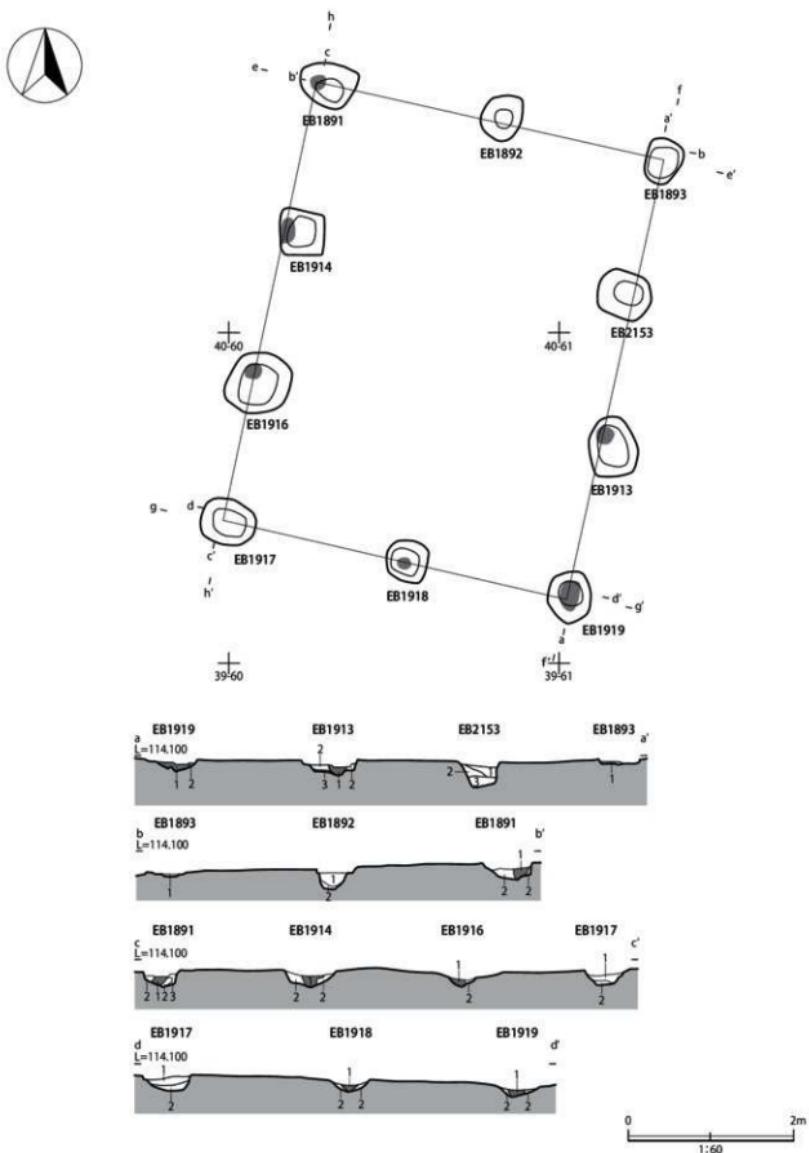
SB2151f-f'

EB2119

1. IOYR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状、帶状に少量含む。しまる。)
2. IOYR2/2 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
3. IOYR2/1 黑色シルト (10YR3/2 黑褐色シルトが粒状に微量混じる。草の根なども少量含む。しまりなし。)
4. IOYR5/6 黄褐色シルト (10YR2/1 黑色シルトを帶状に微量含む。固くしまる。)



第35図 SB2151 (2)



第36図 SB2152 (1)

- SB2152a-a'**
EB1919
1. IOYR1.7/1 黒色シルト（草の根含む。やわらかいがしまる。）
 2. IOYR3/1 黒褐色粘質シルト（IOYR5/4 黄褐色粘土を帯状に多量含む。固くしまる。）
- EB1913**
1. IOYR2/1 黒色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR3/1 黑褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。）
 3. IOYR5/6 黄褐色粘質シルト（IOYR3/1 黑褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。）

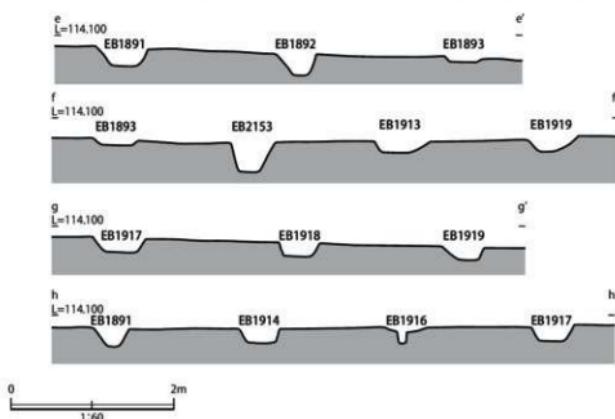
- EB2153**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR4/2 灰黄色シルトを点状に微量含む。しまる。）
 2. 7.SYR3/3 喙褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトをブロック状に含む。しまる。）
 3. 7.SYR2/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。）
- EB1893**
1. IOYR3/2 黑褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。）

- SB2152b-b'**
EB1893
1. IOYR3/2 黑褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。）
- EB1892**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR4/4 喙褐色シルトを点状、粒状に少量含む。しまる。）
 2. IOYR5/6 黄褐色砂質シルト（IOYR1.7/1 黑色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。）

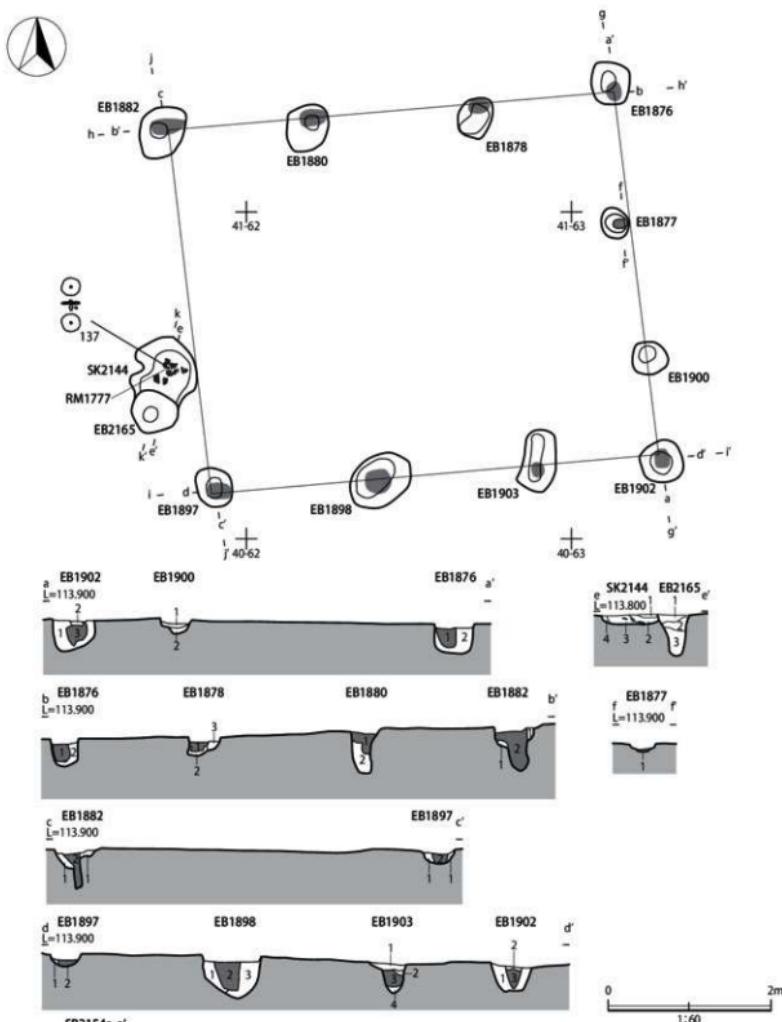
- EB1891**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR2/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。）
- SB2151c-c'**
EB1891
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR2/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。）
 3. IOYR5/6 黄褐色シルト粘土（IOYR2/1 黑色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。）

- EB1914**
1. IOYR2/1 黑色シルト（IOYR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR3/1 黑褐色シルト（IOYR4/4 喙褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。）
- EB1916**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR4/4 喙褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR2/1 黑褐色シルト（IOYR4/4 喙褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。）
- EB1917**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。固くしまる。）
 2. IOYR3/2 黑褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。）

- SB2152d-d'**
EB1917
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。固くしまる。）
 2. IOYR3/2 黑褐色シルト（IOYR5/6 黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。）
- EB1918**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（IOYR4/1 喙灰色シルトを点状に微量含む。しまりなし。）
 2. IOYR2/2 黑褐色シルト（IOYR4/4 喙褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。）
- EB1919**
1. IOYR1.7/1 黑色シルト（草の根含む。しまる。）
 2. IOYR3/1 黑褐色粘質シルト（IOYR5/4 にぶい黄褐色粘土を帯状に多量含む。固くしまる。）



第37図 SB2152 (2)



第38図 SB2154、SK2144 (1)

SB2154b-b'**EB1876**

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
 2. 10YR2/2 黑褐色シルト (1に混じる黄褐色シルトを粒状に多量含む。固くしまる。)

EB1878

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)
 2. 10YR4/6 褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)
 3. 10YR4/6 褐色シルト (10YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

EB1880

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR5/8 暗褐色シルト、10YR8/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
 2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1882

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

SB2154c-c'**EB1882**

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

EB1897

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/2 黑褐色粘質シルト (10YR3/4 暗褐色のグライ化した土を帯状に少量含む。固くしまる。)

SB2154d-d'**EB1897**

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/2 黑褐色粘質シルト (10YR3/4 暗褐色のグライ化した土を帯状に少量含む。固くしまる。)

EB1898

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
 2. 10YR2/1 黑色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)

3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。固くしまる。)

EB1903

1. 10YR2/1 黑色シルト (5YR5/8 明赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。)
 2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
 3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトと10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
 4. 10YR6/8 明黃褐色砂質シルト (10YR2/2 黑褐色シルトを帶状に多量含む。固くしまる。)

EB1902

1. 10YR2/1 黑色シルト (5YR5/8 明赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。)
 2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
 3. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

SB2154e-e'**EB2165**

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (2.5YR4/6 赤褐色燒土を点状に微量、10YR5/6 黄褐色粘土を帯状に含む。固くしまる。)
 2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR3/3 暗褐色砂質シルトを斑状に多量含む。しまる。)

3. 5YR5/6 黄褐色細砂 (10YR2/2 黑褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

4. 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト (10YR4/4 褐色微細砂を少量含む。固くしまる。)

SK2144

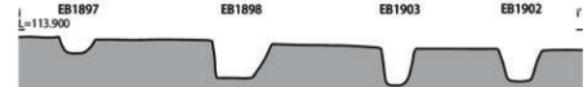
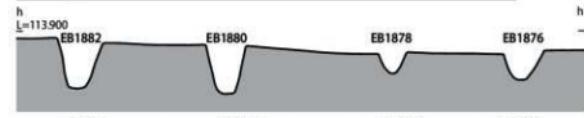
1. 7.5YR4/3 暗褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトをブロック状に、2.5YR4/6 赤褐色粘土を点状に含む。固くしまる。)
 2. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土 (10YR2/2 黑褐色シルトをブロック状に、2.5YR4/6 赤褐色燒土を点状に含む。固くしまる。)
 3. 5YR4/4 にぶい赤褐色燒土 (5YR4/8 赤褐色燒土を点状、ブロック状に少量含む。固くしまる。)

4. 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト (10YR4/4 褐色微細砂を少量含む。固くしまる。)

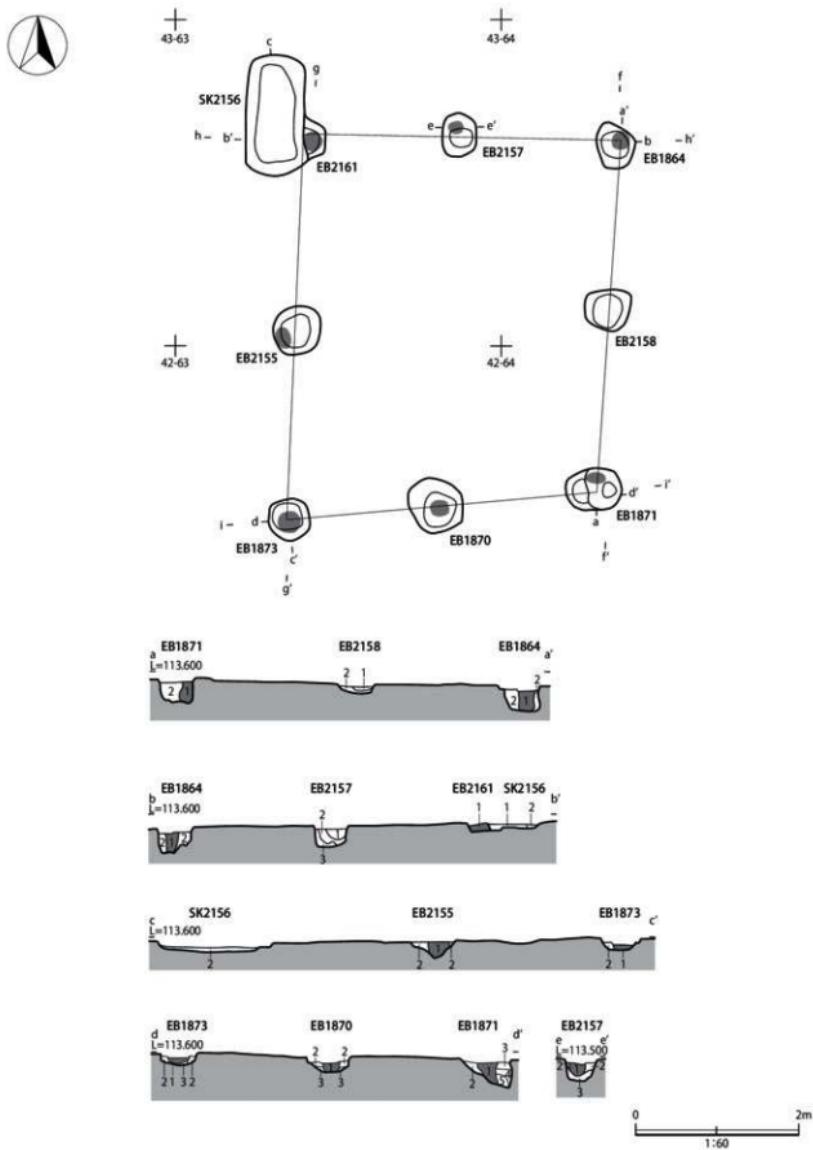
SB2154f**EB1877**

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

g g'
 $l=113.900$



第39図 SB2154、SK2144 (2)



第40図 SB2160、SK2156 (1)

SB2160a-a'**EB1871**

1. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを点状に少量含む。
しまる。)
2. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量含む。
固くしまる。)

EB2158

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルト質粘土を点状に微量含む。
しまる。)
2. 10YR4/4 褐色シルト質粘土 (10YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。
しまる。)

EB1864

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。
しまる。)
2. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR2/1 黒色シルトを帶状に多量含む。
しまる。)

SB2160b-b'**EB1864**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。
しまる。)
2. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR2/1 黒色シルトを帶状に多量含む。
しまる。)

EB2157

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを斑状に含む。
しまる。)
2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。
しまる。)
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR1.7/1 黑色シルトを斑状に多量含む。
固くしまる。)

EB2161

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に少
量含む。しまりなし。)

SK2156

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトをブロック状に含む。
しまる。)
2. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/1 黑色シルトを斑状に含む。
しまる。)

SB2160c-c'**SK2156**

2. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/1 黑色シルトを斑状に含む。しま
る。)

EB2155

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルト質粘土をブロック状
に少量含む。しまる。)
2. 7.5YR2/1 黑色シルト (10YR4/4 褐色シルト質粘土を粒状、斑状に
多量含む。しまる。)

EB1873

1. 7.5YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に微
量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを粒状に多量
混入する。しまる。)

SB2160d-d'**EB1873**

1. 7.5YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に
微量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/4 にぶい黄褐色シルトを粒状に多量
含む。しまる。)
3. 10YR2/3 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを斑状に多量含む。
しまる。)

EB1870

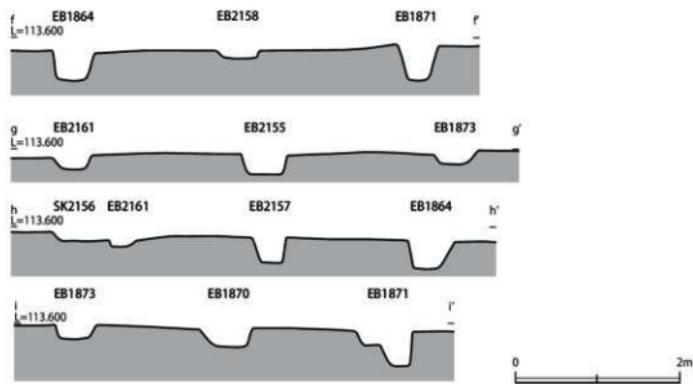
1. 7.5YR2/1 黑色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。
しまりなし。)
2. 10YR2/3 黑褐色土 (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量含む。
固くしまる。)
3. 10YR2/3 黑褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトをブロック状に
少量含む。しまる。)

EB1871

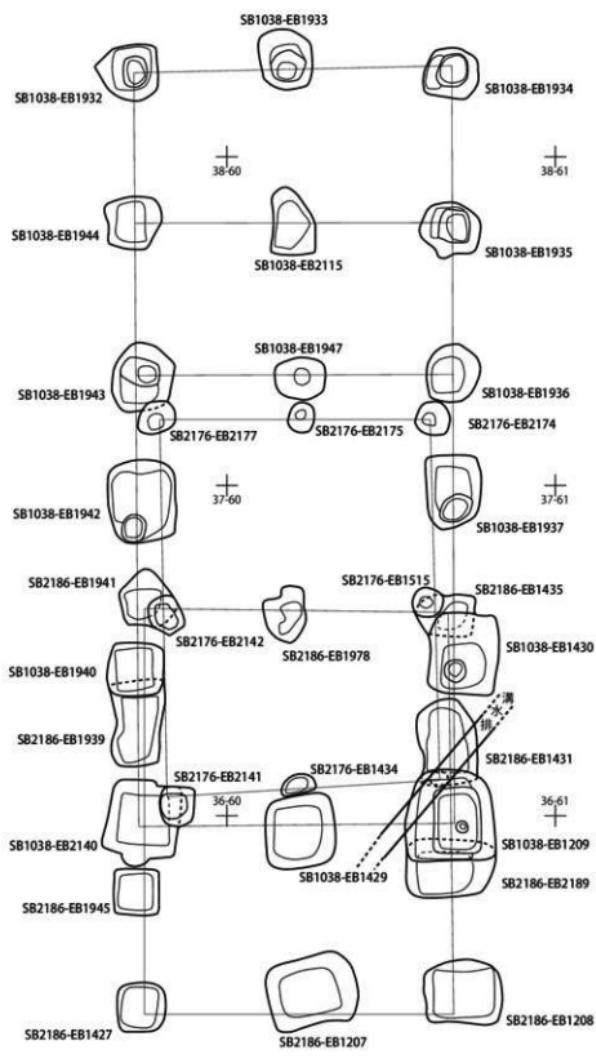
1. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを点状に少量含む。
しまる。)
2. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量含む。
固くしまる。)
3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/6 褐色シルトを点状に微量含む。
しまる。)
4. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを粒状に少量含む。
しまる。)
5. 10YR2/3 黑褐色シルト (10YR3/3 暗褐色シルトをブロック状に
少量含む。しまる。)

SB2160e-e'

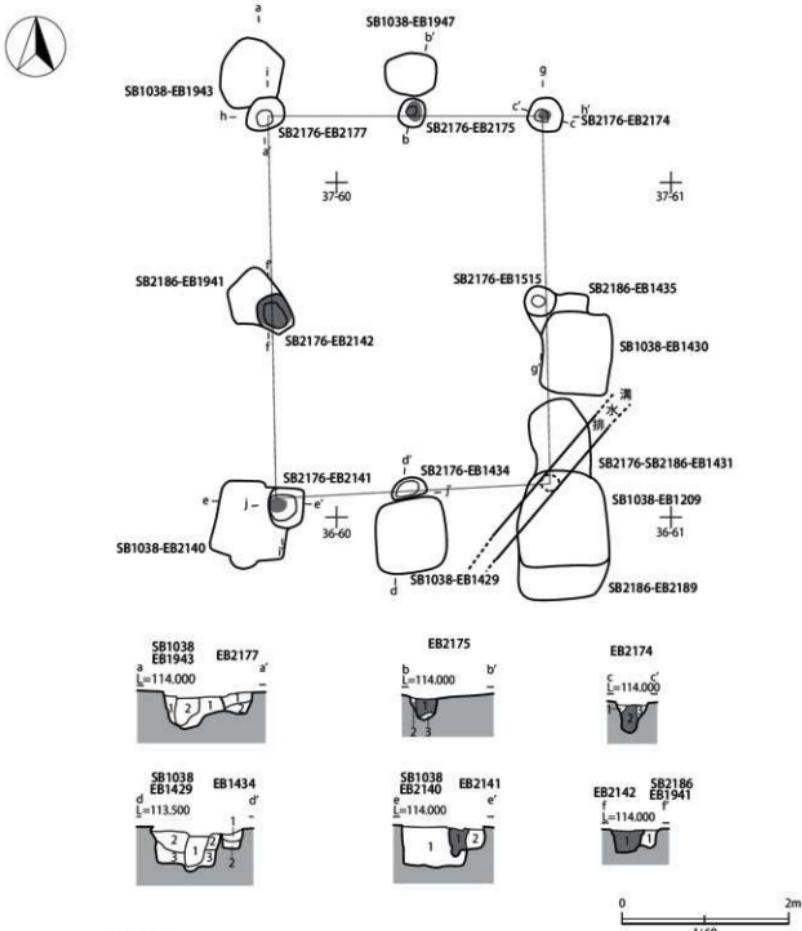
1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/6 褐色シルトを点状に微量含む。し
まりなし。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトをブロック状に少
量含む。しまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを带状、斑状に多
量含む。固くしまる。)



第41図 SB2160, SK2156 (2)



第42圖 SB1038・2176・2186

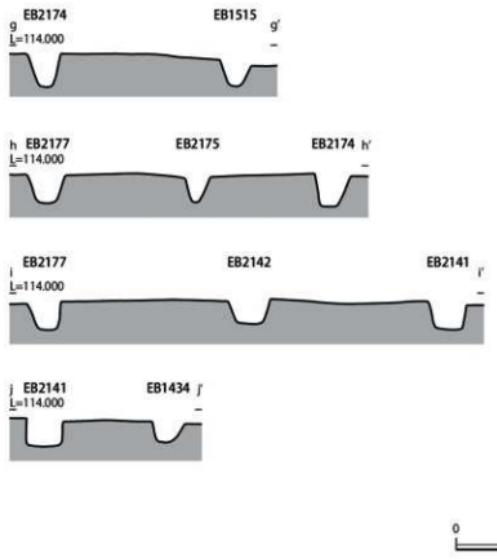


**SB2176a'-
EB2177**

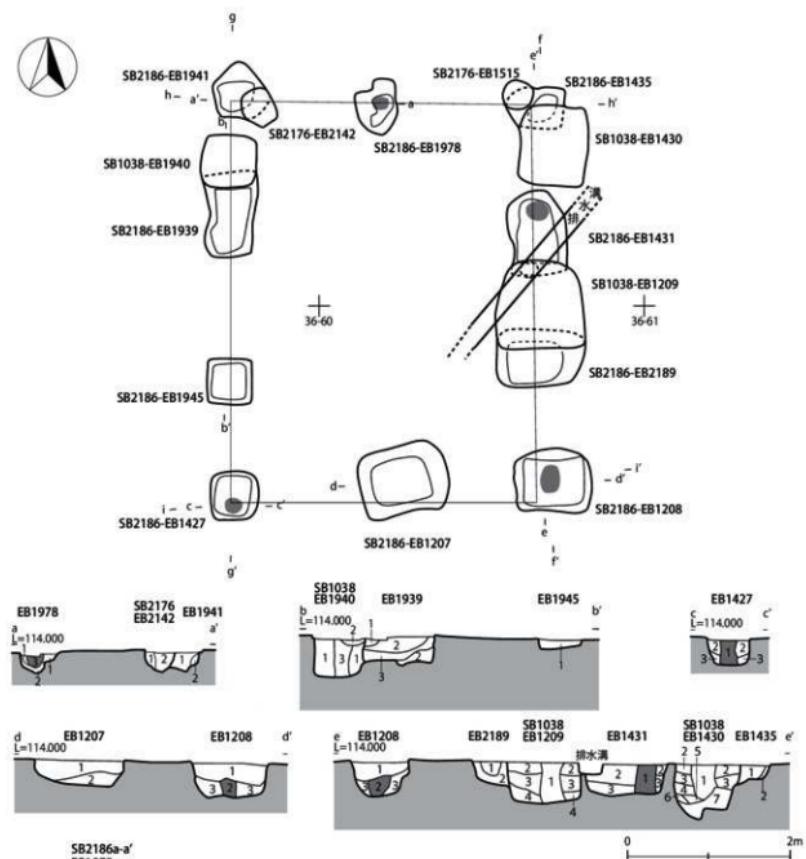
1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (10YR8/4 浅黄褐色砂質シルト 10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)
- SB1038-EB1943**
1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状、マダラ状に多量含む。固くしまる。)
 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- SB2176b'-b'
EB2175**
1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
 2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に含む。しまる。)
 3. 10YR1.7/1 黑色シル (10YR6/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。)

第43図 SB2176 (1)

- SB2176c-c'**
EB2174
 1. 10YR2/1 黒色シルト（混ざりのない黒色土。しまりなし。）
 2. 10YR2/1 黒色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に全体に含む。しまりなし。）
 3. 10YR2/1 黒色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む。しまる。）
SB2176d-d'
EB1434
 1. 7.5YR2/1 黒色シルト（固く締まり、粘性強い。）
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト（10YR5/8 黒色シルトを斑状に含む。固く締まり、粘性有り。）
SB1038-EB1429
 1. 10YR1.7/1 黒色シルト（しまりなし。）
 2. 7.5YR2/1 黒色シルト（10YR5/8 黄褐色粘質シルトを含む。しまる。）
 3. 10YR5/8 黄褐色粘質シルト（7.5YR2/1 黒色シルトを斑状に含む。しまる。）
SB2176e-e'
EB2141
 1. 10YR1.7/1 黒色シルト（10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。）
 2. 10YR3/3 單褐色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。）
SB2176f-f'
EB2142
 1. 10YR3/3 單褐色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状、ブロック状に微量含む。しまりなし。）
SB2186-EB1941
 1. 10YR2/1 黒色シルト（10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。）



第44図 SB2176 (2)



SB2186a-a'
EB1978

1. 10YR1.7/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色砂質土を粒状、斑状に少量含む。しまる。)
2. 10YR3/1黒褐色シルト (10YR5/8黄褐色砂質土を斑状に微量含む。固くしまる。)
3. 10YR2/2黒褐色シルト (10YR5/6黄褐色砂質土を粒状、10YR6/4明黄色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)

E81941

 - 1. 10YR1.7/1黒色シルト (10YR6/8明黄色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
 - 2. 10YR2/1黒色シルト (10YR6/8明黄色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

S81276-E82142

 - 1. 10YR2/2黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に含む。しまる。)
 - 2. 10YR3/3暗褐色シルト (10YR8/6 黄褐色砂質シルトを粒状、ブロック状に微量含む。しまりなし。)

S81286b-b'

E81939

 - 1. 10YR2/1黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質土を斑状に多く含む。しまる。)
 - 2. 10YR1.7/1黒色シルト (10YR8/8黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
 - 3. 10YR2/2黒褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む。固くしまる。)

E81945

 - 1. 10YR1.7/1黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)

S81038-E81940

 - 1. 10YR8/8黄褐色砂質シルト (10YR2/1黒色シルトを斑状に混入し、7.5YR6/8褐色純土を粒状に微量含む。固くしまる。)
 - 2. 10YR2/2黒褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
 - 3. 10YR1.7/1黒色シルト (7.5YR6/8褐色純土、10YR6/8黄褐色砂質土を粒状に微量含む。しまりなし。)

第45図 SB2186 (1)

SB2186c-c'

EB1427

1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし。)
2. 7.5YR1.7/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘土をブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
3. 7.5YR1.7/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

SB2186d-d'

EB1207

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く混入する。固くしまり、粘性有り。)
2. 7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

EB1208

1. 7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。固くしまり、粘性有り。)
2. 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
3. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを少量含む。やや固くしまる。)

SB2186e-e'

EB1208

1. 7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。固くしまり、粘性有り。)
2. 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
3. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを少量含む。やや固くしまる。)

EB2189

1. 7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR8/6黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1黒色シルト(10YR8/6黄褐色粘質シルトを粒状に少量含む。)

EB1431

1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし、やわらかい。)
2. 7.5YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
3. 10YR4/1褐灰色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

EB1435

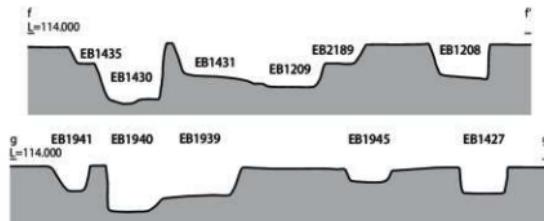
1. 10YR2/1黒色シルト(固くまる。粘性有り。)
2. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)

SB1038-EB1209

1. 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
2. 7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
3. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
4. 10YR2/3黒褐色粘質シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

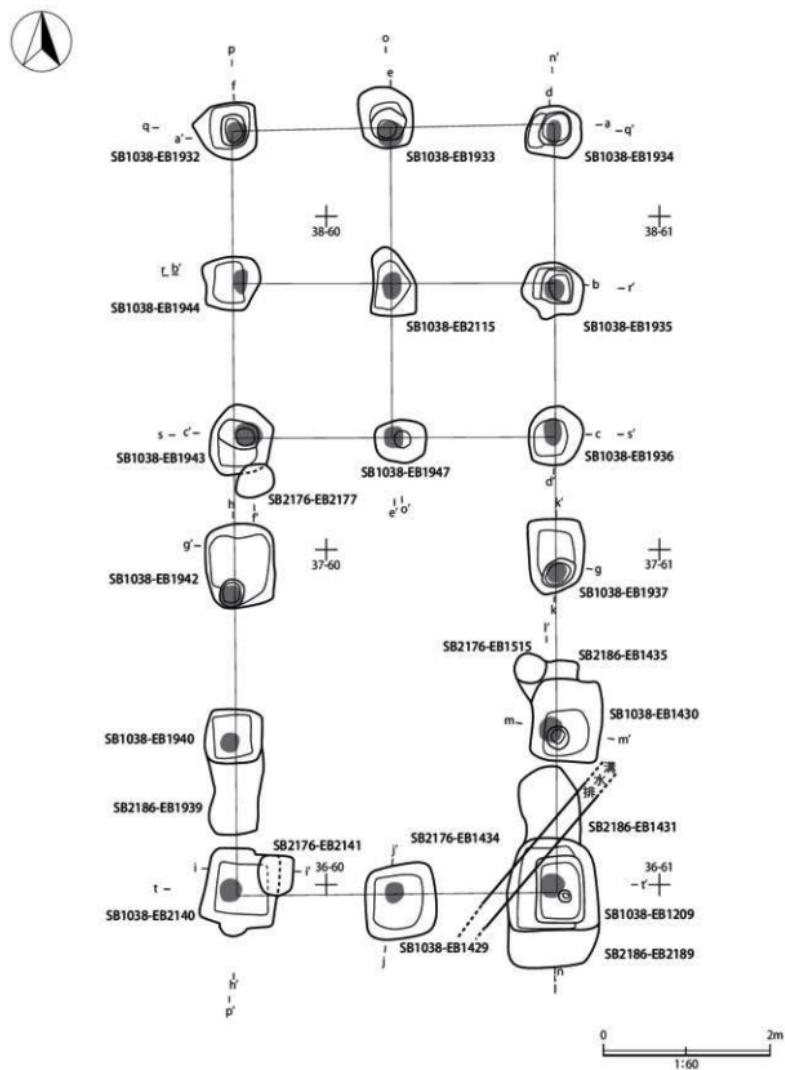
SB1038-EB1430

1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし、やわらかい。)
2. 5Y/2オーリープ黒色シルト(固くしまり、粘性有り。)
3. 5Y/2オーリープ黒色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
4. 10YR4/2灰褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)
5. 10YR4/3にふく黄褐色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
6. 10YR4/3にふく黄褐色シルト(固くしまり、粘性有り。)
7. 10YR5/8黄褐色粘土(10YR4/2灰褐色シルトを斑状に含む。固く紡まり、粘性有り。)

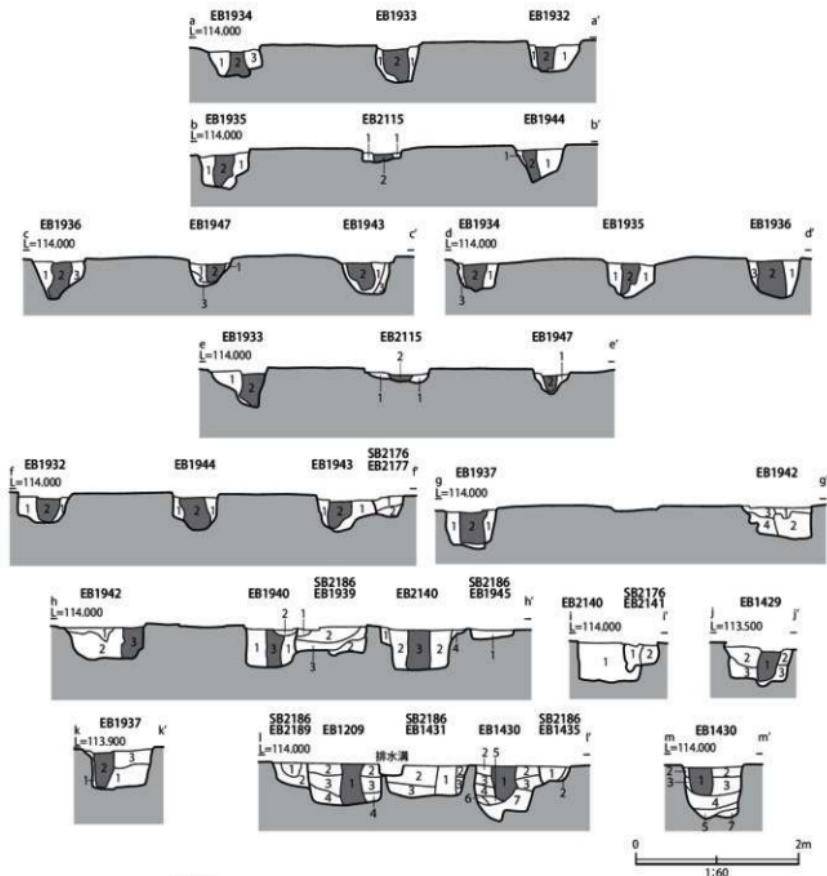


0
1:60
2m

第46図 SB2186 (2)



第47図 SB1038 (1)

**EB1934**

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを大ブロック状に少量含む。しまる。)
3. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。固くしまる。)

EB1933

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

EB1932

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトがブロック状に少量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

EB1935

1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

EB2115

1. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)

EB1944

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に多量含む。しまる。)
2. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色微細砂粒を微量含む。しまりなし。)

第48図 SB1038 (2)

EB1936

1. 10YR1/1 黒褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。しまる。)
2. 10YR1/7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまりなし。)
3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

EB1947

1. 10YR1/7/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
3. 10YR7/8 黄褐色砂質シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)

EB1943

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状・マダラ状に多量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に多量含む。しまる。)

SB2176-EB2177

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (10YR8/4 浅黄褐色砂質シルト、10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

EB1937

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
3. 10YR2/2 黑褐色砂質シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1942

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを帶状に多量含む。しまる。)
3. 10YR1/7/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
4. 10YR1/7/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1940

1. 10YR8/8 黄褐色砂質シルト (砂質シルトと黒土が斑状に混ざる。)
2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
3. 10YR1/7/1 黑色シルト (7.5YR6/8 植被土上、10YR6/8 明黄褐色砂質土を粒状に微量含む。しまりなし。)

SB2186-EB1939

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質土を斑状に多く含む。しまる。)
2. 10YR1/7/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む。固くしまる。)

EB2140

1. 10YR1/7/1 黑色シルト (混ざりのない黒土上。しまりなし。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状・ブロック状に多量含む。固くしまる。)
3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。5YR3/6 暗赤褐色土を粒状に微量含む。しまりなし。)
4. 10YR1/7/1 黑色シルト (混ざりのない黒土上。しまる。)

SB2186-EB1945

1. 10YR1/7/1 黑色シルト (混ざりのない黒土上。しまりなし。)

2. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

EB1429

1. 10YR1/7/1 黑色シルト (しまりなし。)
2. 7.5YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトを含む。しまる。)
3. 10YR5/8 黄褐色粘質シルト (7.5YR2/1 黑色シルトを斑状に含む。しまる。)

SB2186-EB2189

1. 7.5YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/6 黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色粘質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

EB1209

1. 7.5YR3/1 黑褐色シルト (しまりなし、やわらかい。)
2. 7.5YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
4. 10YR2/3 黑褐色粘質シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

SB2186-EB1431

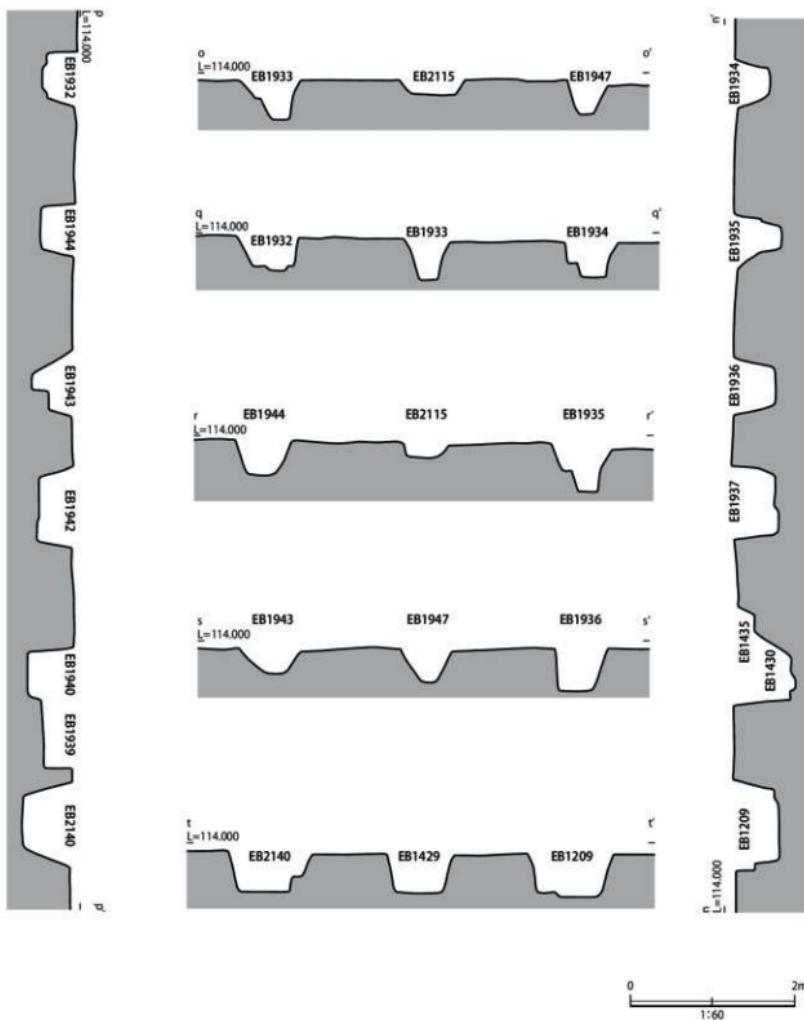
1. 10YR2/1 黑色シルト (しまりなし、やわらかい。)
2. 7.5YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

EB1430

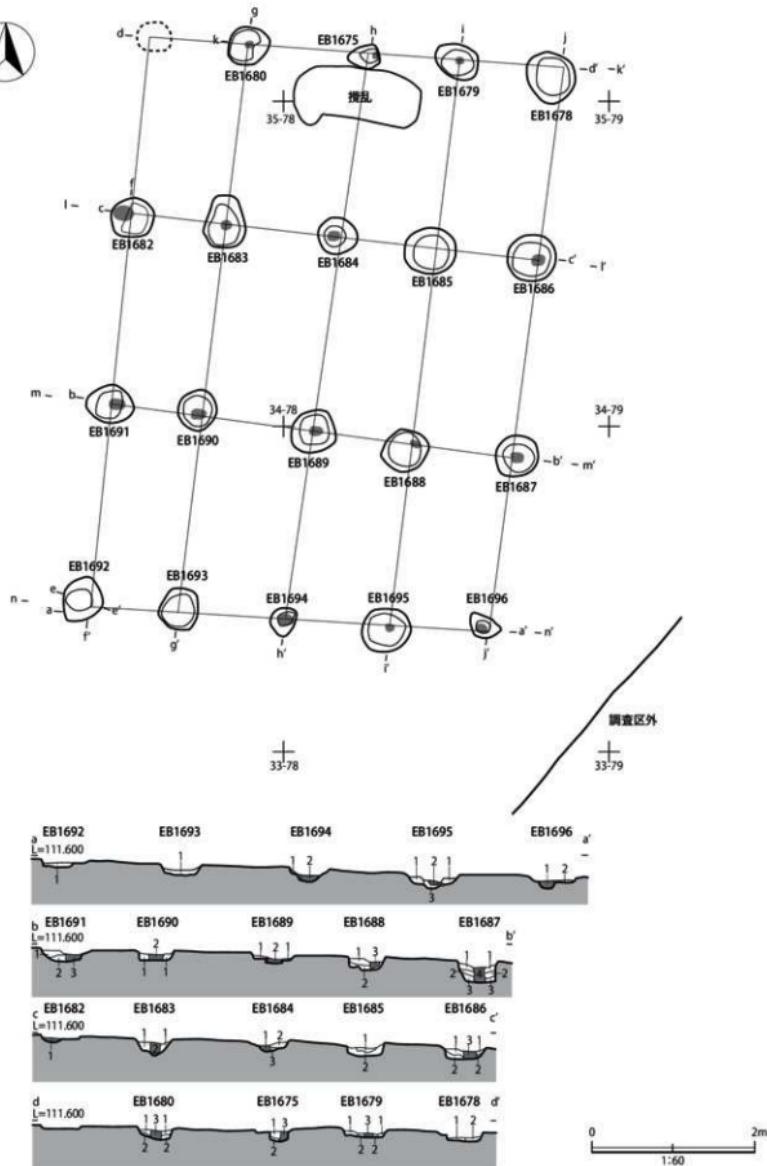
1. 10YR2/1 黑色シルト (しまりなし、やわらかい。)
2. 5Y2/2 オリーブ黒色シルト (固くしまり、粘性有り。)
3. 5Y2/2 オリーブ黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
4. 10YR4/2 灰褐色シルト (10YR5/8 黄褐色粘質シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)
5. 10YR4/3 にじむ 黄褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
6. 10YR4/3 にじむ 黄褐色シルト (固くしまり、粘性有り。)
7. 10YR5/8 黄褐色粘土 (10YR4/2 灰褐色シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)

SB2186-EB1435

1. 10YR2/1 黑色シルト (固くしまる、粘性有り。)
2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)



第50図 SB1038 (4)



第51図 SB1697 (1)

SB1697a-a'**EB1692**

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/1 褐灰色シルトを斑状に少量含む。
10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に微量含む。
しまる。)

EB1693

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/1 褐灰色シルトを斑状に少量含む。
10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に微量含む。
しまる。)

EB1694

1. 10YR4/4 褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。
10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に
微量含む。しまりなし。)

2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR3/2 黑褐色シルトを帶状に微量含む。
7.5YR4/6 褐色木片が粒状で微量に含む)

EB1695

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトをブロック状
に微量含む。しまりなし。)

2. 10YR2/1 黒色粘土 (土のグライ化が見られる。10YR6/4 にぶい黄
褐色砂質シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

3. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量
含む。7.5YR4/6 褐色土を粒状に 5% 含む。)
しまる。)

EB1696

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトをブロック状
に微量含む。10YR3/1 黑褐色シルトを斑状
に微量含む。しまりなし。)

2. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを帶状に多量
含む。しまる。)

SB1697c-c'**EB1682**

1. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

EB1683

1. 10YR1.7/1 黑色グライ士 (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に
少量含む。固くしまる。)

2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

EB1684

1. 10YR4/6 褐色グライ士 (10YR1.7/1 黑色グライ士を帶状に少量含む。
しまる。)

2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR1.7/1 黑色グライ士 (混ざりのない層。固くしまる。)

EB1685

1. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト (10YR2/1 黑色シルト、7.5YR4/6 褐
色砂質シルトを斑状に少量含む。固く
しまる。)

2. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR1.7/1 褐色シルトを斑状に少量含む。
しまる。)

EB1686

1. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

2. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト (10YR2/1 黑色シルトを帶状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR3/4 暗褐色木片を多量含む。しまりな
し。)

SB1697b-b'**EB1691**

1. 10YR2/2 黑褐色グライ士 (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを帶状に少
量含む。固くしまる。)

2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/6 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。
固くしまる。)

3. 10YR1.7/1 黑色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)

EB1690

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/6 褐色シルトをブロック状に微量含
む。しまりなし。)

2. 10YR1.7/1 黑色グライ士 (5YR3/6 暗褐色木片を多く含む。しま
る。)

EB1689

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトをブロック、粒状に
少量含む。しまりなし。)

2. 10YR2/1 黑色シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に微量含む。
しまる。)

EB1688

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状
に少量含む。しまりなし。)

2. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトと黒色シルト
が層状に堆積する。固くしまる。)

3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを帶状に少量含む。
しまる。)

EB1687

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/6 褐色砂質シルトをブロック状に少
量含む。しまりなし。)

2. 10YR3/4 暗褐色シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に少
量含む。しまりなし。)

4. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトをブロック状に少
量含む。しまりなし。)

SB1697d-d'**EB1680**

1. 10YR1.7/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトをブロック粒状に少
量含む。しまりなし。)

2. 10YR6/8 明黄褐色シルト (10YR3/2 黑褐色シルトを斑状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR2/1 黑色シルト (10YR4/4 褐色シルトを斑状に、10YR7/8 黄
褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

EB1675

1. 10YR4/6 褐色シルト (10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量含む。し
まりなし。)

2. 10YR3/1 黑褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを斑状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR4/8 明黄褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトを斑状に少量含む。
しまりなし。)

EB1679

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

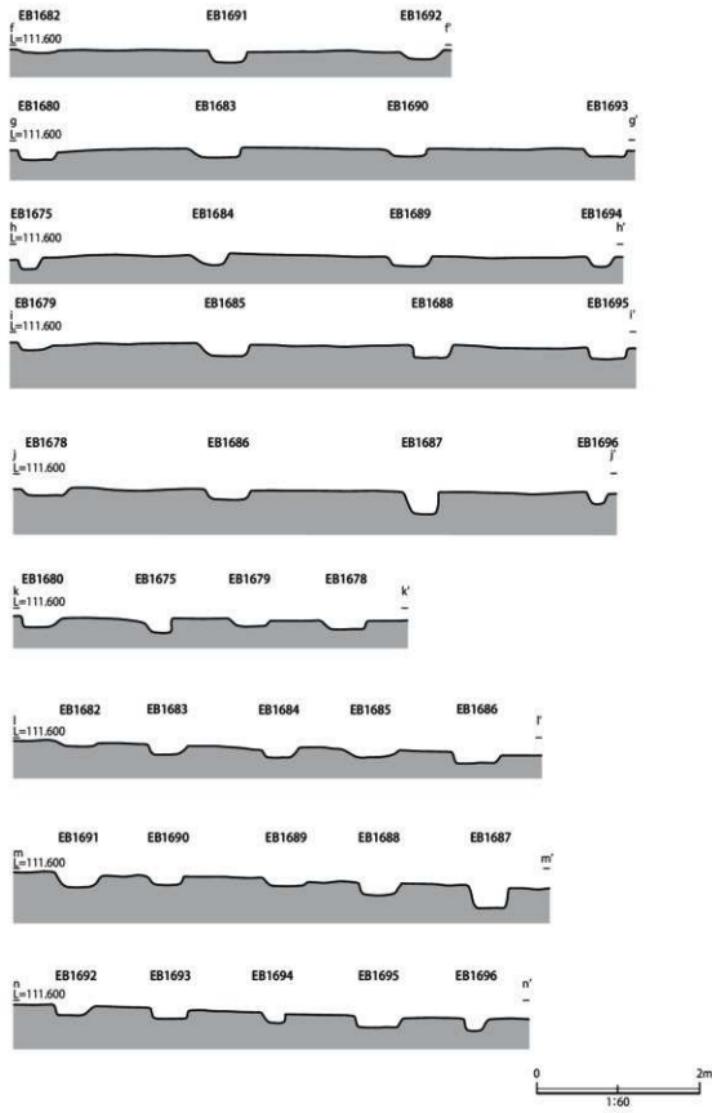
2. 10YR3/4 暗褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

3. 10YR3/3 暗褐色グライ士 (10YR4/8 赤褐色木片を多量含む。固くし
まる。)

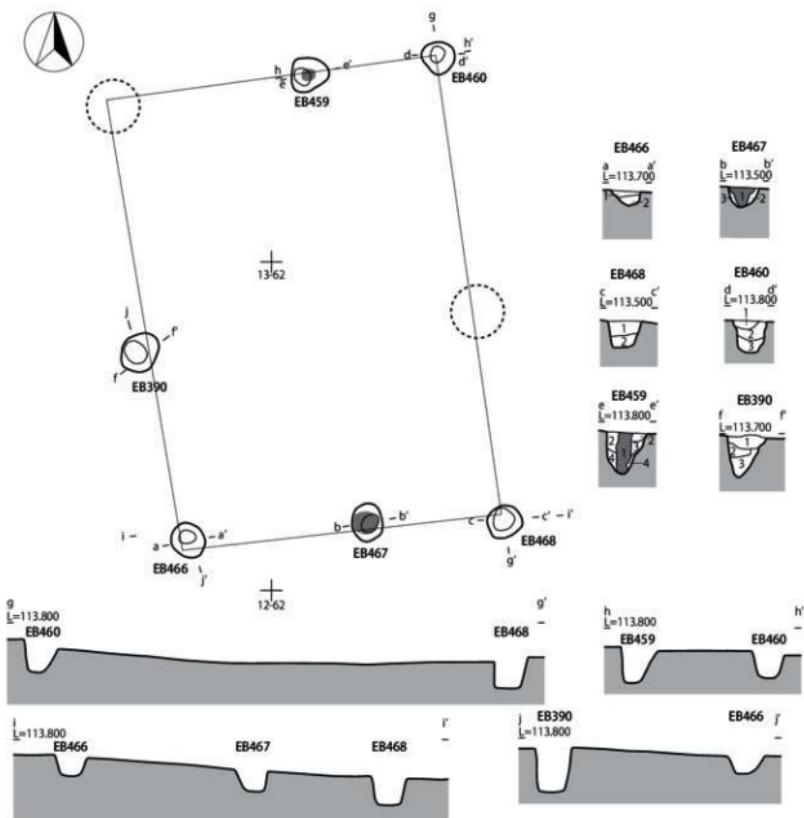
EB1678

1. 10YR2/1 黑色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に少量含む。
しまりなし。)

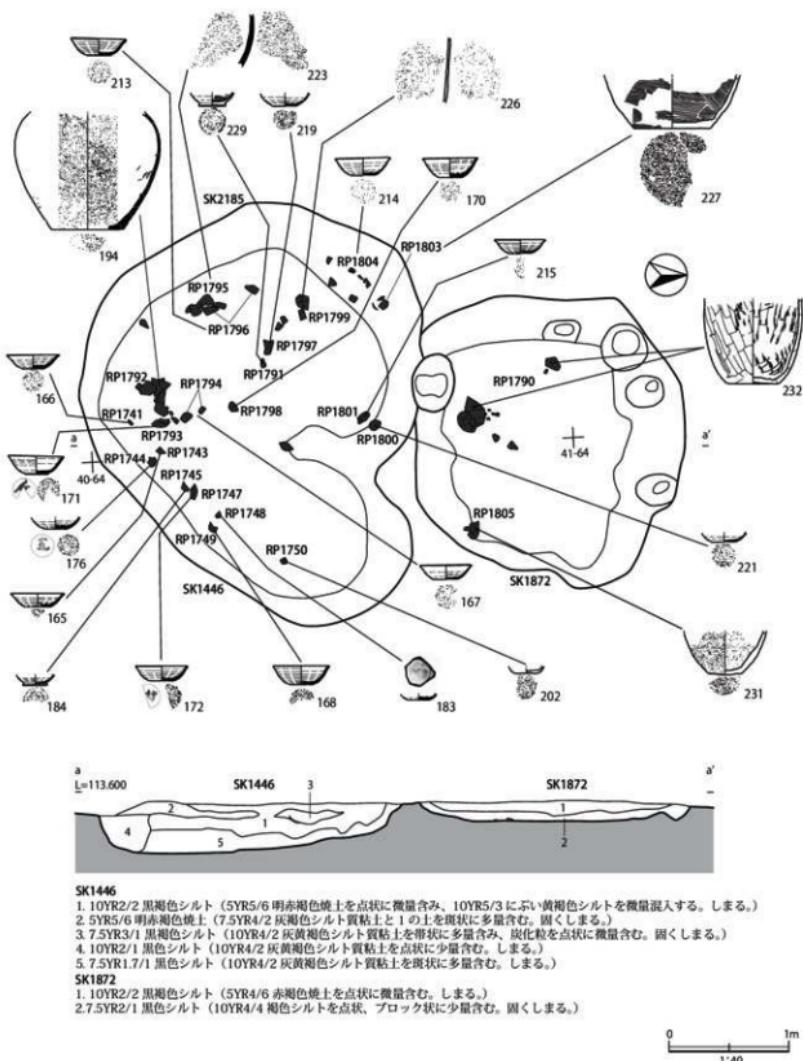
2. 10YR1.7/1 黑色粘質シルト (10YR17/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少
量含む。固くしまる。)



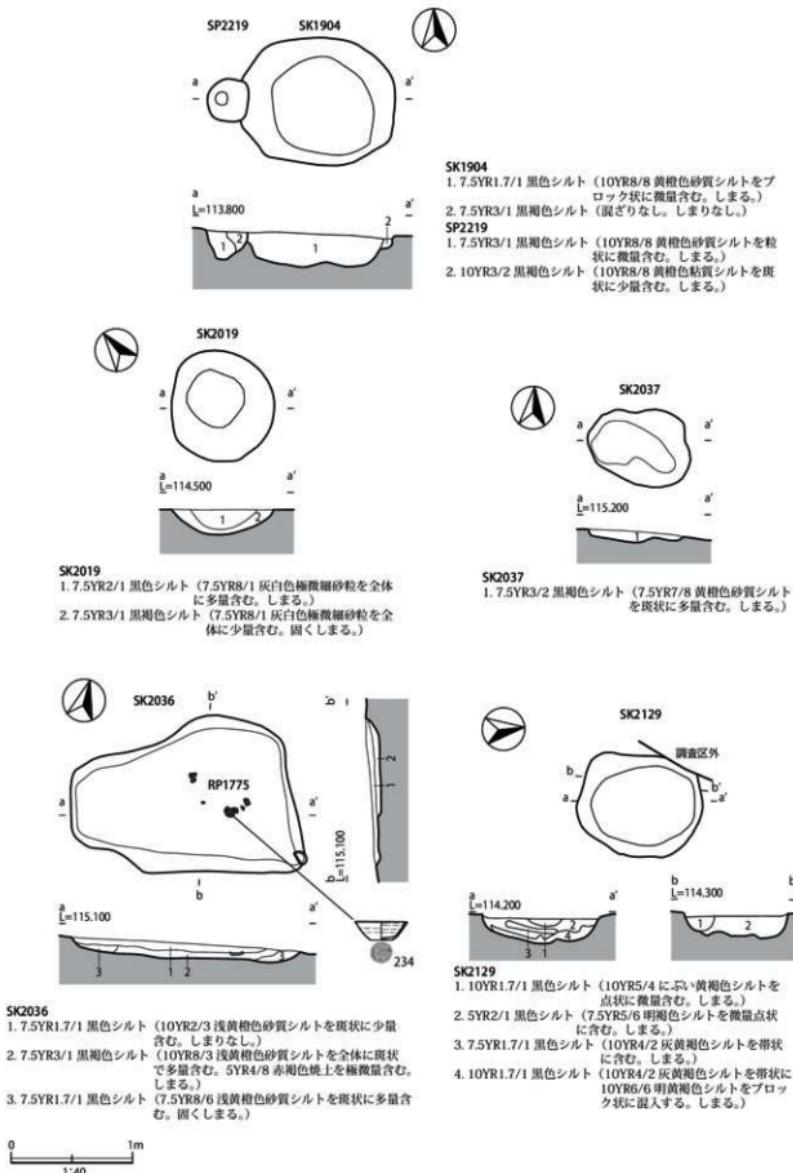
第53図 SB1697 (3)



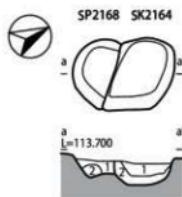
第54図 SB469



第55図 SK1446・1872・2185

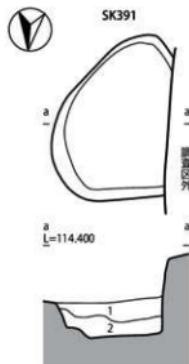


第56図 SK1904・SP2219・SK2019・2036・2037・2129

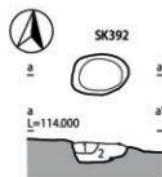


SK2164
1. 7.5YR2/1 黒色シルト（混ざりのない黒色土。しまる。）
2. 7.5YR2/1 黒色シルト（10YR6/8 明黄褐色砂質土をブロック状に少量含む。しまる。）

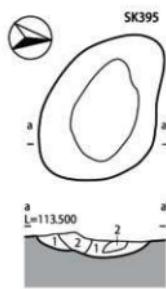
SP2168
1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト（5YR5/8 明赤褐色の砂粒を微量含む。しまる。）
2. 10YR8/8 黄褐色粘質シルト（7.5YR3/1 黑褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。）



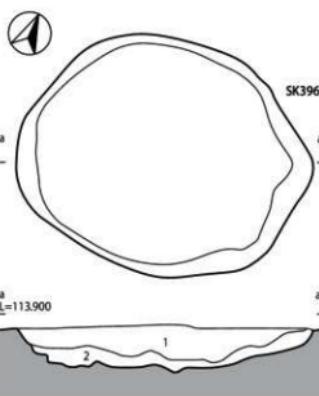
SK391
1. 10YR1.7/1 黒色シルト（10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状、斑状に微量含む。しまる。）
2. 10YR1.7/1 黒色シルト（10YR3/2 黑褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。）



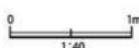
SK392
1. 7.5YR5/8 明褐色燒土（10YR2/1 黒色シルトが層状に微量混じる。しまる。）
2. 7.5YR4/6 褐色燒土（10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。）



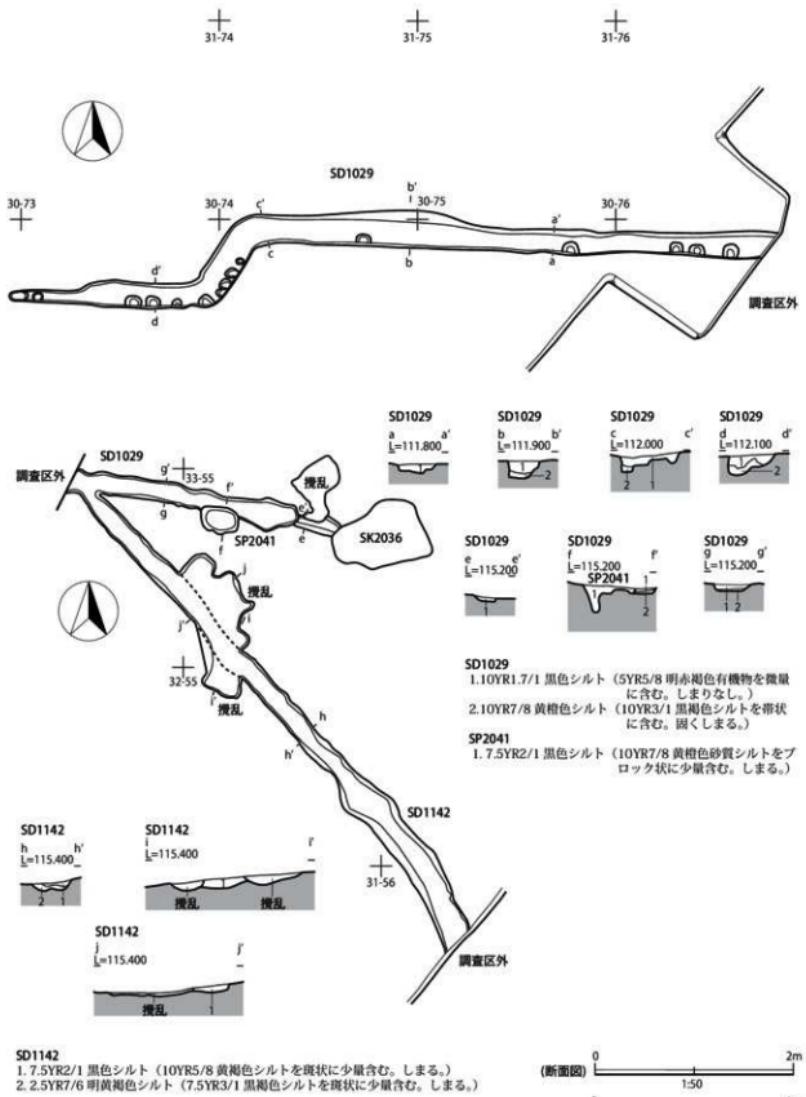
SK395
1. 10YR2/1 黒色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルト、10YR3/4 褐色シルトを斑状に多量に含む。しまる。）
2. 10YR2/1 黒色シルト（10YR2/2 黑褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。）



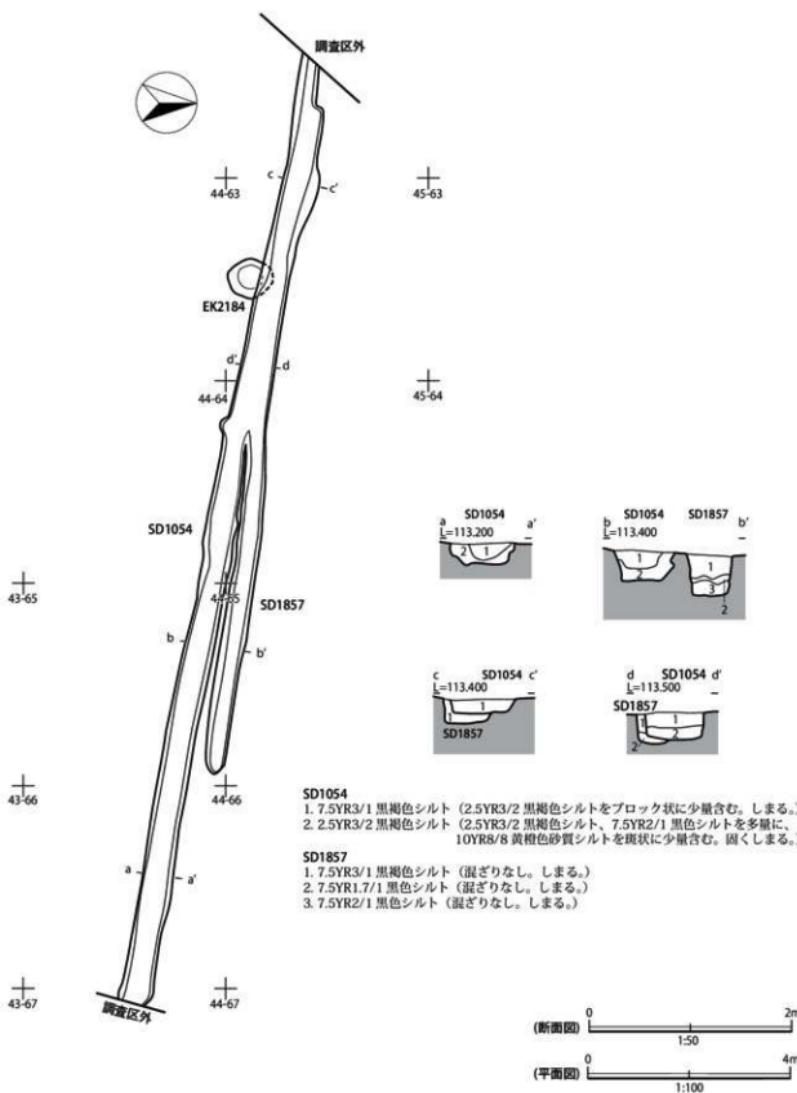
SK396
1. 10YR1.7/1 黒色シルト（10YR4/6 褐色砂質シルトを粒状、ブロック状に微量含む。5YR4/8 赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。）
2. 10YR2/2 黑褐色シルト（10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量、10YR3/1 黑褐色シルトを斑状に少量、5YR4/8 赤褐色燒土を粒状に微量含む。しまる。）



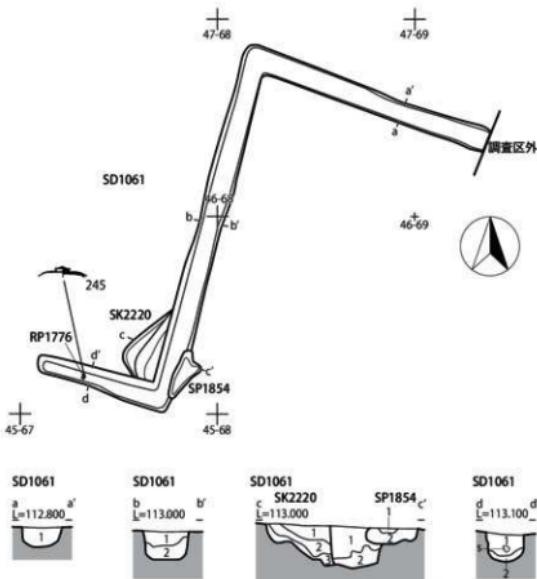
第 57 図 SK2164、SP2168、SK391・392・395・396



第58図 SD1029・1142



第59図 SD1054・1857

**SD1061**

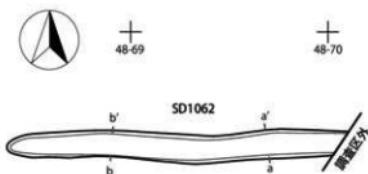
- 7.5YR2/1 黒色シルト (2.5YR3/2 黒褐色シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
- 7.5YR1.7/1 黑色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に微量含む。しまる。)

SK2220

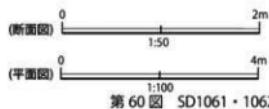
- 7.5YR2/1 黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまる。)
- 7.5YR1.7/1 黑色シルト (混ざりのない黒色土。しまる。)
- 2.5YR3/2 黑褐色シルト (10YR8/8 黄褐色シルトをブロック状に微量含む。7.5YR1.7/1 黑色シルトを斑状に少量含む。しまる。)

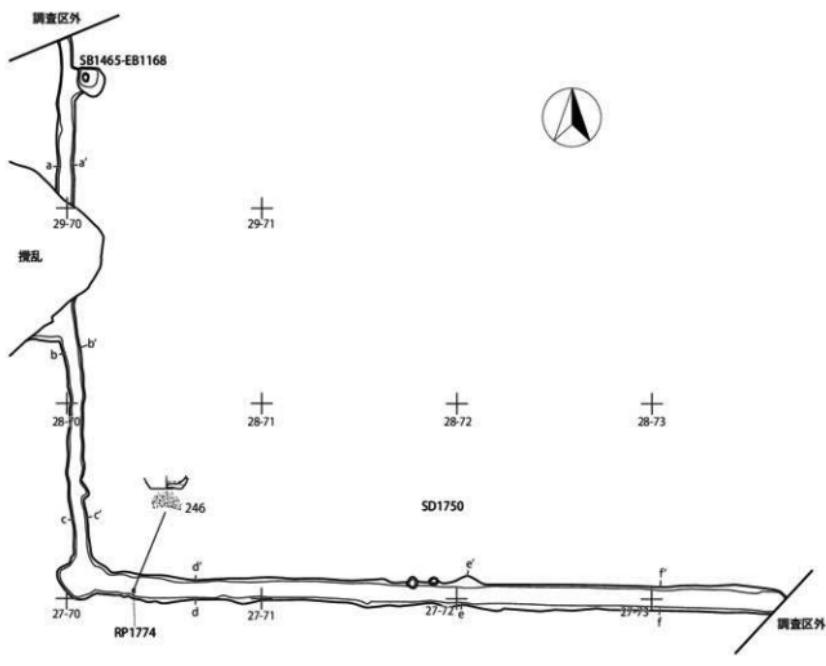
SP1854

- 7.5YR2/1 黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)
- 2.5YR3/2 黑褐色シルト (2.5YR3/2 黑褐色シルト、10YR8/8 黄褐色砂質シルト、7.5YR2/1 黑色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

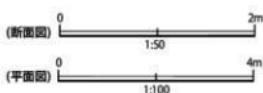
**SD1062**

- 7.5YR2/1 黒色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

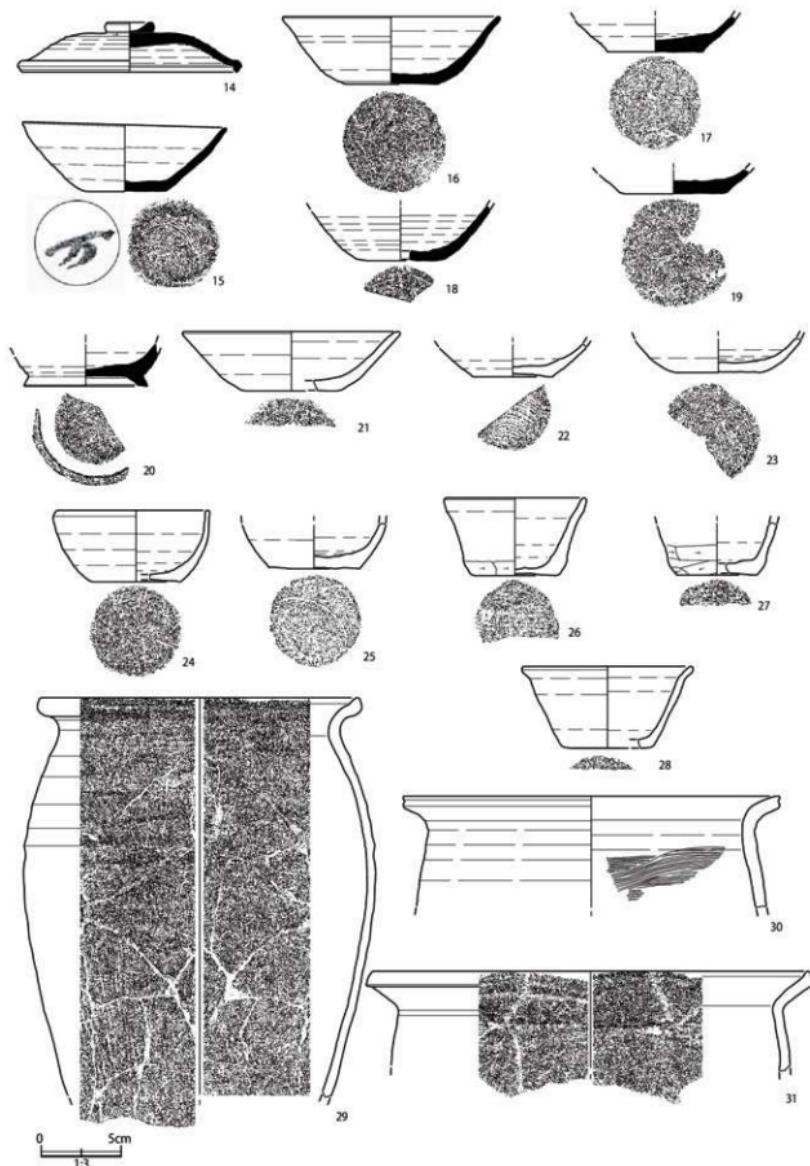


**SD1750**

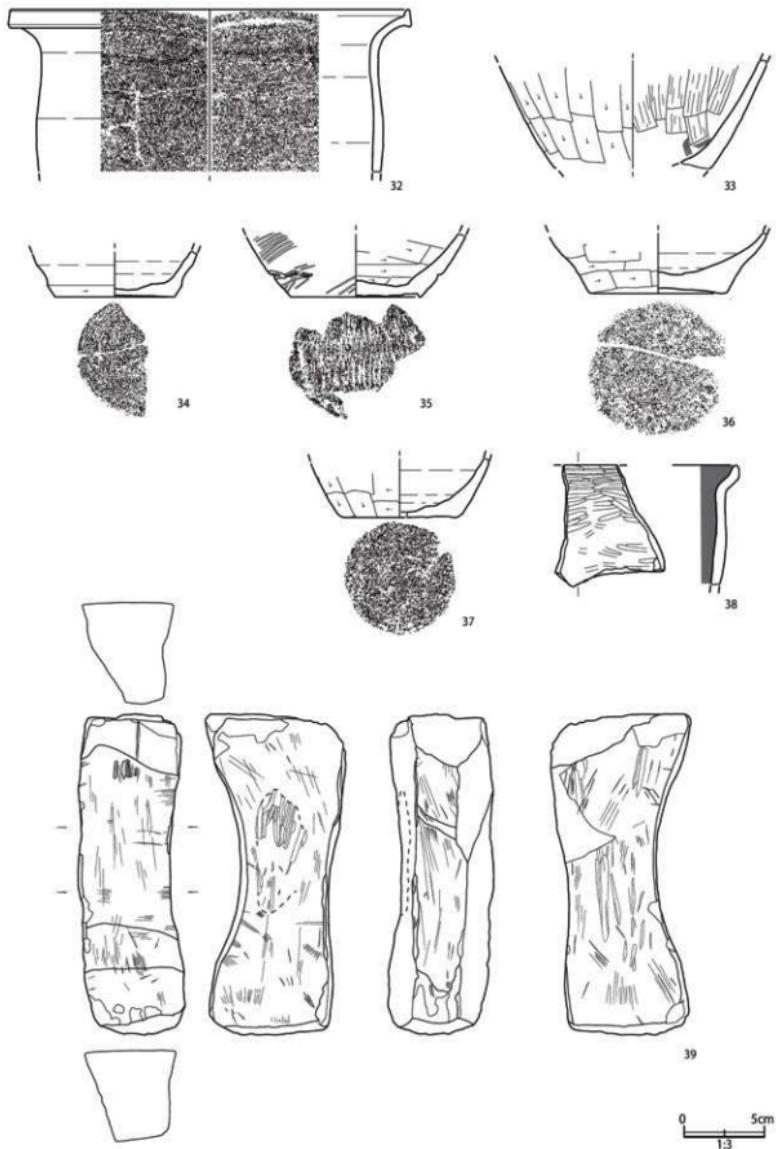
1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを小ブロック状に微量含む。しまりなし。）
2. 7.5YR4/1 褐灰色シルト（10YR8/8 黄褐色砂質シルトを大ブロック状に多量含む。しまる。）



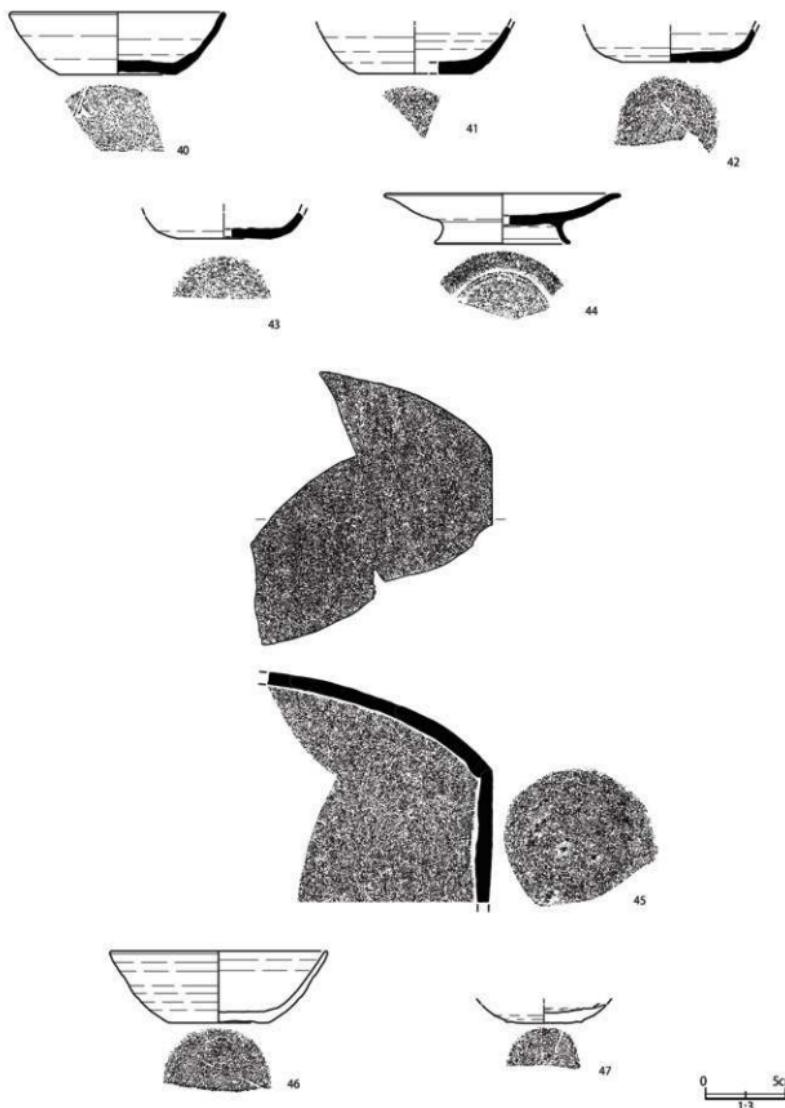
第 61 図 SD1750



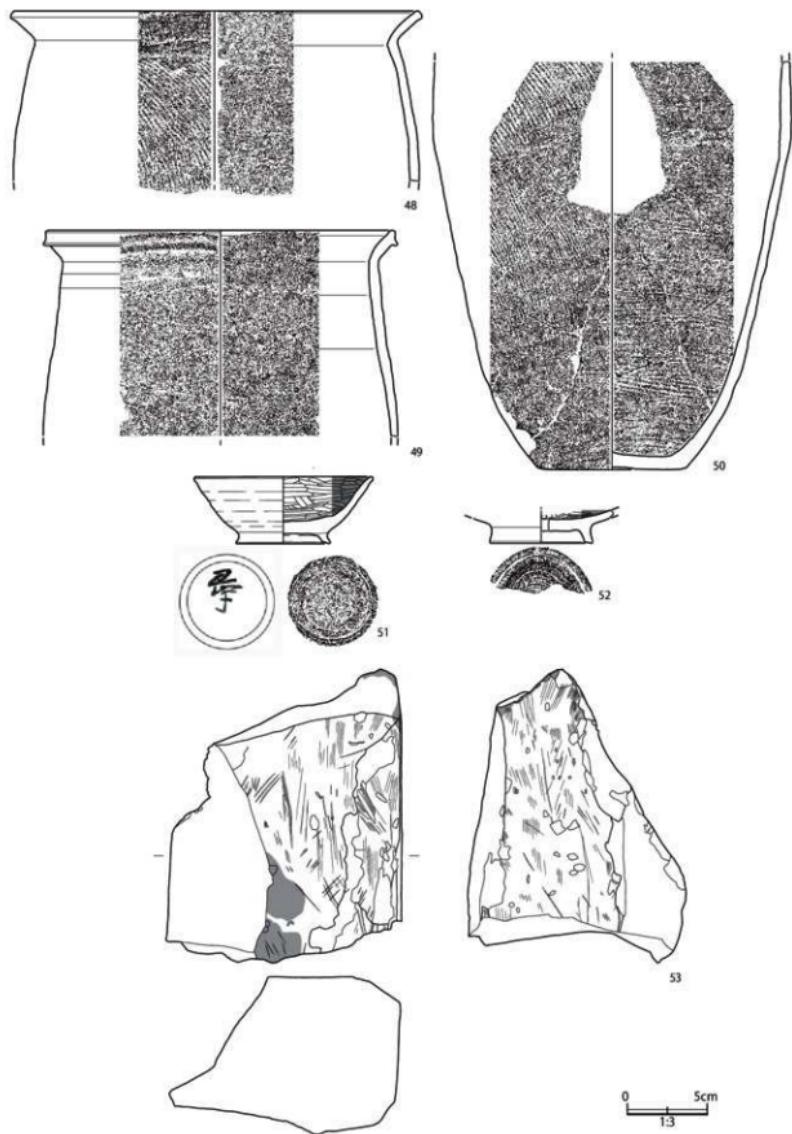
第62図 ST1818出土遺物(1)



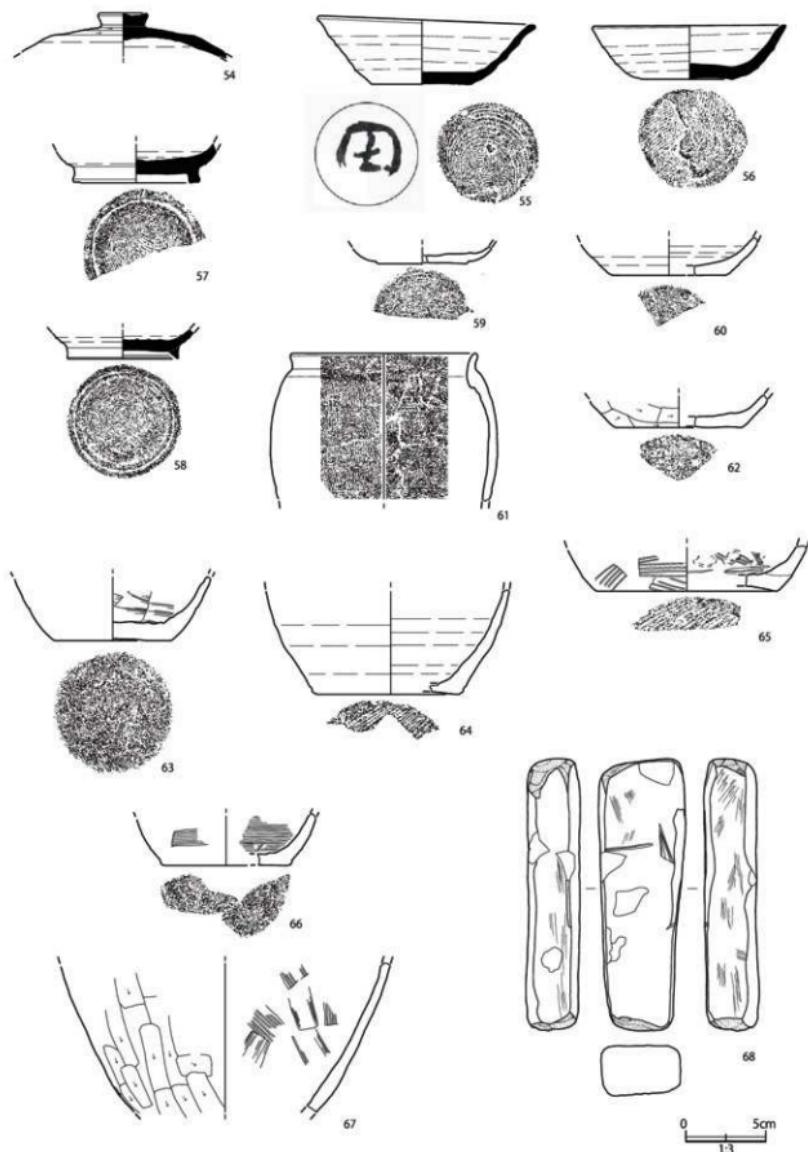
第63図 ST1818出土遺物(2)



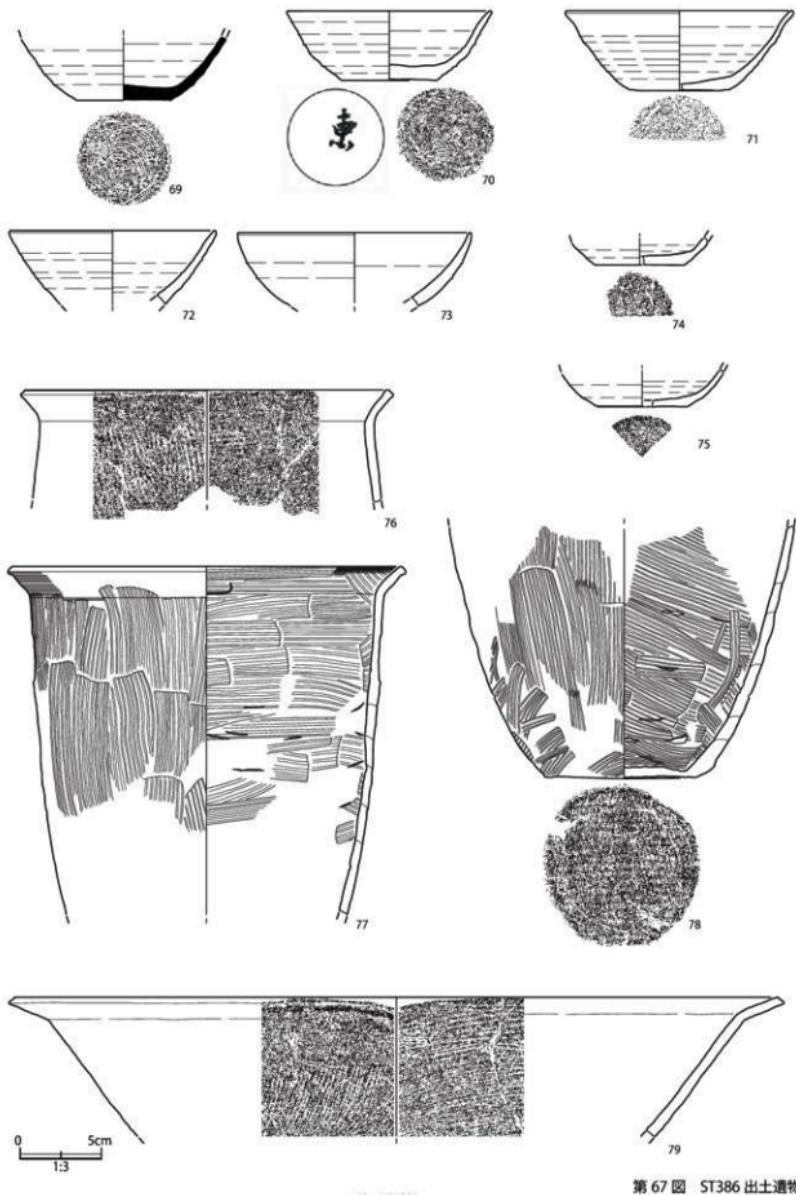
第64図 ST381出土遺物(1)



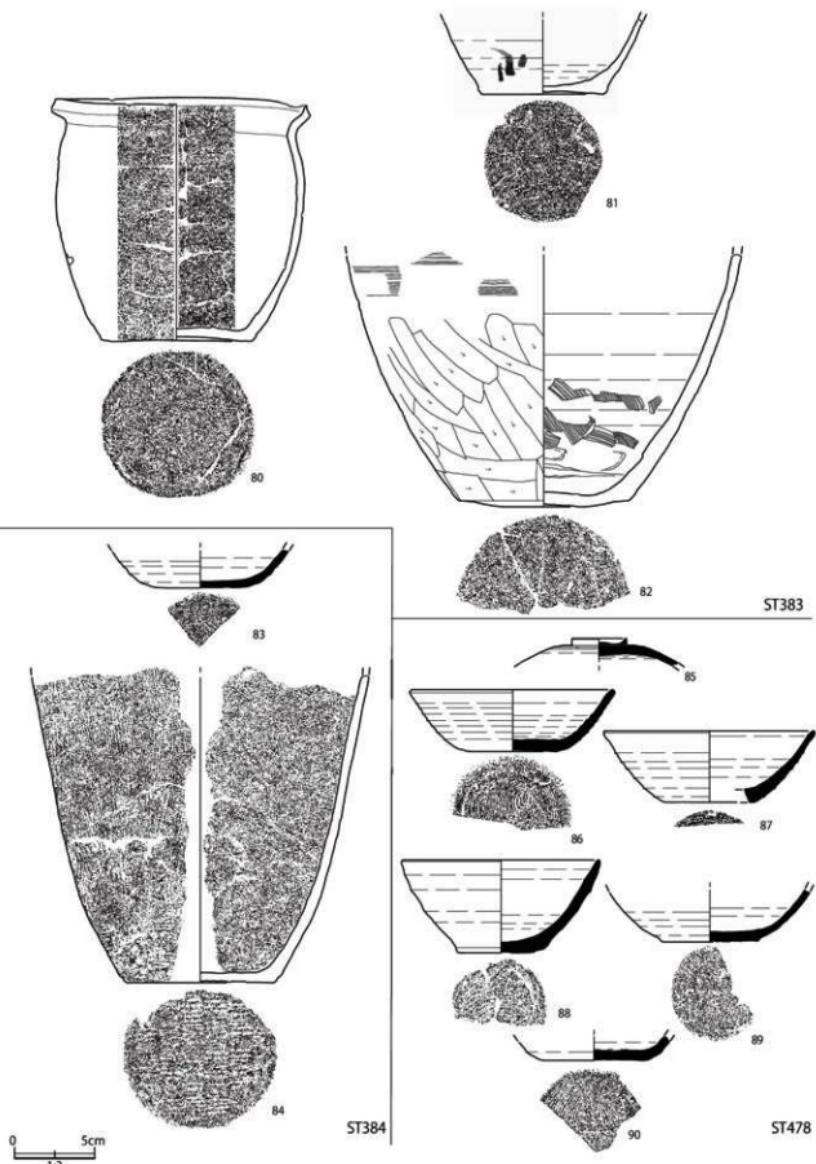
第65図 ST381出土遺物(2)



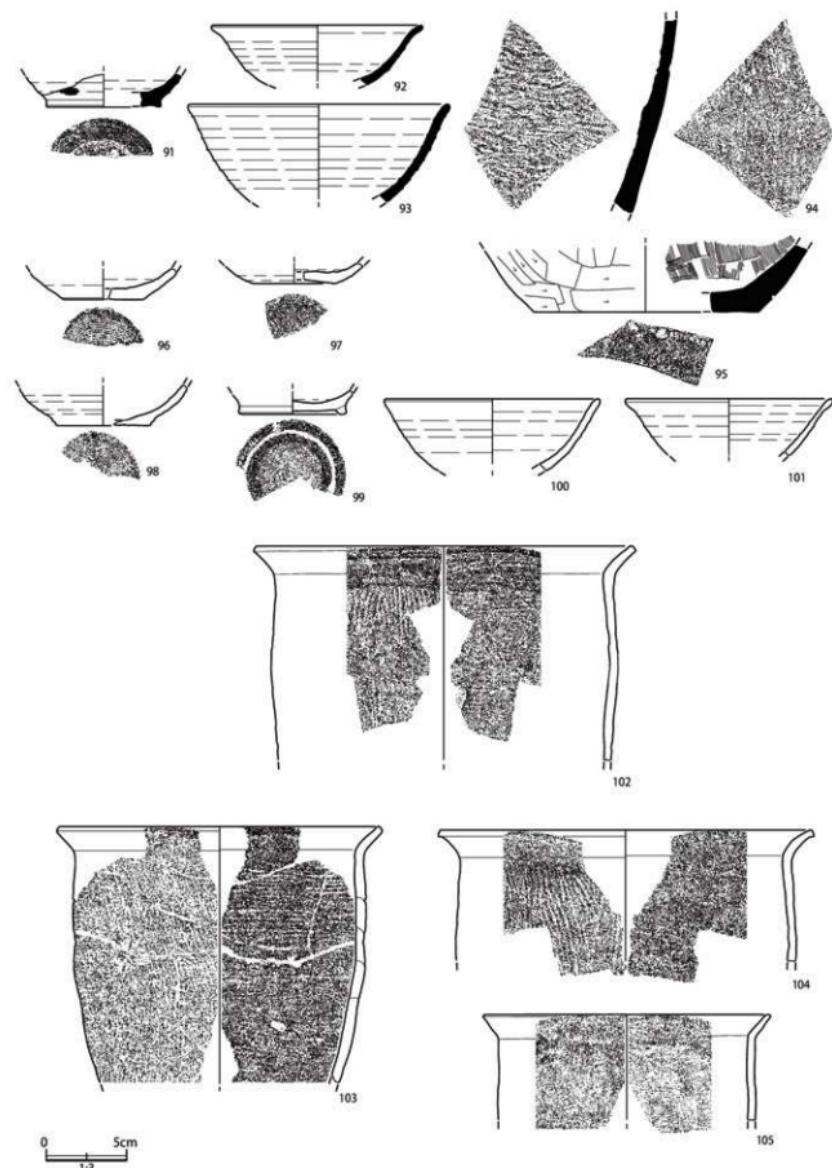
第66図 ST382出土遺物



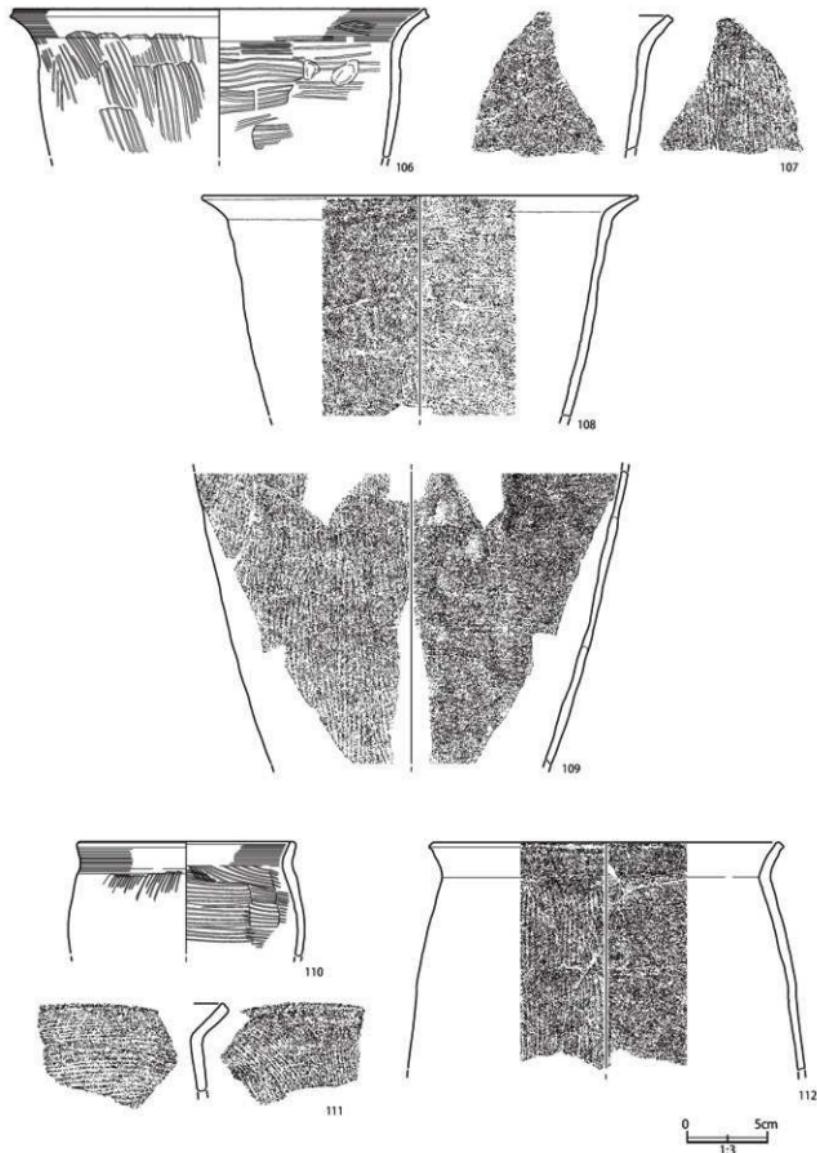
第 67 図 ST386 出土遺物



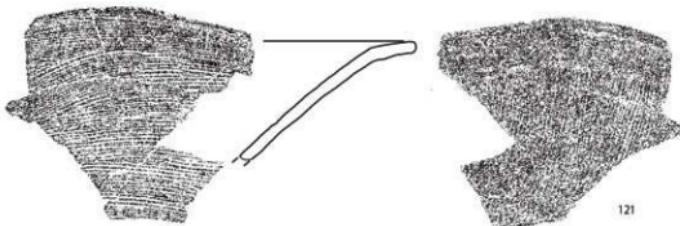
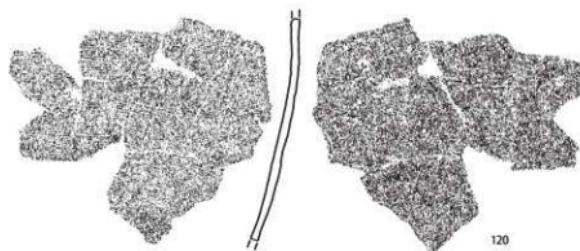
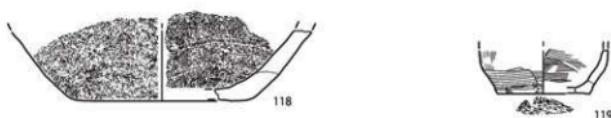
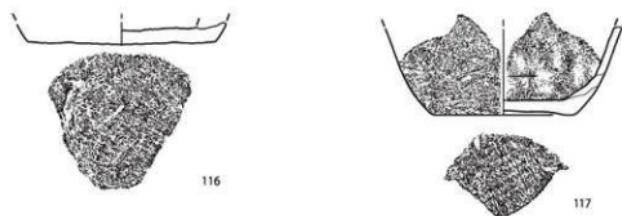
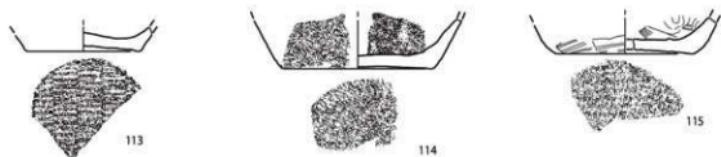
第68図 ST383・384出土遺物、ST478出土遺物（1）



第69図 ST478出土遺物(2)

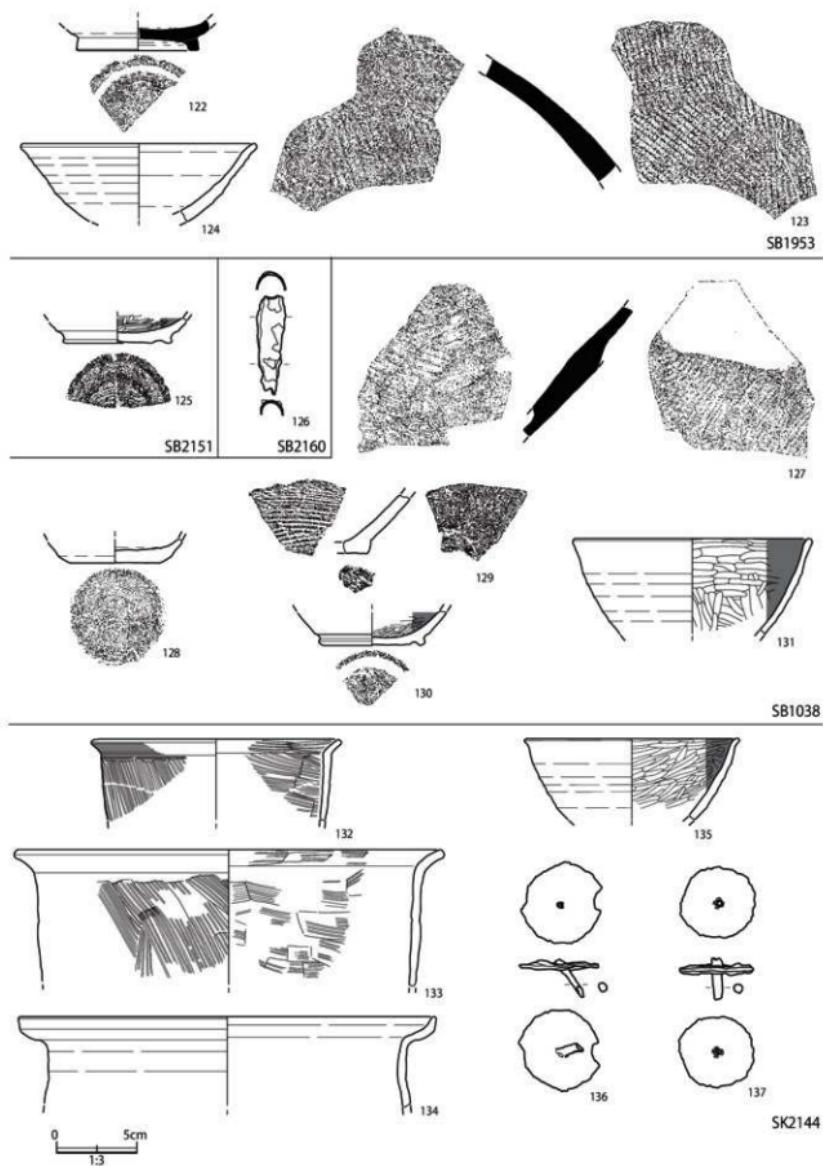


第70図 ST478出土遺物(3)

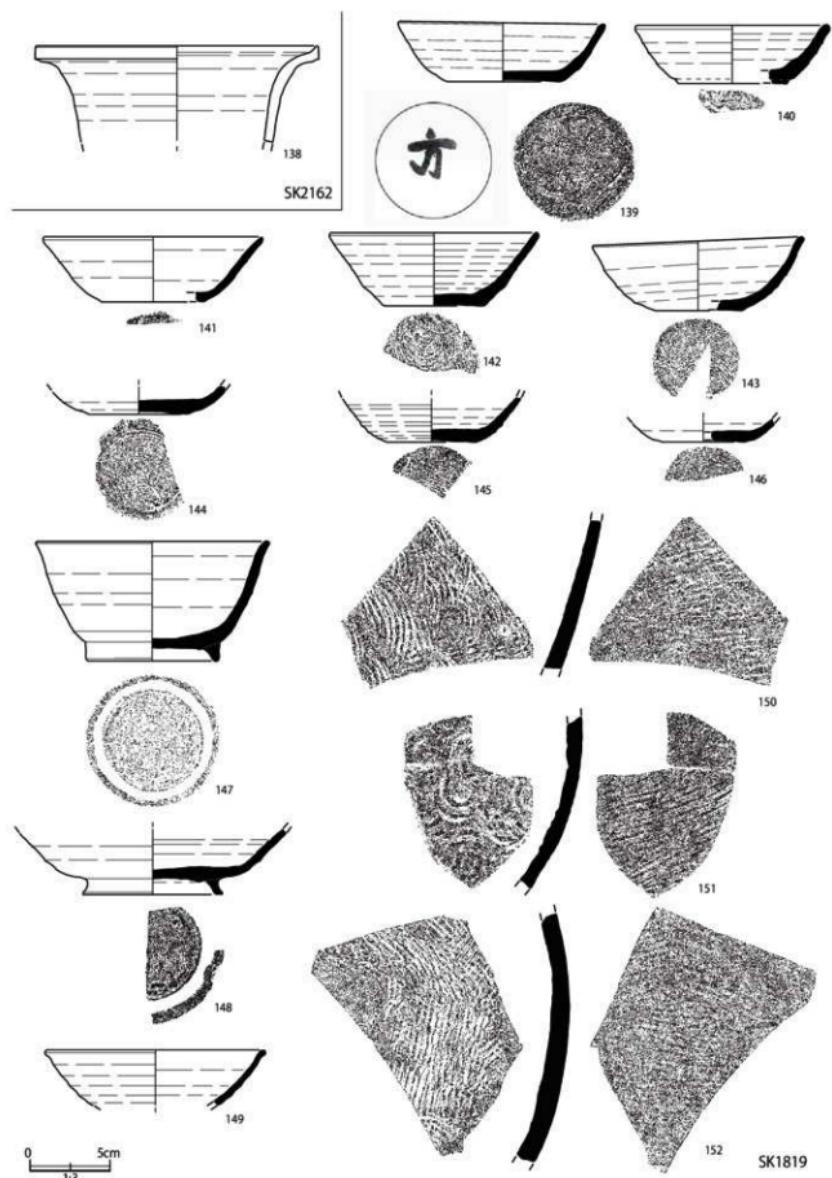


0
5cm
13

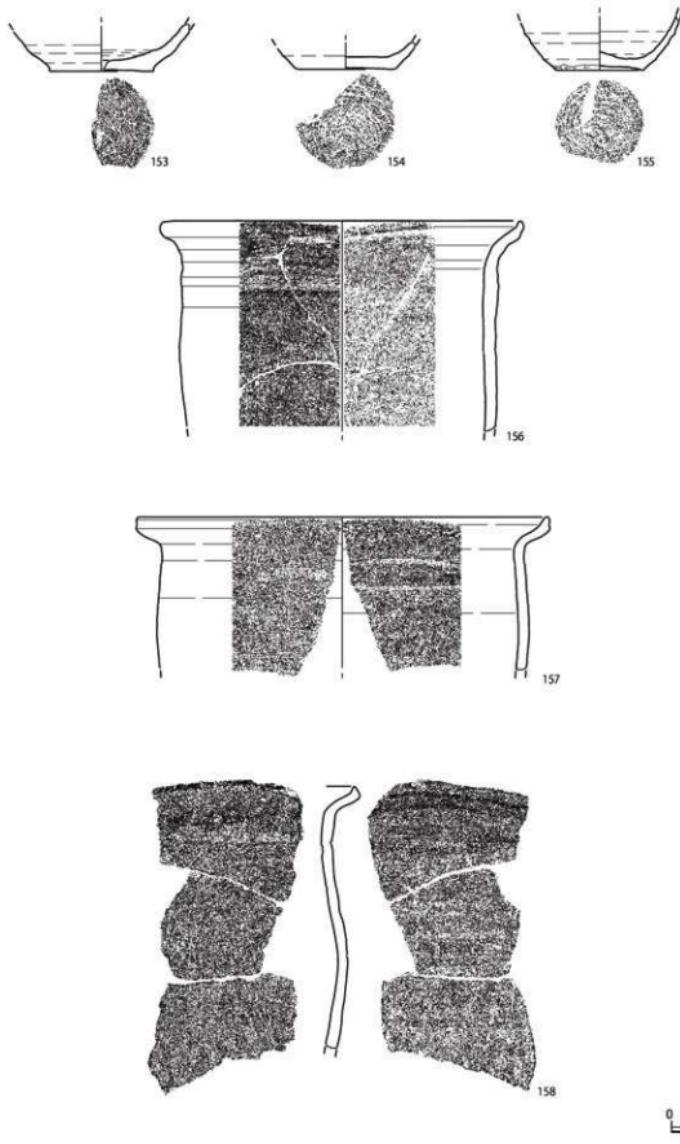
第71図 ST478出土遺物(4)



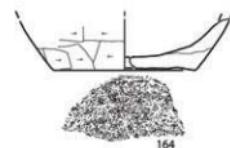
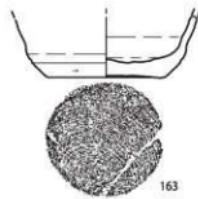
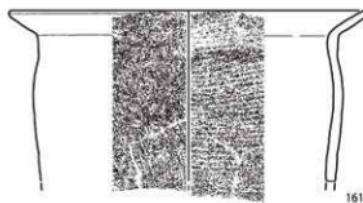
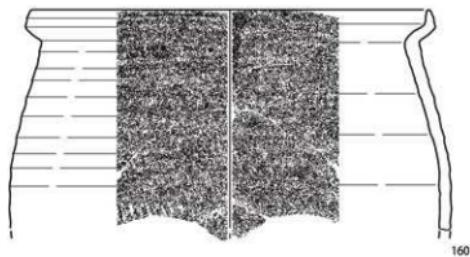
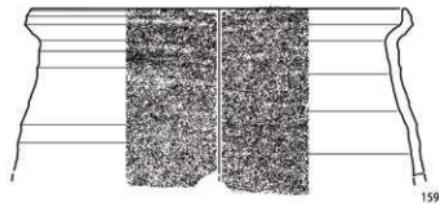
第72図 SB1953・2151・2160・1038、SK2144出土遺物



第73図 SK2162出土遺物、SK1819出土遺物(1)

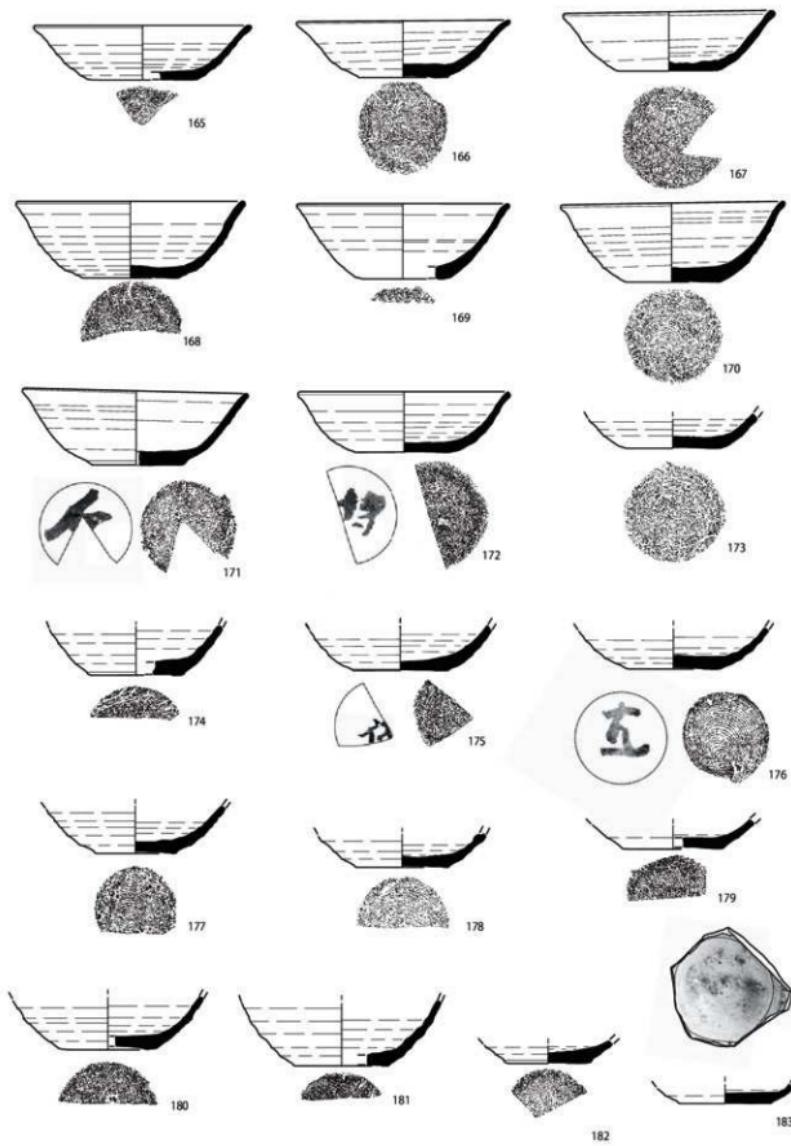


第74図 SK1819出土遺物(2)



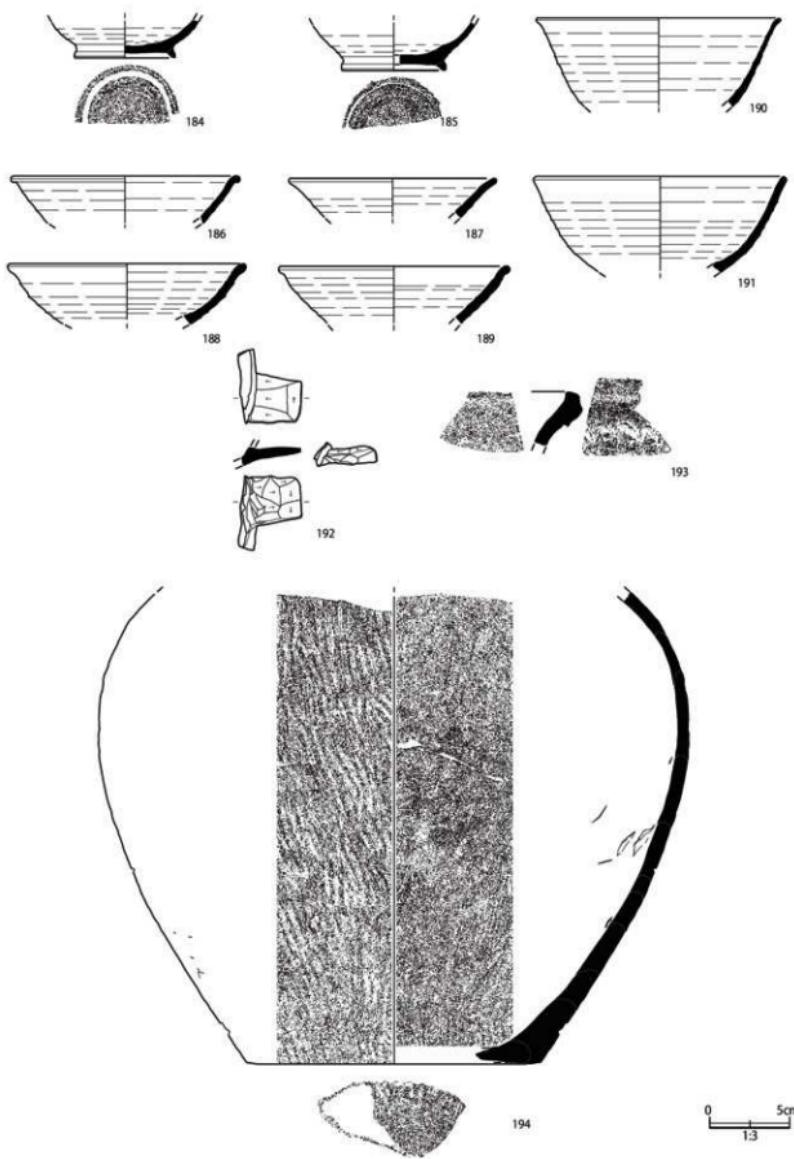
0 5cm
13

第75図 SK1819出土遺物(3)

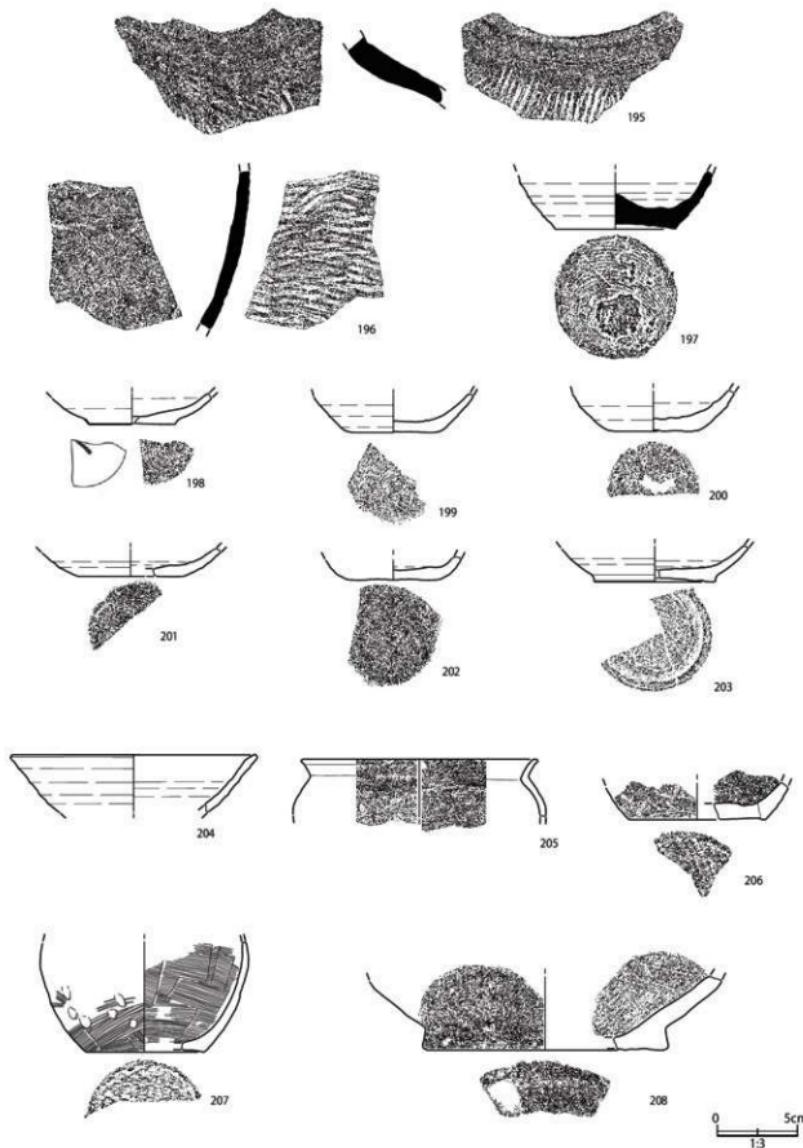


0
5cm
1:3

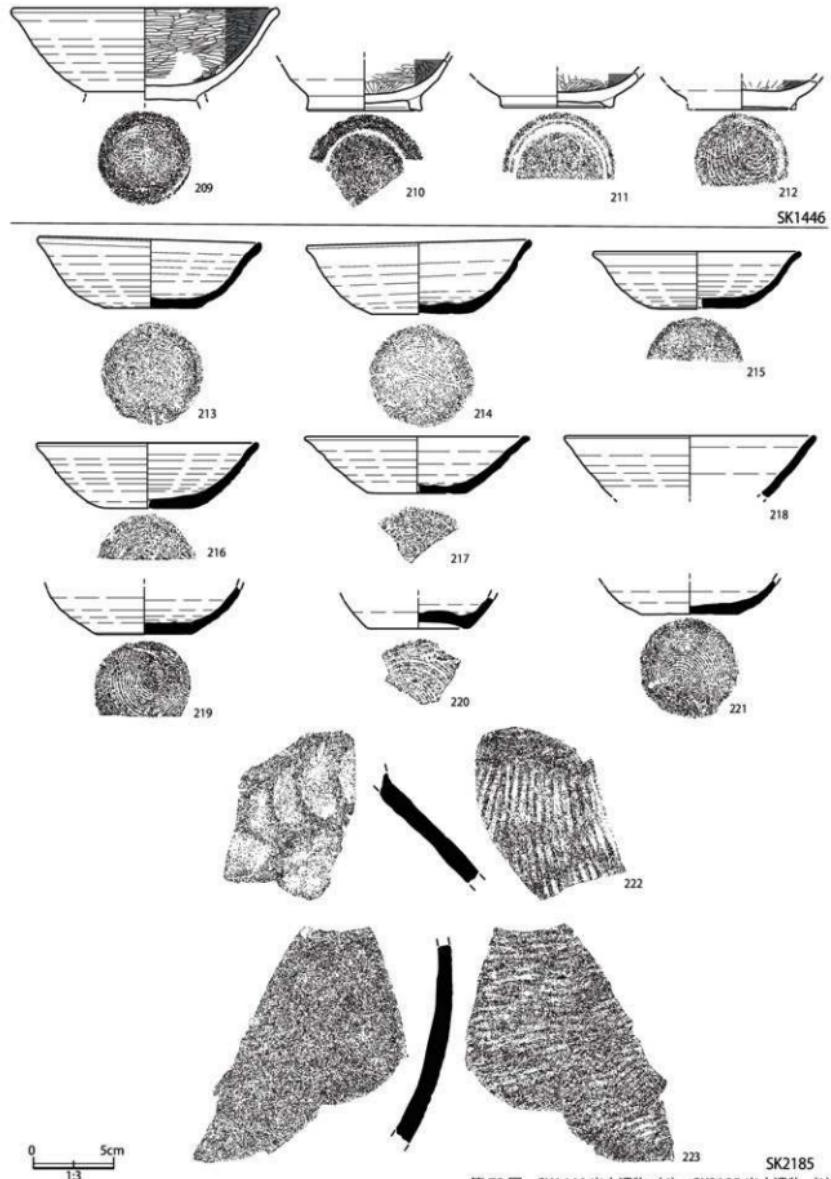
第76図 SK1446出土遺物(1)



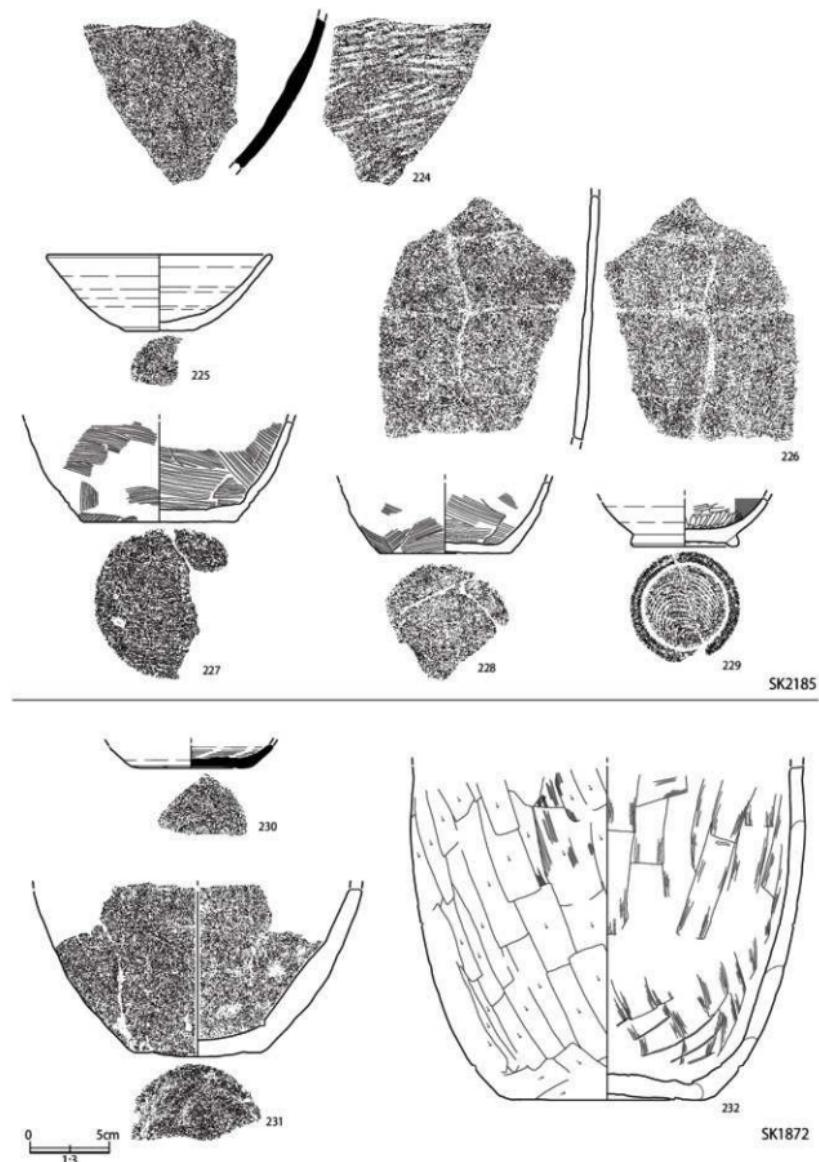
第77図 SK1446出土遺物(2)



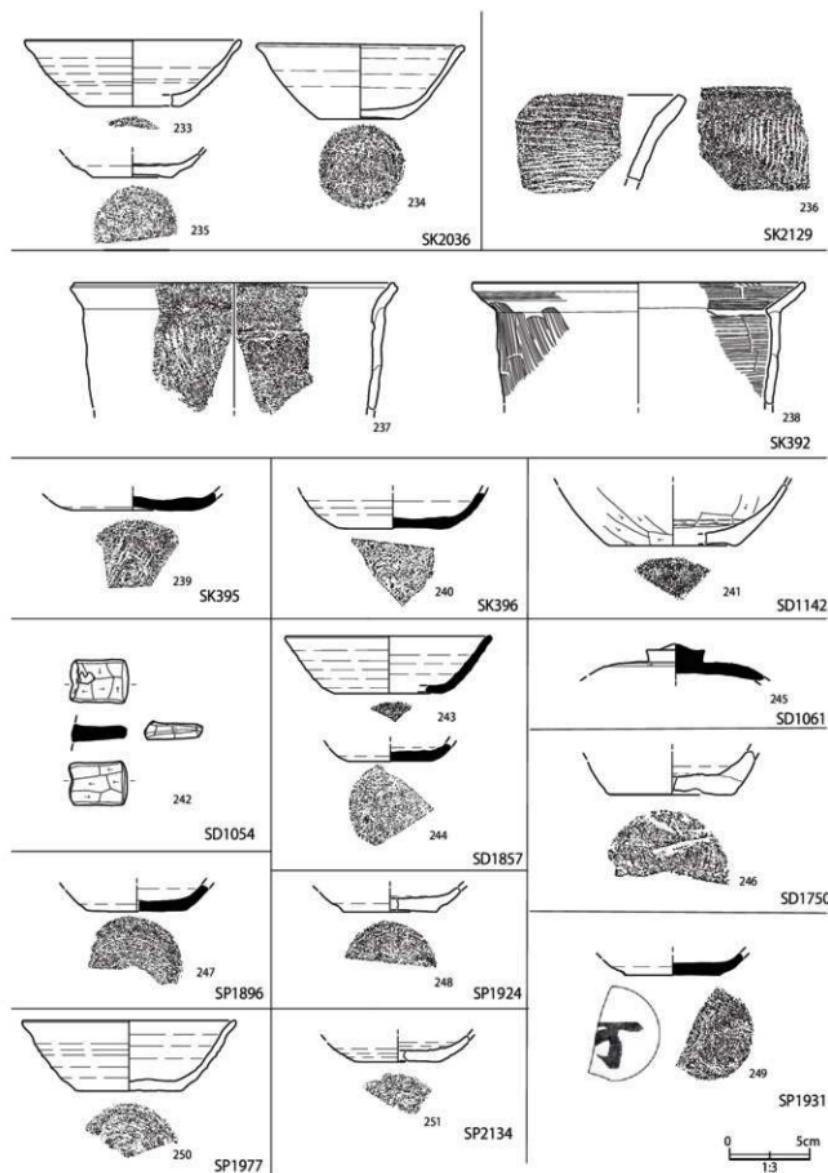
第78図 SK1446出土遺物(3)



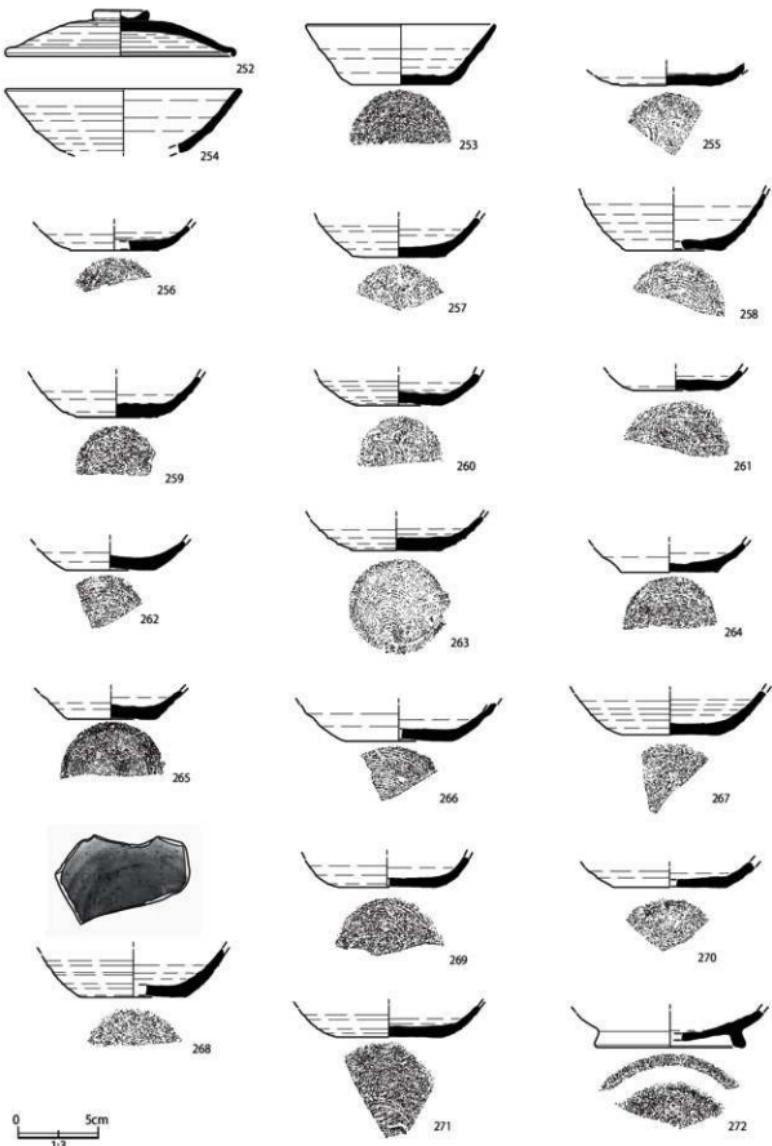
第79図 SK1446出土遺物(4)、SK2185出土遺物(1)



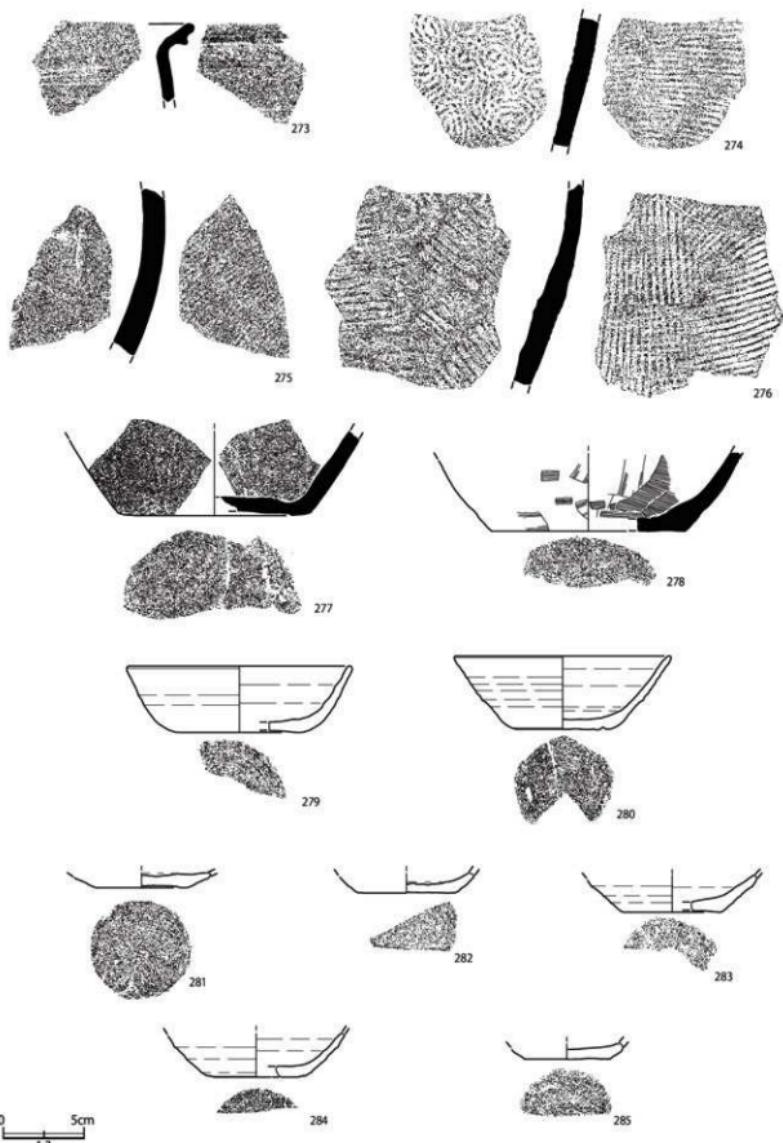
第80図 SK2185出土遺物(2)、SK1872出土遺物



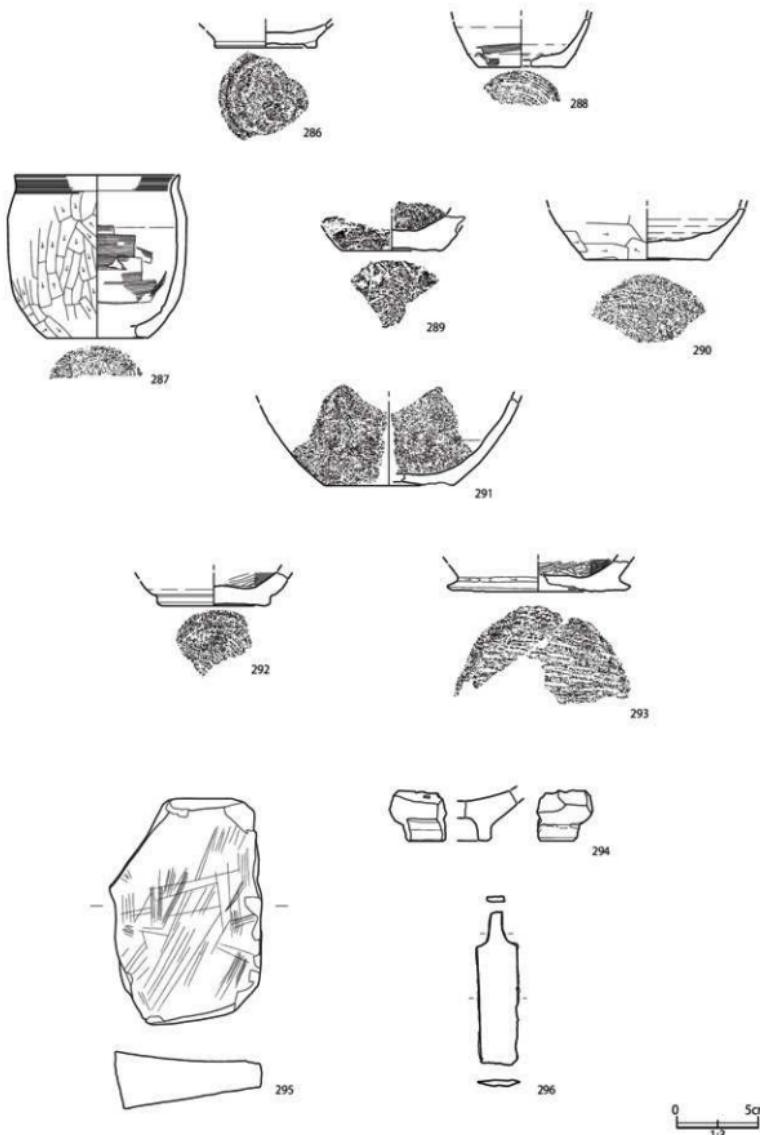
第 81 図 SK2036・2129・392・395・396、SD1142・1054・1857・1061・1750、SP 出土遺物



第82図 遺構外出土遺物（1）



第 83 図 遺構出土遺物 (2)



第 84 図 遺構外出土遺物 (3)

※掘立柱建物観察表注

位置：検出グリッド

長軸・短軸・深さ：() は残存値

規模：梁と桁の長さから算出

略図縮尺：1/200

構造：柱配置からの間取り

柱間寸法：m

柱痕跡：柱材の位置・あたり

表2 掘立柱建物観察表

遺構番号 SB1820		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>柱穴番号</th> <th>柱穴平面形</th> <th>柱痕跡</th> <th>長軸cm</th> <th>短軸cm</th> <th>深さcm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>EB 1981</td> <td>長方形</td> <td>○</td> <td>114</td> <td>60</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EB 1982</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>122</td> <td>78</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>EB 1983</td> <td>長方形</td> <td>○</td> <td>122</td> <td>52</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>EB 1980</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>88</td> <td>80</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>EB 1999</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>66</td> <td>54</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>EB 1987</td> <td>不整形</td> <td>×</td> <td>88</td> <td>72</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>EB 1979</td> <td>正方形</td> <td>○</td> <td>74</td> <td>68</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>EB 1984</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>100</td> <td>88</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>EB 1985</td> <td>長方形</td> <td>○</td> <td>92</td> <td>74</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm	1	EB 1981	長方形	○	114	60	26	2	EB 1982	不整形	○	122	78	28	3	EB 1983	長方形	○	122	52	30	4	EB 1980	楕丸形	○	88	80	20	5	EB 1999	楕丸形	○	66	54	22	6	EB 1987	不整形	×	88	72	16	7	EB 1979	正方形	○	74	68	36	8	EB 1984	楕丸形	○	100	88	24	9	EB 1985	長方形	○	92	74	28							
No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm																																																																									
1	EB 1981	長方形	○	114	60	26																																																																									
2	EB 1982	不整形	○	122	78	28																																																																									
3	EB 1983	長方形	○	122	52	30																																																																									
4	EB 1980	楕丸形	○	88	80	20																																																																									
5	EB 1999	楕丸形	○	66	54	22																																																																									
6	EB 1987	不整形	×	88	72	16																																																																									
7	EB 1979	正方形	○	74	68	36																																																																									
8	EB 1984	楕丸形	○	100	88	24																																																																									
9	EB 1985	長方形	○	92	74	28																																																																									
遺構番号 SB1953		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>柱穴番号</th> <th>柱穴平面形</th> <th>柱痕跡</th> <th>長軸cm</th> <th>短軸cm</th> <th>深さcm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>EB 1957</td> <td>長方形</td> <td>○</td> <td>90</td> <td>64</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EB 1958</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>70</td> <td>52</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>EB 1959</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>102</td> <td>60</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>EB 1962</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>96</td> <td>90</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>EB 2124</td> <td>楕円形</td> <td>○</td> <td>(64)</td> <td>50</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>EB 2126</td> <td>不明</td> <td>○</td> <td>98</td> <td>—</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>EB 2127</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>(62)</td> <td>60</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>EB 1955</td> <td>正方形</td> <td>○</td> <td>72</td> <td>68</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>EB 1956</td> <td>長方形</td> <td>○</td> <td>72</td> <td>54</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm	1	EB 1957	長方形	○	90	64	56	2	EB 1958	不整形	○	70	52	28	3	EB 1959	不整形	○	102	60	22	4	EB 1962	不整形	○	96	90	60	5	EB 2124	楕円形	○	(64)	50	24	6	EB 2126	不明	○	98	—	42	7	EB 2127	楕丸形	○	(62)	60	22	8	EB 1955	正方形	○	72	68	60	9	EB 1956	長方形	○	72	54	22							
No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm																																																																									
1	EB 1957	長方形	○	90	64	56																																																																									
2	EB 1958	不整形	○	70	52	28																																																																									
3	EB 1959	不整形	○	102	60	22																																																																									
4	EB 1962	不整形	○	96	90	60																																																																									
5	EB 2124	楕円形	○	(64)	50	24																																																																									
6	EB 2126	不明	○	98	—	42																																																																									
7	EB 2127	楕丸形	○	(62)	60	22																																																																									
8	EB 1955	正方形	○	72	68	60																																																																									
9	EB 1956	長方形	○	72	54	22																																																																									
遺構番号 SB2151		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>柱穴番号</th> <th>柱穴平面形</th> <th>柱痕跡</th> <th>長軸cm</th> <th>短軸cm</th> <th>深さcm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>EB 1923</td> <td>楕円形</td> <td>○</td> <td>96</td> <td>70</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EB 1922</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>70</td> <td>56</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>EB 2119</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>54</td> <td>50</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>EB 2120</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>70</td> <td>58</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>EB 2121</td> <td>楕円形?</td> <td>×</td> <td>(150)</td> <td>(50)</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm	1	EB 1923	楕円形	○	96	70	16	2	EB 1922	楕丸形	○	70	56	36	3	EB 2119	不整形	○	54	50	28	4	EB 2120	不整形	○	70	58	22	5	EB 2121	楕円形?	×	(150)	(50)	40																																			
No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm																																																																									
1	EB 1923	楕円形	○	96	70	16																																																																									
2	EB 1922	楕丸形	○	70	56	36																																																																									
3	EB 2119	不整形	○	54	50	28																																																																									
4	EB 2120	不整形	○	70	58	22																																																																									
5	EB 2121	楕円形?	×	(150)	(50)	40																																																																									
遺構番号 SB2152		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>柱穴番号</th> <th>柱穴平面形</th> <th>柱痕跡</th> <th>長軸cm</th> <th>短軸cm</th> <th>深さcm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>EB 1919</td> <td>楕円形</td> <td>○</td> <td>64</td> <td>52</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EB 1913</td> <td>楕円形</td> <td>○</td> <td>72</td> <td>56</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>EB 2153</td> <td>楕丸形</td> <td>×</td> <td>66</td> <td>54</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>EB 1893</td> <td>楕丸形</td> <td>×</td> <td>54</td> <td>46</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>EB 1892</td> <td>不整形</td> <td>×</td> <td>54</td> <td>48</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>EB 1891</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>68</td> <td>54</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>EB 1914</td> <td>正方形</td> <td>○</td> <td>54</td> <td>56</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>EB 1916</td> <td>不整形</td> <td>○</td> <td>76</td> <td>72</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>EB 1917</td> <td>楕円形</td> <td>×</td> <td>66</td> <td>56</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>EB 1918</td> <td>楕丸形</td> <td>○</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm	1	EB 1919	楕円形	○	64	52	14	2	EB 1913	楕円形	○	72	56	18	3	EB 2153	楕丸形	×	66	54	32	4	EB 1893	楕丸形	×	54	46	6	5	EB 1892	不整形	×	54	48	26	6	EB 1891	不整形	○	68	54	20	7	EB 1914	正方形	○	54	56	22	8	EB 1916	不整形	○	76	72	18	9	EB 1917	楕円形	×	66	56	20	10	EB 1918	楕丸形	○	50	50	14
No	柱穴番号	柱穴平面形	柱痕跡	長軸cm	短軸cm	深さcm																																																																									
1	EB 1919	楕円形	○	64	52	14																																																																									
2	EB 1913	楕円形	○	72	56	18																																																																									
3	EB 2153	楕丸形	×	66	54	32																																																																									
4	EB 1893	楕丸形	×	54	46	6																																																																									
5	EB 1892	不整形	×	54	48	26																																																																									
6	EB 1891	不整形	○	68	54	20																																																																									
7	EB 1914	正方形	○	54	56	22																																																																									
8	EB 1916	不整形	○	76	72	18																																																																									
9	EB 1917	楕円形	×	66	56	20																																																																									
10	EB 1918	楕丸形	○	50	50	14																																																																									

遺構番号 SB1038

図版番号 第42・47～50図

位 置 35°38'60"・61

主軸方位 N-0° 18' 14" -W

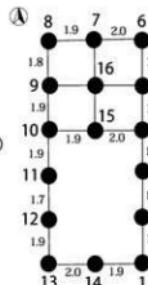
規 模 35.88 m

(側柱 21.45 m・総柱 14.43 m)

構 造 2×5間

(側柱3間+総柱2間)

備 考 SB2186→SB1038→SB2176



No	柱穴 番号	柱 穴 平面形	柱 直跡	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	EB 1209	正方形	○	110	106	52
2	EB 1430	長方形	○	96	82	66
3	EB 1937	長方形	○	90	66	54
4	EB 1936	円形	○	70	64	50
5	EB 1935	長方形	○	70	60	48
6	EB 1934	正方形	○	64	60	42
7	EB 1933	楕丸方形	○	74	62	48
8	EB 1932	不整形	○	70	70	40
9	EB 1944	不整形	○	66	64	48
10	EB 1943	楕丸方形	○	82	70	46
11	EB 1942	長方形	○	100	82	42
12	EB 1940	正方形	○	68	66	52
13	EB 2140	正方形	○	90	88	52
14	EB 1429	正方形	○	88	84	52
15	EB 1947	楕丸方形	○	60	50	46
16	EB 2115	不整形	○	82	52	20

遺構番号 SB1697

図版番号 第51～53図

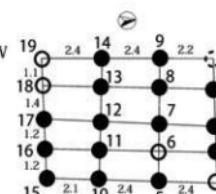
位 置 33°35'77"・78

主軸方位 N-82° 26' 24" -W

規 模 34.40 m

構 造 3×4間(総柱)

備 考



No	柱穴 番号	柱 穴 平面形	柱 直跡	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	EB 1678	椭円形	×	62	60	12
2	EB 1679	椭円形	○	53	40	10
3	EB 1675	不整形	○	40	28	16
4	EB 1680	椭丸方形	○	52	46	16
5	EB 1686	円形	○	60	56	16
6	EB 1685	椭円形	×	48	44	14
7	EB 1684	円形	○	50	44	14
8	EB 1683	長方形	○	64	50	20
9	EB 1682	椭丸方形	○	50	50	10
10	EB 1687	円形	○	56	50	26
11	EB 1688	椭丸方形	○	54	50	16
12	EB 1689	椭丸方形	○	52	50	12
13	EB 1690	円形	○	50	48	12
14	EB 1691	椭円形	○	60	48	14
15	EB 1696	不整形	○	38	28	14
16	EB 1695	椭丸方形	○	60	52	18
17	EB 1694	不整形	○	34	30	16
18	EB 1693	正方形	×	50	46	16
19	EB 1692	椭円形	×	50	48	12

遺構番号 SB469

図版番号 第54図

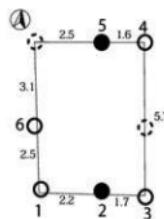
位 置 12°13'62"・63

主軸方位 N-10° 59' 02" -W

規 模 22.60 m

構 造 2×2間

備 考



No	柱穴 番号	柱 穴 平面形	柱 直跡	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1	EB 466	円形	×	46	40	20
2	EB 647	椭円形	○	46	36	24
3	EB 468	椭丸方形	×	40	36	32
4	EB 460	不整形	×	40	38	38
5	EB 459	不整形	○	46	30	50
6	EB 390	椭円形	×	52	42	50

表3 遺物観察表

掲番号	遺物番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土地点	登録番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
	1	圓文	深鉢			8		部位・体部 文様・沈線(太)	XO		早期 (田)下層式併行)
	2	圓文	深鉢			9.5		部位・体部 文様・平行沈線・ 爪形状刻文	XO		早期 (田)下層式併行)
16	3	圓文	深鉢			9		部位・体部 文様・格子状沈線文	XO		早期(田)下層式or三 戸式 併行・尖底
	4	圓文	深鉢			9		部位・口縁部 地文・圓文LR	XO		晩期
	5	石器	石鍬カ	長 (37)	幅 33	厚 4	重量 50g	石材・珪質岩	XO		下部欠損 未製品
	6	石器	石鍬カ	長 30	幅 18	厚 5	重量 2.5g	石材・珪質岩	D区 50-T2G		未製品
17	7	石器	石匙	長 (37)	幅 27	厚 6	重量 6.5g	石材・珪質岩	D区 ST1818		未製品
	8	石器	石匙	長 65	幅 40.5	厚 11	重量 35.5g	石材・珪質岩	XO		未製品 左右の刃間に刃溝し
	9	石器	削器	長 32	幅 31	厚 8	重量 6.5g	石材・珪質岩	D区 XO		未製品
	10	石器	磨製石斧	長 (62)	幅 44	厚 13	重量 74.5g	石材・粘板岩	XO		基部
18	11	石製品	磨石	長 127	幅 63	厚 42	重量 518.5g	石材・安山岩	G区 ST382	RQ172	磨面3面
	12	石製品	凹石	長 65	幅 53	厚 40	重量 132.0g	石材・凝灰岩	XO		表面に凹
	13	石製品	敲石カ	長 133	幅 54	厚 33	重量 402.5g	石材・安山岩	D区 SK1819		上下に敲痕 タル?付着
	14	須恵器	蓋	(132)	30	4		外面部・口クロ 内面部・口クロ	D区 ST1818	RP1807	
19	15	須恵器	無台环	126	52	41	5	底面部・回転系切 外面部・口クロ	D区 ST1818	RP1789	底部墨書「万カ」
	16	須恵器	無台环	134	62	42	4	底面部・回転系切 外面部・口クロ	D区 ST1818-B EL2183		焼成不良
	17	須恵器	無台环		60		4	底面部・回転系切 外面部・口クロ	D区 ST1818-B EL2183		焼成不良
	18	須恵器	無台环	(52)		4		底面部・回転系切 外面部・口クロ	D区 ST1818		焼成不良 内外面火だしき痕
20	19	須恵器	無台环		64		4	底面部・回転系切 外面部・口クロ	D区 ST1818		
	20	須恵器	有台环		76		7	底面部・回転系切・高台 外面部・口クロ	D区 ST1818		
	21	土師器	無台环	(134)	62	36	5	内面部・口クロ 底面部・不明	D区 ST1818		
	22	土師器	無台环		(50)		4	内面部・口クロ 底面部・回転系切	D区 ST1818		
23	23	土師器	無台环		60		5	内面部・口クロ 底面部・回転系切	D区 ST1818		
	24	土師器	無台环	97	54	44	4	内面部・口クロ 底面部・回転系切	D区 ST1818		
	25	土師器	無台环		56		4	内面部・口クロ 底面部・回転系切・ナデ	D区 ST1818	RP1788	二次焼成有 外面部剥落 内面部剥落
	26	土師器	小型鉢	(88)	50	48	5	内面部・口クロ 底面部・ケズリ・棒状工具のナデ	D区 ST1818		外面下部へラヶズリ
27	27	土師器	小型鉢?	(50)		5		内面部・口クロ 底面部・ケズリ?	D区 ST1818		
	28	土師器	小型鉢	(105)	(54)	51	4	内面部・口クロ 底面部・不明	D区 ST1818		
	29	土師器	甕	(200)			5	内面部・ハゲ・ケズリ・ナデ	D区 ST1818	RP1787	二次焼成? 内外面剥落
	30	土師器	甕	228			7	内面部・口クロ 底面部・口クロ・ハケ	D区 ST1818-B EL2183		
31	31	土師器	甕	(268)			6	内面部・ナデ	D区 ST1818		二次焼成有 内外面剥落

擇区 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
	32	土師器	甕	246		6		外面-ロクロ 内面-ロクロ	D区 ST1818		
	33	土師器	甕			5		外面-ケズリ 内面-ハサ・ヘラナデ	ST1818- EL2183		
	34	土師器	甕	(73)		5		外面-ロクロ・ケズリ 内面-ロクロ 底部-回転切	D区 ST1818		外面下部回転ヘラケズ リ
	35	土師器	甕		80	6		外面-ケズリ 底部-側代	D区 ST1818		
63	36	土師器	甕		84	7		外面-ケズリ? 底部-ケズリ	D区 ST1818	RP1808	二次焼成有 内外面剥落
	37	土師器	甕		70	6		外面-ロクロ 底部-ケズリ・ナデ	D区 ST1818		
	38	黑色土器	甕			6		外面-ロクロ 内面-ミキキ	D区 ST1818		内面黒色処理 二次焼成有
	39	石製品	砥石	長 196	幅 57	厚 62	重量 1230.0g	石材-細粒凝灰岩	D区 ST1818	RQ1806	砥面 4面
	40	須恵器	無台环	(133)	(72)	39	5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	41	須恵器	無台环		(70)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	42	須恵器	無台环		(60)		3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	43	須恵器	無台环		(58)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	44	須恵器	有台皿	(146)	(84)	31	4	内面-ロクロ 底部-回転切・高台	G区 ST381		全体に自然釉
	45	須恵器	横版			8		外面-ロクロ	G区 ST381	RP170	外面一部自然釉
	46	土師器	無台环	(134)	(62)	44	3	内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	47	土師器	無台环		(47)		4	内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST381		
	48	土師器	甕	(253)		6		内面-ハサ・ナデ	G区 ST381		内面の一部に撥付着
	49	土師器	甕	(216)		6		内面-ミキキ 外面-ロクロ・ケズリ	G区 ST381		
	50	土師器	甕		92			内面-ハサ・ナデ 底部-側代	G区 ST381	RP171	二次焼成有 外面撥付着
65	51	黑色土器	有台环	(110)	58	41	4	内面-ミキキ 底部-高台	G区 ST381		内面黒色処理 底部墨書「辻子」
	52	黑色土器	有台环		(62)		4	内面-ミキキ 底部-回転系切	G区 ST381		内面黒色処理
	53	石製品	砥石	長 181	幅 134	厚 96	重量 2670.0g	石材-凝灰岩	G区 ST381	RQ167	表面は自然剥離 砥面 2面
	54	須恵器	蓋			5		外面-ロクロ 内面-ロクロ 瓦挂-列輪系切	G区 ST382		
	55	須恵器	無台环	134	63	39	3	内面-ロクロ 底部-回転切	G区 ST382	RP173	底部墨書「III」
	56	須恵器	無台环	118	63	33	4	内面-ロクロ 底部-静系切	G区 ST382	RP174	外面口縁の一部に自然 釉
	57	須恵器	有台环		(76)		5	内面-ロクロ 底部-回転切・高台	G区 ST382		
	58	須恵器	有台环		68		4	内面-ロクロ 底部-回転系切 底部-静系切・高台	G区 ST382- EL482		
	59	土師器	無台环		(58)		3	内面-ロクロ 底部-回転系切	G区 ST382		
	60	土師器	無台环		(70)		5	内面-ロクロ 底部-回転系切	G区 ST382		
	61	土師器	甕		115		5	内面-ロクロ 底部-タヌキ・ナデ	G区 ST382		
	62	土師器	甕		(78)		5	内面-不明 底部-側代?	G区 ST382- EL482		内面剥落?

擇図 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
66	63	土師器	甕		72	6		外面・ケズリ・ナデ 内面・ヘラナデ 底部・ケズリ・ナデ	G区 ST382		
	64	土師器	甕		90	6		外面・口クロ 底部・口鋸切 底部・ハラ	G区 ST382- EL482	二次焼成有	
	65	土師器	甕	(112)		7		内面・ハケ 底部・削代	G区 ST382		内面指痕
	66	土師器	甕?		(80)	6		外面・ハケ 内面・ハケ 底部・不明	G区 ST382		
	67	土師器	甕			6		外面・ケズリ 内面・ハケ・ナデ	G区 ST382- EL482		
	68	石製品	砥石	長 168	幅 54	厚 31	重量 287.0g	石材・粗粒白色凝灰岩	G区 ST382- EP503	RQ179	全体に二次被熱 底面2面?
	69	須恵器	無台环		57	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST386	RP164	内面の一部に焼付着
67	70	土師器	無台环	(124)	58	42	4	内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST386	RP180	底部墨書き「東カ」
	71	土師器	無台环	(138)	(60)	48	3	内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST386	RP166	
	72	土師器	环	(126)			4	内面・口クロ 底部・口クロ	G区 ST386		二次焼成有 外面墨付着
	73	土師器	环		140		7	内面・口クロ 底部・口クロ	G区 ST386		二次焼成有
	74	土師器	無台环		(54)	4		内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST386		
	75	土師器	無台环		(54)	3		内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST386		
	76	土師器	甕	(225)		6		外面・ハケ 内面・ハケ	G区 ST386		二次焼成有 内外面墨付着
68	77	土師器	甕	(242)		5		外面・ハケ・ナデ 内面・ハケ・ナデ	G区 ST386	RP165	一次焼成有 外面墨付着
	78	土師器	甕		92	6		内面・ハケ 底部・削代	G区 ST386	RP162	外面墨付着
	79	土師器	鍋	(468)		7		内面・ハケ 外面・ハケ	G区 ST386		内外面墨付着
	80	土師器	甕	154	93	150	5	内面・ハケ・ナデ 底部・ハラ削り・ナデ 外面・口クロ	G区 ST383	RP159	
	81	土師器	甕		76	4		内面・口クロ 底部・ヘラ削り 外面・口クロ	G区 ST383		体部墨書き「□」 外下面下部ケズリ→ナデ
	82	土師器	甕		104	7		内面・ハケ・ナデ 底部・ケズリ 外面・口クロ	G区 ST383	RP160	
	83	須恵器	無台环		(58)	4		内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST384		
69	84	土師器	甕		92	5		内面・ハケ 底部・削代 外面・口クロ	G区 ST384	RP163	二次焼成有
	85	須恵器	蓋			3		内面・口クロ 天井・回転ヘラ削り 外面・口クロ	G区 ST478		切り離し回転系切
	86	須恵器	無台环	(126)	(60)	38	4	内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST478		口縁・体部歪み
	87	須恵器	無台环	(130)	(56)	44	4	内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST478		
	88	須恵器	無台环	(121)	(56)	57	5	内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST478		焼成不良 二次焼成有 外面墨付着
	89	須恵器	無台环		59	4		内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST478- EL483		内外面体部と外面上部 に自然隙
	90	須恵器	無台环		(62)	5		内面・口クロ 底部・回転系切 外面・口クロ	G区 ST478		外面上部に墨付着
69	91	須恵器	有台环		69	4		内面・口クロ 底部・回転系切・高台	G区 ST478		体部墨痕
	92	須恵器	环	(130)		4		内面・口クロ	G区 ST478		内面に墨付着

持団 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)			調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考
				口径	底径	器高				
	93	須恵器	环	(160)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ	G区 ST478		
	94	須恵器	甕		10		外面-平行タタキ 内面-平行アテ	G区 ST478- EL477		外面自然釉
	95	須恵器	甕	(138)	9		外面-ケズリ 内面-ハケ・ナデ 底部-ケズリ・ナデ?	G区 ST478- EL477		外面及び底部自然釉
	96	土師器	無台环	(50)	5		外面-ロクロ 底部-凹軋目切	G区 ST478		
	97	土師器	無台环	(52)	4		外面-ロクロ 底部-凹軋目切	G区 ST478- EL477		
	98	土師器	無台环	(58)	4		外面-ロクロ 底部-凹軋目切	G区 ST478- EL477		
69	99	土師器	有台环	63	3		内面-ロクロ 底部-凹軋目切-高台	G区 ST478		
	100	土師器	环	(130)	4		外面-ロクロ 内面-ロクロ	G区 ST478		
	101	土師器	环	(128)	4		外面-ロクロ 内面-ロクロ	D区 ST478- EL477		二次焼成有 内面埋付着
	102	土師器	甕	(234)	5		外面-ハケ・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL483		
	103	土師器	甕	(199)	6		外面-ハケ 内面-ハケ	G区 ST478- EL477		二次焼成あり 外面部剥落
	104	土師器	甕	(228)	5		外面-ハケ・ナデ 内面-ハク	G区 ST478- EL477		二次焼成有 内面剥落
	105	土師器	甕	(176)	5		外面-ハケ・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478		
	106	土師器	甕	(253)	5		外面-ハク・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL483		内面に指圧痕
	107	土師器	甕		6		外面-ハケ・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL477		
	108	土師器	甕	(268)	5		外面-ハケ 内面-ハケ	G区 ST478- EL483	RP178	
70	109	土師器	甕		4		外面-ハケ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL483		内面埋付着
	110	土師器	甕	(130)	4		外面-ハケ・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL483		二次焼成有 内面埋付着
	111	土師器	甕		7		外面-ハケ 内面-ハク	G区 ST478- EL483		
	112	土師器	甕	(216)	5		外面-ハク・ナデ 内面-ハク・ナデ	G区 ST478- EL483		内外面埋付着
	113	土師器	甕	(70)	5		外面-不明 底部-削代 底部-ハク・ナデ?	G区 ST478		外面下部に埋付着
	114	土師器	甕	(92)	6		内面-ナデ? 底部-削代	G区 ST478		内面に指圧痕
	115	土師器	甕	(84)	8		内面-ハケ 底部-削代	G区 ST478- EL477		内面に指圧痕
	116	土師器	甕	(114)	8		底部-削代	G区 ST478		内面底指圧痕
71	117	土師器	甕?	(88)	5		外面-ハケ 内面-削代 底部-削代	G区 ST478		二次焼成有 埋付着
	118	土師器	甕	(136)	10		外面-ケズリ 内面-ハケ	D区 ST478- EL483		二次焼成有 外面部剥離
	119	土師器	小型甕	(56)	5		内面-ハケ 底部-削代	G区 ST478- EL477		
	120	土師器	甕		5		内面-ハケ 外面部-ハク・ナデ	G区 ST478		
	121	土師器	鍋		7		内面-ハケ 外面部-ロクロ	G区 ST478		
72	122	須恵器	有台环	(75)	6		内面-ロクロ 底部-凹軋目切-高台	D区 SB1953- EB1962		

持団番号	遺物番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土地点	登録番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
	123	須恵器	甕				12	外面 - 格子状タタキ 内面 - 平行アテ	D区 SB1953- EB126		
	124	土師器	环	(145)			5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SB1953- EB1962		
	125	黒色土器	有台环		(66)		4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SB151- EB1923	内面黒色処理	
	126	金属製品	不明	残存長 61	幅 (16)	厚 1.5	重量 5.0g		D区 SB2160- EB2158		
	127	須恵器	甕				14	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	D区 SB1038- EB1944		
	128	土師器	無台环		58		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SB1038- EB1932		
72	129	土師器	鍋				8	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ 底部 - 翻代	D区 SB1038- EB1940		
	130	黒色土器	有台环		(65)		5	外面 - ハケ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SB1038- EB1942	内面黒色処理	
	131	黒色土器	环	(148)			4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	D区 SB1038- EB1938	内面黒色処理	
	132	土師器	甕	150			4	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ	D区 SK2144		
	133	土師器	甕	(264)			5	外面 - ハケ 内面 - ハケ	D区 SK2144	二次焼成有	
	134	土師器	甕	256			5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK2144	二次焼成有 表面剥落	
	135	黒色土器	环	(132)			5	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	D区 SK2144	内面黒色処理	
	136	金属製品	紡錘車	直径 (49) 直径	輪径 5 × 4	現存長 27	重量 14.2g		D区 SK2144		
	137	金属製品	紡錘車	47	6	26	重量 22.3g		D区 SK2144	RM1777	
	138	土師器	甕	173			6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK2162		
	139	須恵器	無台环	128	71	36	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	RP1779 底部墨書「方」	
	140	須恵器	無台环	(120)	(66)	36	6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	底部付け替えあり	
	141	須恵器	無台环	(136)	(64)	40	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	焼成不良	
	142	須恵器	無台环	(128)	(62)	45	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	焼成不良	
	143	須恵器	無台环	130	52	43	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	焼成不良 内外面火だすき痕	
73	144	須恵器	無台环		63		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	RP1783 焼成不良	
	145	須恵器	無台环		(56)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	焼成不良 内外面火だすき痕	
	146	須恵器	無台环		52		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		
	147	須恵器	有台环	(144)	80	73	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1819	RP1784	
	148	須恵器	有台环		(86)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1819	外面上部自然釉	
	149	須恵器	环	136			3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1819		
	150	須恵器	甕				9	外面 - 平行タタキ・ナデ 内面 - 青滑波文	D区 SK1819		
	151	須恵器	甕				8	外面 - 平行タタキ 内面 - 青滑波文	D区 SK1819	焼成不良	
	152	須恵器	甕				10	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ 内面 - ロクロ	D区 SK1819		
	74	153	土師器	無台环		(64)	5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		

持回 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考	
				口径	底径	器高	器厚					
74	154	土師器	無台环	62	5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1819					
	155	土師器	小型鉢	54	4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1819	RP1785	外面下部ヘラ削り			
	156	土師器	甕	220	8	外面-ロクロ・ケズリ 内面-ロクロ・ナデ	D区 SK1819	RP1778				
	157	土師器	甕	(256)	6	外面-ロクロ・ナデ 内面-ロクロ・ナデ	D区 SK1819		外面強部媒付着			
	158	土師器	甕		6	外面-ハケ・ナデ 内面-ケズリ・ナデ	D区 SK1819					
	159	土師器	甕	224	5	外面-ロクロ 内面-ロクロ	D区 SK1819					
75	160	土師器	甕	242	7	外面-ロクロ・タタキ 内面-ロクロ	D区 SK1819		二次焼成有			
	161	土師器	甕	214	6	外面-ハケ・ナデ 内面-ハケ	D区 SK1819	RP1782				
	162	土師器	甕	(102)	5	外面-ケズリ 内面-ハケ・ナデ 底面-削伏?	D区 SK1819		二次焼成有 外削剥落			
	163	土師器	甕	72	4	外面-ロクロ・ハケ 内面-ロクロ・ケズリ 底面-回転条切	D区 SK1819	RP1786	二次焼成有			
	164	土師器	甕	(86)	7	外面-ケズリ・ナデ 内面-ハケ 底面-ヘラ削り	D区 SK1819					
	165	須恵器	無台环	(132)	64	33	3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1743	焼成不良	
76	166	須恵器	無台环	130	55	34	3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1741	LH脇部に自然釉	
	167	須恵器	無台环	130	62	36	4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1794	焼成不良	
	168	須恵器	無台环	(140)	60	47	4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1749	底部の一一部焼成不良	
	169	須恵器	無台环	(130)	56	46	3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446		外面上部に自然釉	
	170	須恵器	無台环	137	57	48	4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1798		
	171	須恵器	無台环	136	56	46	3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1793	底部墨書「口」	
77	172	須恵器	無台环	(130)	60	37	3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1747	焼成不良 底部指注痕 底部墨書「得」	
	173	須恵器	無台环		58		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446		体側焼成不良	
	174	須恵器	無台环		(56)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446		焼成不良	
	175	須恵器	無台环		(58)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446		底部墨書「口」	
	176	須恵器	無台环		56		3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446	RP1744	底部墨書「左」	
	177	須恵器	無台环		50		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446			
78	178	須恵器	無台环		(57)		3	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446			
	179	須恵器	無台环		(60)		5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446			
	180	須恵器	無台环		(60)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446			
	181	須恵器	無台环		(60)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446		焼成不良	
	182	須恵器	無台环		(50)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転条切	D区 SK1446			

擇図 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
76	183	須恵器	無台环		56		3	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切	D区 SK1446	RP1748	焼成不良 内部底部転用窓
	184	須恵器	有台环		62		4	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446	RP1745	外面自然輪
	185	須恵器	有台环		64		3	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446		外面自然輪
	186	須恵器	环	(142)			3	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		
	187	須恵器	环	(128)			4	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		口部自然輪
	188	須恵器	环	(147)			4	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		外面口部自然輪
77	189	須恵器	环	(143)			4	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		
	190	須恵器	环	(148)			3	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		外面自然輪
	191	須恵器	环	(156)			4	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		
	192	須恵器	双耳环				3	底部・口クロ 取手・ケズリ	D区 SK1446		
	193	須恵器	壺				7	外面・口クロ・ナデ 内部・口クロ・ナデ	D区 SK1446		外面：波状文 内外面自然輪 二次焼成有
	194	須恵器	壺	(181)			8	外面・平行タタキ 内部・アテ・ハラナデ 底部・ナデ?	D区 SK1446	RP1792	
	195	須恵器	壺				10	外面・口クロ・平行タタキ 内部・口クロ・青銅文	D区 SK1446		
	196	須恵器	壺?				7	外面・平行タタキ 内部・ハケ・アテ・ナデ	D区 SK1446		
	197	須恵器	壺	76			5	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切	D区 SK1446		底部へラ書「X」 内部底部火附れ 外面自然輪
	198	土師器	無台环	(53)			4	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切	D区 SK1446		底部墨書き「匚」
	199	土師器	無台环	(56)			5	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切	D区 SK1446		
	200	土師器	無台环	(54)			5	外面・口クロ 内部・ケズリ・ナデ	D区 SK1446		
78	201	土師器	無台环	(66)			5	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切	D区 SK1446		
	202	土師器	無台环	57			5	外面・口クロ 内部・口クロ 底部・回転系切?	D区 SK1446	RP1750	
	203	土師器	有台环	(75)			4	外面・口クロ 内部・回転系切・高台	D区 SK1446		
	204	土師器	环	(151)			4	外面・口クロ 内部・口クロ	D区 SK1446		二次焼成有
	205	土師器	小型壺	146			4	外面・ハケ・ナデ 内部・ハケ・ナデ	D区 SK1446		
	206	土師器	壺	(84)			7	外面・ナデ 底部・崩代	D区 SK1446		
	207	土師器	壺	(72)			4	外面・ハケ 内部・ハケ 底部・崩代	D区 SK1446		外面剥落 外面指注痕
	208	土師器	すり鉢?	(151)			9	外面・ハケ 内部・ハケ 底部・崩代?	D区 SK1446		
	209	黒色土器	有台环	(165)			4	外面・ロクロ 内部・ミガキ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446		内面黒色處理 高台剥落
	210	黒色土器	有台环	(71)			4	外面・ロクロ 内部・ミガキ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446		内面黒色處理
79	211	黒色土器	有台环	(70)			5	外面・ロクロ 内部・ミガキ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446		内面黒色處理
	212	黒色土器	有台环	(64)			5	外面・ロクロ 内部・ミガキ 底部・回転系切・高台	D区 SK1446		内面黒色處理 高台一部欠損
	213	須恵器	無台环	138	58	42	4	外面・ロクロ 内部・ロクロ 底部・回転系切	D区 SK2185	RP1796	

持団番号	遺物番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土地点	登録番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
	214	須恵器	無台环	138	61	43	4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185	RP1804	焼成不良
	215	須恵器	無台环	(128)	(59)	36	4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185	RP1801	焼成不良
	216	須恵器	無台环	(134)	(54)	39	4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185		
	217	須恵器	無台环	(138)	(60)	35	4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185 SK1446		
79	218	須恵器	环	(154)			4	外面-ロク口 内面-ロク口	D区 SK2185		焼成不良
	219	須恵器	無台环		59		4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185	RP1797	
	220	須恵器	無台环		61		4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185		外面自然釉
	221	須恵器	無台环		60		4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185	RP1800	
	222	須恵器	甕			9		外面-平行タタキ・ナデ 内面-アテ	D区 SK2185		
	223	須恵器	甕			11		外面-平行タタキ 内面-アテ・ナデ	D区 SK2185	RP1795	
	224	須恵器	甕			9		外面-平行タタキ 内面-アテ・ナデ	D区 SK2185		
	225	土師器	無台环	(140)	(48)	47	5	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2185		
	226	土師器	甕				5	外面-ハケ 内面-ハケ	D区 SK2185	RP1799	内面剥落
	227	土師器	甕	(93)			6	外面-ハケ 内面-ハケ 底面-崩代	D区 SK2185	RP1803	
80	228	土師器	甕	(82)			5	外面-ハケ 内面-ハケ 底面-崩代	D区 SK2185		内面底部指圧痕
	229	黒色土器	有台环		68		4	外面-ミガ牛 内面-ミガ牛 底面-回転丸切・高台	D区 SK2185	RP1791	内面黒色処理
	230	須恵器	無台环	(70)			4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転ヘラ切	D区 SK1872		焼成不良
	231	土師器	甕	(82)			11	外面-ケズリ 内面-ナデ 底面-ケズリ・ナデ	D区 SK1872	RP1805	内面下部指圧痕
	232	土師器	甕	(133)			10	外面-ケズリ・ナデ 内面-ハケ・ヘラナデ 底面-ケズリ・ナデ	D区 SK1872	RP1790	内面に指圧痕
	233	土師器	無台环	(132)	(58)	41	4	外面-ロク口 内面-ロク口	D区 SK2036		
	234	土師器	無台环	128	52	46	3	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2036	RP1775	
	235	土師器	無台环	(50)			4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SK2036		
	236	土師器	鍋?			8		内面-ハケ・ナデ 外面-ハケ	D区 SK2129		
	237	土師器	甕?	(196)			5	外面-ハケ・ナデ 内面-ハケ・ナデ	G区 SK392		
	238	土師器	甕	(205)			5	外面-ハケ・ナデ 内面-ハケ	G区 SK392		
81	239	須恵器	無台环	(76)			5	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-ヘラ切	G区 SK395		底部に乾燥材痕 外面に覆付着
	240	須恵器	無台环	(60)			4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	G区 SK396		
	241	土師器	甕	(78)			3	外面-ケズリ 内面-ハケ・ナデ 底面-ナデ?	D区 SD1142		
	242	須恵器	双耳环				8	取手-ケズリ	D区 SD1054		取手のみ 二次焼成有 外面剥落
	243	須恵器	無台环	(127)	(66)	36	4	外面-ロク口 内面-ロク口 底面-回転丸切	D区 SD1857		

持団 番号	遺物 番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土 地点	登録 番号	備考
				口径	底径	器高	器厚				
	244	須恵器	無台环		(53)	5		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SD1857		
	245	須恵器	蓋			7		外面・口クロ 内面・口クロ 天井・回転ヘラ削り	D区 SD1061	RP1776	
	246	土師器	甕		(76)	8		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	E区 SD1750	RP1774	二次焼成有
81	247	須恵器	無台环		(62)	5		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SP1896		
	248	土師器	無台环		(56)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SP1924		
	249	須恵器	無台环		(58)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SP1931		底部墨書「万カ」
	250	土師器	無台环	(132)	(64)	44	4	外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SP1977		
	251	土師器	無台环		(52)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	D区 SP2134		
	252	須恵器	蓋	(142)		28	5	外面・口クロ 内面・口クロ 天井・回転ヘラ削り	XO		天井削回転ヘラ削り
	253	須恵器	無台环	(117)	(60)	38	5	外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 15-63G		
	254	須恵器	环	(146)			4	外面・口クロ 内面・口クロ	G区 13-61G		
	255	須恵器	無台环		(56)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	256	須恵器	無台环		(54)	3		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
82	257	須恵器	無台环		(56)	3		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	258	須恵器	無台环		(60)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 13-62G		外面底部に縦付着
	259	須恵器	無台环		(50)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 13-63G		
	260	須恵器	無台环		54	5		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 13-62G		
	261	須恵器	無台环		(56)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	262	須恵器	無台环		(58)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 12-62G		
	263	須恵器	無台环		58	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	264	須恵器	無台环		(58)	3		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	265	須恵器	無台环		55	6		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	266	須恵器	無台环		(66)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	267	須恵器	無台环		(62)	3		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	G区 12-61G		底部に縦付着
	268	須恵器	無台环		(66)	5		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		内面底部軸用碇カ
	269	須恵器	無台环		(62)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	270	須恵器	無台环		(70)	5		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		
	271	須恵器	無台环		(68)	4		外面・口クロ 内面・口クロ 底部・回転系切	XO		

持団番号	遺物番号	種別	器種	計測値 (mm)				調整・文様	出土地点	登録番号	備考	
				口径	底径	器高	器厚					
82	272	須恵器	有台环		(93)		5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-高台	XO			
	273	須恵器	甕			6		外面-ロクロ・ナデ 内面-ロクロ・ナデ・カキメ?	XO			
	274	須恵器	甕			11		外面-格子目平行タタキ 内面-青海波文	XO			
	275	須恵器	甕			13		外面-平行タタキ 内面-アテ	E区 29-76G			
	276	須恵器	甕			14		外面-格子目平行タタキ・ハケ 内面-平行タタキ・ハケ・ナデ 外面-ケズリ・ナデ 内面-ハケ・ナデ	XO			
	277	須恵器	甕		(116)		10	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-ケズリ・ナデ	G区 13-62G			
	278	須恵器	甕		(118)		8	外面-ハケ・ナデ 内面-ハケ 底面-ケズリ・ナデ	E区 29-77G			
	279	土師器	無台环	(113)	(80)	41	5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	XO			
83	280	土師器	無台环	(132)	56	45	4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	D区 38-58G			
	281	土師器	無台环		62		7	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	XO			
	282	土師器	無台环		(60)		5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	G区 12-61G			
	283	土師器	無台环		(60)		5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	G区 14-61G			
	284	土師器	無台环		(56)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	G区 13-61G			
	285	土師器	無台环		(50)		5	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切	XO	二次焼成有 外面剥落		
	286	土師器	有台环		(62)		4	外面-ロクロ 内面-ロクロ 底面-回転目切・高台	G区 15-63G			
	287	土師器	甕	(100)	(62)	99	6	外面-ケズリ・ナデ 内面-ハケ・ナデ 底面-ケズリ	G区 12-61G			
	288	土師器	小型鉢		52		4	外面-ロクロ・ハケ 内面-ロクロ 底面-回転目切	G区 12-62G			
	289	土師器	甕		(60)		14	外面-ロクロ・ケズリ 内面-ロクロ 底面-回転目切	G区 13-61G	外面剥落		
	290	土師器	甕		(74)		6	外面-ロクロ・ケズリ 内面-ロクロ 底面-回転目切	XO			
	291	土師器	甕		(78)		7	外面-ハケ 内面-ハケ 底面-不明	XO	底面剥落		
	292	黒色土器	有台环		(64)		9	外面-ロクロ 内面-ミガキ 底面-回転目切・高台	XO	内面黒色処理 底面に螺付着?		
	293	黒色土器	甕?		(106)		8	外面-ケズリ 内面-ミガキ 底面-網代	XO	内面黒色処理 底部の一部に螺付着		
	294	陶器	碗?				12	外面-輪 内面-輪 底面-高台	XO			
	295	石製品	砥石	長	136	幅	23	重量 590.0g	石材 - 砥石質砂岩	XO	砥面1面	
	296	金属製品	刀子 or 鋸	全長	(93)	幅	3	重錠 21.8g		XO		

V 理化学分析

1 放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

遺構の年代を検討するため、住居内から出土した生材・炭化材の放射性炭素年代測定を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構から出土した生材 1 点・炭化材 3 点の計 4 点（試料番号 1 ~ 4）である。試料番号 1 は、平安時代の掘立柱建物跡の柱穴（E 区 SB1697-EB1690）から出土した生材で、分割状を呈する小片であり、樹皮は残っていない。残存する中での最外年輪を含む 2~3 年分を探取して測定試料とする。試料番号 2 ~ 4 は、平安時代の遺構から出土した炭化材である。試料番号 2 は竪穴住居跡（D 区 ST1818）から出土した柵目板状を呈する炭化材であり、樹皮は残っていない。残存する中での最外年輪を含む 5~6 年分を測定試料とする。試料番号 3 は竪穴住居跡（G 区 ST381Y）から出土した端部に樹芯が残る分割状を呈する炭化材で、樹皮は残っていない。残存する中での最外年輪を含む 2 年分を測定試料とする。試料番号 4 は土坑（D 区 SK1819F）から出土した分割状を呈する炭化材で、樹皮は残っていない。残存する中での最外年輪を含む 2~3 年分を測定試料とする。

(2) 分析方法

土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをビンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC I により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC I によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C (30 分) 850°C (2 時間) で加热する。

液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650°C で 10 時間以上加热し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に ¹³C/¹²C の測定も行うため、この値を用いて δ ¹³C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma; 68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ¹⁴C 濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68.3% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95.4% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3) 結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表4、第85図に示す。試料番号1(E区 SB1697-EB1690)は、試料中に含まれる炭素濃度が、標準現代炭素以上($\delta^{13}\text{C} = 103.83 \pm 0.27\%$)であることから、Modernと表記し、暦年較正も実施していない。同位体効果の補正を行った年代値(補正年代)は、試料番号2(D区 ST1818)が $1,250 \pm 20\text{BP}$ 、試料番号3(G区 ST381Y)が $1,210 \pm 20\text{BP}$ 、試料番号4(D区 SK1819F)が $1,210 \pm 20\text{BP}$ を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、資料番号2がcalAD693-772、試料番号3がcalAD771-867、試料番号4がcalAD772-868を示す。

(4) 考察

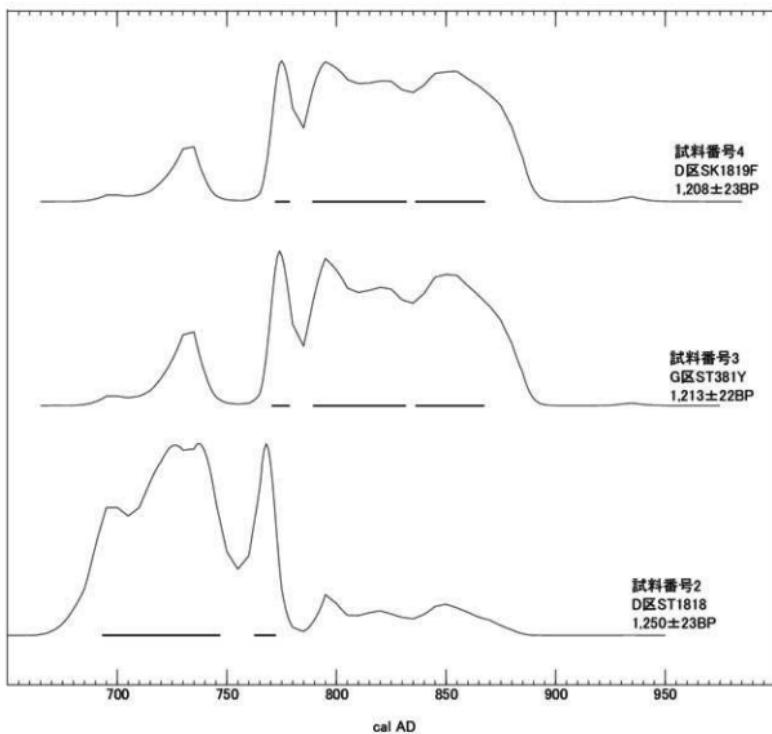
表4 放射性炭素年代測定結果

試料番号 遺構	種類	年代測定 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用)	暦年較正結果				Code No.
					誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
試料番号1 E区 SB1697-EB1690	生材	-24.55 ± 0.27	Modern	Modern	σ	---	---	---	IAAA-142800
					2σ	---	---	---	
試料番号2 D区 ST1818	炭化材	$1,280 \pm 20$	-26.60 ± 0.26	$1,250 \pm 20$ ($1,250 \pm 23$)	σ	cal AD 693 - cal AD 747 cal AD 763 - cal AD 772	cal BP 1,257 - 1,203 cal BP 1,187 - 1,178	0.842 0.158	IAAA-142801
					2σ	cal AD 678 - cal AD 778 cal AD 791 - cal AD 827	cal BP 1,272 - 1,172 cal BP 1,159 - 1,123	0.891 0.062	
試料番号3 G区 ST381Y	炭化材	$1,220 \pm 20$	-25.26 ± 0.25	$1,210 \pm 20$ ($1,213 \pm 22$)	σ	cal AD 771 - cal AD 779 cal AD 789 - cal AD 832 cal AD 836 - cal AD 867	cal BP 1,179 - 1,171 cal BP 1,161 - 1,118 cal BP 1,114 - 1,083	0.108 0.513 0.379	IAAA-142802
					2σ	cal AD 721 - cal AD 740 cal AD 767 - cal AD 885	cal BP 1,229 - 1,210 cal BP 1,183 - 1,065	0.076 0.924	
試料番号4 D区 SK1819F	炭化材	$1,240 \pm 20$	-26.82 ± 0.27	$1,210 \pm 20$ ($1,208 \pm 23$)	σ	cal AD 772 - cal AD 779 cal AD 789 - cal AD 832 cal AD 836 - cal AD 868	cal BP 1,178 - 1,171 cal BP 1,161 - 1,118 cal BP 1,114 - 1,082	0.080 0.530 0.390	IAAA-142803
					2σ	cal AD 724 - cal AD 739 cal AD 764 - cal AD 887	cal BP 1,226 - 1,211 cal BP 1,183 - 1,063	0.048 0.952	

- 1) 試料は、全て酸処理-アルカリ処理-酸処理の前処理を実施している。
- 2) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 3) 年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に0で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目を丸めていない。
- 8) 確率的に真の値が入る確率は σ は68.3%、 2σ は95.4%である
- 9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

E区 SB1697-EB1690は、平安時代の掘立柱建物跡を構成する柱穴である。出土した生材の年代測定結果は、Modernであり、新しい時期の可能性がある。新しい時期の木材が柱穴内に混入した可能性があるため出土状況なども含めて検討する必要がある。

D区 ST1818とG区 ST381Yは平安時代の豊穴住居跡、D区 SK1819Fは平安時代の土坑であり、出土した炭化材の補正年代は、D区 ST1818が $1,250 \pm 20\text{BP}$ 、G区 ST381YとD区 SK1819Fが $1,210 \pm 20\text{BP}$ であった。暦年較正結果と相対比を参考にすれば、G区 ST381YとD区 SK1819Fは8世紀後半～9世紀前半頃、D区 ST1818はそれよりも若干古い7世紀末～8世紀中頃の年代が推定される。発掘調査所見ではこれらの遺構について平安時代とされているが、本分析調査の結果もこれに調和するものである。

第 85 図 歴年較正結果 (1σ)

2 テフラ分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

遺構の年代を検討するため、住居内から出土した土壤のテフラ分析を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構覆土から採取された火山灰様試料 2 点である（試料番号 5、6）。試料番号 5 は平安時代の竪穴住居跡（G 区 ST382）から採取された、黒褐色を呈する砂まじりシルトである。試料番号 6 も平安時代の竪穴住居跡（H 区 ST448）から採取された、にぶい黄褐色を呈する砂まじりシルトである。

(2) 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あ

るいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

屈折率の測定は、処理後に得られた砂分から摘出した火山ガラスを対象として、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いる。

(3) 結果

結果を表 5 に記す。スコリアおよび軽石はいずれの試料からも検出されなかった。火山ガラスは試料番号 5 からは極めて微量検出された。

試料番号 5 は、無色透明の軽石型火山ガラス、バブル型火山ガラスが混在する。砂粒の主体は、無色透明～白色の石英、長石が多く、有色鉱物として、角閃石が多く、ついで斜方輝石および不透明鉱物が微量混在している。石英は、無色透明で算盤玉状の形態を示すものが多く認められる。岩片は、最大径約 2.5mm の頁岩などが認められる。

試料 6 は、無色透明の軽石型火山ガラスが混在する。砂粒の状況は、試料 5 とほぼ同じであるが、混在している岩片は極めて微量で、その粒径も小さいため、同定は困難である。

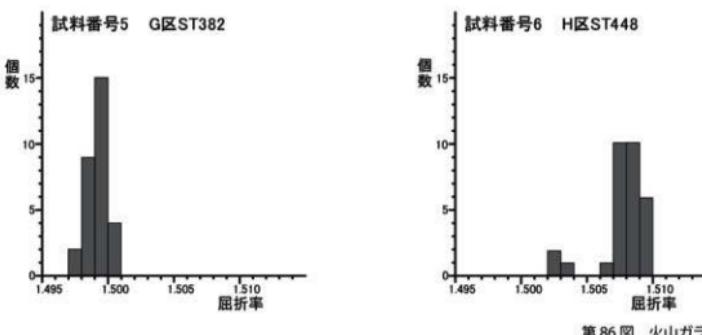
火山ガラス屈折結果を第 86 図に示す。試料番号 5 は $n=1.497\text{--}1.500$ の狭い低屈折率のレンジを示し、 $n=1.499$ 前後の集中度が高い。試料 6 は $n=1.506\text{--}1.509$ の屈折率のレンジを示す。

表 5 テフラ分析結果

試料 No.	遺構名	スコリア 量	火山ガラス 量	軽石 量	備考
			色調・形態		
No.5	G 区 ST382	—	(+)	cl・pm, cl・pw	砂粒の主体は、無色透明～白色の石英および長石が多く、有色鉱物として、角閃石が多く、ついで斜方輝石および不透明鉱物が微量混在している。石英は、無色透明の算盤玉状の形態を示すものが認められる。 岩片は、最大径 2.3mm の頁岩などが認められる。
No.6	H 区 ST448	—	+++	cl・pm, cl > pw	砂粒の状況は、上記とほぼ同じであるが、混在している岩片は極めて微量であり、その粒径も小さく、岩片の同定は困難である。

凡例 一：含まれない。 (+)：きわめて微量。 +++：中量。

cl：無色透明。 bw：バブル型。 pm：軽石型



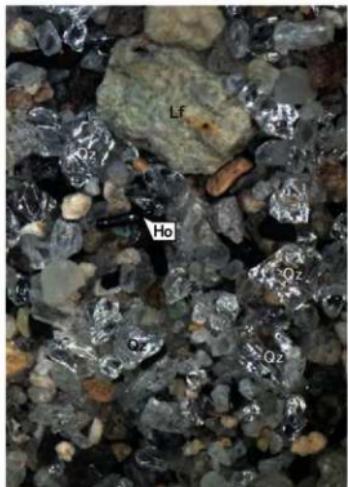
第86図 火山ガラス屈折率

(4) 考察

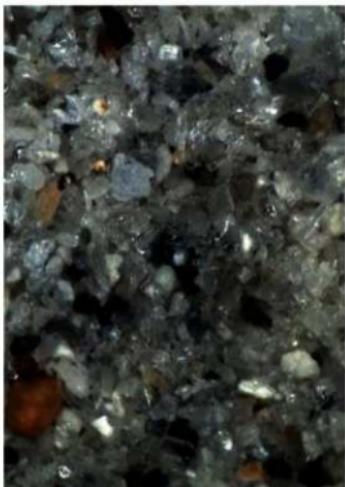
試料からは火山ガラスが検出された。以下、試料についてテフラの対比を行う。竪穴住居跡G区ST382覆土中から採取された、試料番号5から検出された極めて微量の火山ガラスは、清水遺跡の地理的位置、過去の本遺跡の分析事例、低屈折率で狭いレンジを示す火山ガラスであり、無色透明の算盤玉状を示す石英、新鮮な角閃石を含むことから考えると、肘折尾花沢テフラ(Hj-O: 町田・新井, 2003)に由来すると考えられる。Hj-Oは、山形県最上郡大蔵村にある肘折カルデラを給源とし、曆年で約1.1~1.2万年前に噴出したテフラである。なお、試料番号5からは火山ガラスが極めて微量検出されたのみであり、発掘調査所見では竪穴住居跡G区ST382の年代が平安時代とされることから、検出されたテフラは一次降下堆積物ではなく、周囲の土壤中に、拡散して含まれていたHj-Oの火山ガラスが、竪穴住居跡の埋没過程において覆土中に混入した可能性が考えられる。

試料番号6から検出された火山ガラスは、その形態および色調、屈折率、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981;1984)、Arai et al.(1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、十和田火山から噴火した十和田aテフラ(To-a)に対比されると考えられる。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火碎流堆積物と降下軽石からなるテフラとして火碎流の及ばなかつた地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている。(町田ほか、1981)。また、その噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

なお、本試料から中量検出されていることから、To-aは竪穴住居跡埋没過程において降下堆積したものと考えられる。その場合、竪穴住居跡H区ST448の構築年代は915年以前と考えられ、H区ST448の年代を平安時代とする発掘調査所見と矛盾しない。



1.試料番号5 G区ST382 テフラ

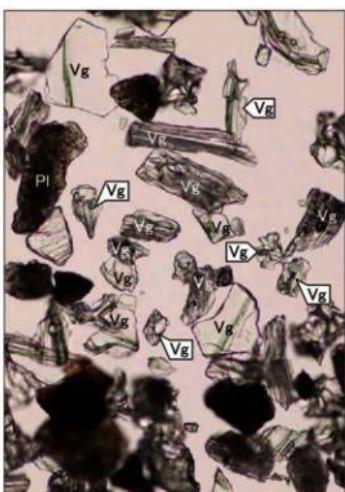


2.試料番号6 H区ST448 テフラ



3.試料番号5 G区ST382 火山ガラス

Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. Vg:火山ガラス. Qz:石英.
Pl:斜長石. Lf:岩片.



4.試料番号6 H区ST448 火山ガラス

2.0mm
0.5mm
0.2mm
1 2 3,4

第87図 テフラ

3 樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、遺跡での木材利用を検討するため、出土した生材・炭化材の樹種同定を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構から出土した生材1点と炭化材4点の計5点（試料番号1～4・7）である。このうち、試料番号1～4は、年代測定試料と同じ試料から分割した破片である。試料番号7は平安時代の土坑（D区SK1446F）から出土した炭化材である。

(2) 分析方法

生材は、剃刀を用いて木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作成し、ガム・クロラール（泡水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、3断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

(3) 結果

樹種同定結果を表6に示す。木材・炭化材は、針葉樹1分類群（ヒノキ科）と広葉樹4分類群（ハンノキ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ・カエデ属）に同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材

部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

- ・ハンノキ属（*Alnus*）カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*）ブナ科

環孔材で、孔團部は1-3列、孔團外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）クワ科クワ属

環孔材で、孔團部は3-5列、孔團外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

- ・カエデ属（*Acer*）カエデ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

(4) 考察

平安時代の掘立柱建物跡の柱穴（SB1697-EB1690）から出土した生材はヒノキ科に、平安時代の住居跡および土坑から出土した炭化材はコナラ節、ヤマグワ、ハンノキ属、カエデ属に同定された。針葉樹のヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ等の有用材が含まれ、これらの樹種は一般的に木理が直通で割裂性と耐水性が高い。広葉樹のコナラ節は、二次林などに生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。ヤマグワは、河畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。ハンノキ属は、湿地等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い部類に入る。カエデ属は、河畔や二次林等に

生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。

住居跡から出土した炭化材は、コナラ節とヤマグワが確認されることから、強度が高い木材の利用が推定され

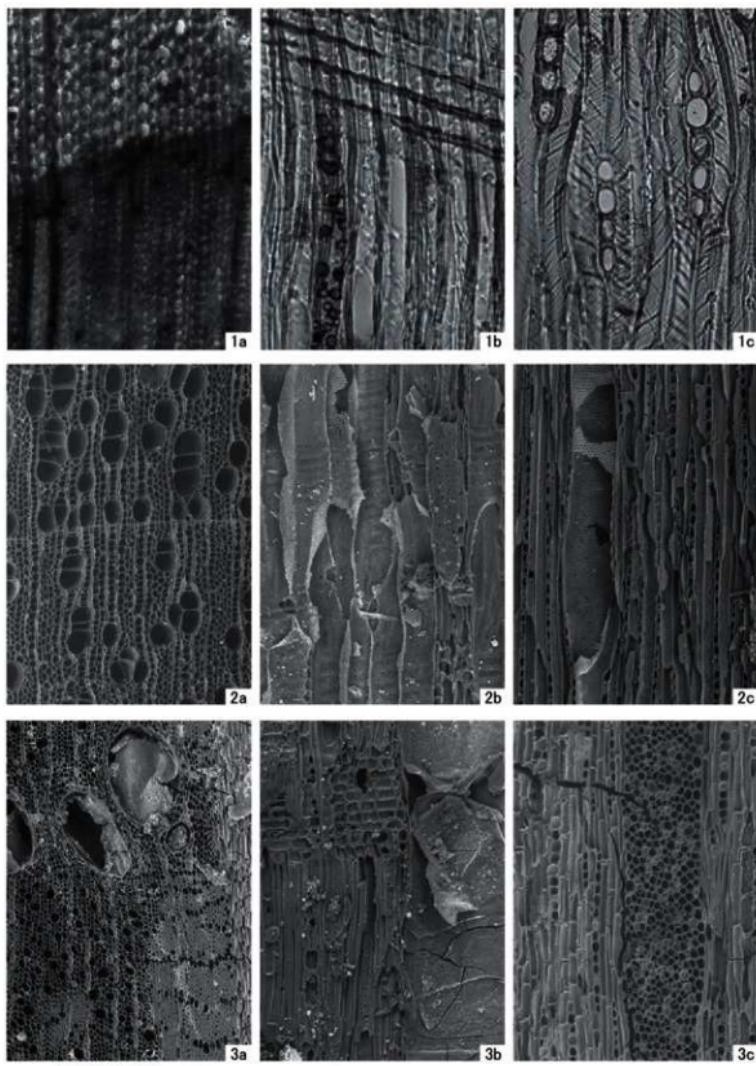
る。一方、土坑から出土した炭化材はハンノキ属とカエデ属であり、強度が高い木材である点は住居跡と同様である。

表6 樹種同定結果

試料番号	遺構・位置	遺構の種類	状態	木取り	種類	備考
1	SB1697-EB1690	掘立柱建物跡	生木	分割状	ヒノキ科	年代測定と同一固体
2	ST1818	豎穴住居跡	炭化材	極目状	コナラ属コナラ亜属コナラ節	年代測定と同一固体
3	ST381Y	豎穴住居跡	炭化材	芯持材	ヤマグワ	年代測定と同一固体
4	SK1819F	土坑	炭化材	分割状	ハンノキ属	年代測定と同一固体
7	SK1446F	土坑	炭化材	破片	カエデ属	年代測定と同一固体

引用文献

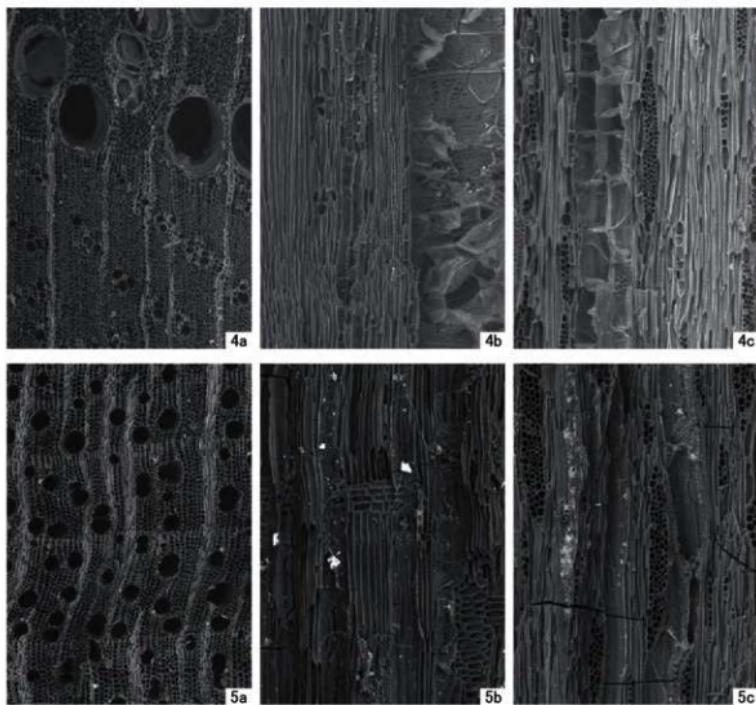
- Arai F.・Machida H.・Okumura K.・Miyauchi T.・Soda T.・Yamagata K.(1986) Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II — Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido —. Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21.223-250.
- 古澤 明, 1995. 火山ガラスの組折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101,123-133.
- 早川由紀夫・小山真人, 1998. 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日—和田湖と白頭山—. 火山, 43,403-407.
- 林 昭三, 1991. 日本産木材 跡微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 町田 洋・新井房夫, 2003. 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版社, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広, 1981. 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51,562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984. テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログ. 渡辺直経(編) 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学. 同朋舎, 865-928.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982. 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



- 1.ヒノキ科(試料番号1 E区 SB1697-EB1690)
 2.ハンノキ属(試料番号4 D区 SK1819F)
 3.コナラ属コナラ亜属コナラ節(試料番号2 D区 ST1818)
 a:木口. b:弦目. c:板目

100 μm:2-3a
 100 μm:1a,2-3b,c
 100 μm:1b,c

第88図 生材・炭化材 (1)



4.ヤマグワ(試料番号3 G区ST381Y)

5.カエデ属(試料番号7 D区SK1446F)

a:木口, b:粧目, c:板目

■ 100 μ m:a
■ 100 μ m:b,c

第89図 生材・炭化材(2)

VI まとめと考察

1 調査のまとめ

今回の調査は、東北中央自動車道（東根～尾花沢間）に接続する一般県道村山大石田線村山北1インターのエンジ設置工事に伴う緊急発掘調査として実施した。

清水遺跡は、村山市を蛇行して流れる最上川右岸に立地する南北約1.3km、東西150～380mを測る広大な遺跡で、標高は111～124mを測る。調査は、事業にかかる範囲の約3,100m²について行った。以下に、調査で得られた成果を述べる。

調査では、縄文時代と平安時代の遺構が検出され、遺物は縄文時代の土器や石器、平安時代の土器、石製品、金属製品など整理箱で17箱が出土した。

縄文時代の遺構は陥穴SK1145・1911の2基が検出された。遺物の出土が無く詳細な時期は不明である。

土器は、早期と晩期に属する破片資料で早期のものは田戸下層式併行と考えられる。打製石器は、石礫、石錐、石匙、石籠、削器があるが、調整途中に破損したと思われ、全て未完成である。磨製の石器は石斧、磨石、叩石、凹石である。確認された遺構が陥穴のみであり、住居跡や貯蔵穴などの生活遺構が無いこと、遺物も土器の破片数点しか出土しなかったことから、縄文時代のこの地域は、狩などを行う狩猟地であったと考えられる。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡7棟、掘立柱建物跡11棟、土坑、区画施設と思われる溝跡などである。

遺構は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の分布状況に顕著な違いがみられた。竪穴住居跡はD区には1棟のみでG区北に6棟が集中する。対して、掘立柱建物跡は、E区北側とG区北側に各1棟のみで、D区中央部の35～39-57～63Gに9棟が集中する。D区は掘立柱建物跡を主に、G区は竪穴住居を主としている様相を示す。土坑は遺物を多量に含むものがD区の40～43-63・64Gに分布し、区画施設（SD1061・1054・1857・1029・1750）はD・E区に分布し、建物跡群を囲む。

次に、各遺構についてであるが、竪穴住居は規模が4m×4m以上のST1818・382・478と、3m×3m以

下のST381・383・384・386の2タイプの住居跡がある。前者は、すべて南壁にカマドが構築される。後者はカマドが無く、出土遺物にST381の砥石やST384の鋤型？、粘土塊などがあり、小規模な作りであるが、確認面からの深さは深いものが多い。出土遺物から住居跡の主となる時期は9世紀第2～3四半期頃と考えられる。区画施設の溝との切り合いから、掘立柱建物跡群よりも先行ないしは一部併行すると考えられる。

理化学分析の結果で、住居跡や土坑から出土した炭化材の年代が、7世紀末から9世紀前半頃までの年代範囲を示し、出土土器からの年代と若干の相違が認められる。しかし、木材の¹⁴C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代であり、最外年輪より内側の部位であれば、その年代は伐採の年代よりも古い年代となることから、今回の試料は材の内側であったことが推測される。

掘立柱建物跡群の各建物の構造は、SB1820が2×2間の総柱、SB2160・2176・469は2×2間、SB2151は2×2間以上、SB1953・2152・2186は2×3間、SB2154は3×3間、SB1697は3×4間の総柱、SB1038は2×5間（側柱3間と総柱2間）で、SB1697と469を除く9棟は区画施設の内側にあたるD区中央に分布する。SB1820・1953・2151・1038・2186・2160・2176は主軸方位が東西3°の傾きに納まり、東側の区画施設の軸とほぼ一致する。これらは、南北の区画施設と直行するように建てられ、配置に計画性が窺える。そして、SB2186・1038・2176の重複から最低3時期の建て替えがあったと捉えられる。

区画施設は、過年度の調査結果も鑑みるとSD1054の北東を角として、北側でSD1061→SD1054、SD1857→SD1054、南側でSD1750→SD1029と、2時期以上の造りかえが考えられ、その範囲は東西84m以上、南北は約52～76mの範囲となる。但し、SD1061とSD1857は溝の規模や位置関係から一連であった可能性もある。

土坑には大型のものがあり、9世紀に属する土器が出士しているが、9世紀中葉から後半頃の土器が多くみら

れた。

遺物出土の分布状況は、遺構の分布とほぼ一致するが、出土量には遺構毎に違いがみられた。建物跡や溝跡ではなく、竪穴住居跡や大型の土坑から多く出土した。但し、保存状態が悪く破片資料が多い。須恵器よりも、土師器が多数を占める。供膳具では無台杯が多く、蓋と有台杯は少ない。貯蔵具では、甕に比べて壺や鍋が少ない傾向がみられた。他に、砥石や鑄型などもある。また、墨書・刻書土器が14点、転用硯が2点出土した。墨書「万」・「方」・「左」の文字は県内では鶴岡市の西谷地遺跡で出土している。土器は8世紀末から9世紀末に属するものが出土しているが、9世紀中葉から後半のものが多い。

これらから、清水遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡で、住居や建物などの主たる時期は9世紀第2四半期から第4四半期と考えられる。そして、集落や建物群の範囲は、さらに東西に広がると推測される。

2 遺跡の性格と年代

今回の調査では市道南側のG区では、規模が違う竪穴住居があり、鑄型と思われる土製品や粘土塊が出土している。一方、市道北側のD・E区には区画施設とそれに囲まれる掘立柱建物群が検出され、一般的な集落とは明らかな違いがある。そこで、その性格と存続時期について若干の考察を加える。但し、本遺跡の中心となる本道部分（A～C区）の調査後の整理が行われていないことから、あくまでも、今回の調査結果からの推察である。

竪穴住居跡は前述のとおり、カマドが構築され大きな規模のST1818・382・478とカマドが無く小さい規模のST381・383・384・386がある。前者は住居跡と思われるが、後者は出土遺物や規模から通常の住居跡に比べ異質である。規模が3m四方以下で、出土遺物にはST381の砥石、ST384の鑄型や粘土塊などがあることから察すると、工房跡の可能性が考えられる。第2次の調査区から鉄製の紡錘車が出土していることからもそれが窺えるのではないか。そして、各住居の時期であるが、出土した土器の特徴などから9世紀第2四半期に属するのはST381・382、9世紀第2～3四半期がST1818・383・384、9世紀第3四半期がST478、9世紀第3・4四半期がST386と考えられる。住居跡と

工房跡に明確な時期差が認められないことから、建て替えを行い、ほぼ同時期に存続していたと思われ、その主たる時期は9世紀第2～3四半期と考えられる。

次にD区で検出された掘立柱建物跡群である。第5次調査の結果と今調査の結果から、区画施設の範囲は東西84m以上、南北は約52～76mになる。その区画施設に囲まれる建物は、今回の調査区内では9棟である。そのうち、SB2152とSB2154を除く7棟の主軸方位は東西3°以内に納まることや、東側の区画施設の軸とほぼ一致することなど、南北の区画施設と直行するよう計画的に建てられている様相がみられる。また、7棟のうちSB2160とSB2176を除く5棟は柱穴の規模が、長軸70cm、短軸60cmを超える大きい柱穴であり古い建物の要素が認められる。建物群は、建物間の切り合いからSB2186→SB1038→SB2176と建て替えられているので3時期、区画施設は凸凹がある区画から方形の区画へと作り替えられた様相を示し、最低2時期の変遷があったと思われる。

以上から、重複はあるがSB1820・1953・2151・1038・2186が第I期、SB2176・2160は第II期、SB2152・2154は第III期と考えられ、区画施設も建物の変遷と並行して作り替えられていったと推測される。

そこで、建物群の性格であるが、建物の規模は2×2間と2×3間のものが大半を占め、大きいものでも2×5間の側柱十総柱であることから推察すると、居住するための建物というよりも物資などの保管や貯蔵のための倉庫であろうと思われる。そして、その存続時期であるが、今回の調査で柱穴と区画施設から出土した遺物は、破片資料のみで、時期を特定できる遺物が無かった。しかし、掘り方の規模が大きく、深い柱穴となる古代の建物の特徴をもち、出土した破片資料は器形や調整技法から9世紀代の範疇に収まる。さらに、9世紀中葉と思われるST1818住居跡を区画施設跡SD1875・1054が切っていることなどから、建物群と区画施設の存続時期は9世紀第3～4四半期頃であり、10世紀には廃絶されていたと思われる。短期間に建物や区画施設の造り替えが行われていたと推測される。

清水遺跡から北へ約16kmの地点の大石田町駒籠には8世紀後半から9世紀後葉の古代出羽の水駅と考えられる野後駅推定地がある。また、南西方向約3kmに

は西原C遺跡、南へ約11kmの東根市郡山地区には郡山遺跡と共に古代の村山郡衙ではと推測されている遺跡が所在することから、本遺跡は、これら水駅や郡衙に関連する施設（倉庫）とも考えられる。また、この地域の

地方豪族の居館跡の可能性もあると思われる。

今後、集落跡や施設跡の中心となる第2・5次調査の整理によって検討が加えられ、住居群や建物群の時期や変遷、性格などの詳細が明らかになるであろう。

引用・参考文献

- 山形県企画調整部土地対策課 1979 「IV 土壤」「土地分類基本調査 尾花沢」p.41
 山形県企画調整部土地対策課 1981 「土地分類基本調査 桶岡」 山形県教育委員会 p.203
 村山市史編さん委員会編 1981 「村山市史 別巻一 原始・古代」 村山市
 山形県 1982 「山形県史 第1巻 原始・古代・中世編」
 伊豆田忠悦 1990 「村山市」「山形県の地名」日本歴史地名大系6 p.475～485 平凡社
 村山市 1991 「村山市史 原始・古代・中世編」
 村山市史編さん委員会編 1994 「村山市史 近世編」 村山市
 小畠広明 1995 「村山市」「角川 日本地名大辞典 6 山形県」p.963～969
 山形県教育委員会 1996 「山形県中世城館遺跡調査報告書」第2集(杣山地域)
 村山市教育委員会 1996 「西原C遺跡発掘調査報告書」
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996 「西谷地遺跡第3次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第33集
 阿部明彦他 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004 「高瀬山遺跡(1期)第1～4次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第121集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004 「遠磨寺遺跡第3次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2007 「上敷免遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第159集
 神津良子 2008 「決定版 村山ふるさと大百科」 株式会社郷戸出版社
 東北芸術工科大学 2010 「阿川流域の縄文景観」p.43
 山形県教育委員会 2011 「Ⅱ 調査の概要」「分布調査報告書(37)」山形県埋蔵文化財調査報告書第214集
 佐藤敏春 2011 「村山市再発見～その姿と心～」
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2011 「作野遺跡第2次発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第194集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2012 「作野遺跡第3次発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第205集
 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター調査報告書2013「年報 平成24年度」
 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2015b 「田向2遺跡第1・2次発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第218集
 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2015a 「清水西遺跡発掘調査報告書」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第220集
 ニューサイエンス社 2015 『月刊 考古学ジャーナル』1月号(365号)

写真図版



調査区全景（南から）



D 区完掘全景（上空から）



E 区完掘全景（上空から）



F 区完掘全景（上空から）



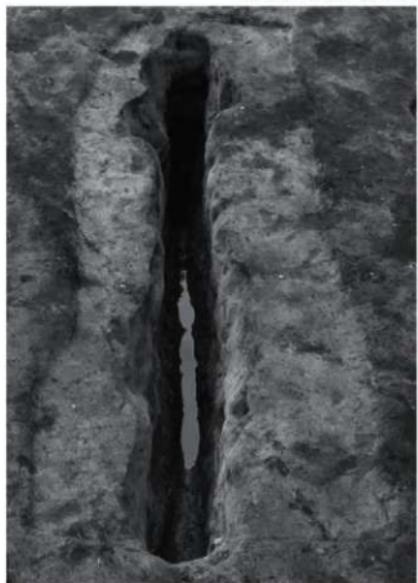
G 区完掘全景（上空から）



SK1145 完掘状況（西から）



SK1145 土層断面（東から）



SK1911 完掘状況（東から）



SK1911 土層断面 a-a' （東から）



SK1911 土層断面 b-b' （東から）



ST1818 完掘状況（北から）



ST1818 土層断面（北西から）



ST1818-EL2183 (北から)



ST1818-EK2180 土層断面 (北から)



ST1818-EK2182 土層断面 (北から)



ST1818-EK2184 土層断面 (北から)



ST1818-RQ1806・RP1807・1808 出土状況 (東から)



ST1818-RP1787 出土状況 (北から)



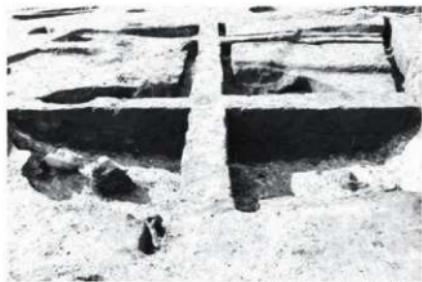
ST1818-RP1789 出土状況 (南から)



ST1818-RP1807 出土状況 (北から)



ST381・382 完掘状況（北から）



ST381 土層断面 a-a' （東から）



ST382 土層断面 d-d' （北から）



ST381・382 土層断面（南東から）



ST381・382 土層断面（南から）



ST381 遺物出土状況（北から）



ST381 土器出土状況（北から）



ST381-RP171 出土状況（北から）



ST381-RQ167 出土状況（北から）



ST382-EL482 土層断面（東から）



ST382-EL482（北から）



ST382-RP174 出土状況（北から）



ST382-RQ172 出土状況（北から）



ST383・384 完掘状況（南から）



ST383 土層断面（東から）



ST383 完掘状況（南から）



ST384 土層断面（東から）



ST384 完掘状況（北から）



ST383-EP470 土層断面（北から）



ST383-RP159 + 160 出土状況（南から）



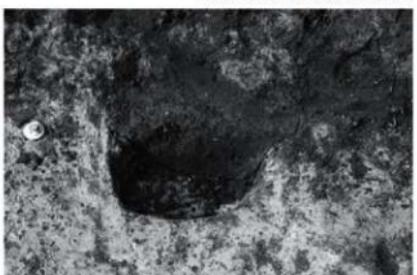
ST383-RP159 出土状況（南から）



ST383-RP160 出土状況（南から）



ST384-EK473 土層断面（北から）



ST384-EP474 土層断面（東から）



ST384-RP163 出土状況（東から）



ST384-RP161 出土状況（西から）



ST386 遺物出土状況（北から）



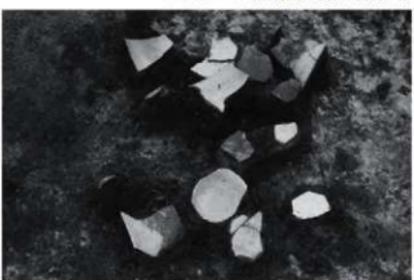
ST386 土層断面（南から）



ST386-RP162 遺物出土状況（東から）



ST386-RP164 遺物出土状況（北から）



ST386-RP165・180 遺物出土状況（東から）



ST478 土層断面（北から）



ST478 完掘状況（北から）



ST478-EL477 土層断面（東から）



ST478-EL477（北から）



ST478-EL483 土層断面（北東から）



ST478-EL483（北から）



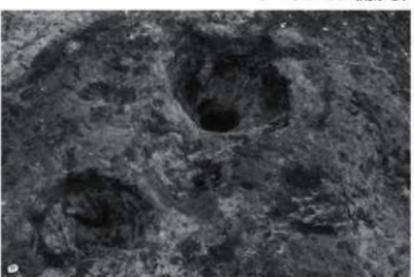
ST478-EP492 土層断面（南から）



ST478-EP492（南から）



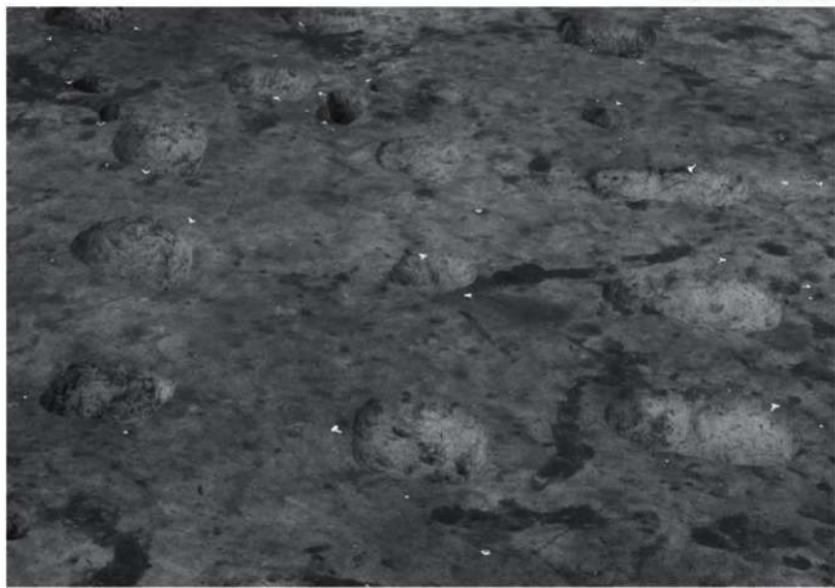
ST478-EP493・494 土層断面（東から）



ST478-EP493・494（北から）



SB1820 検出状況（南から）



SB1820 完掘状況（南から）



SB1953 検出状況（南から）



SB1953-EB1955 土層断面（南西から）



SB1953-EB1956 土層断面（北から）



SB1953-EB1957 土層断面（北から）



SB1953-EB1958 土層断面（西から）



SB1953-EB1959 土層断面（西から）



SB1953-EB1962 土層断面（東から）



SB1953-EB2124 土層断面（南から）



SP1954・2128、SB1953-EB2127 土層断面（西から）



SB1953 完掘状況（南から）



SB2151 完掘状況（南から）



SB2151-EB1922 土層断面（東から）



SB2151-EB2119 土層断面（東から）



SB2151-EB2120 土層断面（西から）



SB2151-EB2121 土層断面（東から）



SB2152 検出状況（南から）



SB2152-EB1891 土層断面（南東から）



SB2152-EB1892 土層断面（北から）



SB2152-EB1913 土層断面（西から）



SB2152-EB1914 土層断面（西から）



SB2152-EB1917 土層断面（北から）



SB2152-EB1918 土層断面（北から）



SB2152-EB1919 土層断面（北西から）



SB2152-EB2153 土層断面（西から）



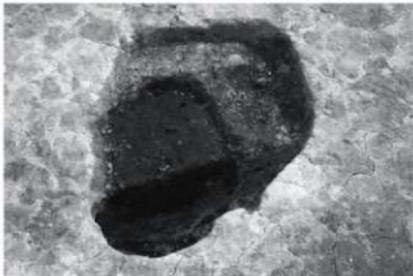
SB2152 完掘状況（南から）



SB2154 検出状況（西から）



SB2154-EB1876 土層断面（西から）



SB2154-EB1878 土層断面（北から）



SB2154-EB1880 土層断面（北から）



SB2154-EB1882 土層断面（南から）



SB2154-EB1898 土層断面（北から）



SB2154-EB1900 土層断面（西から）



SB2154-EB1902 土層断面（西から）



SB2154-EB1903 土層断面（北から）



SB2154 完掘状況（西から）



SB2160 検出状況（南から）



SB2160-EB1864 土層断面（北から）



SB2160-EB1870 土層断面（南から）



SB2160-EB1871 土層断面（北から）



SB2160-EB1873 土層断面（北から）



SB2160-EB2155 土層断面（西から）



SB2160-EB2157 土層断面（南から）



SB2160-EB2158 土層断面（東から）



SK2156, SB2160-EB2161 土層断面（南東から）



SB2160 完掘状況（南から）



SB1038・2176・2186 精査状況（南から）



SB2176-EB2141・SB1038-EB2140 土層断面（北から）



SB2176-EB2142 土層断面（南から）



SB2176-EB2177・SB1038-EB1943 土層断面（南から）



SB2186-EB1207 土層断面（南から）



SB2186-EB1208 土層断面（南から）



SB2186-EB1427 土層断面（北から）



SB2186-EB1431 土層断面（南東から）



SB2186-EB1939 + SB1038-EB1940 土層断面（西から）



SB2186-EB1941 土層断面（北から）



SB2186-EB1945 土層断面（西から）



SB2186-EB1978 土層断面（北から）



SB1038-EB1209 土層断面（南から）



SB1038-EB1430 土層断面（南東から）



SB1038-EB1932 土層断面（北から）



SB1038-EB1934 土層断面（南から）



SB1038-EB1935 土層断面（北から）



SB1038-EB1937 土層断面（北から）



SB1038-EB1940・SB2186-EB1939 土層断面（西から）



SB1038-EB1942 土層断面（南から）



SB1038-EB1943 土層断面（北から）



SB1038-EB1944 土層断面（北西から）



SB1038-EB1947 土層断面（北から）



SB1038-EB2140 土層断面（南から）



SB1038・2176・2186 完掘状況（南から）



SB1697 検出状況（西から）



SB1697-EB1683 土層断面（北から）



SB1697-EB1684 土層断面（北から）



SB1697-EB1686 土層断面（北から）



SB1697-EB1687 土層断面（北から）



SB1697-EB1689 土層断面（北から）



SB1697-EB1690 土層断面（北から）



SB1697-EB1695 土層断面（南から）



SB1697-EB1696 土層断面（南から）



SB1697 完掘状況（西から）



SB469 完掘状況（南から）



SB469-EB390 土層断面（東から）



SB469-EB459 土層断面（南から）



SB469-EB467 土層断面（南から）



SB469-EB468 土層断面（南から）



SK1446・2185 遺物出土状況（南西から）



SK1446 土層断面（東から）



SK1446-RP1792 出土状況（北から）



SK2185-RP1795・1796 出土状況（東から）



SK2185-RP1804 出土状況（西から）



SK1872 遺物出土状況（西から）



SK1872 土層断面（東から）



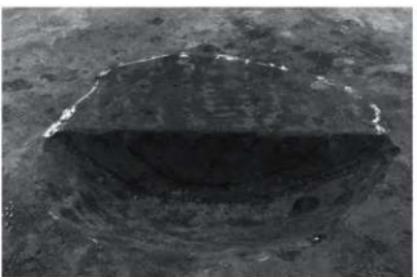
SK1872-RP1790 出土状況（東から）



SK1872-RP1805 出土状況（北から）



SK1904、SP2219 土層断面（東から）



SK2019 土層断面（南から）



SK2019 完掘状況（南から）



SK2036 土層断面（西から）



SK2036 完掘状況（北から）



SK2036-RP1775 出土状況（北から）



SK2037 土層断面（南から）



SK2129a-a' 土層断面（東から）



SK2164、SP2168 土層断面（東から）



SK395 完掘状況（北から）



SK396 土層断面（東から）



SK396 完掘状況（北から）



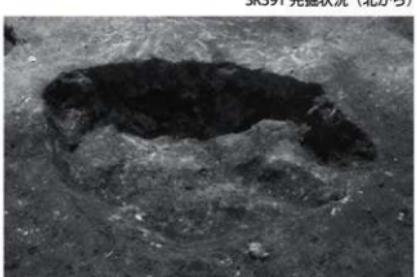
SK391 土層断面（北から）



SK391 完掘状況（北から）



SK2162 土層断面（西から）



SK2162 完掘状況（北東から）



SK1819 完掘状況（西から）



SK1819 土層断面（南から）



SK1819-RP1782 出土状況（北から）



SK1819-RP1783～1785 出土状況（西から）



SK1819-RP1779 出土状況（南から）



D 区 -SD1029・1142 完掘状況（西から）



SD1029e-e' 土層断面（東から）



SD1029g-g' 土層断面（東から）



SD1142h-h' 土層断面（西から）



SD1142i-i' 土層断面（西から）



E 区 -SD1029 完掘状況（南から）



SD1029a-a' 土層断面（東から）



SD1029b-b' 土層断面（東から）



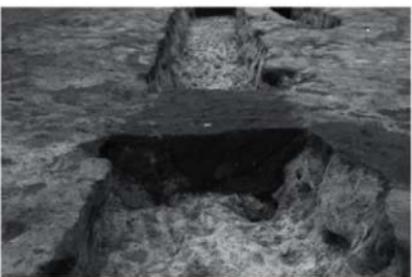
SD1029c-c' 土層断面（東から）



SD1029d-d' 土層断面（東から）



SD1054 + 1857 完掘状況（西から）



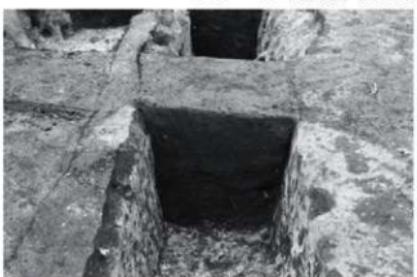
SD1054a-a' 土層断面（東から）



SD1054b-b' 土層断面（東から）



SD1054 + 1857c-c' 土層断面（東から）



SD1857b-b' 土層断面（東から）



SD1054 + 1857d-d' 土層断面（東から）



SD1061 完掘状況（北から）



SD1061a-a' 土層断面（東から）



SD1061c-c' 土層断面（南から）



SD1061d-d' 土層断面（東から）



SD1061-RP1776 出土状況（東から）



SD1062 完掘状況（東から）



SD1062a-a' 土層断面（東から）



SD1062b-b' 土層断面（東から）



SD1750 完掘状況（北西から）



SD1750-a-a' 土層断面（東から）



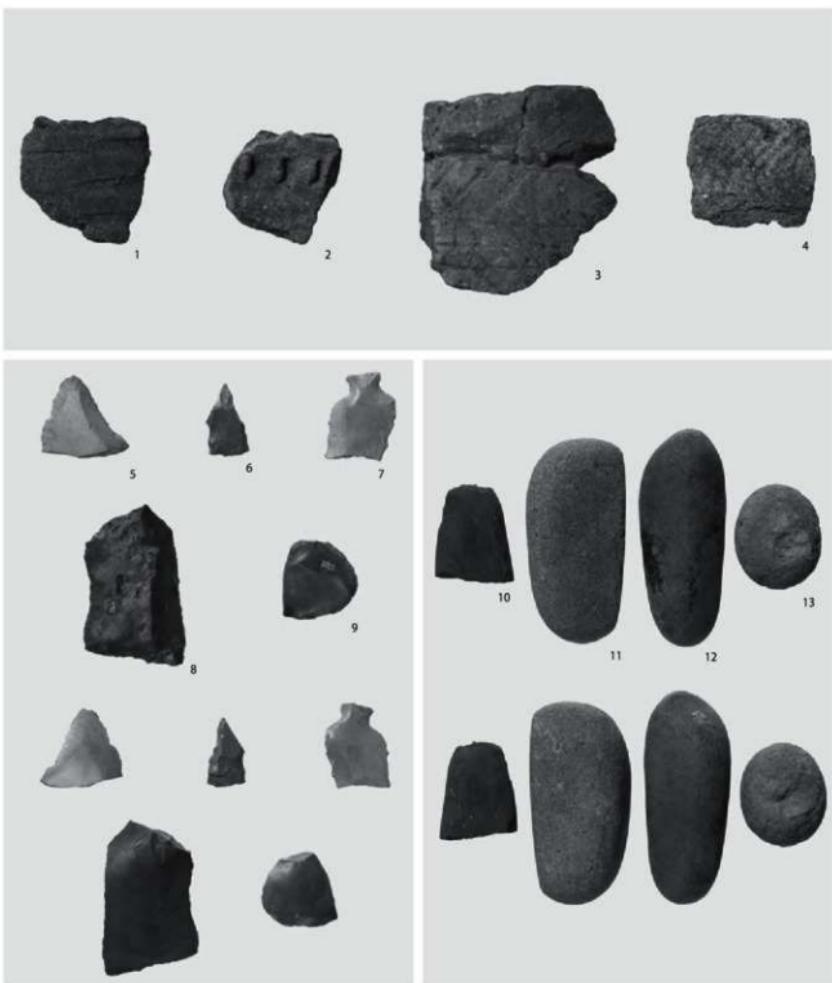
SD1750-d-d' 土層断面（東から）



SD1750-f-f' 土層断面（東から）



SD1750-RP1774 出土状況（東から）



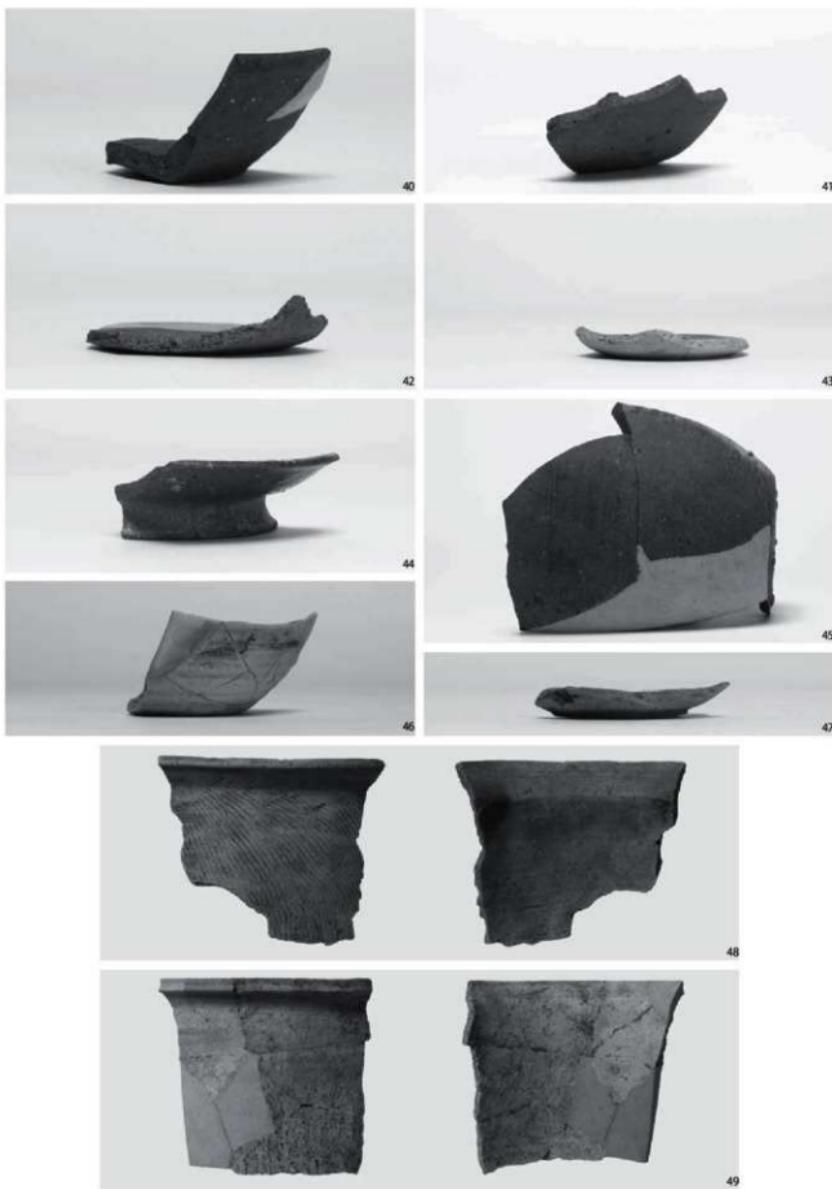
縄文時代の遺物



ST1818 出土遺物 (1)



ST1818 出土遺物 (2)



ST381 出土遺物 (1)



52



53

ST381 出土遺物 (2)



ST382 出土遺物 (1)



ST382 出土遺物 (2)



69



70



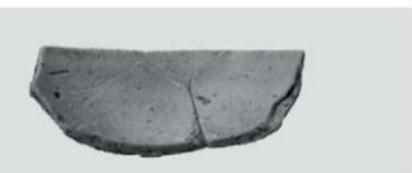
71



72



73

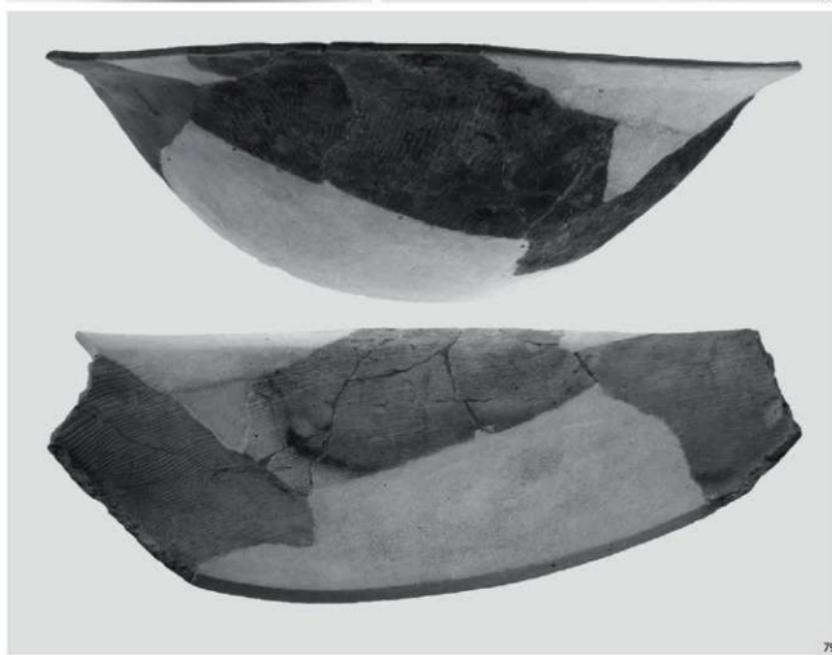


74



75

ST386 出土遺物 (1)



ST386 出土遺物 (2)



80



81



82

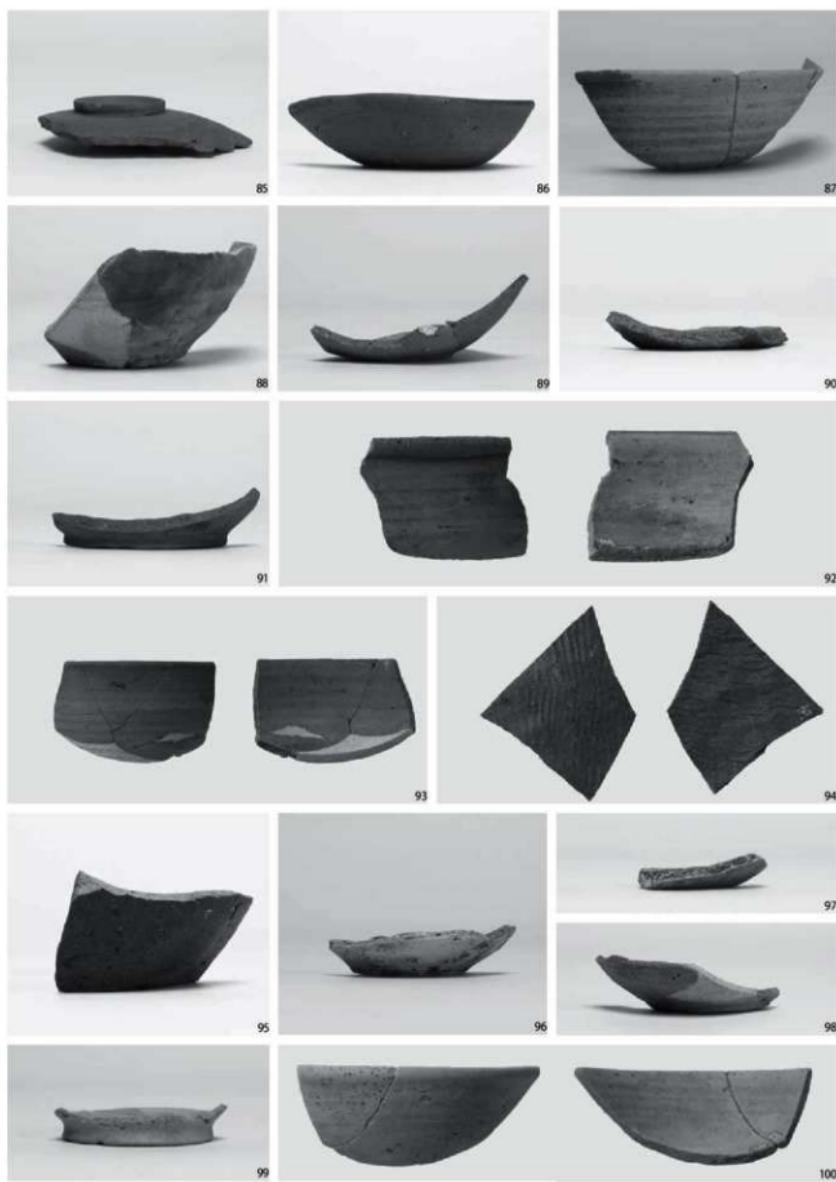


84

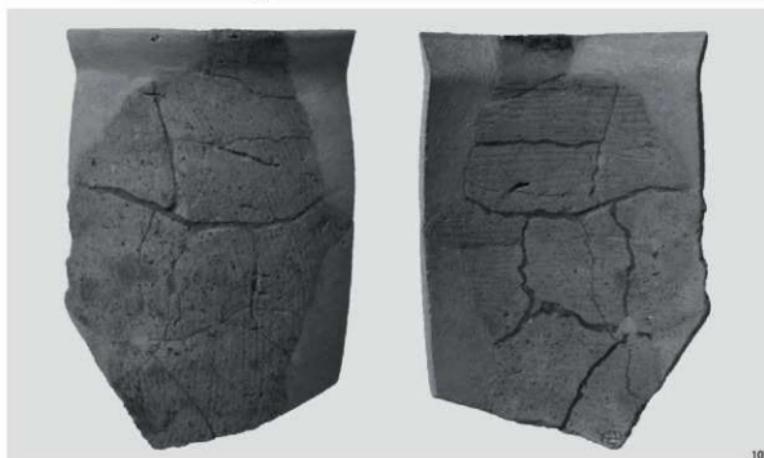


鉢型カ

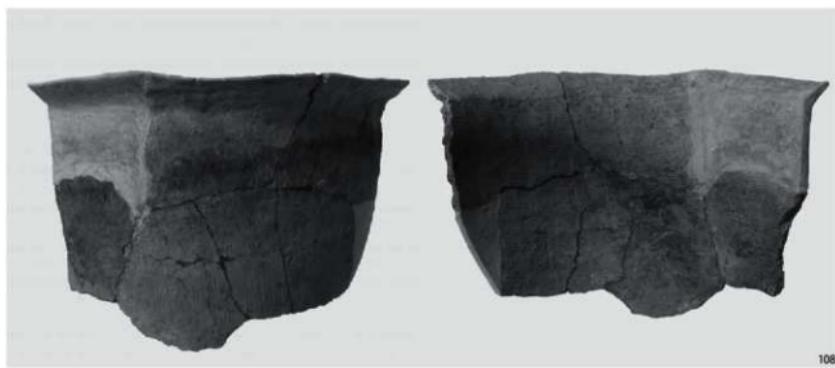
ST383・384 出土遺物



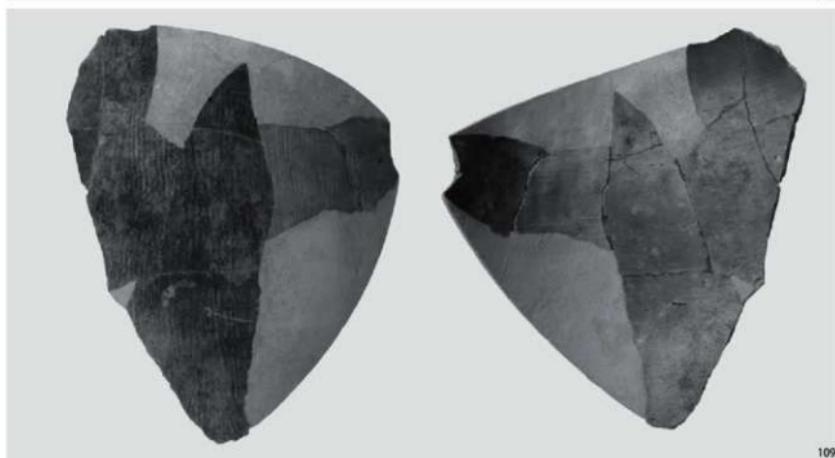
ST478 出土遺物 (1)



ST478 出土遺物 (2)



108



109



110



111

ST478 出土遺物 (3)



112



113

114

115

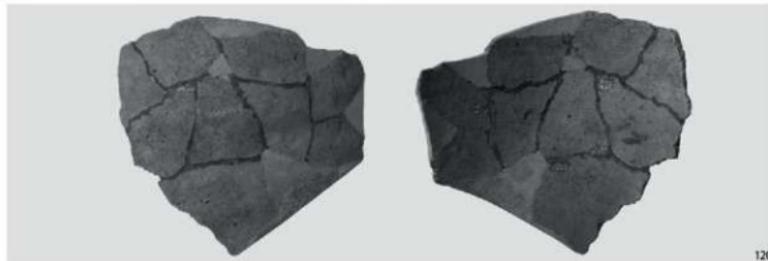
116



117

118

119

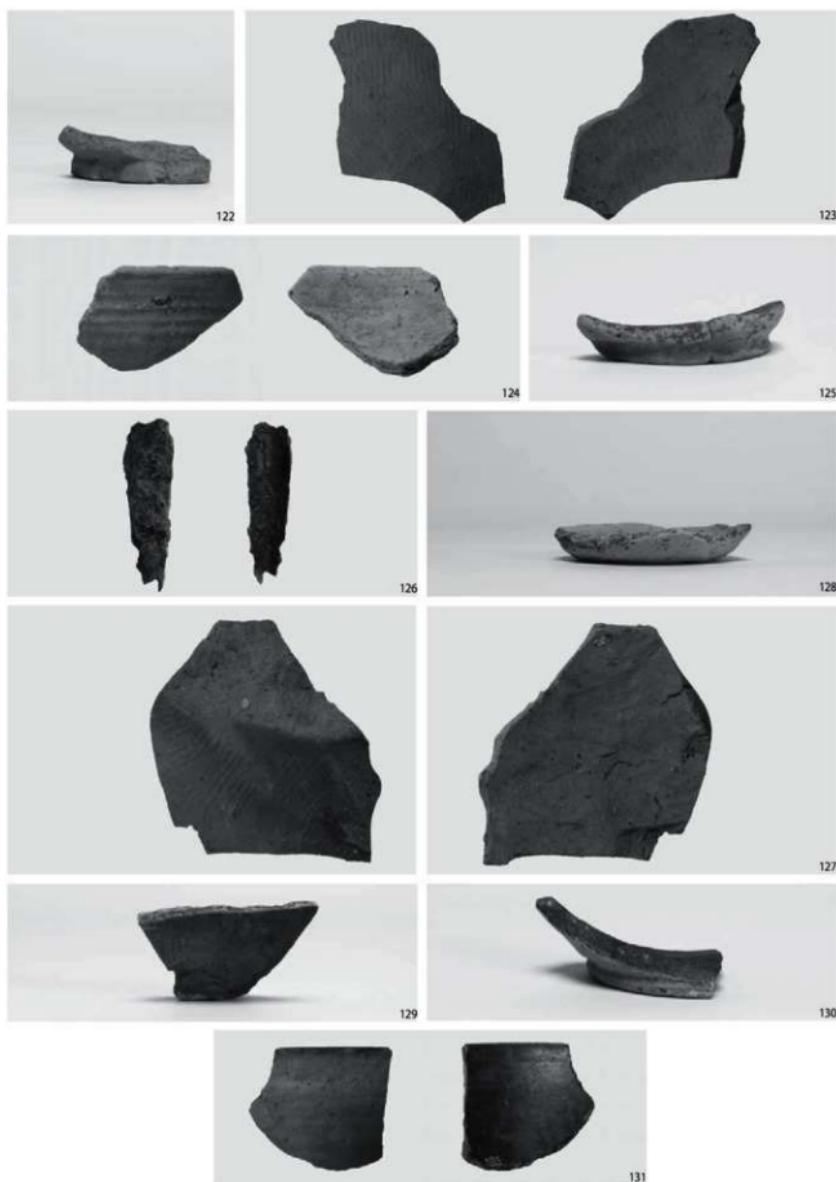


120

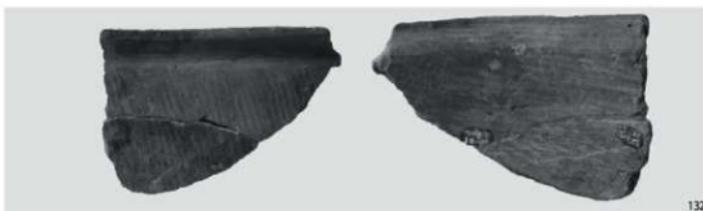


121

ST478 出土遺物 (4)



SB1953・2151・2160・1038 出土遺物



132



133



134



135

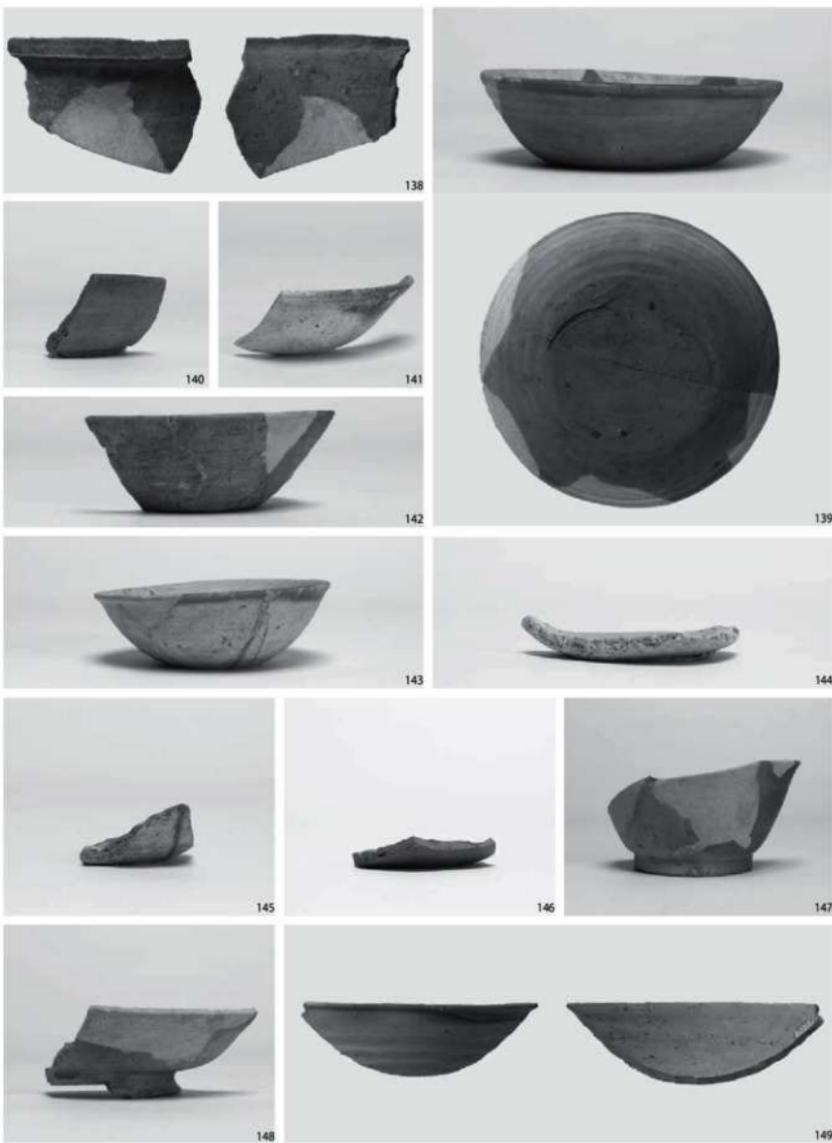


136



137

SK2144 出土遺物



SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物（1）



150



152



153



154



151



155



156



157

SK1819 出土遺物 (2)



158



159



160



161



162

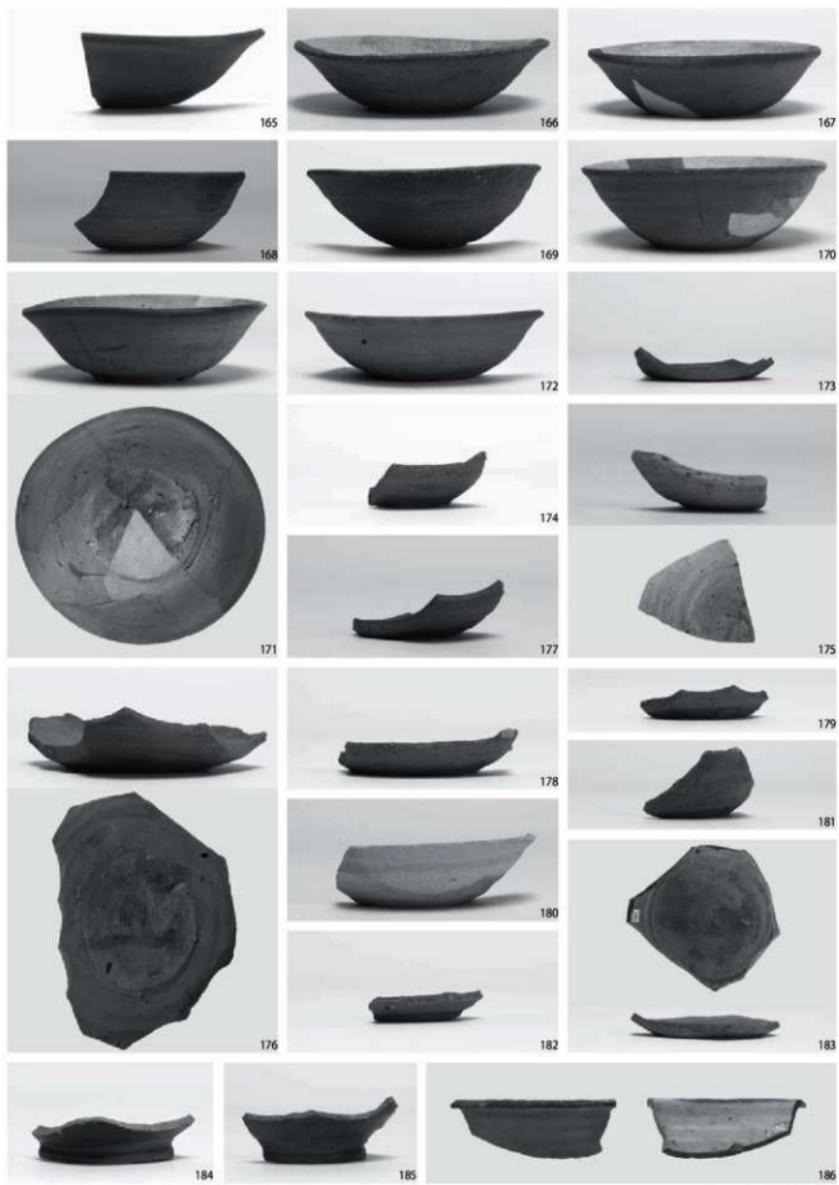


164

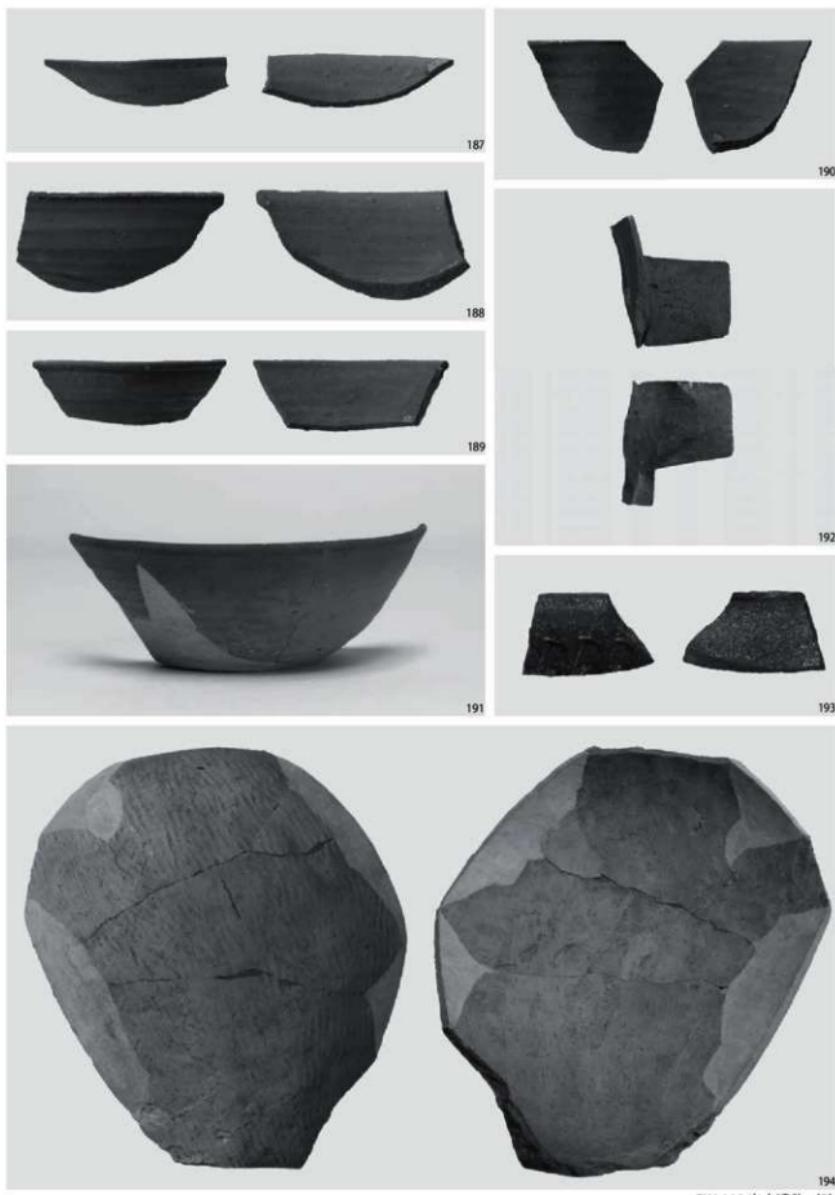


163

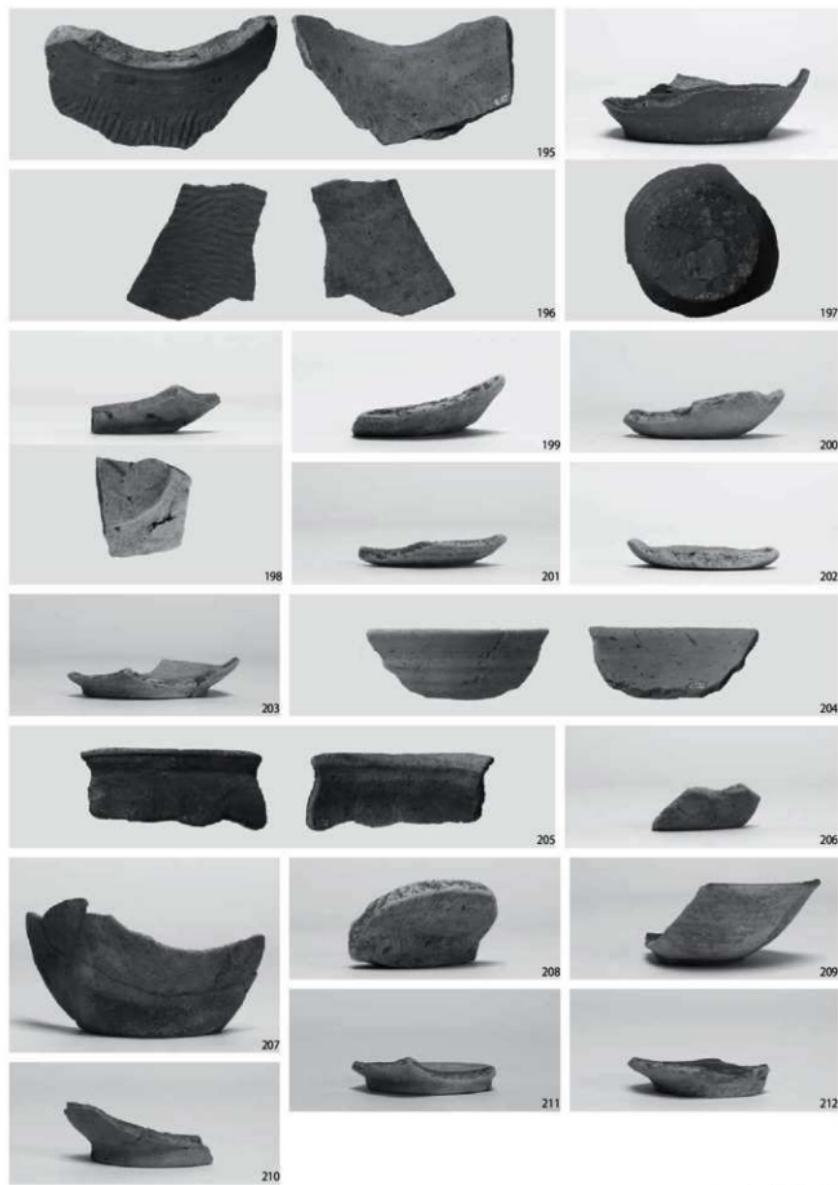
SK1819 出土遺物 (3)



SK1446 出土遺物 (1)



SK1446 出土遺物 (2)



SK1446 出土遺物 (3)



213



214



215



216



217



219



218



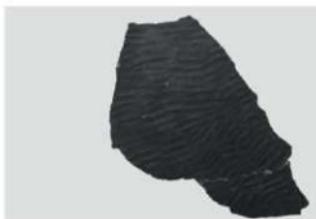
220



221



222



223

SK2185 出土遺物 (1)



SK2185 出土遺物 (2)、SK1872 出土遺物



233



235



234



236



237



238

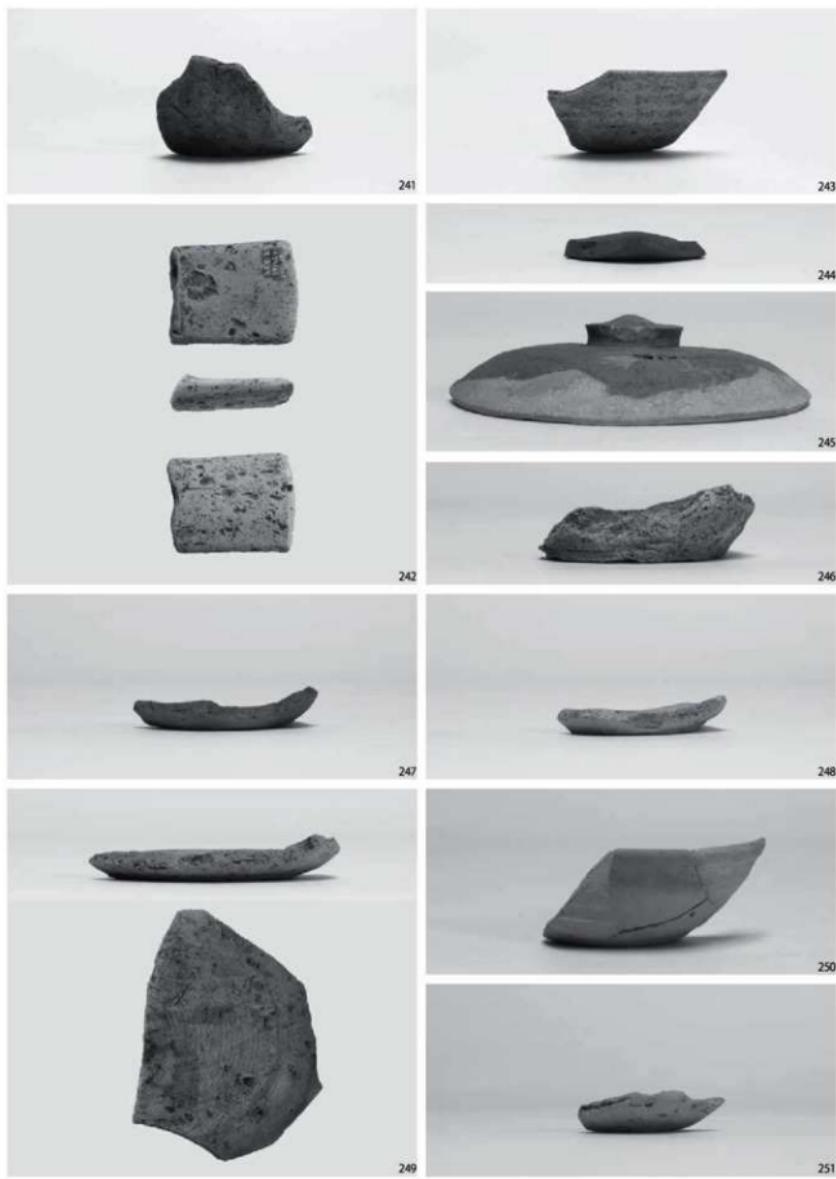


239



240

SK2036・2129・392・395・396 出土遺物



SD1142 • 1054 • 1857 • 1061 • 1750、SP 出土遺物



252



253



254



255



256



257



258



259



260



261



262

遺構外 出土遺物 (1)



263



264



265



266



267



268



269



270



271



272



273

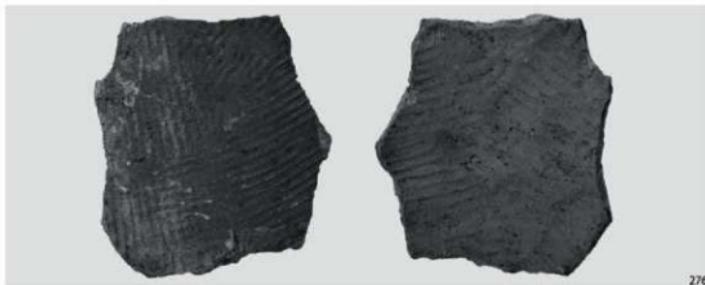
遺構外出土遺物 (2)



274



275



276



277



278



279



280

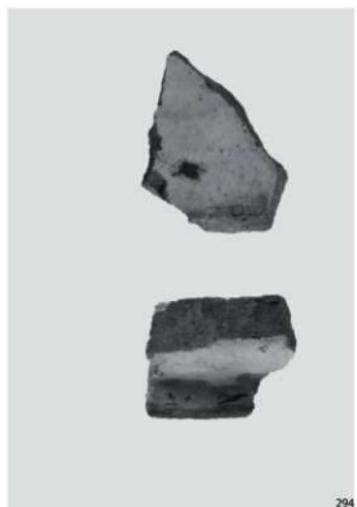


281

遺構外出土遺物 (3)



遺構外 出土遺物 (4)



294



295



296

遺構外 出土遺物 (5)

報告書抄録

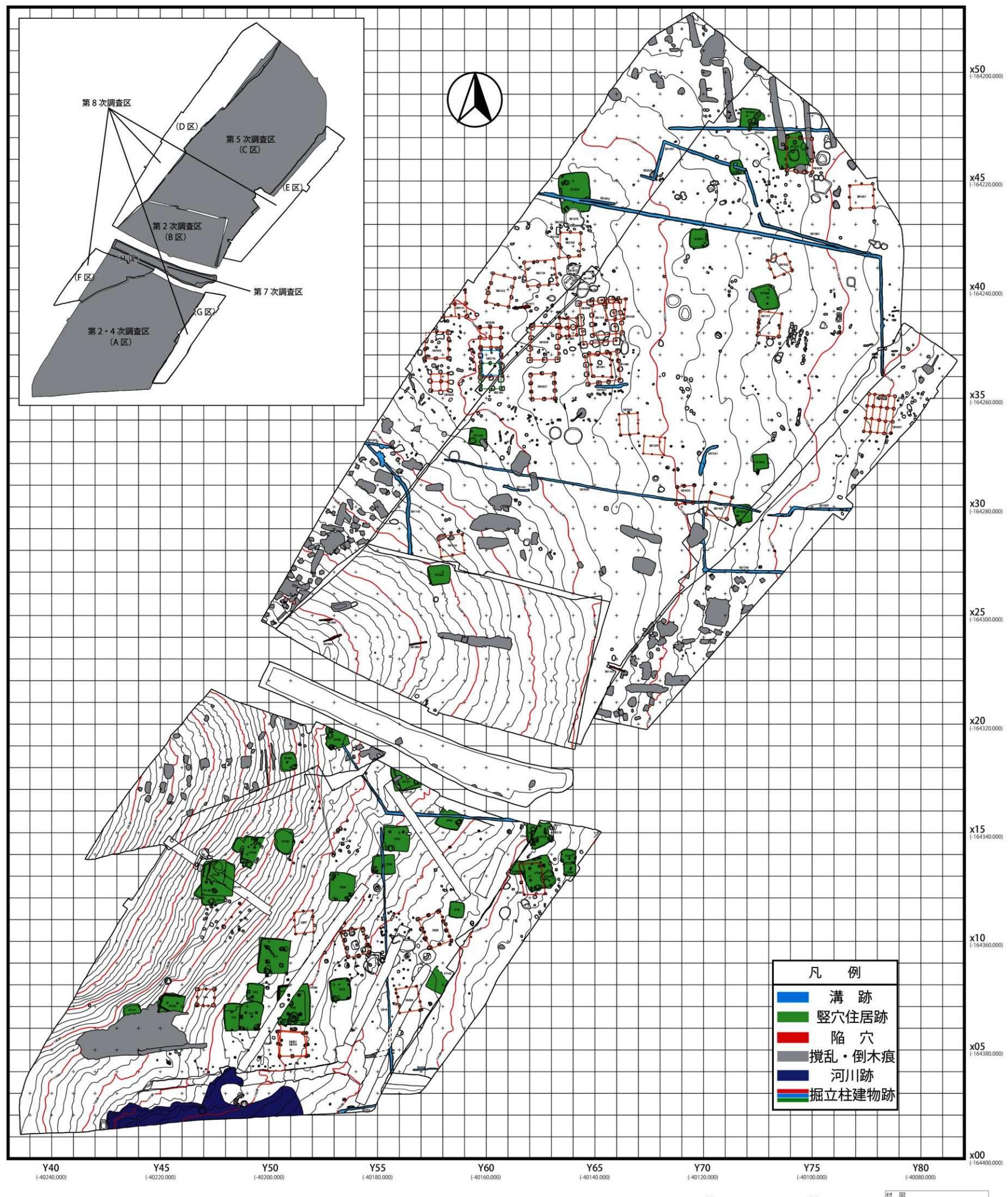
山形県埋蔵文化財センター調査報告書第224集

清水遺跡第8次発掘調査報告書

2016年3月31日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
電話 023-672-5301

印刷 山形印刷株式会社
〒990-2323 山形県山形市桜田東三丁目7番31号
電話 023-622-6291



八 例

- 溝 跡
 - 豎穴住居跡
 - 陷 穴
 - 攪乱・倒木痕
 - 河川跡
 - 掘立柱建物跡

Y40
(-40240,000)

Y45
(-40220.000)

Y50
-40200.000)

Y55
(0180.000)

Y60
(160.000)

'65
(40.000)

70
(20,000)

'5
(0.000)

0
(000)

(-164400.000)

1:400

付圖
遺構全体図 1:400

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第224集
清水遺跡第8次発掘調査報告書
2016年3月31日
公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター